北陸自動車道遺跡調査報告

——朝日町編7——

境A遺跡
総括編

1992年3月

富山県教育委員会

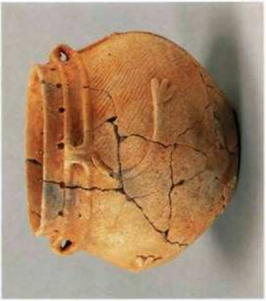
北陸自動車道遺跡調査報告

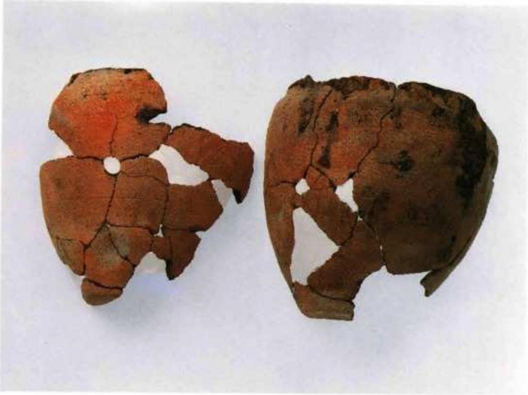
―― 朝日町編 7 ――

境 A 遺 跡
総 括 編

1 9 9 2年3月

富 山 県 教 育 委 員 会





序

北陸自動車道の建設に先立ち、昭和59・60年の２か年に亘って発掘調査しました朝日町境A遺跡では、縄文時代を中心とする集落跡から大量の石器や土器などの遺物が発見されました。

富山県埋蔵文化財センターでは、その後５か年の計画で、これら遺物の整理作業を進め、その成果は、昭和63年度から「遺構編」、「石器編」、「土器編」と順次刊行してまいりました。

今年度は総括編として、これまでの報告で扱われなかった時代の遺物や各種分析などの成果を収録し、それらもふまえてこの遺跡の内容と性格についてとりまとめました。

ここで取り扱った資料は膨大な量であり、記録保存という本来の目的からも、遺物の実測と写真および拓本による事実の収録に多くの時間をかけてきたわけです。

境A遺跡出土の縄文土器には、北陸地方以外の全国各地方の影響を受けたと思われる土器も見られます。また、石器は高度な技術により大量に生産し、県内外の各地に供給したと考えられます。このようにして、「物と人」の交流が当時広く行われていたことが分かってきました。境A遺跡は、ヒスイや蛇紋岩といった全国的にも産地が限られた良質の石材が近くで得られることもあって、石器の量産に適した立地条件にあったといえましょう。

一方、数多くの自然遺物や土製品などからは、自然とともに生きてきた当時の人々の暮らしを垣間見ることができました。

この報告書が、縄文時代の今後の研究と埋蔵文化財の愛護に広く役立つことを願う次第であります。

この事業を進めるに当たり、発掘調査から研究成果の取りまとめまで、８年間に亘って、日本道路公団を始めとする関係機関の各位並びに地元の方々から、あたたかいご理解とご協力をいただいてまいりました。また、多くの先生方から大変有益なご指導とご援助を賜りました。ここにあらためて深く感謝の意を表します。

平成４年３月

富山県埋蔵文化財センター

所 長　　邑 本 順 亮

例　言

1．本書は、高速自動車国道北陸自動車道建設に伴う朝日町境Ａ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書『境Ａ遺跡 第４分冊総括編』である。

2．調査は、日本道路公団新潟建設局の委託を受け、富山県教育委員会が昭和59・60年度の二箇年に亘り実施した。

3．調査遺跡名・調査期間・路線内調査面積は、以下のとおりである。

境Ａ遺跡　昭和59年４月26日～11月30日と昭和60年４月22日～11月28日　　調査面積　12,000㎡

4．調査は、富山県埋蔵文財センターが実施した。

発掘調査年度及び調査・遺物整理事務局

昭和59年度　所長　前田英雄・主任　出村昭夫・文化財保護主事　池野正男・酒井重洋
昭和60年度　所長　前田英雄・主任　高見三郎・文化財保護主事　酒井重洋・宮田進一
昭和61年度　所長　千秋謙治・主任　高見三郎・文化財保護主事　宮田進一・斎藤　隆
昭和62年度　所長　千秋謙治・主任　肥田啓章・主任　岸本雅敏・斎藤　隆
昭和63年度　所長　奥村　宏・主任　肥田啓章・主任　岸本雅敏・久々忠義
平成元年度　所長　奥村　宏・主任　肥田啓章・主任　久々忠義・神保　孝造
平成２年度　所長　邑本順亮・主任　菅沢秀一・主任　久々忠義・文化財保護主事　岡本淳一郎
平成３年度　所長　邑本順亮・主任　菅沢秀一・主任　関　清　・文化財保護主事　島田　修一

調査担当者

昭和59年度　文化財保護主事　関　清・山本正敏・狩野　睦・神保孝造
　　　　　　　　　　　　　　斎藤　隆・久々忠義・橋本正春・松島吉信
昭和60年度　文化財保護主事　関　清・山本正敏・狩野　睦・池野正男
　　　　　　　　　　　　　　斎藤　隆・久々忠義・橋本正春・松島吉信

遺物整理及び報告書作成他担当者

年度	遺物整理	報告書作成
昭和61年度	文化財保護主事　橋本正春	
昭和62年度	文化財保護主事　山本正敏・狩野　睦・橋本正春	
昭和63年度	主任　狩野　睦・神保孝造・橋本正春	遺構編　橋本
平成元年度	主任　山本正敏・狩野　睦	石器編　山本
平成２年度	主任　狩野　睦・酒井重洋	土器編　狩野・酒井
平成３年度	主任　狩野　睦（後期）・酒井重洋（前期）・橋本正春	総括編　橋本

5．本書の執筆は、担当者が行った。

6．本書は、朝日町境Ａ遺跡の調査報告書第４分冊総括編で、これまでに、遺構編・石器編・土器編の三部を刊行してきた。

7．写真図版などの編集と撮影は、橋本が担当した。写真撮影の一部は、株式会社陽光堂（菊井　靖）に委託した。

8．調査から本書作成に至るまで、多くの諸氏・諸機関から指導・助言及び協力などを受けた。改めて謝意を表し、お礼を申し上げます。（順序不同・敬称略）

日本道路公団新潟建設局・同魚津工事事務所・熊谷建設・大林組他工事関係者・朝日町・同町境地区・同宮崎

地区・同南保地区他地元関係者・境地区公民館・文化庁・富山県食品研究所・元興寺文化財研究所・奈良教育大学・京都大学・早稲田大学・名古屋大学・東海学園短期大学・石川県輪島漆芸美術館・富山県立大学・立山博物館・富山大学及び同大学理学部並びに地球科学教室・パリノ・サーヴェイ株式会社・日本曹達株式会社高岡工場・株式会社ズコーシャ総合科学研究所・帯広畜産大学生物資源化学科・藤井昭二・金子浩昌・三辻利一・広岡公夫・吉井亮一・松田隆継・布目順郎・市毛 勲・山口晴司・水島 保・酒井英男・小島俊彰・藤田富士夫・麻柄一志・高慶 孝・渡辺 誠・寺村光晴・前島巳基・高橋 保・折谷隆志・藁科哲男・市川 修・舘野 孝・石岡憲雄・浜野美代子・松浦宥一郎・西野秀和・工藤俊樹・上野修一・清水芳裕・田口 茂・松山政夫・尾関靖子・四柳嘉章・小竹信成・森定 尚・米原 寛・斎藤 隆・境 洋子・安孫子昭二・南 久和・松井政信・柿島昭彦・島田修一・押川恵子・岡本淳一郎・高梨 清志・越前慶祐・柿沼修平・網谷克彦・大塚達朗・大貫静夫・木田雅彦・笹森健一・渋谷昌彦・篠原 正・進藤 武・菅原俊行・鈴木正博・中村五郎・増子正三・盛本 勲・渡辺昌宏・鵜飼幸雄・瓦吹 堅・木下哲夫・小島幸雄・田中耕作・南 博史・南 洋一郎・米沢義光・山本直人・山本幸俊・三鍋秀典・新津 健・小野正文・小嶋芳孝・田島明人・金子拓男・寺崎祐助・山内幹夫・古川知明・安念幹倫・伊佐智法・河西健二

9．図面整理などの作業は、下記の方々の協力を得た。

島田修一・岡本淳一郎・宮田佐和子・藤野良子・北川美佐子・高畑寿江・大浦靖子・清水友博・大滝ひろみ・杉崎容子・土田節子・山口チズ子・坪田和子・土田ユキ子・安部利子・発田美智代・尾崎靖子・村井睦子・浦沢純子・西野美和子・斎藤裕代・山上文子・清水征子・北村はま子・吉田 都・鈴木千代子・鷲本かをる・西野さわ子・中沖恵子・酒井由美子・大井智子・津川絵里・佐々木敬子・岡田知亜紀・名苗静子・中嶋忠子・西野恭子・石田 薫・恵田妙子・常岡美保・西本佐知子・竹内勤子・太田弘子・向井しづ子・島崎良子・城石孝子・鷹島由美子・岩井洋子

10. 図版類の縮尺は、図版下に表示した。方位は、真北を用いた。出土地点などを表現する図版類については、縮尺は任意である。表の凡例は、表下に表した。表中の数値などは、できるだけ代表できる部位を測定するようにした。表では、言葉を省略して表現した所がある。表中の時期では、明確に時期比定が出来ないときは幅を持たせた。表中の遺物では、項目後の数字は個数を表している。

11. 境A遺跡の出土品及び記録資料などは、富山県埋蔵文化センターが保管している。

目　　次

序

例言

I　序章

1　調査に至るまで ……………………………………………………………………………………… 3

2　調査の経緯 …………………………………………………………………………………………… 3

II　調査結果

1　調査経過 ……………………………………………………………………………………………… 7

2　位置と環境 …………………………………………………………………………………………… 9

3　遺構 …………………………………………………………………………………………………… 9

4　縄文時代の遺構 ……………………………………………………………………………………… 10

5　古代 …………………………………………………………………………………………………… 11

6　遺物 …………………………………………………………………………………………………… 13

7　木製品 ………………………………………………………………………………………………… 19

8　自然遺物 ……………………………………………………………………………………………… 19

9　琥珀玉 ………………………………………………………………………………………………… 20

III　自然科学分析結果

1　土器胎土分析（元素分析）　奈良教育大学　三辻利一 ……………………… 27

2　土器胎土分析（鉱物学的分析）　京都大学　清水芳裕 ……………………… 41

3　境A遺跡出土縄文土器付着赤色顔料について　早稲田大学　市毛　勲 ……………………… 47

4　境A遺跡より出土した土器の赤色彩色顔料の分析　富山大学　山口晴司・田口　茂・松山政大 ……… 53

5　境A遺跡出土土器底面の網・織目痕　京都繊維工芸大学　布目順朗 ……………………… 57

6　境A遺跡出土土器底面の網・織目痕古代技術復元　東海学園短期大学　尾関靖子 ……………………… 71

7　境A遺跡出土土器付着物の分析結果について　パリノ・サーヴェイ株式会社 ……………………… 77

8　境A遺跡出土土器残留物成分の分析　日本曹達株式会社　高岡工場検査課 ……………………… 79
（井口孝司・折口　昇・沢井義仁）

9　漆製品　石川県輪島漆芸美術館　四柳嘉章 ……………………… 83

10　境A遺跡出土土器残留物の分析結果について　富山県立大学　折谷隆志 ……………………… 101

11　境A遺跡より出土した土器付着物の分析　富山大学　山口晴司 …………………………… 105
12　境A遺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析　株式会社ズコーシャ総合科学研究所 ………………… 109
（中野寛子・明瀬雅子・長田正宏）
帯広畜産大学生物資源化学科　中野益男
13　境A遺跡の石材の石質　富山大学　藤井昭二、（担当者橋本） ……… 111
14　境A遺跡出土の未加工ヒスイ原石　京都大学　藁科哲男 …………………………… 121
15　境A遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析　京都大学　藁科哲男 …………………………… 131
16　富山県朝日町境A遺跡から出土した種実遺体の概要　立山博物館　吉井亮一 …………………………… 137
17　境A遺跡における脊椎動物遺存体　早稲田大学　金子浩昌 …………………………… 165
18　境A遺跡の考古地磁気測定　富山大学　広岡公男 …………………………… 223
同大学地球科学教室　小竹信成・森定　尚
19　富山県朝日町境A遺跡出土の自然遺物の14C年代測定　名古屋大学　中村俊夫　センター所長邑本 …… 233
Ⅳ　まとめ
1　縄文時代中期中葉の土器 …………………………………………………………………………… 239
2　縄文時代後期中葉から晩期の土器について ……………………………………………………… 241
3　富山県内のひすいについて …………………………………………………………………………… 263
境A遺跡のまとめ ……………………………………………………………………………………… 279
Ⅴ　参考文献 ……………………………………………………………………………………………… 284

図　版　目　次

第１図　富山県周辺の主な遺跡
第２図　朝日町周辺の主な遺跡
第３図　調査区と遺構概略図
第４図　朝日町境地区周辺の海岸線変化図
第５図　境Ａ遺跡遺構概略図
第６図　有孔球状土製品の形分類
第７図　円盤状土製品の形分類
第８図　遺構図
第９図　遺構図
第10図　遺構図
第11図　富山県及び隣県の土偶出土主要遺跡
第12図　富山県及び隣県の有孔球状土製品出土主要遺跡
第13図　円盤状土製品の大きさ
第14図　円盤状土製品の直径と重さ
第15図　円盤状土製品の時代と重さ
第16図　円盤状土製品の時代と直径
第19図　土器の出土状況等
第20図　土器の時期別分布図
第21図　有孔球状土製品出土状況図
第22図　円盤状土製品の形による出土状況図
第23図　土製品出土状況図
第24図　ヒスイ原産地及び出土地参考図
第25図　(上)古銭出土地(中)土器圧痕分類
(下)考古地磁気測定地
第26図　１～３号住居跡石器出土状況
第27図　４～６号住居跡石器出土状況
第28図　７～９号住居跡石器出土状況
第29図　10～13号住居跡石器出土状況
第30図　14～16号住居跡石器出土状況
第31図　17～19号住居跡石器出土状況
第32図　20～22号住居跡石器出土状況
第33図　23～25号住居跡石器出土状況
第34図　26～29号住居跡石器出土状況
第35図　30～32号住居跡石器出土状況
第36図　33～36号住居跡石器出土状況
第37図　境Ａ遺跡及び周辺遺跡の遺構概略図
第38図　１号住居跡出土遺物他編集図
第39図　２号住居跡出土遺物他編集図
第40図　３(上)・４(下)号住居跡出土遺物他編集図
第41図　５号住居跡出土遺物他編集図
第42図　６(上)・７(下)号住居跡出土遺物他編集図
第43図　８号住居跡出土遺物他編集図
第44図　９号住居跡出土遺物他編集図
第45図　10・11号住居跡出土遺物他編集図
第46図　12(上)・13(下)号住居跡出土遺物他編集図
第47図　14号住居跡出土遺物他編集図
第48図　15(上)・18(下)号住居跡出土遺物他編集図
第49図　16号住居跡出土遺物他編集図
第50図　17号住居跡出土遺物他編集図
第51図　19号住居跡出土遺物他編集図
第52図　20号住居跡出土遺物他編集図
第53図　20号住居跡出土遺物他編集図
第54図　20号住居跡出土遺物他編集図
第55図　21号住居跡出土遺物他編集図
第56図　21号住居跡出土遺物他編集図
第57図　21号住居跡出土遺物他編集図
第58図　22号住居跡出土遺物他編集図
第59図　23号住居跡出土遺物他編集図
第60図　24(上)・25(下)号住居跡出土遺物他編集図
第61図　26号住居跡出土遺物他編集図
第62図　26号住居跡出土遺物他編集図
第63図　28号住居跡出土遺物他編集図
第64図　29号住居跡出土遺物他編集図
第65図　30(上)・31(下)号住居跡出土遺物他編集図
第66図　32(上)・33(下)号住居跡出土遺物他編集図
第67図　35(上)・36(下)号住居跡出土遺物他編集図
第68図　土偶(1/2)
第69図　土偶(1/2)
第70図　土偶(1/2)
第71図　土偶・土製有孔円盤・土錘・土製耳飾(1/2)
第72図　土製耳飾・土製玉・不明土製品(1/2)
第73図　土版・不明土製品(1/2)
第74図　円盤状土製品(1/2)
第75図　円盤状土製品(1/2)
第76図　円盤状土製品(1/2)
第77図　円盤状土製品(1/2)
第78図　円盤状土製品(1/2)
第79図　円盤状土製品(1/2)
第80図　円盤状土製品(1/2)
第81図　円盤状土製品(1/2)
第82図　円盤状土製品(1/2)
第83図　円盤状土製品(1/2)
第84図　円盤状土製品(1/2)
第85図　円盤状土製品(1/2)
第86図　有孔球状土製品(1/2)
第87図　有孔球状土製品(1/2)
第88図　有孔球状土製品(1/2)
第89図　有孔球状土製品(1/2)
第90図　有孔球状土製品(1/2)
第91図　有孔球状土製品(1/2)
第92図　有孔球状土製品(1/2)
第93図　有孔球状土製品(1/2)
第94図　有孔球状土製品(1/2)
第95図　有孔球状土製品(1/2)

第96図　有孔球状土製品(1/2)
第97図　有孔球状土製品(1/2)
第98図　有孔球状土製品(1/2)
第99図　有孔球状土製品(1/2)
第100図　有孔球状土製品(1/2)
第101図　有孔球状土製品(1/2)
第102図　木製品(1/8)
第103図　木製品(1/8)
第104図　木製品(1/8)
第105図　木製品(1/8)
第106図　木製品(1/2)
第107図　出土古銭(実大)
第108図　出土石器他(1/2)
第109図　出土石器他(1/3)
第110図　分析資料(1/2)
第111図　胎土分析土器(1/3)
第112図　胎土分析土器(1/3)
第113図　胎土分析土器(1/3)
第114図　胎土分析土器(1/3)
第115図　胎土分析土器(1/3)
第116図　胎土分析土器(1/3)
第117図　胎土分析土器(1/3)
第118図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第119図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第120図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第121図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第122図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第123図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第124図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第125図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第126図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第127図　土器底面の編・織目痕(1/3)
第128図　土器底部(1/3)
第129図　土器底部(1/3)
第130図　土器底部(1/3)
第131図　土器底部(1/3)
第132図　土器底部(1/3)
第133図　土器底部(1/3)
第134図　土器底部(1/3)
第135図　土器底部(1/3)
第136図　土器底部(1/3)
第137図　土器底部(1/3)
第138図　土器底部(1/3)
第139図　土器底部(1/3)
第140図　土器底部(1/3)
第141図　土器底部(1/3)
第142図　土器底部(1/3)
第143図　土器底部(1/3)
第144図　土器底部(1/3)
第145図　土器底部(1/3)
第146図　土器底部(1/3)
第147図　土器底部(1/3)
第148図　土器底部(1/3)
第149図　土器底部(1/3)
付図1　第20号住居跡近辺の土器出土状況図
付図2　境A遺跡出土縄文時代中期中葉土器群の変遷試案

表

住居跡一覧表 ……………………………… 289
穴時期正誤表 ……………………………… 291
土製品表 ………………………………… 293
胎土分析一覧表 …………………………… 301

写　真　図　版

巻頭カラー1　出土土器・展開写真
巻頭カラー2　出土土器・展開写真
巻頭カラー3　出土土器・展開写真
巻頭カラー4　出土土器品
巻頭カラー5　出土土製(分析資料)
図版1　土偶(表)(1/2)
図版2　土偶(裏)(1/2)
図版3　その他土製品(表)(1/2)
図版4　その他土製品(裏)(1/2)
図版5　円盤状土製品(1/2)
図版6　円盤状土製品(1/2)
図版7　円盤状土製品(1/2)
図版8　円盤状土製品(1/2)
図版9　円盤状土製品(1/2)
図版10　円盤状土製品(1/2)
図版11　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版12　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版13　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版14　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版15　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版16　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版17　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版18　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版19　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版20　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版21　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版22　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版23　有孔球状土製品(表)(1/2)
図版24　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版25　有孔球状土製品(表)
図版26　有孔球状土製品(裏)(1/2)
図版27　胎土分析土器(1/3)
図版28　胎土分析土器(1/3)
図版29　胎土分析土器(1/3)
図版30　胎土分析土器(1/3)
図版31　胎土分析土器(1/3)
図版32　土器底面の編・織目痕(1/3)
図版33　土器底面の編・織目痕(1/3)
図版34　土器底面の編・織目痕(1/3)
図版35　土器底面の編・織目痕(1/3)
図版36　土器底面の編・織目痕(1/3)
図版37　土器他朱分析資料(表実大)
図版38　土器他朱分析資料(裏実大)
図版39　土器他同定資料(表実大)
図版40　土器他同定資料(裏実大)
図版41　土器他分析資料(表実大)
図版42　土器他分析資料(裏実大)
図版43　土器底部(1/3)
図版44　土器底部(1/3)
図版45　土器底部(1/3)
図版46　土器底部(1/3)
図版47　土器底部(1/3)
図版48　土器底部(1/3)
図版49　土器底部(1/3)
図版50　土器底部(1/3)
図版51　土器底部(1/3)
図版52　土器底部(1/3)
図版53　土器底部(1/3)
図版54　土器底部(1/3)
図版55　土器底部(1/3)
図版56　土器底部(1/3)
図版57　土器底部(1/3)
図版58　土器底部(1/3)
図版59　土器底部(1/3)
図版60　土器底部(1/3)
図版61　土器底部(1/3)
図版62　土器底部(1/3)
図版63　土器底部(1/3)
図版64　土器底部(1/3)
図版65　土器底部(1/3)
図版66　土器底部(1/3)
図版67　土器底部(1/3)
図版68　土器底部(1/3)
図版69　土器底部(1/3)
図版70　土器底部(1/3)
図版71　土器底部(1/3)
図版72　土器底部(1/3)
図版73　土器底部(1/3)
図版74　土器底部(1/3)
図版75　土器底部(1/3)
図版76　土器底部(1/3)
図版77　土器底部(1/3)
図版78　土器底部(1/3)
図版79　土器底部(1/3)
図版80　木製品(1/6)
図版81　木製品(1/6)
図版82　木製品(1/6)
図版83　木製品(1/6)
図版84　木製品(1/6)
図版85　木製品(1/6)
図版86　木製品(1/6)
図版87　出土古銭(右表左裏実大)
図版88　出土石器・金属器(実大)
図版89　出土土器・石器(1/3)

第Ⅰ章 序　　章

Ⅰ 序　　章

1．調査に至るまで

経緯及び経過などは、昭和63年度刊行の『遺構編』他を参照していただき、ここでは簡単にまとめておく。

北陸自動車道は、昭和43年春の路線計画発表以来日本道路公団新潟建設局（以下公団）が工事を担当し、県西部から東部に向かって順次工事を進めてきた。そして、昭和63年夏には、最終区間の富山県朝日・新潟県名立谷浜間が開通したことにより、待望の全国高速自動車道路網のなかに組み込まれた。

一方、富山県教育委員会（以下県教委）は、工事予定路線に係る埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に対して、遺跡の保護措置を講じ、出来るだけ遺跡を保存することとしてきた。その中で、昭和45年度からは、小杉町上野遺跡他の調査が始まり、昭和62年度までに上市町や朝日町などの地区で数多くの発掘調査を実施してきた。

2．調査の経緯

県教委は、昭和47年度までに県内の分布調査を実施し、『富山県遺跡地図』〔県教委1973〕として公表した。その後、公団から路線計画が発表されたため、分布調査を実施し、多くの遺跡を新たに発見してきた。

A　予備調査

県教委は、昭和47年度に公団発表路線区間内の分布調査を実施して、新発見の41遺跡を含む71遺跡が工事予定路線に含まれていることを確認した。なお、朝日町小更以東はルート変更を考慮して24遺跡を参考として公表してきた〔県教委1974〕。ところが、昭和57年度になり、朝日町小更以東の路線変更案を提示してきたため、昭和57年度に分布調査を実施し、その結果、合計6遺跡が工事予定地内に含まれることが判った。その後、県教委と公団は、協議を行ってきたが、昭和58年度から試掘調査を行うこととなった。その調査結果〔橋本他1985〕を基に、県教委と公団は協議を重ねたが、引き続き記録保存調査（本調査）に入ることとなった。

B　記録保存調査

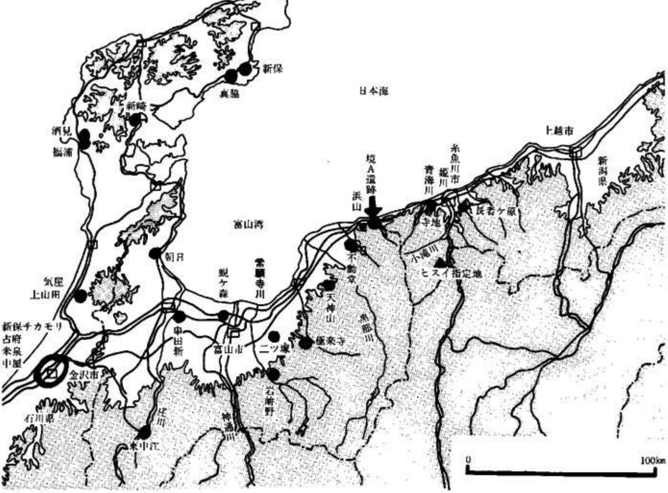
調査は、公団の委託を受けて、県教委が調査主体となり、富山県埋蔵文化財センターが担当し、地元朝日町などの協力を得て昭和59年6月～昭和60年11月までの2箇年の長きにわたり実施した（表1参照）。

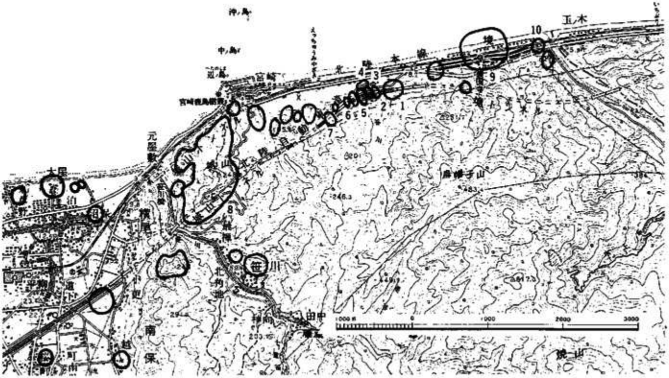
本書では、境A遺跡の調査結果を扱うが、朝日町宮崎地区内に所在する馬場山遺跡群（馬場山D～H遺跡）については、『朝日町編2』と『朝日町編3』〔橋本他1985・1987〕に収録・報告済みであるので参照願いたい。

なお、境A遺跡の調査結果は、遺構・石器・土器・総括の四部構成（四箇年で刊行予定）としており、本書は第4分冊総括編である。他の三部は、前年度までに順次刊行してきた。　（橋本正春）

調査及び整理計画

	昭和58.59.60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度
調　　査	分布試掘記録保存調査						
遺物整理	水洗注記	水洗注記 土壌水洗 土器復元	水洗注記 土器復元	土器復元 石器実測	土器復元 土器実測 石器実測	土器復元 土器実測	実測 遺物収納 整理
報告書作成				「遺構編」	「石器編」	「土器編」	「総括編」





第１図　富山県周辺の主な遺跡

第２図　朝日町周辺の主な遺跡　１．境Ａ遺跡　２．馬場山Ｅ遺跡　３．馬場山Ｄ遺跡　４．馬場山Ｆ遺跡　５．馬場山Ｇ遺跡　６．馬場山Ｈ遺跡　７．浜山遺跡　８．宮崎城跡　９．境関所跡　10．境一里塚

第Ⅱ章　調査結果

Ⅱ　調査結果

1．調査経過

A　予備調査

分布調査は、公団の委託を受けて県教委が昭和57年12月に行った。調査の結果に基づき県教委と公団は協議を行った後、試掘調査を昭和59年度に実施することとなった。また、試掘調査は１～２ｍ幅のトレンチを用い昭和59年４月～６月まで行った。一部表土など厚い地点などでは、機械を用いて調査した。調査の結果、路線内に含まれる面積は12,000㎡となった。この他に、関連工事として国道８号線からの取付道路拡幅があり、これに対しても試掘調査を実施した。これらの調査結果を基に協議を重ねたが、引き続き記録保存調査（本調査）を実施することとなった。

B　記録保存調査（本調査）

境Ａ遺跡は、遺跡台帳No.1172〔県教委1973〕縄文時代の遺跡として知られており、遺跡は丘陵部から平地部にかけて所在し、標高は５－30ｍを測る。遺跡は、朝日町境地区の西に所在し、馬場山遺跡群とは大谷川をはさむ位置にあり、現状は水田・畑・雑木林である。

これまで遺跡は丘陵上が中心であると考えられていたが、分布調査の結果、遺跡範囲は丘陵下の平地部まで広がることと縄文時代から中世までの複合遺跡であることが判った。遺跡の推定範囲は45,000㎡で、うち路線内面積は11,200㎡となった。他に町道の拡幅工事があり、その試掘の結果遺跡は北（海）へ伸びて広がることが判った。

調査は公団の委託を受けて県教委が主体となりセンターが担当し、昭和59年と60年に本調査を実施した。昭和59年度に5,700㎡を調査し、残りは昭和60年度に行った。

昭和59年度

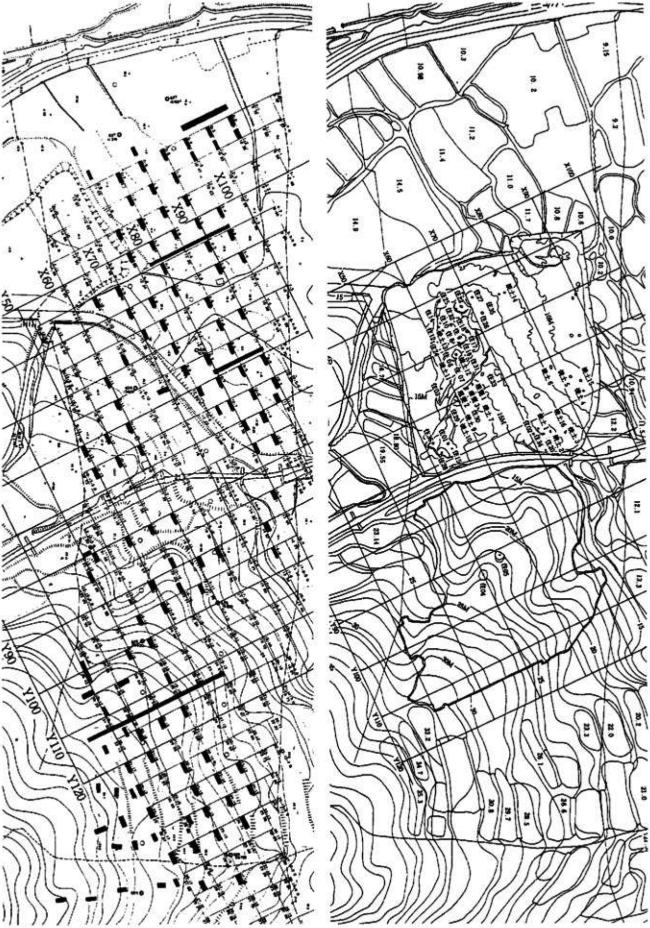
調査は、調査区のほぼ中央を北流する竹尾川用水により二分された東側地区から開始し、地形の傾斜などにあわせてＸ軸をとり、遺物などの取り上げには２×２ｍ小グリッドを基本とし、さらに10×10ｍの大グリッドも用いた。東側調査区は、山地形で表土が薄く人力で調査したが、中央部近くは表土が厚くなったため機械を使った。東側調査区では、縄文時代の住居跡２棟と平安時代頃の掘建柱建物群を検出した。また、西側調査区の一部は、人力と機械を使い表土排土を行った。西側調査区の南では、平安時代頃の掘建柱建物群を検出し、その後に縄文時代の炉跡を数個確認して調査を一時中断した。

昭和60年度

調査は昭和59年度に引き続き西側調査区で行い、北東部では、表土が厚かったため、機械を使い表土排土を先行して行った。遺物は、西側調査区の中から北東部にかけて多くなり、それとともに遺構数も増してきた。縄文時代の住居跡は南西部に集中し、穴群は北部で多くみられた。

前年度の調査の過程で、ヒスイの小さな玉や破片などと骨類などが多数出土するため、土を水洗して微小遺物を検出することとした。土壌水洗は、調査地脇で同時に行い、水洗後の遺物他をセンターへ運びこんだ。

なお、地元の方々を始め朝日町教育委員会にも一方ならぬご協力を受け、調査を無事終了することが出来ました。また、調査期間中に、朝日町教育委員会の協力のもと現地説明会や講演会など行ったところ多数の方々のご参加を得て盛況のうちに終了することが出来ました。改めて、感謝の意を表します。



第３図　調査区と遺構概略図（左試掘区）

2　位置と環境（第１・２図）

朝日町は、富山県の最も東北端に位置し、東は新潟県青海町・糸魚川市に、西は富山県入善町に、南は入善町と宇奈月町に、北は日本海（富山湾）に面する町である。古来より、越中（富山県）の東端の県境として栄えてきており、また、東西文化の交流地としても知られていました。

遺跡の所在する朝日町境地区は、朝日町のなかでも最東端にあり、境川の川向かい（東）は新潟県青海町という地である。当地一帯は、海岸近くまで山地が迫っている地形の場所で、平野はわずか500ｍくらいである。境Ａ遺跡は、山地が平野部に移りかわる地点に所在している。

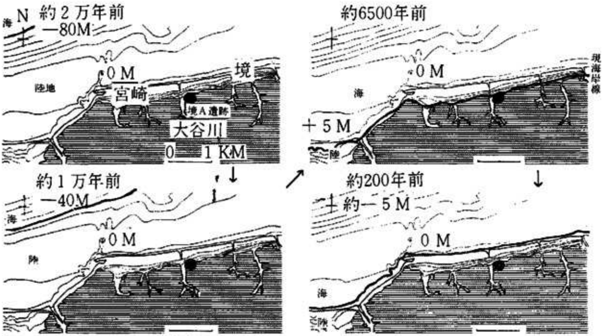
朝日町の著明な遺跡として、縄文時代中期の国指定史跡「不動堂遺跡」や古墳時代のヒスイ玉生産で知られ、県指定史跡の「浜山玉つくり遺跡」などがある。この他に、数多くの遺跡などがあるが、詳細は、これまでに刊行した『朝日町編４』などを参照願いたい。

また、昭和62年度刊行『朝日町編３』中の「２　位置と環境」では、筆者が約２百年前から約２万年前までの海岸線及び海水面変動を模式図・参考図として紹介したことがあるので、本書及び当遺跡の環境や自然などの理解のため役立てばと思い、下にそれを転載した。ただ、富山湾には、暖流と寒流の二つが複雑に入り込んでいるらしいので、局地的に気候の変動があるらしく、その当時の環境がそうであったかどうかは検証されていないが、ほぼ近いものとみている。

3　遺　構（第３・５図）

遺跡の調査は、昭和59年度と60年度の二箇年の継続調査となったことと昭和59年度調査区がたまたま遺跡のほぼ東半分となったため、昭和59年度調査区を東側調査区、昭和60年度調査区を西側調査区としている。

遺跡は、境地区西側を日本海に向かって北流する大谷川右岸に所在し、当時の地形は、遺跡中程を小川が海に向かって流れて解析し、大谷川よりに小さな扇状地形をつくっている。遺構は、東側調査区で検出された２棟以外は、比較的緩やかな傾斜地にある。遺構検出面（地山）は、東側調査区の大部分がローム質粘土で、西側調査区の大部分は砂利層と砂質粘土である。



第４図　朝日町境地区周辺の海岸線変化図

縄文時代の遺構は、西側調査区に集中し、住居跡32棟・穴約1,500個などが検出されており、住居跡は四地点に集中し、特に中央部では24棟がかたまっている。のこりの住居跡は、前述したように、東側調査区で住居跡2が検出されている。

古代から近世までの遺構は、東と西側両調査区で検出されている。堀立柱建物は、東側調査区の西縁部（2と5号住居跡との間）と西側調査区の南縁部（3号住居跡南）で検出されている。特に堀立柱建物は互いに遺跡中央を北流する現在の竹屋川を挟んでいるため、一続きの可能性がある。

製塩遺構は、西側調査区の南縁部（3号住居跡南）で検出されており、南東から西に向かう一条の小川上面で検出され、堀立柱建物と重複する。

4　縄文時代の遺構（第3・5図）

第4・5号住居跡は、東側調査区のほぼ中央部の丘陵上で二棟並んで検出され、標高は22～24mである。二棟の炉の主軸方向は、東西方向で（遺構集中区方向）、中期中葉の時期である。

第1・15・28・36号住居跡

四棟の住居跡は、西側調査区の南東部に所在し、遺構集中区とは小川をはさむ対岸の南東に位置し、第29号など三棟の住居跡群の南となる。四棟は、互いに重複しあい、南側の一部は川により壊されている。標高は16m前後で、第36号住居跡の南には、彫刻をほどこしたわりと大きな石棒を含む、人頭大の石の集石があった。時期は、中期中葉で、第28号住居跡だけが中期後葉までの幅をもつ。

第29・30・31号住居跡

三棟の住居跡は、西側調査区の南に所在し、第1号住居跡など四棟の住居跡群の南となる。標高は、約15m前後で、三棟は互いに約2m程度の間隔をあけて川に沿うように並んでいる。住居跡の近辺には、焼土と埋設土器がある。
時期は、三棟とも中期中葉～中期後葉である。

住居跡集中区　第1・3・6～14・16～18・21～26・31・32・34・36号住居跡

これら24棟の住居跡は、西側調査区の中央部から西部に所在し、第3号住居跡を東部の頂点とした三角形内にある。標高は、第3号住居跡の15mから第21号住居跡近くの11mまでである。この集中区内の住居跡は、互いに隣接し、重複しあっており、中には周溝をもつものや焼土のみの例などがある。時期は、中期前葉から中期中葉の四棟が古段階といえ、中期後葉から後期前葉の二棟が新段階とみれる。他は、中期中葉を中心とするが、前述したように住居跡同士が重複しており、遺物が混入している可能性があるため、中期後葉までの時期幅をもつ。

集中区の近辺では、焼土と配石などがある。集中区の南を小川が流れ、一部の住居跡を壊しており、その川の上面では製塩遺構などが検出されている。

第2・19・20号住居跡

三棟の住居跡は、西側調査区の北東部に所在し、標高は14m前後である。第29号住居跡などと同様の並びで重複しない。住居跡周辺には、焼土と埋設土器がある。特に　第20号住居跡の上面及び周辺は、遺物（土器）の廃棄場所であったかのように、厚さ約30cmの包含層中に土器などが集中していた。ここでは、約200個体の土器をほぼ完全な形ちかくまで復元している。

穴・焼土・埋設土器（埋甕）・配石と集石（第9・5図）

穴は、西側調査区の北部に所在し、標高は8～13m前後である。この穴群の上面からは、大量の遺物（土器や石器などの他に自然遺物など）と焼土が検出されている。焼土と埋設土器の大半は、前述した住居跡集中区など付近で検出され、他は穴群内である。配石と集石も住居跡集中区など付近で検出されている。この穴群と住居跡集中区（第1号住居跡など）との間は、遺構のない、空白地帯となっており、地山も岩盤状で、直径1M以上の岩などもみられる。

調査時点でも、小さな石の除去は行っていたが、この地帯の石や岩は動かせないためそのままとした。このように、この近辺は、当時の人々も開墾しづらい地区であったと考えられる。

穴群の中で、比較的大きな柱（地下埋没部分）をもつ穴・ヒスイ玉や朱塗完形土器出土穴などの多種多様な遺物を出土した穴などが数多くあり、その概要を『朝日町編４』中の遺構の事実記載部分で記述しているので、詳細は別報告を参照していただきたい。

（橋本正春）

5　古代

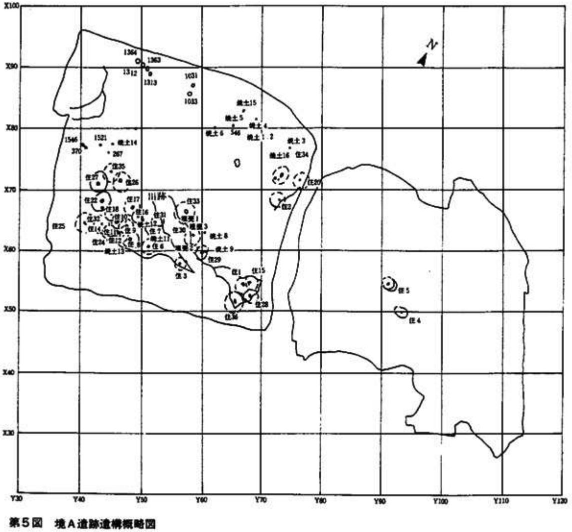
遺構（第９～10図）

発掘区中央南寄りの、大谷川が平地へ流れ出すところの左右両岸に位置する。標高は、15～16mである。左岸を西地区、右岸を東地区と呼びわけることとする。

西地区

柱穴状の穴約200、溝１、集石１、焼土面１がある。遺構の広がりは約500㎡である。

柱穴状の穴は、直径10～50㎝深さ20～30㎝のものである。整然と並ぶものはなく、柱列から建物を復元することはできなかった。２か所で建物になる可能性をもつところがある。柱穴群Ａ、Ｂと呼んでおく。



第５図　境Ａ遺跡遺構概略図

柱穴群Aは南北5m東西4mのものである。この北側には幅50cm深さ約15cmの溝SD01がある。また北側に接して直径50cm厚さ10cmの焼土面がある。焼土の周囲には一辺10～20cmの各礫が4点ほどあった。

柱穴群Bは南北4.5m東西3.5mのものである。柱穴群Aの西側に約5m離れてある。

集石は、一辺10～30cmの角礫群と製塩土器の破片の集合である。幅1m長さ5.5mの範囲にやや孤状になっている。両端では深さ20cmのくぼみに落ち込んだ状態であるので、もともと全体が溝状の中にはまりこんだものであろう。

集石の北側に製塩土器が集中していたところが1か所あった。それは地山面より約20cm浮いた黒色土中である。

東地区

柱穴状の穴約100、焼土面1がある。遺構の広がりは約120㎡である。

柱穴状の穴は、直径10～30cm深さ5～30cmのものである。整然と並ぶものはなく、種別から建物を復元することはできなかった。ただ、1か所で建物になる可能性をもつところがある。柱穴群Cと呼んでおく。

柱穴群Cは、南北5.8m東西3.3mのものである。

この北側に接して、直径60cm厚さ1～20cmの断面V字状の焼土面があった。

まとめ

古代の遺構は、建物になる可能性がある柱穴群3、溝1、焼土面2、集石1があった。

柱穴群は、大きさも小さく、整然とした配列をなしていないので、建物があったとしても、住居のような恒久的なものとは考えられない。集石とともに製塩土器が多く出土しており、焼土面の存在なども考慮すると、遺構群の性格は塩生産（海水を煮つめ塩をとる）場所と考えられる。柱穴群が建物になるとすれば、作業場など塩生産に伴う仮設的な建物であったろう。

（久々忠義）

6 遺 物

『朝日町編5・6』まででは、縄文時代の土器と石器だけを扱い、その他の土製品・木製品や他時代の遺物全部を取り扱わずに報告書を刊行し、平成3年度の今回の報告書でのこり全体を報告するという計画のもとに、これまで事業を行ってきた。そのため、ここでは縄文時代の土器と石器以外の遺物全体を扱うこととする。

遺物内容としては、縄文時代と弥生時代から近世までの遺物が出土している。種類では、土器・石器・木製品・金属製品・自然遺物（動物及び魚類骨など・植物遺存体・土器などの外面及び内面付着物など）である。

縄文時代の遺物は、土製品（土偶・土製有孔円盤・土錘・土製耳飾・土製玉・不明土製品・土版・円盤状土製品・有孔球状土製品）・木製品・自然遺物などである。

弥生時代から近世までの遺物は、金属製品・木製品・石器・土器などがある。

縄文時代

遺物の出土状況は、遺構内出土例はそれ程多くなく、XY（調査区包含層）出土例が大半をしめる。遺構内出土遺物は、今回、遺構図と遺物を一枚にまとめるようにした編集図を作成した。また、『朝日町編4』でも出土状況をしめす参考図（その時点での）を作成しており、大幅な変更がないのであわせて参照していただきたい。

土 偶（第65～70図 図版1・2 表4）

土偶総数は、57点で、この他に不明土製品中の数点が土偶となる可能性がある。

遺構内出土土偶は、6点あり、うち2点は、第14・21号住居跡から、のこり4点は、穴から各1点づつ出土している。住居跡例は、中期から後期にかけてで、穴のものは後期後半から晩期にかけての時期であり、いづれも体部破片である。のこりの51点は、XY出土で、遺跡全体にわたっている。

時期では、中期は、6点あり、10左腕（体部破片）の中期前葉が最古となり、他は中期中葉と中期後葉である。後期は、破片が多く時期を決定出来るものが少ないため後期全体と不確実全部をあわせて41点である。晩期は、4点で、44頭部（体部破片）の晩期中葉が新しい例となる。不明は、6点である。

全体の形がわかる完形品は、なく、わずかに46の頸部から体部下半にかけてがほぼ全容をあらわしている例となる。頭部破片は、人の顔を表現するもの9点があり、なかでも44は、遮光器土偶と呼ばれるものである。1は、外面に朱（赤色顔料）を塗っており、凹んだ部分によく残っている。この個体は、朱分析資料としている。遺存状況としては、頭部・腕・胴体部・足のそれぞれの破片として多く出土しており、ついで頭部から胴体部にかけてである。

円盤状土製品（第74～85図 図版5～12 表11）

円盤状土製品は、通常「メンコ」と呼ばれるもので、破片利用例が一番多く、遺物整理時点での登録点数は、三千点をこしている。ところが、これらの形状や時期などを整理・分類していくと、次のように五大別できたのでまとめ（第7図参照）、ここではそれにもとづき分類した。また、計測値及び直径に対する厚さや重さなどについても調べたので表を参照願いたい。

総数は、599点で、遺構内出土は、97点あり、半数以上の住居跡と穴からも出土している。時期は、後期以後が多く、大半は時期を決めることの出来る紋様がなく、縄文地で不明である。173は、晩期である。

1 正円形

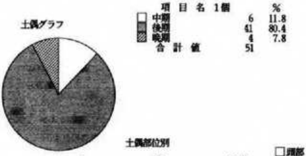
総数は、167個である。平面形は、正円形で、周辺部を擦り、磨いているようで、一番丁寧にしあげている。断面も角張らず、きれいな曲線を描いている。中期例は、450・467などの5点と少なく、同様に後期は13点、晩期は5点で、時期の判明したのは23点である。他は、時期不明である。

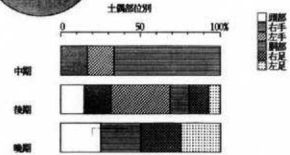
最大は、1238・1885などのグループで、直径が約6cm・重さ約40g前後である。中規模例は、540・477などで、直

径が約３～４㎝・重さ約10～15ｇ前後である。最小は、991・867などで、直径が約2.5㎝・重さ約４～５ｇ前後である。

	総数	中期	後期	晩期
土偶全体	57点	6点	41点	4点
頭部	8点	点	6点	1点
右手	8点	1点	7点	
左手	16点	1点	15点	
胴部	14点	4点	5点	1点
右足	7点		5点	1点
左足	4点		3点	1点

	総数	遺構	XY
土偶全体	57点	6点	51点





2　円形

総数は、281個である。平面形は、円形で正円形に近いしあげをしている。断面はきれいである。中期例は、1359など９点で、後期は46点と多く、晩期は８点で、時期の判明したのは63点である。他は、時期不明である。

最大は、1786・2413などのグループで、直径が約5.5㎝・重さ約40ｇ前後である。中規模例は、1479・2660などで、直径が約４㎝・重さ約10～15ｇ前後である。最小は、715・816などで、直径が約３㎝・重さ約４～５ｇ前後である。

3　隅丸方形

総数は、26個である。平面形は、小判形で、長方形の短辺が丸く盛り上がり弧を描く。周辺部は、円形につぐ整形を行い、擦り磨き、丁寧にしあげている。断面は円形に近い。中期例は、2686の１点と少なく、同様に後期は1275・2086などの５点で、時期の判明したのは６点である。他は、時期不明である。　最大は、1212・1886などで、長軸・短軸が約７×６㎝・重さ約35ｇ前後である。最小は、2112で、長軸・短軸が約3.5×3㎝・重さ約16ｇである。

4　楕円形

総数は、13個である。平面形などは、隅丸方形に近い。断面は少し角張るようになりだす。中期及び晩期例は、１点もなく、後期は1727・2435・と第22号住居跡出土の71の３点だけで、他は時期不明である。

最大は、1727で、長軸・短軸が約4.8×４㎝・重さ約17ｇである。最小は、1901で、長軸・短軸が約3.1×2.7㎝重さ約８ｇである。

5　方形

総数は、11個である。平面形などは、隅丸方形に近い。中期及び晩期例は、１点もなく、後期は1937の１点だけで、他は時期不明である。最大は、2426で、長軸・短軸が約5.8×4.3㎝・重さ約32ｇである。最小は、2018で、長軸・短軸が約４×３㎝重さ約9.4ｇである。

6　正方形

総数は、13個である。平面形などは、方形に近い。中期及び晩期例は、１点もなく、後期は622・1514の２点だけで、他は時期不明である。最大は、1078で、１辺が約3.8㎝・重さ約14ｇである。最小は、1166で１辺が約3.6㎝重さ約16.3ｇである。

7　不整形

総数は、36個である。平面形は、正方形や方形などのものに似ているがどちらへも入らないような形をし、きれいに整形がなされていないものである。周辺部を擦り、磨いているようであるが、一番整形が丁寧にしあげていないも

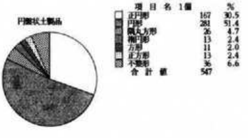
のである。断面は角張る。中期例は、2095などの3点で、同様に後期は4点、晩期は1点で、時期の判明したのは8点である。他は、時期不明である。

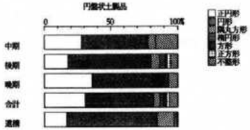
最大は、2648で、直径が約6cm・重さ約40g前後である。中規模例は、1939で、直径が約4cm・重さ約22g前後である。最小は、999で、直径が約3.5cm・重さ約8g前後である。

8　その他欠損品など

他に数多くあるが、図版に示したものは、わずかで、1～7までの全ての形状のものがある。一応ここに一括してまとめた。

	総 数	中 期	後 期	晩 期	遺 構
1　正 円 形	167点	5点	13点	5点	17点
2　円　　形	281点	9点	46点	8点	70点
3　隅丸方形	26点	1点	5点		13点
4　楕 円 形	13点		3点		2点
5　方　　形	11点		1点		
6　正 方 形	13点		2点		
7　不 整 形	36点	3点	4点	1点	





土　錘（第71図　図版3・4　表6）

土錘総数は、12点で、以下の4分類した。1、円盤状土器片利用の打欠形・2、1の打欠部分を丁寧に溝状にしあげた切目形・3、土器片を利用せず、最初から土製品として製作されたもので、側辺部などに1～2条の溝をもつ有溝形・4、3同様の土製品で穴をもつ球状形、である。これに、平面形や穴の有無などを加えるとさらに細分できるがここでは大別にとどめた。遺構出土例は、第26号住居跡及び穴860号の2点で、他はXY他出土である。いづれも時期不明である。

1　打欠形

出土点数としては、3点で、土器辺を利用し周辺部の整形はなされていない。平面形は方形で、短辺のほぼ中央部に、長軸方向への打欠が相対して2箇所でなされている。大きさは、4～5×3～4cmで、重量は10～15gである。円盤状土製品の方形の整形が雑なものに似る。4は、第860号穴出土である。

2　切目形

総点数は、3点で、上記1同様の整形で土器片を利用し、溝もしくは筋のつける位置は同じである。平面形は方形と楕円形の二者がある。大きさは、1同様である。5は、細長く、長さ約5cmに対し幅は約3cmで、3の円形例は、4.8×3.6cm・重量は15gと小型である。また、3は第26号住居跡出土である。

3　有溝形

5点出土しており、形は似ているが、溝のある部位や穴の有無などバラエティに富んでいる。この種類は、当初から土錘を目的として製作された土製品であるため、外面は丁寧な整形（ナデなど）がなされている。外面の溝の位置は、A、表裏に施すものとB、側面に施すものとがある。さらに、Aでは、長軸方向と短軸方向の二者がある。Bは、一周し、8はAとBが組あわさった例で、側面中央部で溝が交差している。9は、A長軸方向例で、貫通する穴が中央部にあけられ、溝と組あわさっている。穴は、焼成前にあけられている。7は、欠損品で、他は完形品である。8

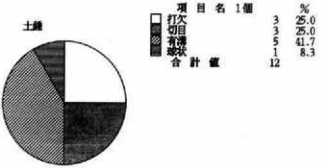
が最小で、長軸は3.6cmで、9が大きく長軸が4.7cmある。

4　球状形

10の1点だけである。形状は、半球上で、凸部中央から底面に向かって貫通する穴を1個あけており、焼成前に穴をあけている。平面形は、正円ではなく、台形に近い円である。有孔球状土製品の半分に割れた形に似ている。規模は、直径約5cmで45gの重量がある大型品である。

	総　数
土錘全体	12点
打　欠	3点
切　目	3点

	総　数
有　溝	5点
球　状	1点



土製耳飾（第71・72図　図版3・4　表7）

土製耳飾として、27点が出土し、一応全て滑車形とした。ここでは、形状により以下の5分類をした。1、直径に対して厚さが薄く、一面に透かし紋様をもち、広い穴をあけている広直径・表面有透紋様・有広穴形。2、1と同様の形状で、穴が貫通し、一面の端部が幅広くなり、そこに紋様をもつ広直径・有紋様・有広穴形。3、2の紋様をもたない広直径・無文・有広穴形。4、直径より厚く、穴をもち、一方の直径が小さくなる肉厚・有穴・先細形。
5、3と同様の形状で、穴をもたない肉厚・先細形。以上である。

1と2が穴で、27は第28号住居跡出土であり、中期は1と4の2点・後期は9と17と18の3点・晩期は7点あり、他の15点は後期か晩期である。

1　広直径・表面有透紋様・有広穴形

3点がこの形にあたり、完形品が多く、6・17・5である。17は後期の直径2.5cm・高さ2.3cmのものである。
他は、晩期で、5は推定であるが直径は約7cm・高さ6.6cm程度の大型品とみられる。紋様は、左右もしくは上下（天地）対象の同紋様である。

2　広直径・有紋様・有広穴形

8点がこの形にあたり、完形品は少ない。9が代表例となる。

3　広直径・無文・有穴形

9点がこの形にあたり、完形品は少ない。3が小さい例で、16が大きい例である。

4　肉厚・有穴・先細形

3と4の2点がこの形にあたり、ともに完形品である。

5　肉厚・先細形

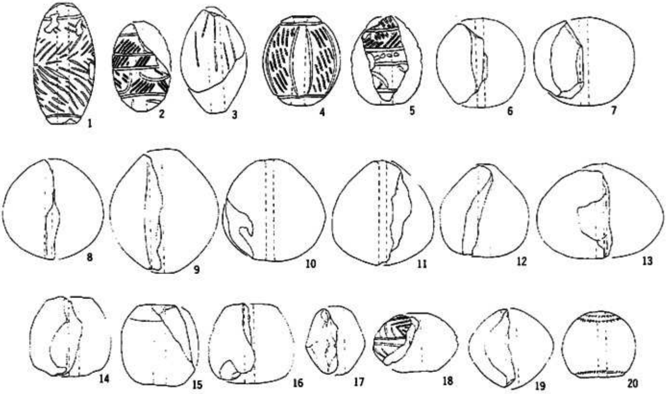
1と14の2点がこの形にあたり、ともに完形品である。

土製玉

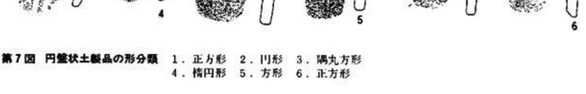
9点出土し、様々な形状が各1点づつある。その中で、1と2は、ほぼ同形で、さらに6は同例の大きなものとなるかもしれない。小型品が多い。

土　版

1のほぼ完形品1点の出土である。表は、沈線と刺突文を左右対象に配しており、さらに上下対象紋様と思われるが、一部を欠く。裏は、沈線による渦巻き紋である。



第6図　有孔球状土製品の形分類　1～5．紡錘形　6～9．球形　10～13．下形
14～16．角形　17～20．算盤形



第7図　円盤状土製品の形分類　1．正方形　2．円形　3．隅丸方形
4．楕円形　5．方形　6．正方形

土製有孔円盤（第71図　図版3・4　表5）

土器片利用のもので、9点検出されている。円形例は、3で、正方形は1で、方形は5他4点あり、8は欠損品のため不明確であるが円形品で、他は方形を基本とする不整形である。1と4の孔は、貫通しておらず、他は貫通している。5・7～9は、半分が欠損している。

有孔球状土製品（第6・86～100図　図版13～28　表12）

総数は、円盤状土製品に次いで多く出土し、224点を数え、遺構内出土例は21点あり、他はXYである。形により次のように6大別した。（第6図参照）1、紡錘形、胴部最大径より長さが長いもの。2、球形、胴部最大径と長さがほぼ同じもの。3、算盤形、胴部最大径部分が角ばるもの。4、角形、形が方形に近く、角ばるもの。5、下膨形、形は2の球形に近いが、胴部最大径は、中心より下方にあるもの。6、下膨・球形？、小破片例であるため、下膨形か球形か不明のもの。以上である。

1　紡錘形

総数は、下膨形に次いで多い、40点で、ほぼ完形品は6点と少ない。割れた例が22点と多く、左右半分に割れるものが多く、次いで上下半分例が3点である。183は紋様をもつ代表例で、上下及び左右対象形で、他は無文である。上下の端部の形状は、様々で、角ばるものや先細りするものなどである。

2　球　形

紡錘形とほぼ同じ点数の35点が出土している。形では、長さが長くなるものは、紡錘形や下膨形に近くなる。無文例が多く、胴部最大径部分が丸みをもたず平坦なものもある。孔軸がずれる142の例などもみられる。左右半分に割れるものが多く全体の五分の一を占める21点である。

3　算盤形

角形同様に少なく、総数9点である。形状は、算盤形に近いものと2球形の端部が平坦で4の角形に近いものも含めた。130・189は、紋様をもつ例で、148は端部付近に列点をもつ。

4　角　形

総数は、9点と少なく、上側が細くなる。左右半分例が半数近い。

5　下膨形

全体数の三分の一を占め、完形品と半分以上残存するものが目立つ。紋様があるのは、63と195の2例のみである。形状では、球形に近いものが多い、また、最大径の位置も極端に下方にさがるものなどもある。

6　下膨・球形？

下膨か球形か不明のもので、破片例である。

孔周辺に、黒色の炭化したものが付着する例が目立つ。孔の直径は、1㎝前後が多く、上端と下端の孔経が同一のものが大部分を占める。その中で、上端が狭く、下端の孔経が広いものが6例ある。

不明土製品（第73図　図版3・4　表9）

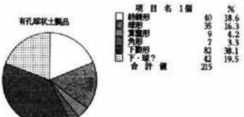
様々な形状のものが出土しており、用途などが不明であることと作業終了まぎわに出たことなどから一括して扱った。7は、三角形を呈しており、三脚形石器に似る。1・8・15・20～22は、土偶の可能性がある。13は、つまみに似ており、17・18・23も同様例と考えられる。9・19は、同例の大小であり、半球状で2個の孔をもつ。10は、有孔球状土製品である。

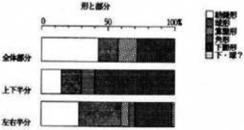
	総　数	紡錘形	球　形	算盤形
有 孔 球	224点	40点	35点	9点

	角　形	下膨形	下膨・球形？
有 孔 球	7点	82点	42点

	0.5以下	0.6~0.9	1.0~1.4	1.5以上
孔 直 径	2点	84点	86点	3点

	総　数	紡錘形	球　形	算盤形	角　形	下膨形	下膨・球形？
全体部分	14点	6点	2点	2点		4点	
上下半分	20点	3点	3点		2点	12点	
左右半分	67点	19点	21点	4点	3点	19点	1点
合　計	101点	28点	26点	6点	5点	35点	1点





7　木製品（第102～106図　図版82～86）

縄文時代の柱（柱の土中に埋まっていた下端部分）は、12点あり、他は破片であるため即断できない。大型のものは、直径が30cm以上あり、西側調査区の北西部に多く、弧を描くように検出されている。これについては、出土区その他は「遺構編」を参照していただきたい。

縄文時代以外のものとして、中世頃の下駄などがある。

8　自然遺物

自然遺物としては、植物遺存体・動物及び魚類他の遺存骨・土器などに付着したものなどがあり、これらについては第Ⅲ章自然科学分析の項でそれぞれについて記述しているので、そちらを参照していただきたい。

これらの自然遺物は、調査区の西側に多く出土していたが、大半が包含層出土で、縄文時代中期から晩期までの時期幅をもつ。遺構出土例のみ時期を特定できる。これらは、別項の表を参照していただきたい。

土器底面に、植物で編んだものの圧痕がのこっており、これについても分析と編み物の復元を試みているが、その項で触れなかったものとして、植物の圧痕がある。植物圧痕例は、5点あり、同定をこころみたが、完全に一致したものがなく、今後も同定をしていきたい。いまの段階で判明しているのは、落葉植物の葉であることとヤマブドウ・ナラ属（類）コナラ・ミズナラなどの葉の可能性が高いことまでわかっている。

弥生時代以降（第107～109図　図版89）

弥生時代以降の土器として、古墳時代の土師器・須恵器と奈良・平安時代の土師器などがあるが図示はできなかった。他に、近世までの陶磁器などがあり、越前・常滑・瀬戸・美濃系などがある。

（橋本正春）

9　琥珀玉

琥珀玉は、調査区の北端であるX91Y51・52区の２層から出土した。

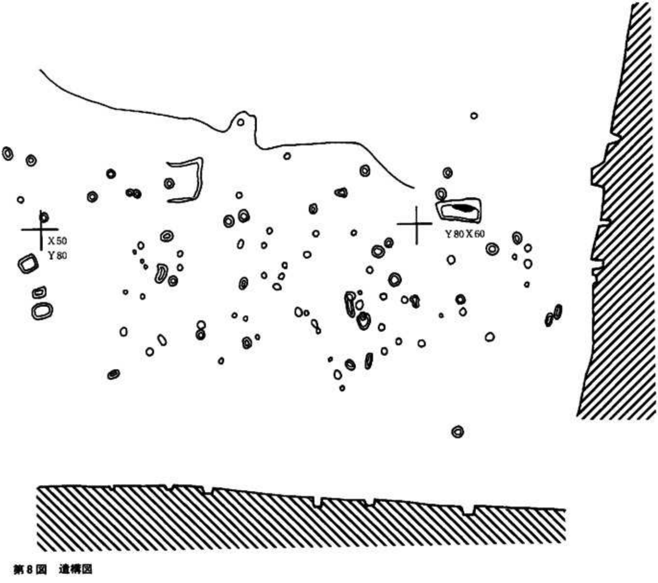
現存する幅は1.6cm、厚さは1.4cm、長さは2.5cmである。色調は赤黄色で、透明感があり赤みが強い。

正面と側面のそれぞれ一面が残っているが、その他の面は欠けており、角の丸みなどからみて全体の三分の一にあたるものと推定される。ほんらいの大きさは、幅が2.6cm、厚さ1.6cm、長さ３cmほどであったと考えられる。

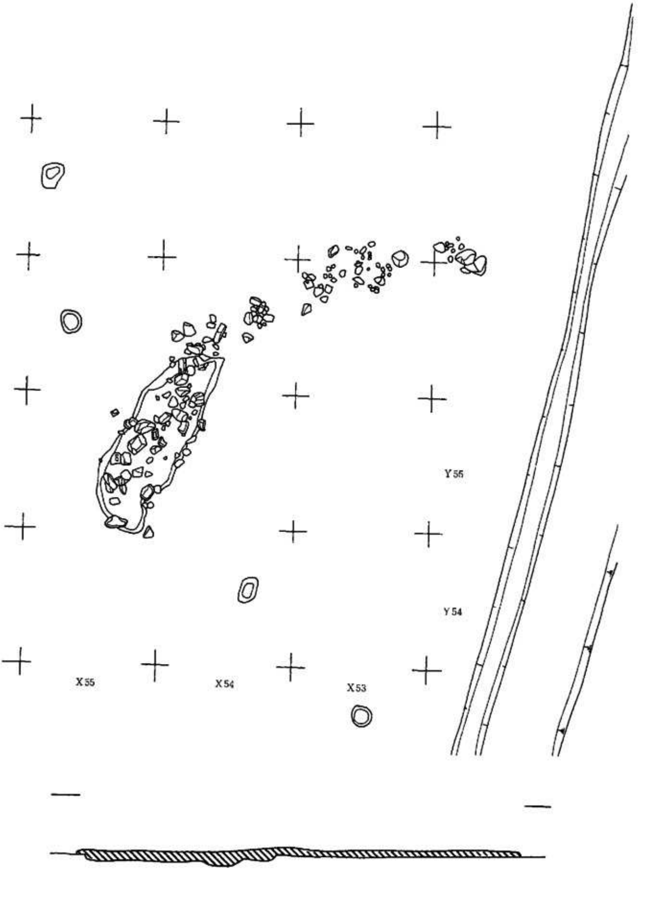
形は、やや偏平ななつめ形である。

孔は長軸に通っている。径は５mmで、両方向から穿孔しているため、孔はまっすぐではなくやや屈曲している。

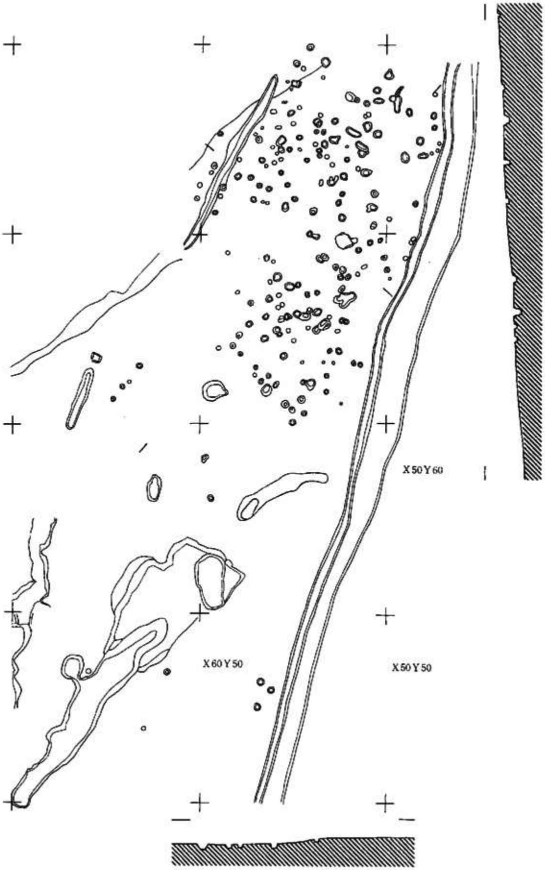
いつの時代のものであるは、あきらかではないが、形や両面穿孔であること、出土区の遺物・遺構は縄文時代後期・晩期のものが主体となることから、縄文時代後期か晩期のものと思われる。　(久々忠義)



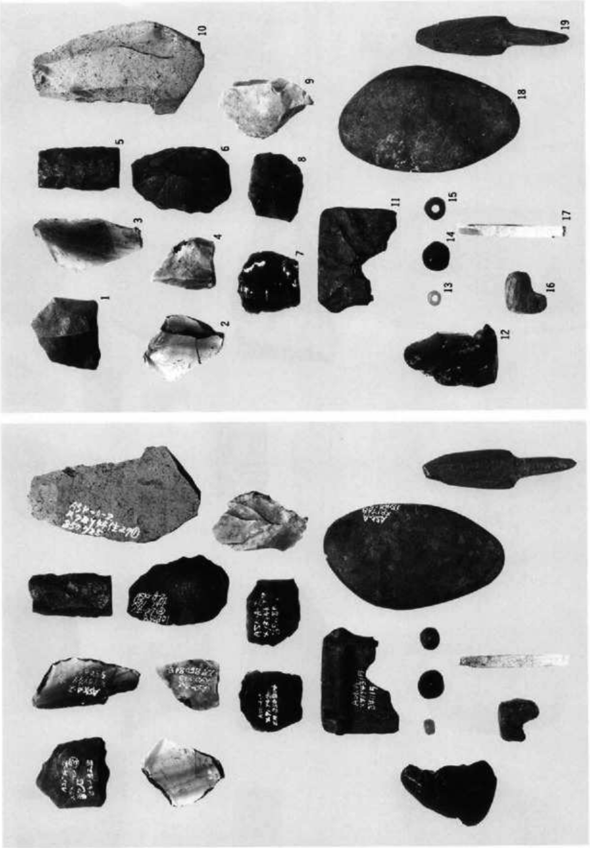
第８図　遺構図



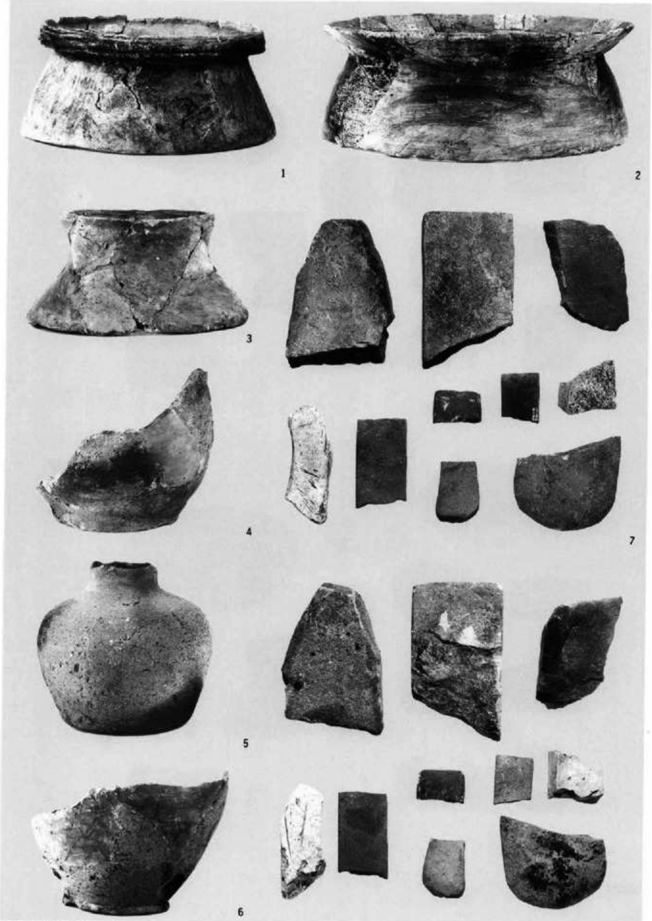
第9図 遺構図



第10図 遺構図



図版88 出土石器・金属器 1～10、12、17、18：縄文時代
19．弥生時代 13～15．古墳時代
11．近世



図版89　出土土器・石器　1～4．土師器　5・6．珠洲陶
7．石器

第Ⅲ章　自然科学分析結果

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

第Ⅳ章　ま と め

1　縄文時代中期中葉の土器

境A遺跡出土の中期中葉の土器群は、質・量共に過去県内の遺跡で調査により出土した遺物量と比較できぬほど膨大な量と言える。主な出土箇所は遺構覆土・X70～74Y74～78区の土器集中区・遺構覆土上層等である。遺構覆土より出土した土器は複数の時期が混在し、単純な様相を示す資料は殆ど無い。また第20号住居跡及び、X70～74Y74～78区の土器集中区では、上山田・天神山式土器様式［小島1988］の第Ⅱ～Ⅳ様式に相当する土器が出土し、各時期の土器群の分布並びに出土層位を検討したが、各様式単位での抽出は不可能で全体に混在していた（付図1）。

ここでは境A遺跡の中期中葉土器群で資料的に少ない、上山田・天神山土器様式の第Ⅰ・Ⅴ様式を除き、県内の研究成果を踏まえ第Ⅱ～Ⅳ様式の土器を、文様・文様構成・器形等より検討し変遷を考えてみたい（付図2）。

Ⅰ期　上山田・天神山式土器様式の第Ⅱ様式に近いが、第Ⅰ様式の様相を残している。文様は隆帯を中心にして半隆起線文で器面全体を埋め、無文帯部は殆ど見られない。また1や7以外は無文帯部の縁を細かく刻むものや、半隆起線文の沈線部分に連続刺突を施す例は少ない。器種は深鉢が主体で、12・13のような台付鉢も文様構成、胴下半の半隆起線文の処理の仕方等の類似性より、同期に伴うものと考える。文様構成は2単位が主流で、2・3・5・6・12は2単位、7は4単位である。文様の中で玉抱き三叉文及び三叉文を彫込む事も多く、9・11は玉抱き三叉文を、1・3・12は円形と三叉文、3・5・7は三叉文を彫込む。5・6・1は口唇部に環状突起を配し、その穴に対応し内外面若しくは内面に三叉文を彫込む。3は山形状の突起の内面に、円形の張付文と三叉文を彫込む。一方口縁部と胴部の文様帯を隆帯で区画するものは少なく、3と5がある。それ以外は口縁部から胴部へと文様帯が続く。胴下半の文様は垂下する隆帯間を半隆起線文を縦位に引くものが多く、4・9のように花弁状文となるものがある。

Ⅱ期　上山田・天神山式土器様式の第Ⅱ様式に相当する。文様はⅠ期と同じく全面を隆帯と半隆起線文で埋める。器種は深鉢を主体とし、台付鉢の占める割合も多くなる。文様構成は1・2が2単位であるが、4単位が多くなる。三叉文は半隆起線文間に見られるもの以外、彫込みによるものは器面からほとんど姿を消し、2～4のように環状突起の内外面にその名残を留める。台付鉢の隆帯は口縁部や頸部に1条巡らせ、その下に隆帯による渦巻文を横に列ねるものが多い。深鉢及び台付鉢の胴下半部は、垂下する半隆起線文による花弁状文で埋められる。口縁部ないし頸部に巡る隆帯の上には3条の短隆帯を貼る事も多く、次期のW状隆帯への変遷を思わせる。

Ⅲ期　上山田・天神山式土器様式の第Ⅲ様式に相当する。文様はⅡ期と比較すると隆帯が減り、半隆起線文を主体として器面を埋め、9・11・14・37～39のように渦巻文の中心に隆帯がないものもある。器種は台付鉢が占める割合が高くなる。文様構成は4単位が主流となり、また構成も比較的単純な繰り返しになる。深鉢の口縁部、台付鉢の胴上部に巡る隆帯上にW状隆帯を貼りつける個体が多い。隆帯上は殆どがヘラ状工具による刻みで、半截竹管による刻みは少ない。胴下半部は殆どが花弁状文で埋められ、その花弁状文の上部は丸味をもつ。台付鉢はⅡ期では隆帯が頸部に巡り、その下に隆帯による渦巻文が施される例が多いが、Ⅲ期になると隆帯を胴上部に巡らせるものが多く、胴部に展開する渦巻文は流動性が失われ、渦巻文が施されないものも出てくる。また口縁部から胴上部に、眼鏡状突起ないし類似する突起を付ける17～29は、一部付けないもより様相的に古いと思われる。この期において特徴的な器形をもつ41～45は、口縁部を上から見れば楕円形状で、舟形土器と呼んでおり殆どが台付である。文様はⅢ期とした台付鉢と共通で渦巻文は流動性を失い、文様構成も4単位である。また胴下半部に施される花弁状文も類似している。

このⅢ期としたもので下段の46～55は、Ⅲ期でも後半のものと考える。全般に「く」の字状に外反する口縁部の折れ方が丸味を帯び、半隆起線文で文様構成するものが多い。また胴下半部は半隆起線文を平行に垂下させるだけで、

花弁状文の特徴となる上部の丸味も消えてしまう。類例は立山町二ツ塚遺跡［橋本他1978］、小杉町水上谷遺跡［神保1974］等に良好な資料があり、上山田・天神山土器様式の第Ⅳ様式の前半に相当すると考える。

Ⅳ期　上山田・天神山土器様式の第Ⅳ様式に相当するが、１～３のように文様が胴上部に施され、第Ⅴ様式への移行期と思われるものもあり、第Ⅳ様式の後半と考える。口縁部はⅢ期に見られる「く」の字状に外傾するものは少ない。隆帯上及び半隆起線文の空白部には、クシ状工具による刺突が施されるものが多くなる。一方Ⅲ期まで胴下半部に施された半隆起線による花弁状文は見られなくなる。

浅鉢　浅鉢の出土量は多く、復元できた個体数も多数あるが、遺構内からの出土状況より他器種とのセット関係を明確にできる例は殆ど無い。ここでは文様・器形及び県内の他遺跡での伴出状況から、その変遷を考えてみたい。[注①]

１，口縁部に隆帯と半隆起線文（１～７・11）、半隆起線文（８～10）で文様を施し、渦巻文の上の口唇部を肥厚させ、玉抱き三叉文を彫込む。１～３は口縁部に半隆起線文で区画した無文帯部に三叉文を彫込む。**２**，口縁部に文様を半隆起線文で施し、橋状把手を付け、その上の口唇部を肥厚させ玉抱き三叉文を彫込む。**３**，口縁部に文様を半隆起線文で施し、口唇部に沈線を１条巡らす。この口唇部の沈線は、口唇部に玉抱き三叉文を彫込む個体の殆どに見られ関連性が伺える。**４**，口縁部に文様を半隆起線文で施す。口唇部に巡る沈線は無い。**５**，文様は円形ないし菱形の粘土帯を４箇所に貼る。**６**，文様は口縁部に半隆起線文を横走させ、１ないし２条の沈線を引く。**７**，文様は口縁部に隆帯や粘土帯を貼る。**８**，文様は口縁部に粘土帯を貼る。**９**，文様は口縁部に半隆起線文と円形の粘土帯を貼る、または半隆起線文で施す。**10**，無文で口唇部に半隆起線文を横走させて１条の沈線を引く。**11**，無文で口唇部に半隆起線文を横走させて１条の沈線を引く。

以上文様等より11段階に細分したが、１の１～３は砺波市厳照寺遺跡［神保1977］、宇奈月町浦山寺蔵遺跡［酒井他1977］と比較すると、中期前葉から続く古い様相を残している事が伺える。また隆帯ないし半隆起線文による渦巻文を施すものや、２の橋状把手をもつものなど口唇部に玉抱き三叉文を彫込む段階が、中葉の前半に伴うものと考える。しかし立山町野沢狐幅遺跡［狩野他1985］では中葉前半の土器と共に**１・５・６**に相当する浅鉢が住居跡で伴っており、中葉前半に玉抱き三叉文を彫込むグループだけでなく、**３～６**も伴う可能性がある。ただここでは文様より**１・２→３・４**へと変遷したと考える。**５**は上記した立山町野沢狐幅遺跡の例はあるが、小杉流通業務団地内No.19遺跡［酒井他1989］で、当遺跡のⅢ期に相当する土器と住居跡で伴っており、時期幅を考える必要がある。**９・11**は立山町二ツ塚遺跡［橋本他1978］で、当遺跡のⅢ期後半からⅣ期に相当する土器と住居跡より伴っており、同期に伴う可能性がある。**10**は小杉町水上遺跡［橋本他1974］で、当遺跡のⅢ期後半に相当する土器との共伴が考えられ、同期に伴う可能性がある。以上県内の数遺跡において伴出例があり、資料的に少ないが**１・２→３・４→５→９～11**へと変遷した可能性がある。

搬入品　搬入品と考えられるものは、大木８ｂ式ないしその影響を受けた新潟県地方の土器がほとんどを占め（８～18）、他に曽利式（唐草文）系統（１～３）、新潟県の羽黒６ｂ期［寺崎1989］に類似（４・５）がある。しかしこれだけのものがありながら、火炎型土器はほとんど認められず、分布・交流等に関連して問題が残る。

搬入品と在地の土器との関係は、第20号住居跡とＸ70～74Ｙ74～78の土器集中区及び、その他の遺構より出土状況から見ると、複数の時期の土器と混在しており特定できない。現在その関係について小島氏は上山田・天神山土器様式の第Ⅲ様式に勝坂式土器様式末期から曽利Ⅰ式期が伴うと想定し、第Ⅳ様式に曽利Ⅱ式が、第Ⅴ様式に曽利Ⅲ式が並行すると推定している。また第Ⅴ様式には大木９式（古）が伴うと示唆している［小島1988］。　（狩野睦）

注①　ここで示した11段階の区分は直接年代順を表すものでない。また各段階の浅鉢において、器高・法量等の差が見られ、同段階のものでも時期差をもつ可能性がある。一方中には数段階の時期幅を持つものがあると考えられ、現段階で各浅鉢を編年的に位置付けするにはまだ資料的に少なすぎ、今後の資料増加に待ちたい。

2　縄文時代後期中葉から晩期の土器について

土器様相は、かなり複雑となっている。高堀が「東西の様相が入り交じった北陸の地域性」と表現した土器様相がみられる［高堀　1965］。土器編では、おおよその見通しと分類を行なったが、細部の問題点や土器の変遷については十分に記述していないためここで整理しておきたい。境A遺跡の土器群は中期中葉から晩期後葉までほとんど連続的に見られ、変遷を明らかにするには好資料と考えられるが従来設定されている形式とは異なった土器群や他地域の土器が含まれ、対比を複雑にしている。また、器種や文様の個別の変遷はある程度たどることができるが、全体の組合せ（並行関係）は、遺構などでは十分に検証できない。

1．後期中葉の土器（第1・2図）

前葉では、在地の気屋式土器に堀之内式系土器や縁帯文系土器が一定量流入し、複数の土器形式が同時に存在する様相となっている。中葉でも、この様相に大きな変化はなく在地的な土器に西日本や東日本の土器がともない土器群が構成される。第1図1は、条線文を施す深鉢で胴部は縦縄文となっている。器形や縦縄文は気屋式［米沢　1989］の後半のものに似る。また、同様の器形は同図2～4・7や土器編図版127にも見られ縄文を地文とした、平行沈線と渦巻き文や鋸歯状文を施す一群が存在している。このような土器群は、福井県鳴鹿手島遺跡［工藤　1987］に知られ、堀之内2式から加曽利B1式期に位置づけられている。中でも第8類は1と共通する条線文をもつものは、同期の所産である可能性が高い。また、7は縄文地に横沈線を施し、入り組む弧文で区切る手法をもつ。渦巻状に施す例に比べて後出的な様相といえよう。いずれにしても加曽利B1式以降へは続かない要素と考えられる。

5・6・8・9は、2条の沈線間に「～」状文を施し、縄文地に鍵状あるいは渦巻き状、菱形の沈線文を描く例で10～17→18、19、20へと変遷がたどれる。5、6の、内面の文様は堀之内式に多くみられるものであり、縄文を地文とする例は古いものであろう。また、これらに後続する沈線間に条線を施す10～20は、加曽利B1式期と考えられる。この土器は、長野県下をはじめ新潟県西部、石川県、岐阜県などにも広く出土例が知られる。これらに並行あるいは後続して「の」状文や蛇行沈線文、「)」状の区画文を施す加曽利B式的な波状口縁深鉢が出現する。

21、22、24、25は、文様構成がしっかりした例で、次に26～30などの円形の刺突文と交互に「)」状文を施す例、そして39～44の刺突文を多用する例など粗雑となる。区切りの手法は東北的な要素が強くあらわれるが器形などは独自の様相と考えられる。ほぼB2式段階と考えたい。

第2図は、平縁の小型深鉢、浅鉢、注口、3突起深鉢などである。これらの土器は、第1図の波状深鉢に比べ在地的な要素が少なく、関東や東北南部との共通性が強い。

小型深鉢は、堀之内式期から系譜がたどれ1～4は、古い段階。6～8加曽利B1式段階で、中でも8は在地的要素の強いもの。16は、2式段階。25～40は、3突起の深鉢でB3式段階まで変化がたどれる。この器種は、安孫子・大塚などにより加曽利B式編年の基準として細分されている［安孫子　1989］［大塚　1983］。単純に当てはめることはできないかもしれないが25、27～29がほぼ1式、その他が2式段階と考えられる。60は、在地的な例で2式のなかでも新しいものであろう。加曽利B1～2式のこの土器群は、8段階に細分されており当遺跡の例も細分は可能と考えられるが細片が多く、十分に全体像がつかみにくく今後の課題としておきたい。

浅鉢は、羽状縄文を施すものを含めてほとんど加曽利B式に共通する器種や手法が見られる。9、10は、波状口縁の鉢と考えられる。関東では、3波状となるものが一般的となっている。しかし、2波状の例なども立山町野沢狐幅

遺跡［立山町教委　1985］に知られており、違いがある。また、「く」状口縁の浅鉢12、23、24や、碗状の鉢は加曽利B式のものをもっている。椀状鉢の変化は、17、18の縄文地のものから19～22の「の」状あるいは、鍵の手状に区切る例へ、そしてやや大型の41、42となり、いわゆる「算盤玉」状の43、44に変化すると考えられる。41～44は、B2式期。また東北的な様相の強い羽状縄文を施す鉢が器種に加わる。縄文や羽状縄文を、沈線による区画線内に充填する場合、区画を浮文状にすることは少なく擦り消すものが多い。63、64は、皿状の鉢で口縁部に大きな突起が付く、東北的要素の強い土器。この他に、波状口縁の深鉢が見られるが、次の項でふれたい。

注口11～15は、B1式期では関東に見られるものとほとんど違いは見られない。また、B2式期では、東北的な53～55と一乗寺K1式とされる53、第3図42、43などが主体となる［泉　1989］。この他に溝底刺突文を施す56、57、59なども同期のもので、わずかに見られる。

加曽利B1～2期の土器群について概観した。B1期の土器群については、県内でも出土例が知られ愛本新遺跡〔湊　1972〕や本江・広野新遺跡［小島　1979］で比較的まとまって見られ、小島は、B1式期のものを抽出し報告している。また、石川県下では、横北遺跡［湯尻他　1977］や道下元町遺跡［市堀　1985］、真脇遺跡［米沢　1986］などに知られ、高堀［高堀　1986］により加曽利B1式期の土器群に対しての土器形式の提唱があるが設定には至っていない。境A遺跡では、西日本的な様相が一部のものに窺えるがほぼ加曽利B1式土器に包括される。また、在地的要素としては、条線文の土器が見られ併存すると考えられる。細部は今後も検討が必要であろうが一時期を構成しており、北陸は同様の様相を示すであろう。

中葉後半には、石川県で酒見式［高堀　1975］、富山県では井口1式［小島　1966］が設定されている。また、石川県下では米泉遺跡の資料から酒見式の細分を西野が試みている［西野　1968］。また、木下は、福井県下の酒見式期の様相を示し、「従来、酒見式を構成したとされる“系統”とは他形式からの伝播がその大部分を占め、残存部分について果たして形式設定を成し得るものであろうか。」と、否定的見解を示している［木下　1991］。

1980年の井口遺跡の調査で得た資料を基に、井口式の細分を試みた橋本他［橋本他　1980］は、井口式を4区分し、従来酒見式＝井口1式（加曽利B2～曽谷式）並行期とされたものを西日本の元住吉山1式期（加曽利B3～曽谷式）に比定し、分離している。この後、小島の提唱した井口式と橋本他が提唱した井口1式が、整理されないまま、西野や南［南　1986］の井口2式への発言となる。井口1式は、高堀の酒見2式の新しい部分にあたると考えられるのだが［高堀　1986］。いずれにしろこの時期の土器群の内容を明らかにし、整理は必要と思われる。

加曽利B2式期の、富山県下では、第2図23～44に示した蛇行沈線文や「）」状の区画文をもつ深鉢や3突起深鉢、算盤玉状の鉢、羽状縄文を施す鉢、波状深鉢などと、西日本の影響の強い注口土器などで器種が構成される。一方石川県下の代表的な遺跡である米泉遺跡・横北遺跡・道下元町遺跡・酒見新堂遺跡［市堀　1985］などを見ると第1図23～44に示した波状口縁深鉢は多く見られず、「く」状口縁の一乗寺K式的な波状深鉢や、木下が示した曽万布遺跡などに見られる土器が存在するようである。このように見ると、石川県下ではすでに西日本的な移行がすでに進んでいるようである。一方、羽状縄文を施す波状深鉢や浅鉢は受け入れ、同期の器種構成を作り出しているように考えられる。また、在地的な酒見式期に見られる第3図1～5、17、18、23などが共存する。

新潟県では、まとまった資料として柏崎市刈羽大平遺跡・小丸山遺跡［品田　1985］がある。両遺跡に境A遺跡の波状深鉢に似たものを探しても見つからないのである。区画線の区切り手法は、共通のものが多く認められるが、器形は異なる。むしろ、長野県下や岐阜県下に類似した器形が見られ、中部高地からの影響が強いのかもしれない。

境A遺跡の土器群は、このように見ると関東や中部高地の影響を受けた加曽利B式土器と、東北的な加曽利B式土器を主体として、在地の酒見式土器や西日本の一乗寺K式土器が一部の器種を補完するという複雑な器種構成を持つと考えられる。また、石川県では、関東や中部高地の加曽利B2式段階の土器が多く見られず地域的な差となってあ

らわれ、北陸東部と西部では、土器の器種構成に違いが見られるようである。

2．後期中葉から後葉にかけての土器（第3・4図）

加曽利B2式以降、波状口縁の深鉢が増加し、大きく二つの様相が見られる。一つは、縄文地に数条の沈線文を口縁や胴部に施すもので、波頂部に「人」状の隆帯や、同様の沈線文を持つ例である。他方は、羽状縄文を施すものである。これらには、西日本的なアヒルの嘴状となるものと加曽利B式的な波状口縁となるものがある。第3図8は、最も初現的な波状深鉢で胴部文様帯に「)」状の区画文を持っており、文様の共通性などから加曽利B2式期と考えられる。次に同図11は、波頂部に「)(」状の沈線と、円形の末端刺突文を施す、この文様は元住吉山1式［泉　1989］の特徴とされている。同様の特徴を持つ例は、第4図4があり同期と考えられる。次の段階では第3図16や第4図1、2のような隆帯をり貼り付ける例に変化し、第3図9、10、24～26の隆帯を「人」状にする例への流れが推測できる。アヒルの嘴状の波頂部を持つ深鉢では、羽状縄文を取り入れ、頂部内面や外面に一条の沈線を垂下させる第4図6、12などや「じ」状の貼り付け隆帯を持つものになる。第4図3は、頂部内面に巻貝の頂部による刺突文が施されており、このころから頂部刺突文に巻貝が使用されている。また、この他に沈線文を「人」状に施したりする第3図27～30、33、34があり、沈線末端刺突文状の円形刺突文を施す例もある。この刺突文は、この後に続く要素でありこれらの中でも31、32を含んで新し土器であろうか。

加曽利B式的な土器としては、6、7がある。3突起の深鉢で、羽状沈線を施す例などで、B3式段階。また、この他に羽状沈線を施す例は、西関東や山梨県・長野県の遺跡に知られており百瀬［百瀬　1984］により位置づけがなされている。19～21は、羽状沈線文を持つ例で西日本的な土器に施される事が多いようである。この羽状沈線文は、後葉へ続く要素で凹線文と共有する例が少なくない。

1～5、17、18、22、23は、酒見式とされるものである。中でも、1～5は平行沈線間を縦に区切る手法を持つ酒見式の標識的な土器である。この手法は、加曽利B式の影響を受け独自に発達した北陸独特の手法で、比較的短期間に使用される。この手法の変化は、細い沈線→太い沈線で細かく（楔状もある）→幅広沈線と考えられ、加曽利B2式後半以降に使われる。

この他に、アヒルの嘴状の波頂部を持つ31や波頂部が幅広の30、32がみられ後出的な様相である。32は、安行式土器の波頂部を思わせる。また、東海的な握り拳状の波頂部を持つ37などがみられる。これらは、埼玉県高井東遺跡［市川他　1974］や山梨県金生遺跡［新津他　1989］などで出土例が知られ、関東の曽谷式段階に位置づけられている。

第4図は、羽状縄文を施す土器群である。13～18は、丸い波頂部と、あまり入り組まない帯縄文を施す深鉢でB2式段階と考えられる。また、19、20は、三角に尖る波頂部の両側に突起を設け透かし彫りなどを施す例で、東北南部に類例が多い。21～26は、帯状の文様帯が入り組み、半肉彫状に文様が浮き上がる例で前者に比べ後出的な様相を持つ。27～30は、口縁部に羽状縄文帯を持ち、入り組み帯縄文がやや複雑になったと考えられる例で、縄文がやや細かく施される。波頂部に隆帯を垂下させる27や突起が付けられる28は、新しい要素であろう。この波状深鉢には、いくつかの文様の系統があると考えられ、入り組み帯縄文、数条の沈線を区切る区画文、楕円区画文などがみられるが、胴部と波頂部の文様の組合せは分からない。また、36にみられる羽状縄文間に沈線を施す手法は、平縁深鉢に長く用いられ、後期末まで続く。

注口土器は、東日本的な37～39と、西日本的な第3図44、45が共存する。

平縁深鉢は、加曽利B3式頃から増加し有文で帯状入り組み文や数条の沈線文を区切る手法を持つものと、羽状縄文を器面に施す粗文のものがみられ、口縁部に縦長の突起が付き、内面に沈線を施す例が多い。

有文の44、46～49は、楕円文あるいは入り組み文を施す例で貼り瘤が付けられる44、48がある。また、46、50～53

にみられる突起は、縮付土器の初期に存在する東北地方の例に共通する［安孫子　1969・1981］。52、53にみられる羽状縄文間に沈線を施す手法は、鉢54～56の頸線手法と共通したものであり、滑川市本江遺跡など［小島　1979］でもみられる。また、41、42は、帯状入り組み文を施す鉢で、関東の曽谷式段階の入り組み文に似る。この鉢類を含み細かな羽状縄文を施す例は、この時期の特徴とされており、57～60の深鉢を含めて土器群が構成されると考えられる。おおまかではあるが後期中葉から後葉にかけての土器群を概観した。内容はかなり複雑である。関東などにみられる加曽利Ｂ式の影響は次第に薄れ、羽状縄文の土器に代表される東北南部の影響が強くあらわれる。一方では、西日本の元住吉山１式の影響を受けた土器や、これらの影響の下に成立したと考えられる東海系や中部高地の土器が共存する。それらに、在地の土器群やこれら他地域からの影響下で在地化された例が伴い、共存する、複数の形式が同時に存在するという特殊な状況がみられる。このような様相は、後期後半に顕著である。

３．後期後葉の土器（第５・６図）

北陸西部では、西日本の影響を強く受けた凹線文系土器がみられ近畿地方の元住吉山２式・宮滝式に平行する形式として、小島［小島　1966］により井口２式が、位置づけられた。また、1978、79に井口遺跡を調査した橋本他は、小島の井口２式を細分し、２期（元住吉山２式期）、３期（宮滝式期）とした［橋本他　1980］。この中で富山県東部に位置する滑川市本江遺跡の主体となる土器の位置づけが、小島の見解と違い議論を呼んだ［小島　1981］。この中で小島は、出崎［出崎　1967］の考えを支持し、富山県東部では、井口式とは異なった様式の土器群が存在するとして、「井口式の深鉢と対比して個々の位置づけは難しいが」と前置して、本江遺跡分類の深鉢Ｊ型を示した。土器の位置づけは問題が残るが、異なった様式の土器群は、存在すると考えられる。また、八日市新保式を大きく３系統に分け理解しようとした考えは注目される。

八日市新保式は、石川県上山うまばち遺跡・チカモリ遺跡・御経塚遺跡などの調査成果から２分され、西野・南は、後期に、高堀・小島は１式を後期、２式を晩期とする見解を取っている［西野　1983・南　1986・高堀　1986］。ここでは、在地の形式である勝木原式［小島他　1967］や西日本の滋賀里式との対比が問題となっている。

凹線文系土器は、北陸西部に比べ在地的な要素が強くみられ、凹線に添わせて縄文を施す例が多くみられる。また、深鉢はそれほど多くなく、井口遺跡などで分類の指標とした巻貝頂部の刺突文の変化は、はっきりしない（第５図１～７、15）。４～６は、波頂部に巻貝による刺突文を施さない例で、第３図24～26から変化したと考えられる凹線文系の深鉢で、埼玉県高井東遺跡や山梨県金生遺跡などに類例が知られる。また、北陸では、類例は多くないが石川県下などにある。これらの他に、岐阜・長野県下にみられる矢羽状沈線文を持つ16、17などがあり、元住吉山２式、宮滝式に対応すると考えられる。在地的な波状深鉢では、波頂部の隆帯が消失して縄文地の沈線文となる（８、９）。また、波頂部は、屈曲が強く、頂部を平らに押さえる例が多い。次の段階では、波頂部に２条の沈線を垂下させていたものが「()」状や「Ｕ」状に変化すると考えられ、この後、晩期まで続く「()」（対弧文）として成立するまた、沈線文を入字状に波頂部に施す第３図27～34などから系譜のたどれる。10、11は、沈線端部の円形の刺突文を特徴として、43、44などへ変化すると考えられる。一方頂部を平坦に作り出す22～26は、引き続きみられるが長くは続かないようである。井口２式の新しい段階では、凹線文に代表される西日本的な要素は薄れ、地域性が次第にあらわれてくるようだ。半縁の深鉢は、凹線文系の１～３、16がみられる。図示しなかったが、第４図50などから系譜のたどれる無文で口縁部に縮付土器にみられる突起が付けられる土器編116の１～36などが存在するかもしれない。また、18～20の短い口縁帯を持ち、頂部に円形の刺突文を施す例は、新しい要素だろう。

12～14は安行１式、35、36、38、39は、東海地方の土器で、安行式土器は県下で初めての出土である。

井口式に続く形式としては、八日市新保式が設定されている。井口式期の巻貝による胴周沈線の区切りから沈線の

区切り（八日市新保１Ｅ型）や三角状の削り込み（氷見水源地型）、楕円文状の「）（」状文を施す（田家型）の大きく３つの系統に変化することが知られている（28～37、45、46）。しかし、これらの手法が、一源的に発生するとは考えにくく、加曽利Ｂ式後半にみられる深鉢胴部の楕円文風の沈線文の区切り手法や、元住吉山式期にみられる波頂部や波頂と波頂間の中間の小突起の両脇の沈線のしまい方などに共通した要素がみられ、このような手法からの流れを考えなければいけないだろう。八日市新保式の古い段階では、波頂部とその下に区切り文を施す４単位が一般的にみられるが、次第に区切り文の数が増え、波頂部を中心とした区切りや交互に区切り文を配置する手法が多くなると共に、半肉彫り状の三叉文風の区切りに変化し、対弧文や「川」状の沈線文を中に配する。47～50が中間的な様相を示す例、62、63が東日本的な例、77～80がこれらの胴部で、八日市新保２式の古い段階と考えられる。田家型と呼ばれる45もこの段階に位置づけられよう。この田家型は、晩期までは続かない短い土器である。

波頂部に「）（」状の対弧文や「U」状文を持つ21、23は、弧文の間に凹線が施される38、42、53や、凹線文を垂下する39、40、弧線文だけで重弧となる41、51、52、54へとたどれ、八日市新保２式の新段階では、三叉文風の対弧文に変化する。59～61、65～68、72～74は、この段階と考えられるもので、多条線化した弧線文の81～85も同時期であろう。

凹線文系の浅鉢（第６図）は、比較的多くみられ深鉢に比べて一定量が器種として組み入れられている。１～３は、井口２式期、４～７は、中でも後出的なもの。井口遺跡などでは、皿状の浅鉢がみられるがここでは認められない。

八日市新保式期では、「く」状口縁外面に付けられる文様は沈線となり、深鉢の田家型に施される楕円文風のモチーフや円形刺突文を施す例がみられる（24～28、45、46）。また、波状口縁の鉢が増加し、瘤状の突起が付けられる26などもある。この波状口縁の鉢は、台付となる例が多い。図示はしていないがこの他に小型の鉢が多数みられる。

東北地方の影響を受けた土器としては、いわゆる瘤付土器がある。この瘤付土器には、東北的要素の強い例（８、13、33など）、東北でも北陸よりの地域にみられる瘤付土器（９～11など）の両者がある。瘤付土器の変化は、安孫子により編年されており［安孫子　1969・1989］、この成果によると８、12～16は第１段階、30、33～36、47、48は、第２～３段階、53、54、67は、第４段階にあたると考えられる。この成果を単純に北陸の土器編年に当てはめることは困難であるが、瘤付土器の始まりは井口１式期であり井口式・八日市新保式期に平行することは間違いないであろう。小島も同様の考えを示している［小島　1981］。しかし、凹線文系土器の始まりが井口１式期とする考えは疑問である。

瘤付土器（９～11、31、32、37、38）は、10、11が瘤が少なく古い段階のものと考えられ、瘤が多くつくその外は新しい段階であろう。49、50は、在地的な要素の強い例で八日市新保式の新しい段階に伴うと考えられる。また、注口土器が多くみられ、共存する。

有文の深鉢（17～23、55、58）は、後期中葉段階で縄文や羽状縄文を地文とする数条の平行沈線を縦に区切る手法から、楕円文風の区切文に変化する。この変化は、沈線間を羽状縄文とする楕円文から、斜縄文地文の楕円文や方形区画文、楕円文や方形区画文の周辺を擦消し、半肉彫状に浮き上がらせる手法に変化する。また、口縁部は、肥厚し、粗い斜縄文を施す。また、胴部は縦縄文となるものが一般的である。この一群は、本江遺跡などでも特徴的に認められ、富山県東部や新潟県の一部に分布すると考えられるが、石川県下ではみられないようである。

波状口縁浅鉢は波状口縁深鉢と同様の文様構成となり深鉢と同様に変化がたどれる。40～44が八日市新保式の古い段階59～61、73が新しい段階であろう。76は、円形の刺突文を施す例で、中でも後出的な要素である。「く」状口縁の浅鉢は、62、63から74、75の玉抱き三叉文風のものや77～79の沈線文や鋸歯状文のものに変化すると考えられる。椀状の鉢では、弧線文と「（ ）」状の対弧文が組合せ使われ、新しくなるにつれて対弧文が多条化する（68～71）。これらの鉢は、滋賀里式との類似が指摘されている。この多条化した対弧文は、先に触れた波状深鉢や浅鉢などにもみ

られる共通の文様モチーフであり、広く分布が知られており、従来井口式の円線文の区切り手法から変化した八日市新保式のメルクマール的な文様として位置づけられている。しかし、八日市新保式土器の三叉文風の三角形の抉りや、その内に施される多条沈線は、井口式期にみられる対弧文系列から変化し、東北の瘤付土器などの影響下で作られた北陸的な土器と考えたほうがよいであろう。とすれば瘤付土器に三叉文が取り入れられるのが瘤付土器第4段階であり、従来の八日市新保2式は、瘤付土器の第4段階並行かそれ以降に位置づけられよう。このようにみると八日市新保2式は、後期末から晩期にかかる土器を含んだ形式とみることができる。また、八日市新保式にみられる三叉文は90度の角度をもったものを基本としているが、瘤付土器など東北的な土器は120度の角度の三叉文を基本としており、角度だけで時間差としてとらえることはできないだろう。むしろ土器の系統の違いからくる使い分けと考えられる。
大まかではあるが後期後半の土器群についてふれてみた。従来知られていた井口式から八日市新保式への流れの中に新たに対弧文の土器群や瘤付土器などが器種構成に組み入れられる北陸東部の様相が明らかになったと思う。しかし、瘤付土器にしても東海や近畿地方と共通する弧線文風のモチーフや東北からの搬入品的な67や新潟県下にみられる要素など複雑に入り交じり一群を構成している。またこれらに在地的な土器や西日本的な土器が加わりいっそう複雑な土器構成となっている。注口土器は、井口式期に比較的瘤付土器の注口が多く使用されるが八日市新保式期では、在地的なものが多くなる。また、鉢類や小型土器が増加し、器種構成などにも変化があらわれるようである。ここではふれなかったが八日市新保2式に並行して瘤付土器の流れの中から生まれたと考えられる一群があり、晩期の勝木原式や御経塚式へ続く三叉文系の土器で晩期になるとこれらが強く表出する。

4．晩期前葉の土器（第7・8図）

晩期には、富山県下で岩瀬天神式［湊　1972］・勝木原式［小島他　1967］・御経塚式が設定されるが、石川県では、勝木原式＝玉抱き三叉文の呼び替えとして、御経塚1式、大洞B式後半を2式とする高堀案［高堀　1986］と大洞BC 式を2分してそれぞれを2式、3式とする南案［南　1989］がある。富山県下の形式設定には出崎の「富山県下（庄川以東）では、東日本的な要素を持つ土器群と西日本的な要素を持つ土器群が存在し分布を異にする」とした考えをベースとしている［出崎　1967］。そのため石川では受け入れにくいということもあり別の形式名として存在している。北陸の土器群の地域差であり、それぞれの違いを形式とした場合に特定の器種のみで形式が設定される場合もあり、今後どのように取り扱うかが問題となる。

第7図に示した土器群は、東日本の要素の強い後期末から晩期にかけての波状口縁深鉢である。大きな4波状となるものと、小さな山形の波状部が多数付けられるものの2種みられる。この波頂部に付けられる文様は特徴的であり、変化をたどることができる。また、この文様は、左右対象に施されるAと不対象のBの2種ある。

第1段階では、波頂部にそって山形に沈線を施し、あまり抉り込みを施さない初現的な三叉文を施す例で1～10にあたる。この段階では、A、Bの区別はみられない。また、胴部は、三叉文を施さない23～25がこの段階であろう。

第2段階では、波頂部の山形沈線が楕円文に変化し三叉文が施されるA（11～16）と、左右を不対象に三叉文と沈線・楕円文を施すB（17～20）がみられる。

第3段階では、波頂部に円を描き両側に三叉文を配置するA（31～33）と、楕円文が入り組みはじめる21、22となる。胴部は、2、3段階で横区画の文様帯内に斜めに楕円文と三叉文を配する27や26、28、29があてられよう。

第4段階は、Aの3段階の波頂部の円文がしっかりとし、楕円文が円文の下部に配置され三叉文がその間に付けられいわゆる玉抱き三叉文が完成する。また、円形刺突文を施す例が多くみられる（34～40、61）。一方Bは、しだいに入り組み文風に変化し44、45のようになる。この段階では、波頂部文様が完成し、斜めにやや組み合うように配置されていた三叉文や楕円文が横に配列される。胴部文様も同様に横配列化が進む（30、50）。

第５段階は、円文の中に円形刺突文が施され２重の円文となる（41〜43、48、49）。Ｂは、ますます入り組み文化する。胴部は、（51〜53、69）のような共通する文様となると考えられる。

第６段階は、Ａが無くなりＢの入り組み文化がますます進んだ54〜58と三叉文が不規則に施される56、59〜64などへと変化する。67、68、71〜78は、５、６段階の胴部と考えられる。

最終段階はこの波状深鉢の流れとしてとらえる事ができるかはっきりしないが、65、66や第８図47、49となり、波状深鉢は器種組成から無くなるようである。大まかではあるが波状深鉢の変遷をおってみた。東北にみられる三叉文や入り組み文とは異なり、かなり在地化した様相となっている。この文様の成立に関係すると思われるのは、25、27の胴部文様にみられる楕円文、三叉文などを組み合わせた文様である。この文様は、瘤付土器の第４段階以降にみられる胴部の入り組み文の手法を逆転させた施文方法で文様を描いている。また、21、22などはまさにこの文様を波頂部に描いており、在地化された瘤付土器の文様がこれらのベースとなっていることがわかる。とすれば第２・３段階あたりが後期と晩期の境目にあたるのであろう。また、岩瀬天神式として示された土器は［湊　1972］、第２〜４段階の土器を含んでおり、「玉抱き三叉文をもって晩期とする」とした小島の考えからすると、２形式が同時に存在することとなり、単に玉抱き三叉文や三叉文と楕円文を組み合わせた土器を呼び替えていただけとなる。しかし、勝木原式には、新しい要素もいくぶん含んでおり、第４段階ぐらいにあたるものが多いのであろう。

第５、６段階ではしだいに入り組み文化し、三叉文を配する文様となり、大洞Ｂ式の中でも新しい段階と考えられる。高堀が当初に示した御経塚式は、前後する様相を含んでいるがこの段階から後の要素を含んだ土器が多いようである［高堀　1969］。現在の御経塚２式期にあたる。また、第７段階としたものは、大洞BC 式へ既に入り込んでいるようである。

第８図は、小波状の深鉢、平縁の深鉢、浅鉢、鉢などである。１〜３は、玉抱き三叉文風の文様を配した搬入品で、大洞Ｂ式の古い段階と考えられる。16、17は、壺・注口土器の搬入品と考えられるもので比較的多くみられる。浅鉢は、大きな山形の波状となる６、９、10〜13、15と、椀状の器形となる７、８、14、26があり文様から２〜５段階に位置づけられよう。25、26は、６段階と考えられる。また、18〜24、32〜37の小波状の深鉢や平縁深鉢は、ほぼ同段階のものであろう。35〜37は、いわゆる入り組み文を施す深鉢で、単純な文様構成を持つ。これらの例と比較して「フ」状に入り組む例や三叉文と入り組み文を組み合わせる例は、後出的なものと考えられる。また、前者には、「Ｂ」状突起が施される例があり、より後出的なものと考えられ大洞BC 式段階であろう。後者も59などは、同様であろう。

42〜46は、清水天王山式第２、３段階とされるものと考えられる沈線文による入り組み文を施す例である［小野・奈良　1989］。これらは、関東の安行３ａ〜ｃ式に対比されている。御経塚式段階では、これらと共通する入り組み三叉文を持つ例なども少なくなく、同様の時間幅でとらえられるのではないだろうか。また、入り組み文や三叉文や羊歯状文などは、同一の土器にすべてが施されることがほとんど無く、文様の系統別に使い分けられており横の並びは、対比が難しい部分がある。おそらく第10図に示した羊歯状文の一部が伴い大洞BC 式段階の土器群が成立すると考えられる。このようにみると従来御経塚式に位置づけられていた土器の一部は大洞BC 式期に下がると考えられる。また、「フ」状の組手文や帯状の入り組み文は、大洞BC 式の中でも新しい段階に北陸で使用されると考えられ、深鉢の「く」状口縁化が進み胴の張る中屋式に特徴的な深鉢が生まれる。この最終段階は、御経塚式から中屋式へ変わる移行期であり両者に共通する要素が入り交じりみられ土器様相をわかりにくくしている。また、中屋式の主文様として用いられる文様要素は、入り組み文の流れの中から自出したものと考えられ、三叉文を基本とした御経塚式とはその文様の使い方や器種が異なるようである。この入り交じった段階をどのように考え、位置づけるかにより見方は異なるがこの段階をもって御経塚式の要素はみられなくなるようである。また、大洞BC 式期以降では、在地系の土器と東北系の土器が一定量の比率でみられるようになり互いに補完しながら土器群を構成する。

5．晩期前葉から中葉にかけての土器（第9・10図）

この時期には、中屋式が設定されているが統一的見解は示されていない。高堀は、大洞BC～C1式期に並行させ2段階に［高堀　1986］、南は大洞C1－C2式期に含め3段階に分ける見解を示している［南　1989］。富山県下では、古くから中川式［湊　1972］として大洞BC～C1式を含む土器群が知られ中屋式の中でも後出的な要素を示すとされていた。酒井も中屋式を大洞BC式期として富山市杉谷遺跡［藤田　1973］の土器群などからC1式期に対比させる考えを示した［酒井　1976］。しかし、現在は大洞BC～C1式を含む形式として位置づけされている。

深鉢は平縁となり小さな「B」状の突起が付けられたり、小さな刻みなどで小波状風にするものが一般的となる。文様は、東北の影響を受けた羊歯状文や組み手文、クランク状の「鍵」状文、フック状の「鉤手」状文が組み合せ用いられる。羊歯状文は、安孫子［安孫子　1980］などにより3段階の変遷がたどられている。北陸に当てはめるには多少無理があるであろうが、示した羊歯状文の土器は中でも新しい段階と考えられる。搬入品などでは、古い段階がみられる。この羊歯状文を施す土器は、いくつかの文様を組み合わせて使用しており、一定の幅で時間的な変化を示すと考えられる。

第1段階は、1～11で羊歯状文や羊歯状文と「鍵」状文や短い「S」状文、組み手文を組み合わせて、胴部に施す例で、帯状の入り組み文を施す12、13などもこれらと同期であろう。

第2段階は、14～29で羊歯状文から変化したと考えられる列点文と連続小波状沈線文や短い「S」状文や「鍵」状文や「組手」状文を組み合わせ施文するものや、「鍵」状文を口縁部に施す例、帯状の「鍵」状文を入り組ませて施すものなどがある。この帯状の「鍵」状文は、御経塚式土器にみられた胴部の入り組み文に系譜がたどれる。「組手」状文は、沈線で縁取りするように描き、内側を磨く。「鍵」状文は、北信州を中心に分布する佐野式との関係が指摘されている。この段階にみられる胴部の多段な文様構成は、あるいは佐野式などの影響を受けているかもしれない。また、「S」状の文様は、入り組み文の簡素化、あるいは羊歯状文の列点を消失する手抜きの手法化であろうか。

第3段階は、列点文がしだいに荒くなり、「組手」状文にフック状の「鉤」状文が施されたり、「－（」状の「組手」状文が変化した文様が施されるものに変化する。30～32は、初現的な「鉤」状文が付けられた例と考えられ3段階でも古いものであろう。「鍵」状文が施される33、34は、粗雑な施文方法となり、沈線間を縦の単線で区切る36や楕円文風の37や沈線だけの35などへと変化する。35～37は、「く」状口縁がたらけておりこの中でも新しい様相であろう。条痕の深鉢は、中屋式に多く伴うことが知られているが、境A遺跡では少なく縄文地文の深鉢がそれに変わって使用されている。このような傾向は、新潟県寺地遺跡［石川　1987］などでも同様で富山県東部から新潟県の西部にみられるようである。また、「鉤」状文は、大洞C1式期の雲形文に組み合わせて施文される文様であるが、在地的な「組手」状文などと合わせて使われている。しかし、石川県下では稀である。

第10図は、小型の深鉢、鉢、壺、蓋などである。これらではあまり地域の違いがでないようである。

1～13の羊歯状文を施すものは、深鉢同様に第1段階。10、11、29や12、13、24は、はっきりしないが御経塚式期に含まれると考えられる。蓋15～18、小型壺27、28、有段の鉢29、30などもほぼ第1段階。鉢31～33は、変化が乏しくはっきりとしないが1～2段階であろう。19～23、25、26、35～40、42～48は、第2段階の土器群。49～66は、第3段階の土器群。皿状、椀状の浅鉢は、大洞式の雲形文を施す例が多く、一部は在地系の鉢ではなく大洞系のものを器種として組み入れている。また、59～61の鉢は、後出的な例であり下野式［吉岡　1971］まで下る可能性がある。この他に土器編第222～223図に示した「く」状口縁で口縁をヘラ状工具で刻み胴部は縦の粗い条痕を施す深鉢がある。これらを含めて第3段階の中でも新しいとした深鉢や鉢類などは、下野1式とした井口遺跡の晩期の土器などと共に新しいグループに含まれる可能性がある［酒井　1987］。それは、北陸西部の中屋式期では大幅に条痕を施す深鉢が

増加するにかかわらず境A遺跡ではこのような傾向が認められず、縦条痕化した段階で大幅に使用され始める。この縦条痕化は、下野式と中屋式を区分する大きな目安となる現象であり、北陸の地域性が薄れてゆく転期に位置しているのである。また、土器組成は、有文で丁寧な作りの大洞式系のものと、いく分粗雑な作りの条痕系の西日本的な要素の土器が組合せ使われる北陸的な様相となる。

6．晩期中葉から後葉の土器（第11・12図）

中葉後半には、下野式が設定されている［吉岡　1971］。吉岡により大洞C２式後半からA式に移行を強めた段階の土器として位置づけられた。しかし、現在では、新保チカモリ遺跡、真脇遺跡、井口遺跡などの資料から大きく２つに分けられ１式（大洞C２式古）、２式（C２式新）に位置づけられている［酒井　1976］。また、A式段階では形式は、定まらないが浮線網目状文や「工」字文土器の存在が知られている。

第１段階は、大洞式系土器にみられる「S」状や楕円モチーフや佐野２式にみられるいわゆる粗大工字文などを施す１群である。浅鉢（第11図）は、眼鏡状の隆帯が付けられ、縄文地を擦り消した「S」状文や楕円文が施される。１、３は、隆帯が未発達なもの。４は、皿状の鉢。５は、椀状の鉢で富山県下では多くみられる器種だが、この遺跡では少ない。２、６～９は、眼鏡状の隆帯が発達した例で前者に比べやや後出的な要素が強い。

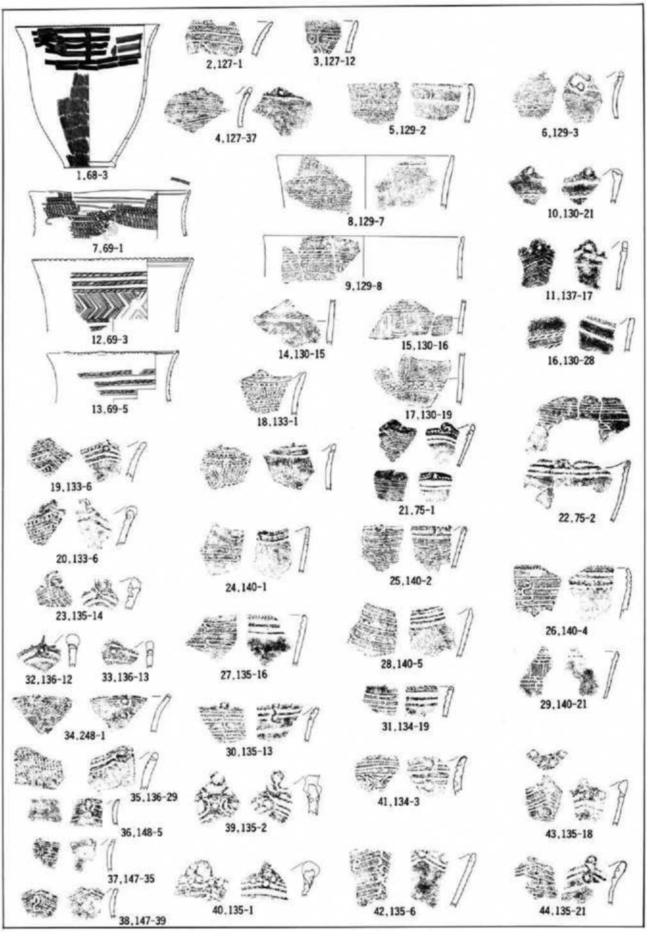
条痕の深鉢（同図）は、縦条痕化し頸部に沈線や列点文や楕円状文などを施す22～24、27～32がある。この段階では櫛状工具での口縁頂部への刺突はあまり行なわれず、ヘラなどで刻む例が多い。24は、櫛状工具による刻みで中屋式期の「ハ」状に刻む手法を残す。22～24、27は古い段階であり、28～32は、新しいものであろう。

鉢、小型深鉢（第12図）も同様の文様を持つ。１～５は、「S」状、楕円文風の文様を施す鉢で、楕円文のものはやや後出的な様相。６～16は、小型の深鉢で下野式期に特徴的にみられる中屋式期から続きみられる器形で、６、９、10は、中屋式の特徴を残す。11～15は、北信州などに分布する粗大工字文が施される例で佐野２式とされるものと共通する文様である。この工字文は、大型の深鉢に施されることが一般的で、県下では立山町若宮B遺跡に類例がある。また、この器形は北陸独特のもので、縦条痕となることが多い。７、８は、大型の鉢で「S」状の文様を施す。32～34は、搬入品または模倣品と考えられる深鉢と注口土器で、深鉢はかなりの量がみられ一部の器種として使用されているようである。この他に壺などもみられる。

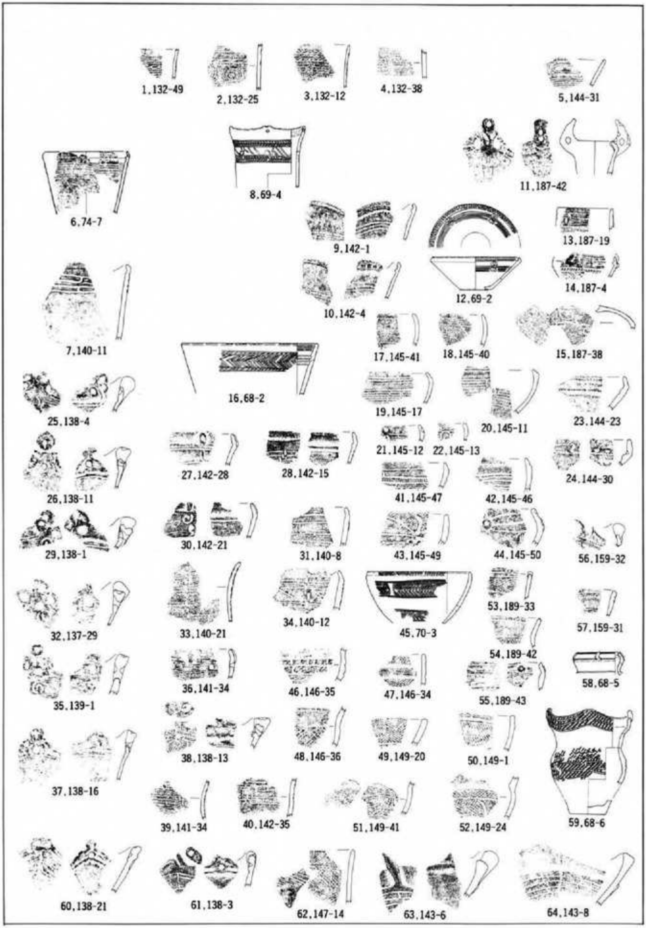
第２段階（第12図）では、眼鏡状の隆帯が発達し、工字文や楕円文が施される（９～21）。11、12は、４などから系譜のたどれる鉢。15～21は、楕円文を多重に施すと考えられるものでやや浮線化した18、19などもみられ、中でも新しい要素を持つ１群である。大洞A式段階の古い部分と考えた方が良いかもしれない。また、眼鏡状隆帯に連続する刺突文を施す手法は特徴的である。

条痕の深鉢（36～42）は、口縁端部を櫛状の工具で斜めに刺突するものが一般的となる。しかし、頸部に凹線を施すものは少ない。この刺突文は、北陸東部にみられる手法で西部にはみられない。25、26は、口縁端部を櫛状工具で押し引き盛り上げるもの。この特徴を持つ25、26、36～40は、楕円工字文などと伴い出土することが知られており大洞C２式の新しい部分に位置づけられよう。35、42、43は、口縁端部に沈線を施し、中に連続刺突文を施すもので、古い段階では頸部などに施される。それが新しい段階では、口縁に上がり施される。石川県下に多くみられる手法で、富山県下では41の例が多く確認できる。また、白山遺跡では、大洞A式段階の土器と共伴している［西野ほか　1985］。33、34は、口縁端部に付けられる。櫛状工具による刻みからこの段階と考えられる。44～47は、新潟県下などにみられる折返し口縁で網目状撚糸文を施す深鉢で、大洞C２－A式期にみられるようである。

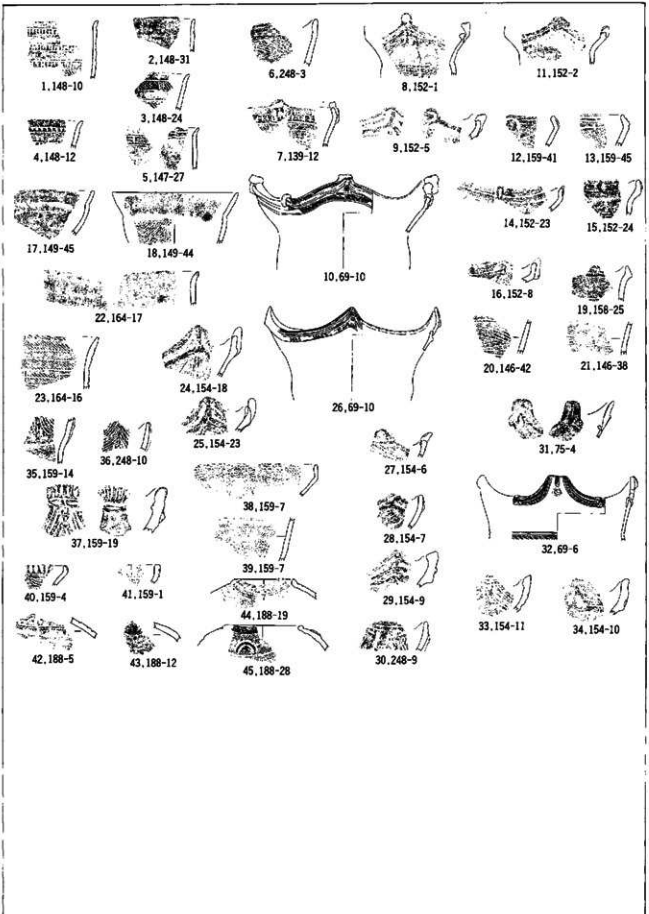
第12図は、前の段階に比べ頸部の屈曲が強くなり壺状となり、口縁が短頸化したもので、連続する刺突文が特徴的である。胴部の文様は、はっきりしないが18、19など楕円文風の文様が施されると考えられる。また、21～23では、眼



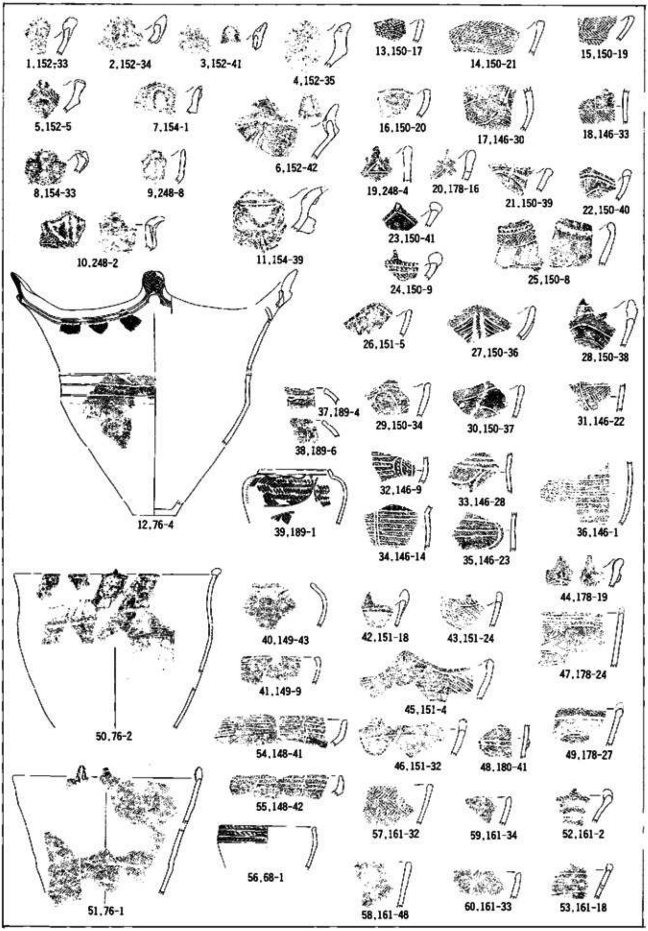
第1図　後期中葉1　実測図1/6・拓本1/4・数字（135-6）は、土器編図版番号を示す。



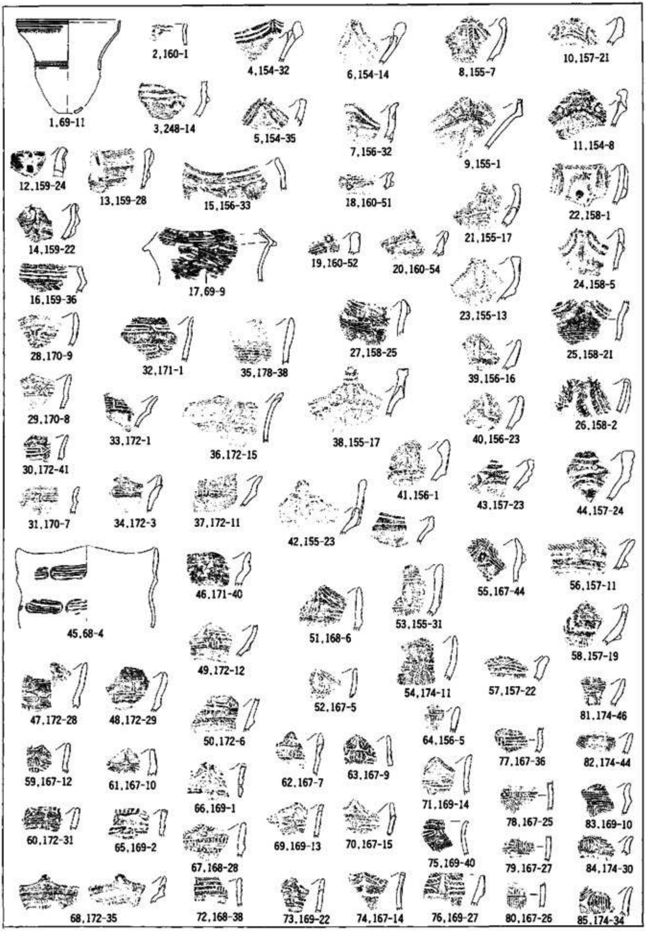
第2図 後期中葉2 (59は1/4)


1,148-10
2,148-31
3,148-24
4,148-12
5,147-27
6,248-3
7,139-12
8,152-1
9,152-5
10,69-10
11,152-2
12,159-41
13,159-45
14,152-23
15,152-24
16,152-8
17,149-45
18,149-44
19,158-25
20,146-42
21,146-38
22,164-17
23,164-16
24,154-18
25,154-23
26,69-10
27,154-6
28,154-7
29,154-9
30,248-9
31,75-4
32,69-6
33,154-11
34,154-10
35,159-14
36,248-10
37,159-19
38,159-7
39,159-7
40,159-4
41,159-1
42,188-5
43,188-12
44,188-19
45,188-28

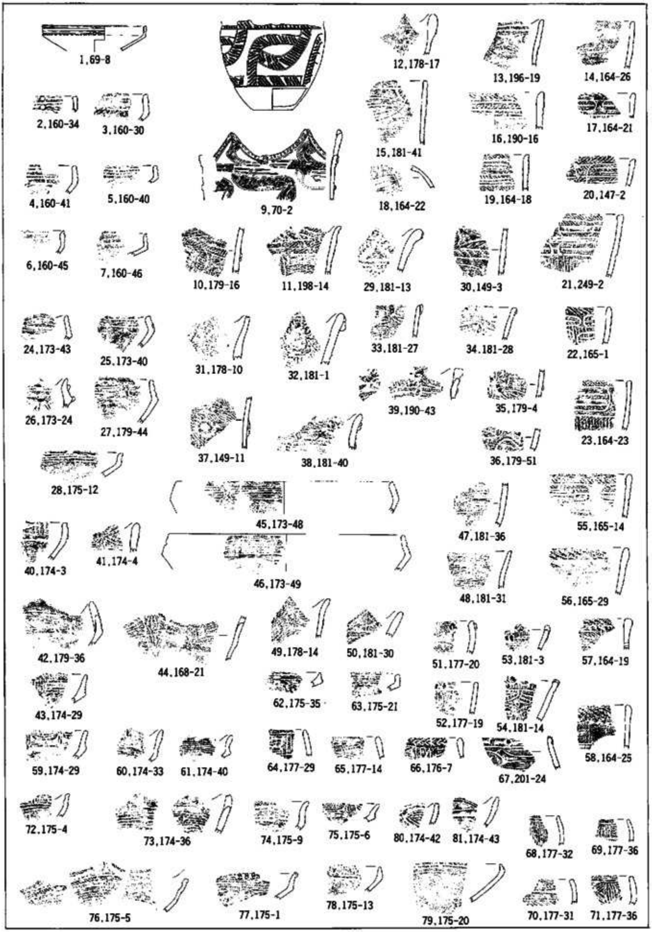
第3図　後期中葉～後葉1


1,152-33
2,152-34
3,152-41
4,152-35
13,150-17
14,150-21
15,150-19
5,152-5
7,154-1
6,152-42
16,150-20
17,146-30
18,146-33
8,154-33
9,248-8
19,248-4
20,178-16
21,150-39
22,150-40
10,248-2
11,154-39
23,150-41
24,150-9
25,150-8
26,151-5
27,150-36
28,150-38
37,189-4
38,189-6
29,150-34
30,150-37
31,146-22
32,146-9
33,146-28
36,146-1
12,76-4
39,189-1
34,146-14
35,146-23
44,178-19
40,149-43
42,151-18
43,151-24
47,178-24
41,149-9
45,151-4
50,76-2
54,148-41
46,151-32
48,180-41
49,178-27
55,148-42
57,161-32
59,161-34
52,161-2
56,68-1
51,76-1
58,161-48
60,161-33
53,161-18

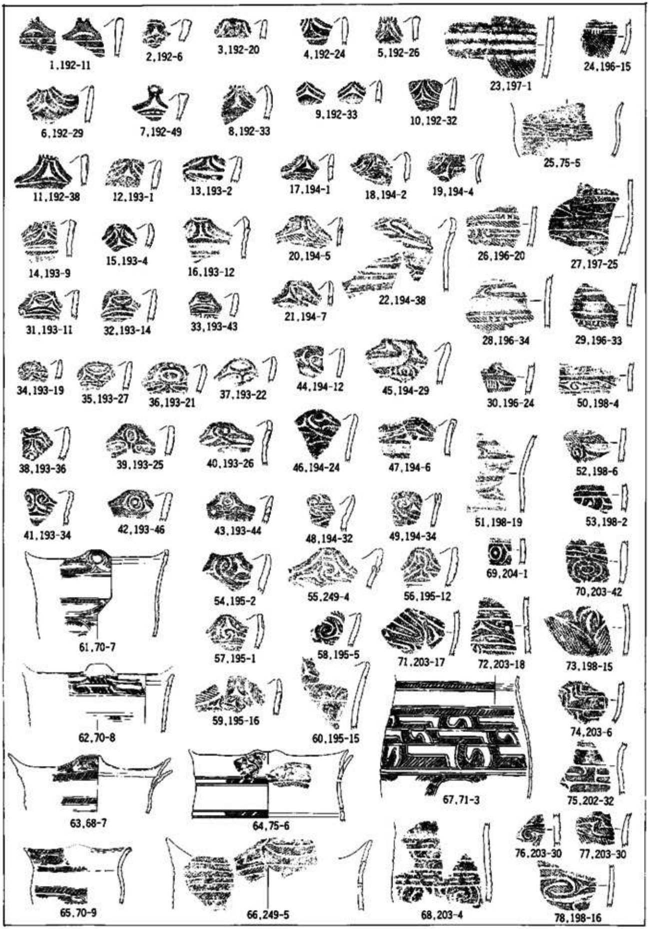
第４図　後期中葉～後葉２


1,69-11
2,160-1
3,248-14
4,154-32
5,154-35
6,154-14
7,156-32
8,155-7
9,155-1
10,157-21
11,154-8
12,159-24
13,159-28
14,159-22
15,156-33
16,159-36
17,69-9
18,160-51
19,160-52
20,160-54
21,155-17
22,158-1
23,155-13
24,158-5
25,158-21
26,158-2
27,158-25
28,170-9
29,170-8
30,172-41
31,170-7
32,171-1
33,172-1
34,172-3
35,178-38
36,172-15
37,172-11
38,155-17
39,156-16
40,156-23
41,156-1
42,155-23
43,157-23
44,157-24
45,68-4
46,171-40
47,172-28
48,172-29
49,172-12
50,172-6
51,168-6
52,167-5
53,155-31
54,174-11
55,167-44
56,157-11
57,157-22
58,157-19
59,167-12
60,172-31
61,167-10
62,167-7
63,167-9
64,156-5
65,169-2
66,169-1
67,168-28
68,172-35
69,169-13
70,167-15
71,169-14
72,168-38
73,169-22
74,167-14
75,169-40
76,169-27
77,167-36
78,167-25
79,167-27
80,167-26
81,174-46
82,174-44
83,169-10
84,174-30
85,174-34

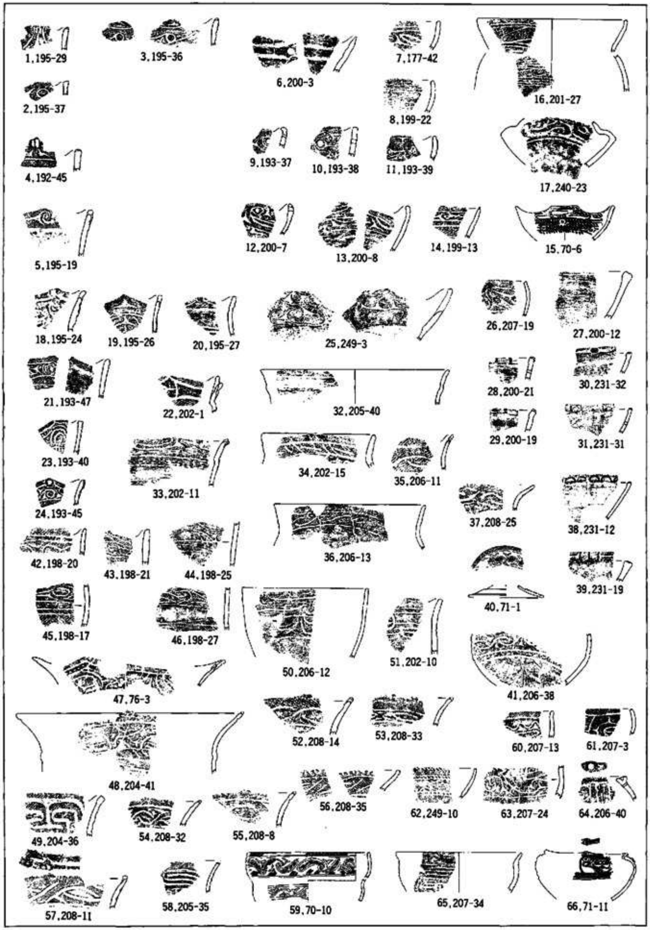
第5図　後期後葉〜晩期1


1,69-8
12,178-17
13,196-19
14,164-26
2,160-34
3,160-30
15,181-41
16,190-16
17,164-21
4,160-41
5,160-40
9,70-2
18,164-22
19,164-18
20,147-2
6,160-45
7,160-46
10,179-16
11,198-14
29,181-13
30,149-3
21,249-2
24,173-43
25,173-40
31,178-10
32,181-1
33,181-27
34,181-28
22,165-1
26,173-24
27,179-44
39,190-43
35,179-4
23,164-23
37,149-11
38,181-40
36,179-51
28,175-12
45,173-48
47,181-36
55,165-14
40,174-3
41,174-4
46,173-49
48,181-31
56,165-29
42,179-36
44,168-21
49,178-14
50,181-30
51,177-20
53,181-3
57,164-19
43,174-29
62,175-35
63,175-21
52,177-19
54,181-14
58,164-25
59,174-29
60,174-33
61,174-40
64,177-29
65,177-14
66,176-7
67,201-24
72,175-4
73,174-36
74,175-9
75,175-6
80,174-42
81,174-43
68,177-32
69,177-36
76,175-5
77,175-1
78,175-13
79,175-20
70,177-31
71,177-36

第6図　後期後葉～晩期2

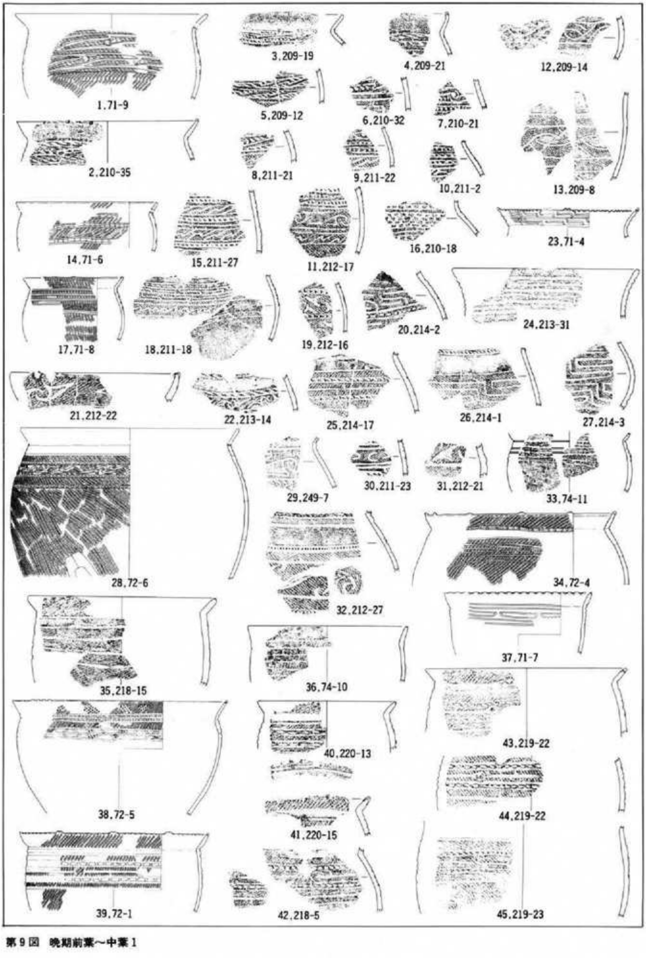

1,192-11
2,192-6
3,192-20
4,192-24
5,192-26
23,197-1
24,196-15
6,192-29
7,192-49
8,192-33
9,192-33
10,192-32
25,75-5
11,192-38
12,193-1
13,193-2
17,194-1
18,194-2
19,194-4
14,193-9
15,193-4
16,193-12
20,194-5
22,194-38
26,196-20
27,197-25
31,193-11
32,193-14
33,193-43
21,194-7
28,196-34
29,196-33
34,193-19
35,193-27
36,193-21
37,193-22
44,194-12
45,194-29
30,196-24
50,198-4
38,193-36
39,193-25
40,193-26
46,194-24
47,194-6
52,198-6
41,193-34
42,193-46
43,193-44
48,194-32
49,194-34
51,198-19
53,198-2
69,204-1
70,203-42
61,70-7
54,195-2
55,249-4
56,195-12
57,195-1
58,195-5
71,203-17
72,203-18
73,198-15
62,70-8
59,195-16
60,195-15
74,203-6
67,71-3
63,68-7
64,75-6
75,202-32
76,203-30
77,203-30
65,70-9
66,249-5
68,203-4
78,198-16

第7図　晩期前葉1

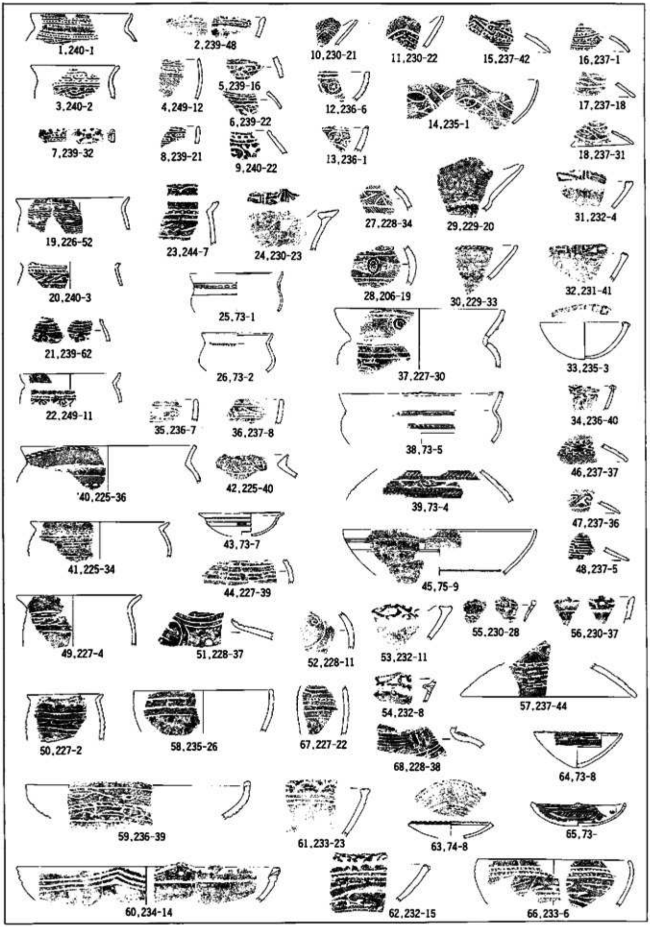


1,195-29
2,195-37
3,195-36
4,192-45
5,195-19
6,200-3
7,177-42
8,199-22
9,193-37
10,193-38
11,193-39
12,200-7
13,200-8
14,199-13
15,70-6
16,201-27
17,240-23
18,195-24
19,195-26
20,195-27
21,193-47
22,202-1
23,193-40
24,193-45
25,249-3
26,207-19
27,200-12
28,200-21
29,200-19
30,231-32
31,231-31
32,205-40
33,202-11
34,202-15
35,206-11
36,206-13
37,208-25
38,231-12
39,231-19
40,71-1
41,206-38
42,198-20
43,198-21
44,198-25
45,198-17
46,198-27
47,76-3
48,204-41
49,204-36
50,206-12
51,202-10
52,208-14
53,208-33
54,208-32
55,208-8
56,208-35
57,208-11
58,205-35
59,70-10
60,207-13
61,207-3
62,249-10
63,207-24
64,206-40
65,207-34
66,71-11

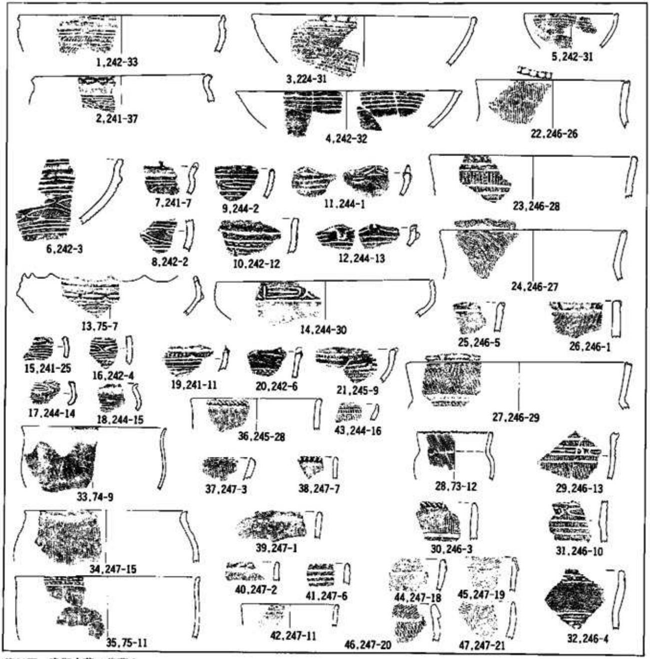
第8図　晩期前葉2


1,71-9
3,209-19
4,209-21
12,209-14
5,209-12
6,210-32
7,210-21
2,210-35
8,211-21
9,211-22
10,211-2
13,209-8
14,71-6
15,211-27
11,212-17
16,210-18
23,71-4
17,71-8
18,211-18
19,212-16
20,214-2
24,213-31
21,212-22
22,213-14
25,214-17
26,214-1
27,214-3
29,249-7
30,211-23
31,212-21
33,74-11
28,72-6
32,212-27
34,72-4
37,71-7
35,218-15
36,74-10
43,219-22
38,72-5
40,220-13
41,220-15
44,219-22
39,72-1
42,218-5
45,219-23

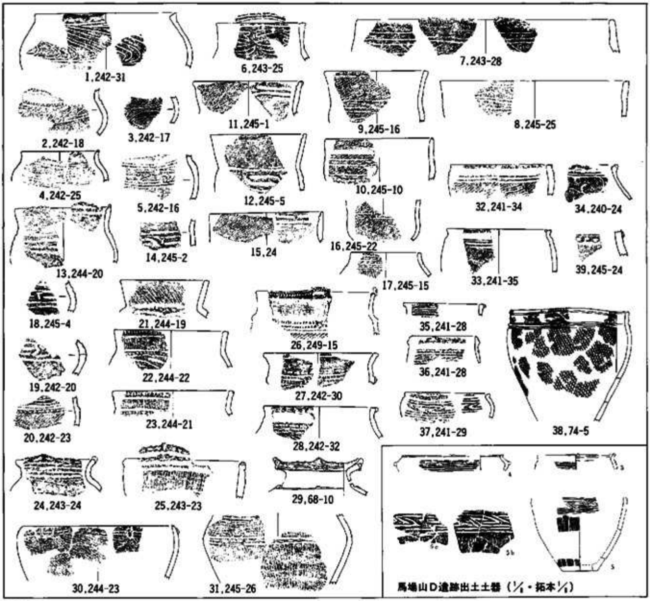
第9図　晩期前葉～中葉1



第10図　晩期前葉〜中葉２



第11図　晩期中葉～後葉1



第12図　晩期中葉～後葉２

鏡状の隆帯はみられないが、口縁部に眼鏡状隆帯を持つ24、28などの施文方法は、A式段階と考えた方が良いのであろう。とすれば24～28も同様であろう。30は、撚糸文を施す鉢でこの段階か。29、36、37は、搬入品と考えられるもので外面を赤彩する壺29、黒色で良く磨かれた36、37、深鉢38などがある。36～38の雲形文あるいは工字文風の口縁部文様をみると37が古い要素を残しており次第に工字文風の36、38などに変化するようである。馬場山D遺跡出土の例（第12図下3～5）をみると大洞A式段階の土器に伴っており、36はA式期のものであろう。39は、凸帯文系の深鉢で、胴部の凸帯部分と考えられる。2段目の凸帯を持つのは、五貫森式以降であり大洞C2式に対比されている。

大まかではあるが下野式期の土器群についてふれてみた。第1段階はおおよそ大洞C2式の前半に位置づけられよう。また、第2段階は、C2式の後半からA式の古いものを含んでいると考えられる。従来の編年に合わせるとそれぞれがほぼ下野1・2式にあたるであろう。しかし下野1式の良好な資料とした井口遺跡溝出土の土器群には、1例しか眼鏡状の隆帯がみられず、境A遺跡の土器とはいくぶん異なった様相を示している。井口遺跡の資料は、1段階とした中でも古い要素であろうか。北陸での眼鏡状隆帯使用の時期が問題となるが、地域的な差も考慮しなければならず、単純ではない。しかし、概ね2段階の変化はたどれるであろう。また、第2段階の土器について大洞A式期のものを差し引いて下野2式に位置づけておきたい。しかし、土器様相は、北陸西部とはかなり違っており大洞式系の土器や信州系の文様を用い、在地の土器と組み合わせて土器組成が成り立っている。このような様相は、境A遺跡ではほとんどの時代を通しててみられる一般的な様相であり、これがはたして地域差としてとらえられるのか、遺跡の特殊性としてとらえるのかは今後の課題のひとつである。遺跡は、これまで示した通り大洞A式の古い時期以降の遺物は、みられなくなる。

7．まとめにかえて

境A遺跡にみられる様相は、北陸東部に位置するその立地からかなり地域色を強く自出させていると考えられる。しかし、この遺跡では、遺跡の存続時期のほとんどを通じて石器（石斧や玉など）の生産を行なっている。またこれら作られた石器は、交流品として広く各地へもたらされていったはずである。どのような方法でもたらされていったのかは、不明な点が多く明らかではないが、土器などにもこのような遺跡の性格があらわれている可能性が強い。それは、この遺跡の土器は、ほとんどの時代を通じてかなり大量に他地域の土器が流入あるいは、器種に組み入れられて使用されるという事例が確認できるからである。土器の組合せは、時期によって増減はみられるものの一定の比率で使用されていると考えられる。また、他地域の複数の土器形式が入り交じる複雑な様相がみられ、遺跡の特殊性を示すと考えられる。

総括編では、従来設定されている形式に当てはめて土器の位置づけをせずできるだけ広い時間幅を設けて、各土器群の様相を示すことを心がけ、変遷図とした。また、従来十分に知られていない土器群も多くみられ形式設定されている土器群との関係が問題となる事例もあり、今後に残された問題も少なくない。従来、わずかな土器群をもって設定されてる形式は、内容を充実させると共に器形や文様を系統別に整理し、変遷追わねばいけないであろう。ひたすら、深鉢を中心とした変遷を示すという作業となり、説明不足や乱暴な記載となった部分もあり、御容赦いただきたい。また、本稿を作成するにあたり安孫子昭二氏・泉拓良氏・小島俊彰氏・石岡憲雄氏・南久和氏・久田弘氏などの諸氏をはじめ所員から有益な御教示を賜った。記して謝意を表したい。（酒井重洋）

3　富山県内のひすいについて

県教委文化課・小杉町教育委員会　上　野　　章

富山県埋蔵文化財センターでは、昭和62年10月に境Ａ遺跡の発掘調査によって出土した硬玉の玉製品を中心に構成した第１回目の特別企画展「ひすい－地中からのメッセージ」が開催された。展示では、上野と酒井が担当者となりセンター職員の協力を得て実施し、合わせて展示図録を刊行した。

以降、境Ａ遺跡の整理作業が進められすでに３冊の調査報告書が刊行され、遺跡の内容・性格が明らかにされている。以下、展示の際に担当者２人が硬玉について関連資料を集成した一部をここに示し境Ａ遺跡の理解に役立てたい。

1　朝日町境Ａ遺跡　㊻

これまでの整理作業から境Ａ遺跡では、豊富な原石を背景に蛇紋岩製の磨製石斧を主体とした石器のほか、硬玉をはじめとする蛇紋岩・滑石製などの玉類を大量に製作し、各地に搬出していた遺跡である。

境Ａ遺跡から出土した硬玉原石・加工品の出土総数は10,196点を数え、その重量は653,731gであり、その内8,867点が集成されて成果が報告書にもられている。硬玉の原石は、海岸で採集されたものを極石と呼び、河で採集されたものを転石と区別するとされるが、表面での識別は困難である。境Ａ遺跡出土の大部分の硬玉は、遺跡に近い海岸で採集されて遺跡に持ち込まれたものと考えられている〔山本 1990〕。この硬玉は下表のような玉類に加工され、一部は敲石として利用されていて全体の約半数近くにあたる。なお、大部分の石器の時期は中期中葉から晩期まで各時期のものが混在しており、時期毎の把握は今後に残されているが、硬玉の出土量の比較では、これまでの調査遺跡の中でも最大級の部類に含まれる。

石材＼種類	大　珠	勾　玉	管　玉	玦状耳飾	輪　状	垂　玉	丸　玉	合　計	敲　石	加工品	原　石
硬　玉	9 (100)	8 (25.8)	11			118 (49.2)	281 (49.0)	427 (47.7)	2,177 (47.6)	8,159	2,037
蛇紋岩		12 (38.7)	2	1	1	15 (6.3)	205 (35.8)	236 (26.4)	1,274 (28.0)		
滑　石		11 (35.5)	14	3	4	65 (27.1)	40	137 (15.3)			
凝灰岩			1			4 (1.7)					
結晶片岩			1								
珪　岩						4 (1.7)					
粘岩岩				1		10 (4.2)					
泥　岩					2	7 (2.9)					
不　明 その他			1		2	17 (7.1)			776 (24.4)		
合　計	9	31	30	5	7	240	573	895	4,227		

数字は上段：点数
（　）下段：％

石器編に記載された石材を参照に作成したもの

製作された玉類の中で、完成品（穿孔）と未製品及び欠損品の占める割合は、次表のとおりである。他の石材についても完成品が少なく未製品が多く占めており、他遺跡の出土例から中には未製品のものも流通した可能性がある。なお、完成品の大珠２点は特別の扱いを受け土坑に埋納されていた可能性が高い。

石材＼種類	過程	大珠	勾玉	管玉	玦状耳飾	輪状	垂玉	丸玉	合計
硬玉	完成	2		1			16	69	88
	未製	5	8	10			56	219	298
	欠損	1					16		17

2　朝日町馬場山Ｄ遺跡　文献㊺

境Ａ遺跡と大谷川を挟んで対峙する下段の丘陵先端に立地する。昭和60・61年に行われた調査では、旧石器、縄文時代早～晩期などの遺物のほかに、中期前葉の住居跡４棟と土坑56基、埋甕１基が検出された。

各種の石器と共に多くの磨製石斧未製品が出土している。玉類は蛇紋岩・滑石の玦状耳飾りと垂飾品及び未製品の合わせて６点が出ている。硬玉原石は16点が１～３号の住居跡や土坑から出土し、その内の２点は剥離を加え整形・分割しており、中期前葉に硬玉の玉作りしていた可能性がある。また、敲石77点中、３点に硬玉が用いられている。

3　朝日町馬場山Ｆ遺跡

遺跡は馬場山Ｄ遺跡の北側に隣接した丘陵地形の末端部に立地する。昭和59年の発掘調査では、建替えにより床面を拡張した中期前葉に属する住居跡１棟が確認された。他に早期の押型文土器・前期後葉の土器などが出土している。

調査区内からは硬玉原石３点と、住居跡内から比較的小さな硬玉２点がみつかっている。

4　朝日町馬場山Ｇ遺跡（図37）　㊺

遺跡は馬場山Ｄ遺跡の西側に隣接し小谷一つ挟んだ丘陵上に立地する。昭和59・61年の発掘調査によって前期後半から中期前葉と後半の遺物が出土し、遺構は中期前葉の住居跡６棟、土坑121基、埋甕３基が検出された。

石器は、各種のものと多くの蛇紋岩の磨製石斧未製品が出土している。玉類は垂飾品12点（内１点が完成品）と玦状耳飾１点で主に未製品が出ている。石材には蛇紋岩・滑石などと硬玉１点がある。硬玉の未製品は、中期前葉（新保・新崎期？）…

この製品は、剥離により三角形に整形され、一部を磨きほぼ中央に浅い穿孔痕がある。また分割された硬玉１点が３号住居跡から出土し、他に分割したもの１点と原石３点が出土している。

5　朝日町明石Ａ遺跡　⑯

遺跡は、境Ａ遺跡の西方約３㎞に位置した小舌状丘陵上に立地する。朝日町誌によると、遺物は前期初めと中期前葉の土器などが採集されている。前期の玉類は滑石を用いた玦状耳飾や垂飾品の完成品及び未製品も出ており、他に硬玉原石の出土が報告されている。

6　朝日町明石Ｂ遺跡　⑯

遺跡は、明石Ａ遺跡に隣接した丘陵上に立地する。採集された遺物には、前期から晩期にかけての土器・石器がある。地元の宮崎小学校の保管資料中には、硬玉原石が含まれていた（昭和62年夏）。

7　朝日町柳田遺跡　㉓

遺跡は、黒部川扇状地の右岸に位置し、標高50ｍ程の平坦な微高地状に立地する。昭和49年の発掘調査により、前期後葉の住居跡・土坑各１基と、縄文時代の石器を大量に含む中世の大型土坑が検出された。縄文土器は前期の他に中期に入るものが少しと後期初頭から晩期中葉にかけてのものが多い。各種の石器と共に、硬玉原石が出ている。

8　朝日町不動堂遺跡　⑥

遺跡は、黒部川扇状地の右岸にあたり、柳田遺跡の西方約0.6kmに位置する。昭和48年の発掘調査で中期前葉・中葉の住居跡20棟程と土坑など確認された。この内、2号住居跡は全国最大級の大型住居跡として注目され、その後国指定史跡として整備されている。硬玉は原石が出ている。

9　朝日町下山新遺跡（図47）　⑦

遺跡は、黒部川の右岸に形成された隆起扇状台地の末端に立地する。昭和47年に実施された発掘調査により、中期前葉と後葉の住居跡が検出された。硬玉原石は中期後葉に属する4号石組炉の縁から1点が出土した。玉類は偏平に成形された蛇紋岩の垂玉が出ている。

10　宇奈月町愛本新遺跡（図18・52・66・67）　⑬ ⑰ ㉖ ㉗ ㉟ ㊱

遺跡は、黒部川の扇頂部近くの右岸に立地している。昭和46年の発掘調査では、中期初頭から晩期中葉にかけての各時期の遺物が出土し、遺構では後期の石組炉や集石遺構が検出されている。石器では加工途中の擦り切り石斧や、擦り切り具・砥石などが出ている。玉類は蛇紋岩の未製品の垂玉や丸玉が若干ある。硬玉は原石が1点が報告され、県史考古編には、丸玉1点が掲載されている。

また、早川荘作氏採集品には、敲打後に磨きを行った52の硬玉大珠や、滑石を石材とした18の穿孔が途中までしかされていない未製品がある。

11　宇奈月町浦山寺蔵遺跡（図21・22・39・40・54）　⑫

黒部川左岸に位置し、川から約3.5km隔てた山麓沿いに立地する。昭和48年に実施された遺跡の発掘調査により中期前葉から後葉にかけての住居跡19棟と土坑などが多く発掘された。この遺跡は蛇紋岩を主体とした磨製石斧を大量に製作しており、砥石や擦り切り具など多くの工具も出土している。

玉類は、少なく蛇紋岩や滑石・軟玉の垂玉などの未製品が5点報告されているにすぎない。しかし、埋甕の中から小形土器と共に硬玉の垂玉完成品21が検出され特定の人の墓の可能性があり、硬玉の使われ方を示す例として注目される。この硬玉の垂玉は長さ4.2cm、幅1.7cm、厚さ6mmの大きさをもつ。この他に硬玉は、穿孔時に欠損した垂玉22や原石が出ている。

12　黒部市田家遺跡（図63）　㉗ ㉝ ㊱

遺跡は、黒部川の隆起扇状地である十二貫野扇状地の末端に当たる標高10mの付近を中心に立地している。古くから後～晩期の代表的な遺跡として知られている。地元の小森孝次郎氏採集の石器には、各種のものが出ているが磨製石斧81点の内、10点が未製品で他の蛇紋岩の礫などから遺跡で、石斧の製作が行われていたとされている。

硬玉の玉類は垂玉1点と丸玉3点（内2点が未製品）が出土しており、他に硬玉の小片が多数採集され、玉砥石の存在からも玉製作も行われている。早川荘作氏採集品63の垂玉は、両面から穿孔している。

13　魚津市天神山遺跡（図5・25・31・34）　㉖ ㉞ ㊱ ㊸

遺跡は、海岸から4.6km隔てた天神山の麓の布施川左岸に当たる段丘上に立地している。昭和38年の発掘調査で出土した土器は、中期中葉にあたる標準資料として天神山式として編年付けされている。

調査による遺物は、多くの石器と共に硬玉原石1点が出土したことが報じられている。魚津市史には偏平に成形された硬玉の垂玉5があり、上方よりに浅く穿孔を行った状態で、1/4の深さまでしか達していない。25は研磨を加えた硬玉で、31・32は滑石の垂玉である。また、早川荘作氏作成の県内から出土した大珠の集成一覧表には、当遺跡から赤褐色をした蛇紋岩製の長さ約15cmで穿孔された大珠が記載されているが、現品が失火の際、焼失したようであると併記されている。

14　魚津市石垣遺跡（図19）　㊸

遺跡は、片貝川の扇状地にあたる左岸段丘上にあり、標高約135ｍに立地している。昭和45・46年の実施された発掘調査により中期中葉から晩期中葉にかけての土器や石器が多く出土している。玉類は数点があり、中に硬玉の大珠１点が報告されている。19の大珠は敲打して成形した後に磨かれ、貫通間際まで穿孔が行われているが、穿孔作業中に穴のところで半分に割れたと思われる。

15　魚津市桜峠遺跡　⑲

遺跡は、天神山遺跡と同じ丘陵上にあって、約1.5㎞奥まった平坦地に立地する。昭和35・36年に発掘調査が行われ、早期の押型文土器と中期中葉から後葉及び後期初頭の土器が出土し、中期の住居跡１棟が検出された。また、多くの石器と共に硬玉原石１点が出ている。

16　魚津市早月上野遺跡（図30）　㉜ ㊸

遺跡は、早月川の右岸上中島台地の最奥部に位置し、標高が65～75ｍの平坦面に立地する。発掘調査はこれまで昭和49・50・54・55年と幾度も行われており、旧石器・縄文・平安・室町時代など各時代にわたっている。縄文時代は中期前葉から晩期の土器が出土している。玉類は昭和54・55年の調査により３点が出ており、30の硬玉は、縦長に敲打で成形したのち研磨を行い、中央に約1/3の深さまで穿孔がされている。

17　滑川市不水掛遺跡（図６）　⑧

遺跡は、標高280ｍの丘陵上に立地し、両側に深く侵食された谷が入り込む。昭和53年の発掘調査により、中期中葉から後葉にかけての土器が出土しており、４棟の住居跡が検出されその内、３・４号住居跡は中期後葉（串田新Ⅱ式）に属する。玉類は２点報告され、６は穿孔部で欠損した蛇紋岩の大珠であり、他は硬玉の原石に少し磨きを加え、面の中央近くに管状の錐を用い、途中まで穿孔を行ったため、孔の中央に小さな突起が残る。大珠の大きさは、長さ約3.6㎝、幅約2.6㎝、厚さ約1.5㎝を計る。

18　滑川市千鳥遺跡（図１）　⑧

遺跡は、早月川の左岸に広がる室山野台地の最奥部に位置し、標高約238ｍに立地する。古くから知られた遺跡で後期末から晩期初めの土器ははっきりしないが、中期前葉から晩期中葉にかけての遺物が出土している。１の硬玉は早川荘作氏の採集品で、硬玉を定角式の磨製石斧のように磨いて、一端が欠損している。

19　滑川市、上市町本江・広野新遺跡　⑧ ㊶

遺跡は、滑川市本江から上市町広野新地内にわたって存在する遺跡で、郷川左岸の隆起扇状地にあたる標高約25ｍの末端部に位置する。昭和46年の発掘調査により、縄文時代前期末葉から晩期後葉までの各期の遺物と、古墳時代前期の住居跡３棟が検出された。調査では石斧・石剣などのほか、多くの筋砥石が出土し硬玉原石１点がみられた。地元の広田昭俊氏の採集品には、硬玉や蛇紋岩などの丸玉・垂玉の製品や未製品40点あまりを数える。

20　上市町極楽寺遺跡　⑤ ㉛

遺跡は、上市川の右岸に存在する段丘上に立地し、発見当初の昭和初年から滑石の玉類の多く出土することで知られ、これまで森秀雄・藤田富士夫氏によって多くの玉類が採集されている。昭和38年に実施された発掘調査では、石組みのピットと、遺物として前期初頭の土器・石器が出土し、玉類は滑石の未製品多数と、砥石が出ていて、完成品の少ないことから完成品が他の遺跡に運び込まれたものとみられている。藤田富士夫氏の採集品には、晩期の硬玉の勾玉が１点含まれている。

21　上市町丸山Ａ遺跡（図17・65・71・73・75・78～80）　㉟ ㊵

遺跡は、上市川の左岸に形成された河岸段丘の縁辺部に立地し、極楽寺の東方約0.7㎞に位置する。遺物は後期から晩期にかけての土器・石器が採集されていて、晩期末の大洞Ａ式の土器も含まれている。柳井睦氏の採集品には、

硬玉の穿孔途中の大珠がある。17は長さ約9.3cmの大きさで、穴の中に小さな突起があり、管錐を使用した様子が窺える。また、酒井重洋氏の採集遺物には、65・71・75の硬玉の丸玉や73の蛇紋岩の丸玉があり、78～80は未製の硬玉の管玉であり、79・80は縦長に成形して両側から穿孔がされている。この他に硬玉原石が採集されている。

22　立山町二ツ塚遺跡（図12・27・28・35・43・44・48・49・50）

遺跡は、常願寺川扇状地末端部にあり、支流によって形成された右岸の微高地上に立地している。昭和51・52年にかけて実施された発掘調査により、中期中葉から後葉にかけての住居跡が約40棟検出された。

玉類には、垂玉や大珠など20点程が出土しており、石材は蛇紋岩や滑石・硬玉が用いられる。硬玉は大珠未製品３点と原石１点が出ている。

23　立山町金剛新遺跡　① ㊷

遺跡は、常願寺川の形成した扇状地上に立地する。昭和49年の発掘調査による遺物は、中期前葉から後期にいたる土器が出土し、中でも後期後葉を中心とした遺物がまとまっている。硬玉は、直径約1.3cmの大きさの丸玉が１点出土している。立山町史には、地元の人が採集した鰹節形の硬玉大珠の写真が掲載され、長さが11.5cm程で、幅4.0cm程の大きさがある。

24　立山町古屋敷遺跡（図20・38・72）　㉗ ㊴

遺跡は、平野部から常願川の峡谷を約９km遡った山間の狭い平坦面上に立地する。昭和38年に発掘調査が実施され、中期中葉の住居跡と多くの遺物が出土している。古くから知られた遺跡で、早川荘作氏採集品には、硬玉の垂玉の未製品20と丸玉72がある。20は成形した偏平な位置面に浅い穿孔痕２個が合い接している。38は滑石の垂玉である。

25　大山町大川寺遺跡（図９・42・53・61・81）　④

遺跡は、常願寺川の左岸の標高約240ｍの段丘上に立地する。遺跡の発見は古く、遺物は中期前葉～晩期初頭、晩期末の土器と石器が出土している。硬玉の垂玉は亀田正夫氏の採集品で、９の穿孔部で欠損したものと、大珠の未製品53があり、成形はされているが未穿孔である。他に蛇紋岩の穿孔途上の丸玉61と、垂玉未製品81及び、滑石の垂玉42が出土している。

26　大山町大川寺西遺跡（図10）　④

遺跡は、大川寺遺跡の西側に隣接した遺跡で、ほ場整備の実施した際に亀田正夫氏により、多くの遺物が採取された地点をさす。遺跡からは中期中葉の遺物が出土し、中に硬玉の半月状に成形された10がある。

27　大山町文珠寺稗田遺跡（図２）　④ ㉗ ㉑

遺跡は、大川寺遺跡と同じ段丘面に立地し、西方約２km隔てた標高約200ｍの台地上に存在している。遺跡は古くから知られており、出土品には中期中葉から後期初頭にかけての遺物がみられる。早川荘作氏の採集品には、硬玉の大珠がある。穿孔は片面から行なわれたが、貫通寸前に反対の面からも少し穴を穿ち貫通させている。

28　大沢野町春日遺跡（図７・26・64・74）　㉑

遺跡は、神通川が平野部に抜け出て扇頂部にあたる右岸平坦面に立地している。遺物は中期から後期にかけての土器や石器が出土している。玉類には、早川荘作・栗山邦二氏の採集した硬玉の大珠７や、垂玉26の未製品、64の完成品、74の丸玉がある。

29　大沢野町布尻遺跡（図45・46・58）　㉗ ㊶

遺跡は、神通川の扇頂部にあたる春日遺跡から約5.0km遡った川の形成した右岸段丘上に立地している。昭和51年に実施された発掘調査では、大部分が中期後葉に属し住居跡23棟・集石遺構５ケ所などが検出された。また、出土遺物は、早期から晩期に及ぶが、主体的には中期後葉から後期前葉のものが占める。

玉類は、少なく蛇紋岩を石材とした鰹節形の45・46の垂玉と、蛇紋岩の勾玉状の46が検出されている。硬玉は早川

荘作氏により、58の垂玉1点が採集されている。穿孔は片面の一方向からなされ、もう一面にはわずかに凹んだ穿孔痕が残っている。

30　大沢野町直坂遺跡（図24）　㉑ ㉔

遺跡は、神通川が平野部と山間部の接した右岸の最高位にあたる段丘面に立地する。昭和47年に発掘調査され、旧石器時代のユニットと縄文早期の土器が出土し、遺構では中期中葉の住居跡6棟が調査されている。硬玉の玉未製品は1点が中期の地点からみつかっている。大きさは長さ約4㎝、幅約3㎝である。

31　富山市古沢遺跡（図62・68・69）　⑩ ㉚

遺跡は、呉羽丘陵の中程にあたる西側斜面に位置し、下方の標高26～30mの緩斜面に立地する。昭和49・51・59年に行われた発掘調査では、前期末から晩期までの各時期の土器や石器が出土している。遺構では、竪穴状遺構や晩期の巨大柱穴群などが、検出されている。また地点により中期から晩期にかけての多くの土坑群もみつかっている。

硬玉は、昭和49年の調査で原石が1点出土した。昭和59年の調査では、直径1.5mの穴4号から硬玉原石1点と土堤状遺構の上面寄りから69の硬玉の丸玉が出ており、また68の蛇紋岩の丸玉も出土している。62は早川荘作氏採集の表面が少し磨かれた偏平な形をした硬玉加工品で、未穿孔である。

32　富山市豊田遺跡

遺跡は、常願寺扇状地の先端の標高10m程の自然堤防防止に立地する。昭和46・47・48年に発掘調査が実施され、下野式を主体とした晩期後半と弥生時代中期・古墳時代などの遺物が出土している。遺構は縄文時代の土坑や弥生時代の溝状遺構などが検出されている。　硬玉は弥生時代中期の5号溝から原石1点と、管玉とされる穿孔途中で半分に欠損したものが1点出土している。

33　富山市野田遺跡

遺跡は、常願寺の左岸に位置し、海岸から1.2㎞隔てた標高3m程の自然堤防上に立地する。遺跡は後期末から晩期、弥生時代の遺物が出土している。富山県史考古編には硬玉の垂玉1点が載せられている。

34　富山市百塚遺跡（図59・60・84？）　㉗ ㊱

遺跡は、呉羽山丘陵の北端にあたる標高8m程の微高地上に立地し、東側に神通川が近接して流れる。早川荘作氏の採集遺物には、晩期の土器や石棒などがあり、玉類には、84の硬玉または蛇紋岩の両側から穿孔した玉や、59・60の硬玉の丸玉がある。59は側面を丸く磨き未穿孔で、60は一方から先端が細くなった棒で深く穴を穿ち、残りを反対側から穿孔している。

35　富山市北代遺跡（図13・15・55～57）　㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㊱

遺跡は、呉羽山丘陵の北端近くに存在する長岡丘陵の一角にあり、標高15～17mを測る緩やかな勾配をもつ丘陵上にある。遺跡は、明治40年頃から良好なフィルドとして知られ、昭和53・54年に遺跡の範囲、内容を確認するための発掘調査を実施し、主に縄文時代中期前葉から晩期前半の各時期と弥生・平安時代などに及び、中でも盛期は中期後葉にあり、住居跡44棟が確認され、県内では同時期として最大級の集落跡として昭和59年1月に国の指定史跡となっている。

硬玉は、調査により原石1点が出土している。早川荘作氏の採集品には、15の大珠、55～57の垂玉・勾玉がある。13は厚みをもつ硬玉の大珠であり、15と共に鰹節形をなしたもので、穿孔は一方向から行い、貫通直前近くに反対側から行われ、15は長さ15.0mである。55・56は両面に穿孔痕が残るもので、55の穴の中央に小さな突起があって管状の錐を用いていることがわかる。また57の勾玉も両面から穿孔が行われるが少しずれた状態となる。

この他に滑石や蛇紋岩を用いた玦状耳飾や丸玉などが採集されている。

36　富山市杉谷遺跡　⑨

遺跡は、呉羽山丘陵の南端にあたる杉谷丘陵と呼ばれた標高54～58ｍの緩斜面に立地する。昭和50年に実施された発掘調査により、前期から晩期にかけての遺物が出土しているが、中でも中期前葉、後葉が主体を占める。遺構は住居跡14棟、土坑６基などが確認されている。調査により、硬玉原石１点が出土している。

37　富山市平岡遺跡（図23・77・82）　㉗ ㊱

遺跡は、呉羽山丘陵の南端に続いて形成される丘陵上に立地する。遺跡からは、前期・後期の遺物が出土している。玉類は玦状耳飾や丸玉、垂玉があり、この内硬玉は、栗山邦二氏採集品に偏平な形の上端よりに穿孔した23の垂玉がある。

38　婦中町長沢遺跡（図86・87）　⑳

遺跡は、平野部に面した山麓から北東に舌状に張り出した丘陵上に立地する。昭和49年に試掘調査が実施され、縄文時代草創期・中期、古墳時代初期の遺物、遺構の出土が確認されている。

青江清行氏の採集品には、86は蛇紋岩の玉斧である。形態は磨製石斧のように厚いが、両側面の中程に線刻が入り表面には、研磨時の擦痕がほぼ全体に残し、中央近くの両面からの穿孔が行われる。また87は、硬玉の大珠である。

39　細入村片掛遺跡　㉗ ㊱

遺跡は、神通川の山間を約８㎞遡った川の左岸に形成された狭い段丘上に立地する。遺跡からは中期中葉の土器と石器が出土している。富山県史考古編掲載の大珠は蛇紋岩製である。

40　八尾町松原遺跡　㊳

遺跡は、平野部に面した山麓裾の開析により形成された赤江川の右岸の段丘上に立地する。晩期前葉の遺跡で、地元の竹中友次郎氏の採集品した土器・石器により遺跡の内容がわかる。玉類は滑石の垂玉と、長さ3.5㎝程の大きさをした硬玉の勾玉１点が出土している。

41　八尾町上牧遺跡　㉗ ㊳

遺跡は、八尾町の市街から約11㎞隔てた井田川の支流である大長谷川の右岸に位置する。大正11年に発見された遺跡で、中期の遺物が出土している。早川荘作氏の採集品には、硬玉の大珠未製品51がある。

42　小杉町上野遺跡（図33・85）　㊱

遺跡は、射水丘陵の中程を流れる下条川の右岸丘陵上に立地する。昭和45～47年にかけて発掘調査が実施され、縄文時代草創期・前期後葉から中期後葉と、弥生時代後期から古墳時代後期及び奈良・平安時代など各時期にわたっての遺跡で、住居跡や土坑など多くの遺構が検出されている。縄文時代中期後葉では、石組炉が発掘されている。

43　平村東中江遺跡（図８・11）　③

遺跡は、庄川中流の峡谷のなか、庄川町の上流15㎞遡った右岸のわずかな平坦面に立地する。昭和29・53・54年に発掘調査が実施され、中期前葉から後期初めにかけての住居跡・土坑と後期後葉から晩期の遺物が出土している。

硬玉は、昭和29年の調査で鰹節型の大珠２点が出土しており、昭和54年の調査で緒締型のものと不整形な大珠１点が検出されている。緒締型の大珠は第２号住居跡の石組炉の南方１ｍ程にある第309号穴と呼ばれる大きさが1.7×1.1ｍで深さが20㎝程をした、平面形がほぼ方形をした穴の北東隅から検出されている。底面は平坦で伴出した遺物は未確認であるが、この遺構は300以上検出された上下二層の穴群のうち、下層の遺構に相当する。上層は中期末から後期初めにあたり、下層は古串田新式土器が出ていることから中期中葉末とされる。

緒締型の大珠は、長軸にそって一方から穿孔したもので、長さ5.5㎝、最大幅3.6㎝、厚さ2.2㎝を計る。また不定形な大珠は、包含層から検出され、形状は鰹節型に近く、縦長の三角形をなし、一方から穿孔している。

44　平村下梨遺跡（図16）　㉑ ㉗ ㊱

遺跡は、庄川町の市街地から庄川を約16km遡った左岸に位置し、河川に面した緩傾斜上に立地する。縄文時代の中期・後期の遺跡として古くから知られている。16の鰹節形をした硬玉大珠は、栗山邦二氏の採集品であり、ほぼ中央近くに一方から穿孔を行っている。

45　福光町竹林Ⅰ遺跡（図４）　⑭

遺跡は山田川の右岸に存在する河岸段丘上に立地し、昭和54年に発掘調査を実施した。調査により中期初頭から後期初頭にかけての遺物が出土し、住居跡と多くの土坑が検出された。硬玉は長さが4.5cm、幅は3.1cmの大きさで、中央に１孔をあけた垂玉１点がある。

46　城端町西原遺跡（図３）　②

遺跡は、山田川により形成された隆起扇状地の最奥部近くに立地する。昭和48・49年に実施された発掘調査では中期中葉から後期初頭にかけての住居跡がⅠ・Ⅱ区合わせて10棟程が検出されている。

硬玉大珠は、県道の西側にあたるⅠ区の５号住居跡付近から検出されており（X132Y87区の黒土内出土）、周辺から中期後葉の土器（串田新Ⅰ・Ⅱ式）が多く出土している。３の大珠は隅丸長方形をなし、横断面がややふくらんだ長方形をなし、表面に多くの表皮を残している。穿孔は片面より大部分が行われ、紐ずれの痕跡はない。伴出土器がなく、所属時期は中期中葉から後葉と報告されている。

47　氷見市朝日貝塚（図14）　㊲ ㊹

遺跡は、潟山の丘陵麓にあたる標高３～５ｍの緩斜面に立地し、現在の海岸汀から0.8km隔てている。大正７年に柴田常恵氏による調査で、貝塚（鹹水産）と確認され大正11年に国の指定史跡となった。大正13年の調査でわが国最初の縄文時代の石組炉が発掘された。遺跡からは前期前葉から晩期・弥生時代などの遺物が出土している。

硬玉大珠は２点が出土している。14は湊晨氏保管で長さ15.9cmの大形であり鰹節形をしたわが国最大の大珠である。全面よく研磨され断面が長楕円形をし、穿孔は片側から行われ穴の先が少し細くなっている。この出土地は、貝塚から離れた東側包含地であり、中期後半の古府式・串田新式の土器が判出している。また、４×５cm、厚さ1.5cmの硬玉の加工品が１点出土している。この他に、吉久登氏の採集品に硬玉の垂玉１点がある。

48　氷見市大境洞窟

遺跡は、富山湾に接した段丘に作られた海蝕洞で、大正７年に白山社社屋改修時に発見された。調査により縄文・弥生土器などの出土の層位関係が確認された遺跡として著名で、大正11年に国の指定史跡を受けた。

遺物は、縄文中期中葉から後期初頭、晩期終末、弥生土器などが出土している。硬玉加工品１点が含まれる。

49　氷見市四十塚遺跡

遺跡は、二上丘陵の北方に伸びた標高15～60ｍの支陵の中にあって、周囲に開析谷が入る小丘陵上に立地する。昭和30・37年に一部を対象とし、昭和45年にはかなりの面積の発掘調査が実施された。調査により主に後期中葉から晩期初頭の遺物が出土している。硬玉は上野の採集品の中に小さな垂玉１点が出ている。

まとめ

これまで県内の縄文時代の遺跡から硬玉が出土した遺跡は以上のとおりである。その結果からも境Ａ遺跡の出土量の膨大さが改めて確認できる。境Ａ遺跡は、目前の海岸に存在する豊富な石材を背景に蛇紋岩の磨製石斧を主体に、各種の玉類が原石から完成品まで製作過程を示すものが多く出土していて、時期は中期から晩期にいたっている。

14の朝日貝塚出土の大珠は、中期後半の古府式・串田新式期の包含層から伴出している（湊1972）。また、二ツ塚遺跡では、中期中葉から後葉にかけての天神山・串田新式の遺物と共に、蛇紋岩や硬玉の大珠、垂玉が出ている。さ

らに、西原遺跡の３の大珠は、中期中葉から後半の時期とされる。なお、東中江遺跡からの緒締型大珠11は、古串田新式期にあたる下層の遺構から検出されており、大珠の用いられた盛期が中期中葉から後半に求められる。

硬玉製玉類の最も古い例は、馬場山Ｇ遺跡の５号住居跡から検出された未製品であり、伴出土器は中期前葉の蜆ヶ森Ｉ式とされている。

また、硬玉や蛇紋岩の丸玉の伴出時期は、本江・広野新遺跡では共関係が不明であるが後期前葉から後葉にかけての土器が多く出土している。他の例でも後期・晩期の遺物が出土する遺跡に多い。

大珠は完成品が出土する遺跡もあるが、敲打して成形後に研磨を加えただけの状態で、未穿孔の硬玉や蛇紋岩の未製品も各遺跡からみつかっており、未製品の段階のものが交流により玉類の製作遺跡から搬出されたと思われる。

玉類の穿孔方法には、17の丸山Ａ遺跡、20の古屋敷遺跡、55の北代遺跡、不水掛遺跡出土例のようには、穴の穿孔途中のものの穴中央に小さな突起が残っており、管状の錐が用いられていたことがわかる。

一方、５の天神山遺跡、19の石坂遺跡の出土例では、穴の中に突起がみられず棒状の錐が用いられたと推定され、穿孔は貫通直前に反対側から行われている。なお、丸玉の穿孔では、断面からみると先端が丸い円錐状となっていて、大部分を片面から行うものと、半分づつを両面から行うものがある。

この他に出土量は少ないが、硬玉原石が１～数点が各遺跡から検出されており、海岸から遠く離れた遺跡へ何らかの交流の結果もたらされている。

硬玉の出土する遺跡は、土器型式にして二～三型式またはそれ以上にわたり継続的な生活を示す住居跡などが検出されることが多い。また出土遺物は各種豊富であり、土偶や石棒などの特殊遺物がみとめられる場合が多く存在する。これらの要素は、小林達雄氏の分類によるセトルメントパターンのＡ類に該当するもので（小林1973）、いわゆる大遺跡からの検出例が多く、小遺跡からのものは殆どみあたらない。

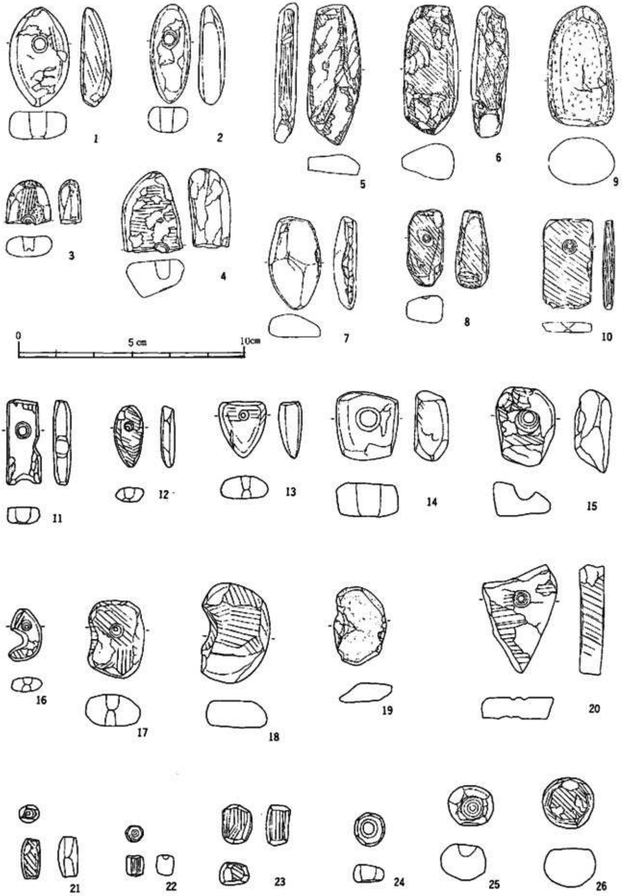
硬玉の玉類の使用例では、境Ａ遺跡から大珠完成品２点が土坑から検出されている。また浦山寺蔵遺跡からは、埋甕の中から硬玉垂玉と小形土器が検出されており、東中江遺跡では、隅丸長方形の土坑内から緒締型の大珠が出土した例があり、これらは特殊な意味をもって使用されたものと思われる。

引用・参考文献

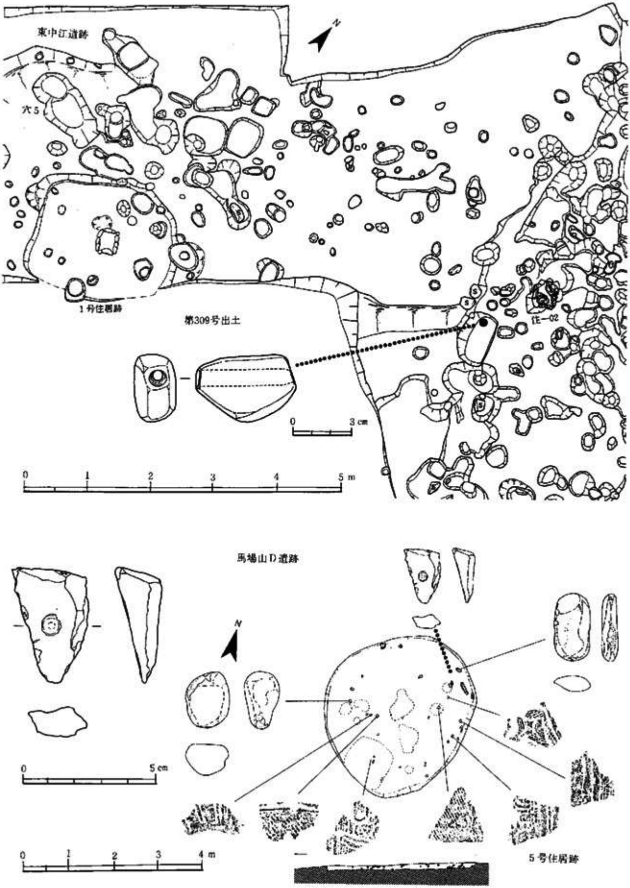
①オ　岡崎　卯一　1977　『立山町史』上巻
②キ　岸本　雅敏・池野　正男・山本　正敏　1975　『富山県城端町西原遺跡第２次緊急発掘調査概報』富山県教育委員会
③　岸本　雅敏・酒井　重洋・宮田　進一・久々　忠義　1982　『東中江遺跡』平村教育委員会
④　久々　忠義　1990　「大山のあけぼの」『大山の歴史』大山町
⑤　小島　俊彰　1965　『極楽寺遺跡発掘調査報告』富山県教育委員会
⑥　小島　俊彰　1973　『富山県朝日町不動堂遺跡第一次発掘調査概要』富山県教育委員会
⑦　小島　俊彰　1973　「富山県朝日町下山新遺跡第一次発掘調査概要」富山県教育委員会
⑧　小島　俊彰・宮本　幸雄　1979　『滑川市史』―考古資料編―　滑川市
⑨　小島　幸雄　1976　『富山市杉谷遺跡発掘調査報告書』　富山市教育委員会
⑩　小島　幸雄　1977　『富山市古沢遺跡概要調査報告書』　富山市教育委員会
⑪　小林　達雄　1973　「多摩ニュータウンの先住者」　月刊文化財112号
⑫サ　酒井　重洋・橋本　正春　1977　『富山県宇奈月町浦山寺蔵遺跡緊急発掘調査概要』　富山県教育委員会
⑬　佐渡　忠作　1967　『宇奈月町の石器と土器』　宇奈月町史編纂委員・宇奈月町教育委員会

⑭　神保　孝造　1980　「富山県福光町竹林Ⅰ遺跡緊急発掘調査概要Ⅰ」　福光町教育委員会
⑮タ　高田善太郎　1955　『小谷遺跡遺物包含地の報告 ― 調査一・二・三合本 ―』平村立東中江小学校・平村教育委員会
⑯　竹内　俊一　1984　「朝日町文化のあけぼの」　『朝日町誌　歴史編』　朝日町
⑰　寺村　光晴　1965　『硬玉製大珠論』　上代文化第35号　国学院大学考古学会
⑱　寺村　光晴　1968　『翡翠ひすい』
⑲ト　富山県教育委員会・魚津市教育委員会　1961　『桜峠遺跡調査報告書（上）』
⑳　富山県埋蔵文化財センター　1987　『ひすい ― 地中からのメッセージ ―』　特別企画展図録
㉑　富山市考古資料館　1987　『栗山コレクション目録』
㉒　富山市考古資料館　1985　『館報1号』
㉓ハ　橋本　正・岸本　雅敏・山本　正敏　1975　『富山県朝日町柳田遺跡・柳田古墓発掘調査概要』　富山県教育委員会
㉔　橋本　正　1973　『富山県大沢野町直坂遺跡発掘調査概要』　富山県教育委員会
㉕　橋本　正・柳井　睦・池野　正男・酒井　重洋　1978『富山県立山町二ツ塚遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
㉖　早川　荘作　1956　「富山県における『大珠』発見遺跡」『越飛文化』第3・4号合併号　越飛文化研究会
㉗　早川　荘作　1962　『富山県の石器と土器』
㉘　藤田富士夫　1979　『北代遺跡試掘調査報告書』　富山市教育委員会
㉙　藤田富士夫・三好　博喜・西井　龍儀　1981　『北代遺跡』　富山市教育委員会
㉚　藤田富士夫・古川　知明　1985　『富山市古沢遺跡発掘調査概要』　富山市教育委員会
㉛　藤田富士夫　1985　「縄文文化と海外の交流」　季刊考古学　第12号
㉜マ　麻柄　一志・斉藤　隆　1982　「富山県魚津市早月上野遺跡」　魚津市教育委員会
㉝　麻柄　一志　1987　「富山県黒部市田家遺跡 ― 小森孝次郎氏採集の資料 ―」　大境11号　富山考古学会
㉞　湊　晨・大谷　清瑞・広田寿三郎　1959　『天神山遺跡調査報告書』　富山県教育委員会・魚津市教育委員会
㉟　湊　晨・竹内　俊一　1971　『愛本新遺跡調査概要』　宇奈月町教育委員会
㊱　湊　晨他　1972　『富山県史』― 考古編 ― 富山県
㊲　湊　晨　1972　「硬玉製大珠 ― 富山県氷見市朝日貝塚出土 ―」　月刊文化財　2月号
㊳　森　秀雄　1967　「八尾のあけぼの」　『八尾町史』　八尾町
㊴　森　秀雄　1970　「Ⅰ上市町のあけぼの」『上市町史』　上市町
㊵ヤ　柳井　睦　1971　「富山県上市町丸山A遺跡発見の硬玉製大珠」『日本玉研究会会誌2』　日本玉研究会
㊶　柳井　睦・池野　正男・久々　忠義　1977　『富山県大沢野町布尻遺跡緊急発掘調査概要』　大沢野町教育委員会
㊷　山本　正敏・神保　孝造　1975　『富山県立山町金剛新遺跡緊急発掘調査概要』　立山町教育委員会
㊸　山本　正敏　1982　「第1編考古」『魚津市史　史料編』　魚津市
㊹　山本　正敏　1985　「59富山県朝日貝塚」『探訪縄文の遺跡 ― 東日本編 ―』　有斐閣選書
㊺　山本　正敏・狩野　睦・酒井　重洋・橋本　正春・松島　吉信・岡本淳一郎　1987　「北陸自動車道遺跡調査報告 ― 朝日町編3 ―」　富山県教育委員会
㊻　山本　正敏　1990　「北陸自動車道遺跡調査報告 ― 朝日町編5（境A遺跡石器編）―」　富山県教育委員会

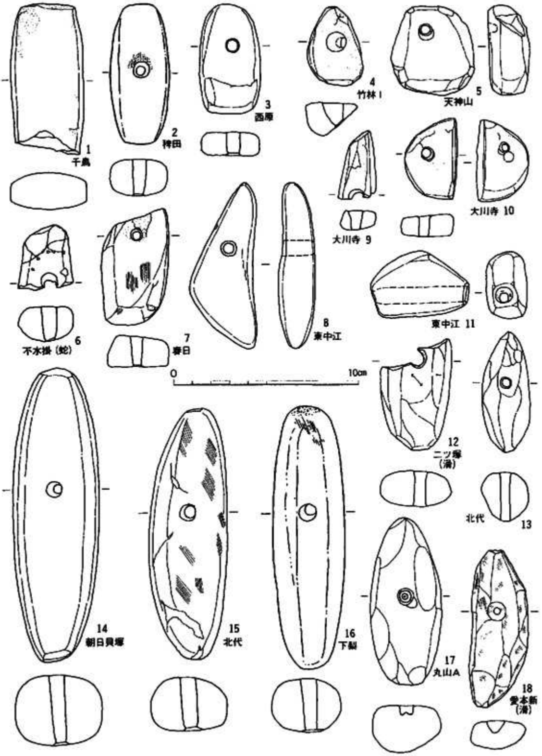
※各文献は、各遺跡名のあとに番号で示した。



境A遺跡出土の硬玉玉類　1～10．1/2大　11～26．1/1大
1～9．大珠　10～15、20．垂玉
16～19．勾玉　21～23．管玉　24～26．丸玉　（図は文献㊻より）

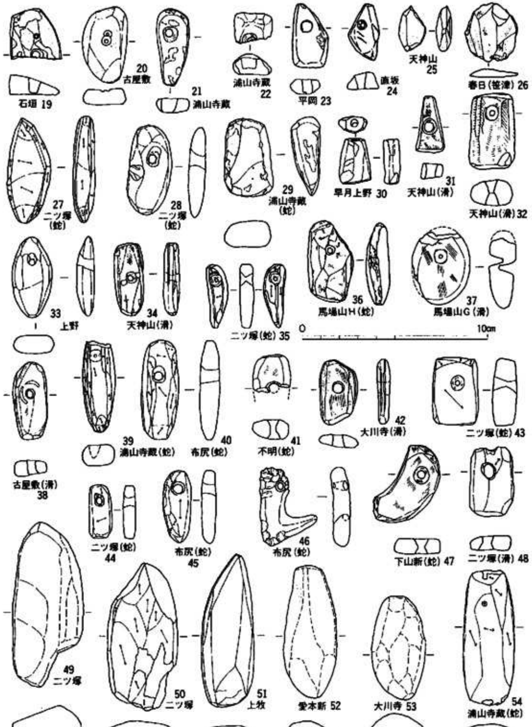


遺構出土の硬玉　上；東中江遺跡　下；馬場山G遺跡（図は文献③㊺より）

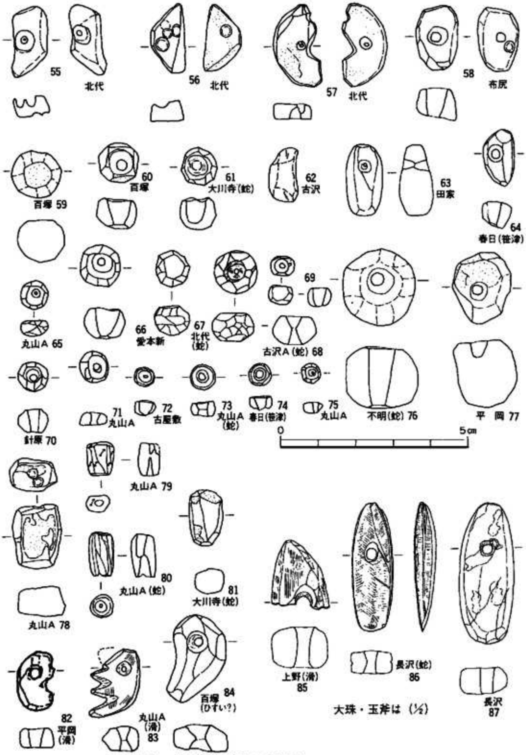


▲県内出土の大珠(½)　(滑)は、滑石製

図版は『ひすい ―地中からのメッセージ―』より

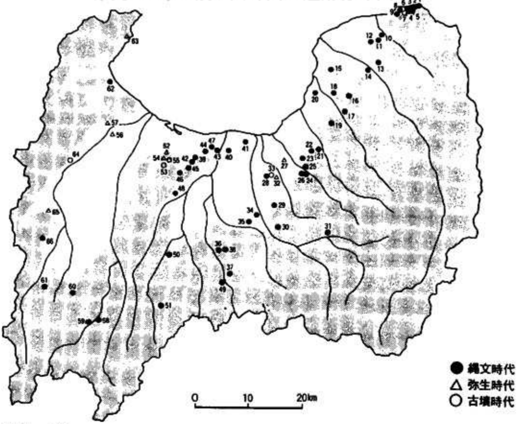


▲県内出土の大珠・玉類(½) (蛇)は、蛇紋岩製、(滑)は、滑石製



▲県内出土の玉類(⅟₁) (蛇)は、蛇紋岩製、(滑)は、滑石製

県内のひすい及び大珠出土遺跡分布図



県内出土地一覧

番号	遺跡名	時代	出土品	備考	番号	遺跡名	時代	出土品	備考
1	境A遺跡	縄文中～晩期	大珠・丸・臼・勾玉・原石・玉斧	玉つくり・石斧つくり	34	大川寺	縄文中	大珠・大珠未・丸玉	
2	馬場山D	縄文中	原石	石斧つくり	35	稗田	縄文中	大珠	
3	馬場山E	縄文中	原石	石斧つくり	36	春日	縄文中	大珠・不	
4	馬場山F	縄文中	原石	石斧つくり	37	布尻	縄文中～晩期	垂玉・勾玉・丸玉	
5	馬場山G	縄文中	垂玉未・原石	石斧つくり	38	直坂	縄文中	垂玉	
6	馬場山H	縄文中	原石	石斧つくり	39	古沢A	縄文中～晩期	大珠・丸玉・垂玉	
7	浜山	古墳中	勾玉未・原石	滑石など玉作り	40	豊田	縄文晩	原石	
8	明石A	縄文中	原石		41	野田	縄文中～弥生	大珠・勾玉	
9	明石B	縄文中	原石		42	古沢	縄文中～晩期	大珠・丸玉・不・原石	
10	柳田	縄文中	原石		43	百塚	縄文中～	丸玉・不	
11	不動堂	縄文中	原石		44	北代	縄文中～晩期	大珠・垂玉・不・丸玉・原石	
12	下山新	縄文中	原石	石斧つくり	45	杉谷	縄文中	原石	
13	愛本新	縄文中～晩期	大珠・大珠未(滑石)・丸玉・原石	石斧つくり	46	平岡	縄文中～弥生	大珠・勾玉・丸玉	
14	浦山寺蔵	縄文中～後期	垂玉・不・原石	石斧つくり	47	針原(八町)	縄文晩～弥生	勾玉	
15	田家	縄文中～晩期	垂玉・原石		48	長沢	縄文中～	大珠・玉斧(蛇紋)	
16	天神山	縄文中	大珠・不・原石		49	片掛	縄文中～	大珠・原石	
17	石垣	縄文中	大珠・不・原石		50	松原	縄文晩期	丸玉	
18	桜峠	縄文中	原石		51	上牧	縄文中	大珠未	
19	早月上野	縄文中～晩期	不・管玉・原石		52	蜆山	弥生中～	勾玉	
20	本江	縄文中	原石		53	上野	縄文中～古墳前	勾玉・垂玉管玉・大珠・大珠(滑石)	玉作り
21	不水掛	縄文中	大珠		54	南太閤山Ⅰ	弥生後	勾玉・原石剥片	
22	千鳥	縄文中～晩期	玉斧		55	石塚	古墳前	勾玉	
23	本江・広野新	縄文後～晩期	丸玉・臼玉・勾玉・管玉・原石		56	石塚	弥生中～	勾玉未・原石	
24	極楽寺	縄文晩期	勾玉(石英質)	早期末～玉つくり	57	願川	弥生中～	原石	
25	野島	縄文中	丸玉		58	東中江	縄文中～晩期	大珠4	
26	丸山A	縄文中～晩期	大珠未・丸玉・臼玉・管玉・原石・垂状品		59	下梨	縄文中	大珠	
27	江上A	弥生後期	勾玉・原石・碧玉管玉	玉作り	60	竹林Ⅰ	縄文中～	大珠	
28	二ツ塚	縄文中～後期	大珠未・原石・滑石大珠	硬砂岩石斧つくり	61	西原	縄文中～	大珠	
29	金剛新	縄文中～晩期	大珠・丸玉		62	朝日貝塚	縄文中～晩期	大珠・原石	
30	天林北	縄文中～晩期	丸玉		63	大境洞窟	縄文晩～古墳	原石	
31	古屋敷	縄文中～晩期	大珠未・不		64	城ケ平横穴	古墳後	丁字頭勾玉	
32	辻	古墳中	原石・碧玉原石	玉作り	65	柳田	弥生	勾玉・未	
33	若宮B	古墳中	原石・滑石子持勾玉	祭祀跡	66	安居地内	縄文	大珠(滑石)	

「ひすい—地中からのメッセージ—」より

※不；不定形なもの，未；未成品

境A遺跡のまとめ

ここでは、境A遺跡についてこれまでに判明したことなどをまとめ、総括とする。

位　置

富山県の東端に所在し、新潟県との県境という地で、遺跡の前面海岸と近くのヒスイ原産地からヒスイ及び蛇紋岩他の原石が採集可能な場所である。近隣の遺跡としては、西隣の台地群上に、同時期に同様な生活をしていた馬場山遺跡群があり、西には古墳時代の玉つくり遺跡の浜山遺跡や縄文時代の大型住居跡をもつ不動堂遺跡と磨製石斧製作で知られている宇奈月町浦山寺蔵遺跡などがある。新潟県側（東）では、縄文時代及びヒスイで良く知られている糸魚川市長者ケ原遺跡や青海町寺地遺跡などがある。

境A遺跡と馬場山遺跡群は、規模の大小の差はあれ立地条件・性格も似ており、同じような生活をしていた遺跡としてとらえられ、広い意味での同一集団として考えたい。

遺構と遺物

縄文時代中期以前の遺構は、これまで確認されていない。縄文時代の遺構では、中期前葉から後期にかけての竪穴住居跡34棟などが検出されており、住居跡は、2～3棟が一時期に建っていたと考えている。住居内には、大小・各種の炉をそれぞれ1個づつもち、多種の遺物が検出されている。住居跡の時期は、出土遺物からの表を参考にしていただきたい。出土土器でみると、第35号住居跡を除き他は全て中期中葉の遺物を出土している。

他の主な遺構として、穴群があり、調査区北半分に集中し、墓的な性格をもつ可能性がある。そのなかで、柱をもち、弧状に並ぶ柱穴は住居的な性格をもつかも知れない。弥生時代以後の遺構は、古代の製塩遺構と掘立柱建物だけであり、ほとんどが調査区中央部にかたまる。

縄文時代以前の遺物は、石器1点が出土している。縄文時代の遺物は、大量の土器・石器と木製品などがある。土器は、中期中葉から後期初頭にかけてと後期後半から晩期中葉までの遺物が主体となる。前者の遺物は、住居跡に伴う例が多く、後者は穴及びその周辺の包含層出土である。北陸的な土器の量はもちろん多く出土しているが、東北・関東・関西などの地方に影響されたとみられる土器の存在は注意される。また、北陸的な土器のなかで、特に富山県の土器とは少し様相が異なり、上越地方の土器様相の影響を考慮すべきである。石器では、ほとんどの種類が出土しているといってもよいくらいの種類が検出された。なかでも、蛇紋岩製の石斧・ヒスイ製の玉とそれら原石の出土量は約5万点で、全出土量約6万5千点中の8割をしめ、石器生産を物語っているといえよう。また、これらは、ほとんどすべての住居跡から出土しており、住居跡内生産の可能性をしめしている。赤色顔料付着石器・石棒などの存在は、朱生産の可能性を示すものである。縄文時代の柱は、ほとんどがナラ類の堅い木を用い、最大は直径約60cm、下部にえぐりをもつものもある。これら柱の多くは先に示した弧状に並ぶ穴群の出土で、もしこれが住居となるなら、その柱の大きさから相当大きな建物の存在が予想される。

分析結果他について

各分析結果については、別章で各先生方に分析などをお願いし、貴重なデータと考察を頂いた。検討した結果、良好であるといえる。ここでは、個々の結論などを再度紹介する形でまとめたい。

胎土分析は、三辻（奈良大学）・清水（京都大学）の両先生にそれぞれの方法で分析して頂だいた。三辻先生からの報告では、県外からの搬入土器があること、中期と晩期とでは搬入地が異なること、須恵器は新潟県佐渡島産の可能性があることなどが判った。清水先生は、縄文土器と土師器・製塩土器などは同一の胎土であること（同地区の粘土使用）が判り、例えば周辺地の粘土と石を用いて土器作りが成されたことを証明した。これまでは、古代の土器が主であったが、今後、縄文時代のデータが蓄積されればどの地域産かの識別がしやすくなるだろう。

朱分析は、山口先生他（富山大学）の結果をふまえて、市毛先生（早稲田大学）が考察された。結果、朱（赤色顔料）は辰砂であることが判り、これまで関東・東北地方で水銀製造地が確認されていたところに本遺跡が加わることになった。また、石川県真脇遺跡出土例と異なる点も指摘して頂いた。山口先生他の結果は、純粋な化学分析で、鉄分より水銀量が多い結果を示した。

布目先生（京都繊維工芸大学）には、縄文土器底部に残された圧痕から、当時の編んだものを復元して頂いた。これまで材質は竹であるなどとされていたものが、数種の植物で編まれたことが判明し、さらに4種類の編み方も確認された。また、同時に尾関先生（東海学園大学）により、それらの編み方が可能かどうかを確認して頂き、越後アンギン編みの道具を使用すれば編めることも実証して頂いた。また、編む道具は、思いの外簡単なものでおもりも土器破片程度で良いことも判った。

調査区北側の穴群中から、後期の土器（ほぼ完形）が出土し、その内側に黒ないし褐色の付着物が一面についていたため、その成分分析を行うこととした。外見から食物と漆やタールなどの幾つかの可能性を考えて調べて頂いた。化学的分析では、パリノサーヴエイ株式会社・ズコーシャ・日本遺達高岡工場（井口他）・山口先生（富山大学）にお願いした。また、これら分析データをふまえて肉眼観察も含めた植物学的同定を折谷先生（富山県立大学）にお願いした。パリノサーヴエイ株式会社からは、熱をうけているため、花粉や植物などの遺体は検出できなかったという報告があった。また、日本遺達高岡工場は、成分分析と比較材料として米の加熱後のデータもつけて検討して頂いた。その結果、大きく二種類のものからなることと一つは穀物類の可能性があることを示した。ズコーシャは、高等動物・植物・海棲動物の脂肪を検出している。山口先生からは、植物性食物（過容性デンプン）と天然タールの可能性を示して頂いた。折谷先生からは、黒色物質は顔料の可能性が高く、他の一つは熱を受けた有機物とした報告をいただいた。また、植物果粒の核（エゴマ？）などの存在を確認していただいたが、残念ながら同定しきれなかった。これらから、タールか顔料の可能性が高いものと熱を受けた植物性食物の可能性が高くなった。一方、漆の分析を四柳先生にお願いし、漆製品の確認と塗膜断面観察から塗る技術復元をして頂いた。その中で、前述の物質も見て頂いたところ漆との結論であるので、この可能性もある。

石の石質同定では、全体を藤井先生他（富山大学）にお願いし、36種の石と石器との関係及び採取地を推定して頂いた。黒曜石やヒスイなどは、露頭から石斧で取ることは困難であり、川や海岸からの採取とし、黒曜石は、立山の噴火物中にもあるため、他県まで行かなくても採取可能としている。特定の石の科学的分析として藁科先生（京都大学）にヒスイと黒曜石の分析をお願いした。ヒスイは、十分な硬玉の硬度があり、糸魚川産で、黒曜石は県内魚津産と長野県霧ケ峰産の二者が確認できた。石質同定の中で、こはくの成分分析を行えなかったのが残念である。

植物では、県内の遺跡出土植物や土壌分析をされている吉井先生（立山博物館）にお願いした。結果、27種の植物が判明し、このことからこれまで照葉樹林と言われていたことがむしろ落葉広葉樹林との混合林が人により二次林化したとみられると判った。また、先生はオニグルミ・トチノキ・エゴノキの利用のされ方に注目している。

骨の同定では、古くから県内の骨の調査をされている金子先生（早稲田大学）にお願いした。その結果、32種の動物などが判明し、5点の骨角器も検出出来た。サメの歯の出土と量からは、当遺跡が供給地らしいこと、サケからは遺跡前面が入江状になっていたこと、マダイは暖流にのる魚であることから暖流がはいりこんでいたことなどの可能性があることが判った。カワハギは、東北地方に多いが当遺跡でもかなり検出できたこと、背後の急峻な山地によりクマやカモシカが目立つこと、イルカ類は富山湾域にかなりみられること、骨角器は小竹貝塚に似ることなども判明した。植物や骨類がわりあい良く検出でき、数多くの種類が判明したのは、調査時から土壌水洗したことにより、小さな遺物が検出できるという一つの調査の方法を示したものといえる。

考古地磁気は、県内の遺跡の測定を長年に渡り手がけて頂いた広岡先生（富山大学）にお願いした。馬場山遺跡群

の測定に続き、本遺跡の測定を行った結果、縄文時代の永年変化曲線がほぼ完成し、全国的なものとの比較補正段階に入ったといえよう。測定時代については、ほぼあうものといえる。

C^{14}年代測定では、中村先生他（名古屋大学）にお願いし、遺構内出土炭化物を測定して頂いた。その結果、幾分新しくでたものの、ほぼあうものといえる。

これら分析全体をまとめると、土器内部に付着した物質については、漆など顔料の可能性とその他として植物の実などを擦り潰した物質の高熱処理されたものとしてまとめられる。食物かどうかは別として、このような炭化物が検出・分析されたことは今後の調査に役立つものといえ、県内では、貴重な物質・データといえる。

分析により各種の動物・魚・植物などが検出され、従来から考えられているものと異なる結論が実証された。また、当時の人々の食用に供されていたものも数多く示された。そして、土器の底部圧痕からは、織る技術があったことが確認され、年代測定では、馬場山遺跡群についで縄文時代のデータが蓄積され、県内の土器編年に資するものとなった。土器の胎土分析では、搬入土器の存在から土器のまとめで示した様相を裏付けるものとなった。

これまで、県内の調査では、樹種同定・C^{14}年代測定くらいであった。化学などの専門者による成分分析や全国的レベルで遺物の分析と考察を行っている方々によるものなどはほとんど無かったといえるくらいの現状であった。そして、分析などを行わず、担当者の考えで、成分などを決定している例があった。このような中で、当遺跡の分析結果は、今すぐに役立つものでないことと結果が全て正しいかどうかの問題点がのこされていることとそれらの結果から導きだせる考察がどうなのかという点に問題を残しながらも、広い視野で、総合的に判断したもので、調査時から取り組んだことは、評価出来よう。また、これら結果が今後役立つならなおさらである。

土製品（円盤状土製品・有孔球状土製品・土錘・石錘など）

当遺跡からは、登録点数で三千点を越す円盤状土製品が検出され、未登録の破片などを含めると膨大な量が出た。これまで、縄文時代の遺跡調査を実施するとメンコとよんでいた土器破片利用の円盤状土製品がかなり出土し、それが破片の状態で使われていたと考えられていた。しかし、今回の整理過程で、完全な円盤状土製品もしくは作り上げようとしていたらしい形を窺うことができた。形のうえでは、円・正方・方形など色々あるが、回り（周囲）を丁寧に擦り磨き、打ち欠いた時に出来た凹凸をなくしているものがかなりあり、これが完全な円盤状土製品と考えれる。もちろん土器破片利用のものも多く出土しているので、これも利用したと考えられるが、未完成品としておく。

有孔球状土製品の用途などについては、小島氏〔小島1991〕『縄文時代』や藤田氏〔藤田1987〕などの論考があり、言いつくされている。当遺跡で判明したのは、数と完形品の多さから形の種類がほぼ出つくしていることと製作方法が判ることなどである。形状は、第6図に示したものが基本となろう。製作方法は、粘土塊を棒に巻いて乾燥させたところで棒を抜いている。粘土塊は、割れ口の観察から、大半が上下もしくは左右二個の塊まりを棒におしつけている。これは、割れ口の多くが土器の疑似口縁状の乾燥した面でわれていることから伺える。穴の内面には、棒を回しながら抜いたときについたとみれる横位もしくは縦の筋がある。また、穴の内面と周辺に黒色の付着物があり、分析の結果、天然産タールの可能性が高く、本有孔球状土製品使用時に用いた棒の固定のためと考えられる。穴の径の観察では、天地に径の差がほとんどみられない。これは、タールなどを利用できたためとも思われる。

土錘などは、これまで網等のおもりとされることが多かったが、土錘は編物用・石錘など大きなものや重いものは魚などをとるための網下に付けられたものと別に考えたい。土錘は、土器破片利用と当初から製作されたものがあり、破片利用例は、円盤状土製品とおなじで、回り（周囲）を丁寧に擦り磨いており、これが完成品だといえよう。そして、古代の技術復元で尾関先生が編物を製作する際に土器破片程度の重さのものを使用することなどから小さなものや土錘は編物や糸を作る時に用いたと考えたい。石錘のうち小さなもの（50g 以下程度）も編物製作に利用したとおもわれるが、大半の重い・大きなものは、漁のときの網下のおもりと考えたい。筋が数多くあるものは、糸を掛けた

時に重さが重く、網をふりまわしたりしたときに一本では切れるのを防ぐためと思われる。

以上、各種分析及び同定により、ヒスイを初めとする石器生産をし、色々なものを食べ、竪穴住居に住み、土器と編み物をつくり、各地と交流して色々なものを手にしていた境A遺跡の人々の様子が少し伺いしれるようになったといえる。また、当遺跡の調査結果により、富山県東部の縄文時代様相の一端が確認されたといえる。当遺跡は、ヒスイ・玉生産・石器生産に関係する他遺跡（周辺）にかこまれた遺跡といえる。

整理作業他

調査の結果、遺構及び遺物の出土量は、県内の過去の例にてらしても最大規模であった。そこで、整理作業及び報告書は、単年度の事業計画ではとても終了させることはできないため、調査が完全に終了したあとから5箇年計画で実施することとなった。そして、今年度まで順次作業を進め、結果の一部として報告書を刊行してきた。

昭和59・60年度は、現地の調査と冬期間にセンター内で遺物の基礎的な整理作業である水洗と注記を行った。また、60年度は現地で土壌水洗をおこなっている。61年度は、センター内で水洗・注記・復元と次年度以降の計画立案と協議を行った。この年は、馬場山遺跡群の調査と報告書刊行も同時に実施している。62年度は、整理計画1年目で、水洗・注記・復元・図面整理を行い、63年度の2年目には、復元・図面整理・実測と『遺構編』を刊行した。平成元年度の3年目は、復元・実測と『石器編』刊行で、2年度4年目は、復元・実測と『土器編』刊行を行った。そして、最終年の3年度（5年目）は一部の実測と『総括編』刊行を行い、遺物の収納を合わせて実施した。

遺物は、水洗の後、土器は薬品による科学処理を行った後、出土区他を記入した。この段階で、土器は復元可能品を中心に、石器は全部をカード化した。この後、土器は復元した上で、石器とともに実測した。土器の復元は、量が多いため、ならべ・接合・石膏入れなどを1個の土器ごとに連続して行わず、全体の捜しとならべが終了してから次段階へ移った。ならべ段階と接合後にメモ写真をとりカードへ添付した。これら実測までの仕事が終了してから版組・トレースなどと写真撮影を行い、報告書を完成させていった。

遺物他の量が多かったため、調査中からほとんどの過程で番号付けとカード化を実施し、混同を避けることとした。これらの資料は、すべてを保管せず、必要品に限ることとし、他はいくつかをまとめてマイクロ化などした。一部遺物の中で、本来縄文時代で扱うべきものがここで紹介されている。また、本報告書刊行までで、これまでの遺物実測やそれにかかる仕事のおくれがすこしづつ出てしまい、当初予定していた計画を少しづつ減らすこととなってしまった。そこでその急場をしのぐため前述の外部論考を頂くこととなった。今後、判明した事などは機会があれば別に発表していきたい。

遺物及び資料の保管は、現在当センターが保管している。

昭和59年の調査以来、境A遺跡に関係した新聞記事及び当センター刊行の所報『埋文とやま』に掲載された境A遺跡関連文がいくつかあるので、ここに紹介しておく。（橋本正春）

朝日町A遺跡　関係　（新聞より）

日付	内容	新聞社
S. 59. 4. 30	あすから朝日境遺跡で試掘	富山
5. 2	1キロにわたり試掘	富山
5. 2	くい打ちや雑木伐採	北日本
8. 16	たて穴住居跡発掘	北日本
9. 28	縄文中期の土器出土	富山
10. 28	縄文住居跡10数棟を確認	富山
12. 5	大量のヒスイ原石が出土	富山
12. 9	ヒスイ原石5千個見つけた	毎日
12. 14	出た出たヒスイ原石数千個	読売
12. 15	ヒスイの原石出土	北日本
S. 60. 4. 26	縄文中期の炉確認	北日本
5. 25	縄文のヒスイ、ザクザク	富山
8. 22	器台付双子土器出土	富山
8. 22	北陸の古代生活知る糸口に	読売
8. 22	双子土器が出土	北日本
8. 22	縄文中期の双子土器	読売
8. 26	文化　双子土器が出土	北日本
9. 6	遺跡からヒスイ1万個	読売
S. 62. 10.	よみがえる縄文のヒスイ村	朝日
11. 17	ひすい―「地中からのメッセージ」展から	富山
S. 63. 1. 6	日本最古の硬骨魚化石	北日本
1. 6	日本最古の硬骨魚化石	富山
1. 7	ジュラ紀の硬骨魚化石	読売
1. 9	発見場所が問題に―日本最古の硬骨魚類化石	富山

朝日町A遺跡関係　埋文とやま（富山県埋蔵文化財センター所報）より

所報	日付	内容
第12号	S. 60. 10. 1	双子土器（表紙）　朝日町境A遺跡の現地説明会　公団調査班（松島）
第14号	S. 61. 3. 31	有孔鍔付土器（表紙）　（橋本）　昭和60年度埋蔵文化財発掘調査報告
第16号	S. 61. 11. 1	朝日町境A遺跡出土の玉類（表紙）　（橋本）　昭和61年度の朝日町馬場山D・G遺跡の調査から　馬場山遺跡調査班　（橋本）　昭和59・60年度の朝日町境A遺跡の調査から　境A遺跡調査班　（橋本）
第21号	S. 63. 2. 20	「北陸の縄文文化」　金沢美術工芸大学助教授　小島俊彰　その他県内関係文献　朝日町教育委員会　1987年3月
第22号	S. 63. 3. 31	朝日町境A遺跡出土石器の整理　（山本）
第23号	S. 63. 7. 7	朝日町境A遺跡出土の大型石棒　（山本）
第27号	H. 1. 6. 30	石器作りの石器（朝日町境A遺跡出土）　（表紙）
第32号	H. 2. 11. 5	縄文時代の石斧と玉つくりの村　朝日町境A遺跡　（山本）
第34号	H. 3. 3. 30	朝日町境A遺跡出土土器の整理　（狩野）
第36号	H. 3. 10. 25	境A遺跡出土の編・織目痕　（表紙）　境A遺跡出土の土器から　（酒井）
第38号	H. 4. 3. 31	海棲ほ乳類と魚類（イルカ類、クジラ類など）　境A遺跡出土骨から　（橋本）

V　引用・参考文献

ア　**赤堀英三**　1929　「石器研究の一方法－石鏃に関する二、三の試み」『人類学雑誌』第44巻第3号　日本人類学会

赤堀英三　1931　「打製石鏃の地域的差異」『人類学雑誌』第46巻第5号　日本人類学会

朝日町教育委員会編　1979　『富山県朝日町不動堂遺跡第2次発掘調査概報』

朝日町教育委員会編　1980　『富山県朝日町不動堂遺跡第3次発掘調査概報』

安孫子昭二　1969　「東北地方における縄文後期後半の土器様式」石器時代　第9号

安孫子昭二　1971　「縄文後期中葉の土器」『平尾遺跡調査報告(2)』

安孫子昭二　1980　「コブ付土器様式から亀ケ岡様式への変遷過程」考古風土記　第5号

安孫子昭二　1981　「瘤付土器」『縄文文化の研究4』　雄山閣

安孫子昭二　1982　「縄文後期の土器　関東・中部地方」『縄文土器大成3』

安孫子昭二　1983　「第5章　縄文時代後・晩期」『村山市史』－別巻1－

安孫子昭二　1989・89　「加曽利B式土器の変遷と年代(上)(下)」　東京考古　第6・7号

安孫子昭二　1989　「瘤付土器様式」『縄文土器大観4』　小学館

阿部朝衛　1987　「磨製石斧生産の様相」『史跡寺地遺跡』　青海町

安藤文一　1982　「5．交易　翡翠」『縄文文化の研究』8　雄山閣

イ　**泉　拓良**　1981　「近畿地方の土器」『縄文文化の研究4』　雄山閣

泉　拓良　1989　「縁帯文土器様式」『縄文土器大観4』　小学館

市堀藤夫　1974　「酒見新堂遺跡」『富来町史』－資料編－

伊藤隆三・山守伸正　1989　「富山県小矢部市桜町遺跡(船岡地区)の発掘調査」『縄文時代の木の文化』　富山考古学会縄文時代研究グループ

ウ　**上野　章**　1978　「道林寺Ⅰ遺跡」『富山県小矢部市日の宮遺跡発掘調査報告書』　富山県教育委員会

オ　**大江　一・紅村　弘・中島勝国・田口昭二・古川庄作・大江　上・可児鋼平**　1973　『北裏遺跡』　可児町北裏遺跡調査団

大塚達郎　1983　「縄文時代後期加曽利B式土器の研究1」　東京大学考古学研究室研究紀要2

大森隆志　1989　「縄文時代の磨製石斧について」『山梨考古学論集Ⅱ』

大場磐雄・寺村光晴他　1969　『はまやま』富山県教育委員会・朝日町教育委員会

大場磐雄　監修　1969　『勾玉の故郷はまやま』　富山県教育委員会・朝日町教育委員会

大参義一　1972　「縄文時代」『岐阜県史通史編』　岐阜県

岡村道雄　1983　「ピエス・エスキーユ、楔形石器」『縄文文化の研究　7』　雄山閣

小野　昭　1986　「5石器の生産」『岩波講座　日本考古学3　生産と流通』　岩波書店

小野　昭・前山精明・小林巌雄・小池裕子・藤田英忠・島村忠淳　1988　「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究Ⅳ』　巻町

カ　**加藤三千雄**　1986　「第6章　第1節　第12群土器」『真脇遺跡』　能都町教育委員会

加藤三千雄　1988　「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観3』　小学館

金子拓男　1983　「三角形土版・三角形岩版」『縄文文化の研究　9』　雄山閣

金子裕之　1989　「安行式土器様式」『縄文土器大観4』　小学館

金沢市教委　1981　『金沢市中屋遺跡』　金沢市教育委員会

金沢市教育委員会　1989　『金沢市新保本町チカモリ遺跡－遺構編－』

狩野　睦・橋本正春他　1981・1982・1983　『北陸自動車道遺跡調査報告－立山町－遺構編、土器・石器編、木製品・総括編』　富山県教育委員会

狩野　睦・森　秀典　1985　『富山県立山町総合公園内野沢狐幅遺跡緊急発掘調査概報』　立山町教育委員会

狩野　睦　1988　「串田新・大杉谷土器様式」『縄文土器大観３』　小学館

狩野　睦・山本正敏・斎藤　隆・舘谷明彦　1986　『富山県八尾町長山遺跡発掘調査概要(2)』　八尾町教育委員会

キ　岸本雅敏・山本正敏・橋本正春　1982　「北陸自動車道遺跡調査報告－魚津市編－」　富山県教育委員会

ク　日下部善巳　1983　「環状石斧」『縄文文化の研究』　7　雄山閣

久田正弘　1986　「第６章　第１節　第18群土器～第23群土器」『真脇遺跡』　能都町教育委員会

久保　清・高堀勝喜　1951　「河北郡宇ノ気町気屋遺跡」　石川考古学研究会会誌　第３号

コ　紅村　弘他　1987　『東海の先史文化の諸段階』－資料編－

小島俊彰　1964　『高岡公園小竹藪縄文遺跡』　高岡市教育委員会

小島俊彰　1965　『極楽寺遺跡発掘調査報告書』　富山県教育委員会

小島俊彰　1966　「東砺波郡井口遺跡出土遺物の紹介」　富山考古学会会誌　大境　第２号

小島俊彰　1968　「北陸における縄文前期末の様相」『信濃』　第20巻第４号　信濃史学会

小島俊彰　1972　「縄文中期」『富山県史』－考古編－

小島俊彰　1973　『富山県朝日町下山新遺跡第１次発掘調査概報』　富山県教育委員会

小島俊彰　1974　「北陸の縄文時代中期の編年－戦後の研究史と現状－」富山県考古学会会誌　大境　第５号

小島俊彰　1979　「本江遺跡」『滑川市史』－考古資料編－　滑川市

小島俊彰　1981　「井口式土器」『縄文文化の研究４』　雄山閣

小島俊彰　1983　「"串田新Ｉ式、II式の編年観は逆転する"か」『北陸の考古学』　石川考古学研究会会誌　第26号

小島俊彰　1984　「巨大住居とヒスイ文化圏」『シンポジウム古代の日本海諸地域』小学館

小島俊彰　1986　「鍔をもつ縄文中期の大型石棒」『大境』第10号　富山考古学会

小島俊彰　1988　「上山田・天神山式土器様式」『縄文土器大観３』　小学館

小島俊彰　「本江遺跡」『滑川市史－考古資料編－』滑川市

小島俊彰・出崎敬子　1976　『勝木原遺跡』　富山県立高岡工芸高校地歴クラブ

越坂一也　1983　「北陸における縄文時代前期中・後葉の土器について」『北陸の考古学』　石川県考古学研究会

小林行雄・佐原　真　1964　『紫雲出』　詫間町文化財保護委員会

小林達雄　1988　「火炎土器様式」『縄文土器大観３』　小学館

サ　埼玉県立博物館編　1984　『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書』　埼玉県教育委員会

酒井重洋　1976　「上市町眼目新丸山Ａ遺跡」　富山考古学会会誌　大境　第６号

酒井重洋・橋本正春　1977　『富山県宇奈月町浦山寺蔵遺跡緊急発掘調査概要』　富山県教育委員会

佐原　眞　1964　「第一節　石器」『紫雲出』　詫間町文化財保護委員会

佐原　眞　1977　「石斧論－横斧から縦斧へ－」

シ　柴田陽一郎　1986　『カウヤ遺跡第２次発掘調査報告書』　秋田県教育委員会

下條信行　1975　「北九州における弥生時代の石器生産」『考古学研究』第22巻第１号　考古学研究会

神保孝造・橋本正春・飯田　勉・島田修一・塚田一成　1985　『富山県八尾町長山遺跡発掘調査報告書』　八尾町教育委員会

神保孝造・島田修一・舘谷明彦　1987　『富山県八尾町長山遺跡発掘調査概報(3)』　八尾町教育委員会

ス　末木　健　1988　「曽利式土器様式」『縄文土器大観３』　小学館
鈴木道之助　1981　『図録　石器の基礎知識Ⅲ　縄文』　柏書房
鈴木道之助　1983　「石鏃」『縄文文化の研究　7』　雄山閣
タ　平村教育委員会　1982　『東中江遺跡』
高橋修宏　1982　「北陸縄文前期後・末葉土器編年の再考」『小泉遺跡』　大門町教育委員会
高橋　保・小池義人・柳　恒雄・竹田和夫　1986　『北陸自動車道　糸魚川地区発掘調査報告書Ⅰ』　新潟県教育委員会
高堀勝喜　1964　「金沢市近郊八日市新保並びに御経塚遺跡の調査」『押野村史』
高堀勝喜　1965　「北陸」『日本の考古学(3)』－縄文時代－　河出書房新社
高堀勝喜・小島俊彰他　1979　『上山田貝塚』　宇ノ気町教育委員会
高堀勝喜　1965　「縄文文化の発展と地域性－北陸－」『日本の考古学』　Ⅱ　河出書房新社
高堀勝喜・西野秀和　1983　『上田うまばち遺跡』　押水町教育委員会
高堀勝喜編　1983　『野々市町御経塚遺跡』　野々市町教育委員会
高堀勝喜編　1986　「第６章　第１節　北陸の縄文土器編年」『真脇遺跡』　能都町教育委員会
竹内俊一　1966　『宮崎遺跡』
田中耕作　1989　「三十稲場土器様式」『縄文土器大観４』　小学館
ツ　都出比呂志　1975　「第５章　家とムラ」『日本生活文化史』　Ⅰ　河出書房新社
テ　寺村光晴　1987　「第３章　硬玉工房址と攻玉技術－寺地遺跡の硬玉生産をめぐって－」『史跡寺地遺跡』　青海町
寺村光晴・青木重孝・関　政之編　1987　『史跡寺地遺跡』　青海町
寺崎裕助　1989　「新潟県中越地方における縄文中期後半の土器について」『新潟考古学談話会会報』第３号　新潟考古学談話会
出崎政子　1967　「北陸地方の縄文時代晩期についてⅠ」　富山考古学会会誌　大境　第３号
ト　富山県教育委員会　1972　『富山県遺跡地図』
富山県編　1972　『富山県史－考古編－』
富山県教育委員会　1972　『富山県滑川市・上市町本江・広野新遺跡調査概報』
富山県教育委員会　1973　『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』　「富山市上堤池遺跡」
富山県教育委員会編　1973　『富山県遺跡地図』
富山県教育委員会　1974　『富山県朝日町下山新遺跡第２次発掘調査概報』
富山県教育委員会編　1974　『高速自動車国道北陸自動車道関係埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書－富山市・朝日町間－』
ナ　中島栄一　1983　「石冠・土冠」『縄文文化の研究　9』　雄山閣
中島俊一・湯尻修平　1977　『松任市長竹遺跡発掘調査報告』　石川県教育委員会
永峰光一他　1967　『佐野』　長野県考古学会研究報告書３
永峰光一　1981　「中部・北陸地方」『縄文土器大成４　晩期』　講談社
中村奇震・小島俊彰　1976　「朝日町馬場山Ｄ遺跡採集の遺物」『大境』第６号　富山考古学会
中村奇震　1967　「郷土文化の夜あけ」『入善町誌』　入善町
中村孝三郎　1960　『小瀬が沢洞窟』　長岡市立科学博物館
中村英洋　1985　「５　磨製石斧」『金沢市東市瀬遺跡』　金沢市教育委員会他

楢崎彰一　1967　「古代の墳墓と墓誌」『日本の考古学』Ⅶ　河出書房
ニ　新潟県　1983　『新潟県史』－資料編１－
西田泰民　1989　「堀之内・加曽利Ｂ式土器様式」『縄文土器大観４』　小学館
西野秀和　1989　「第５章　出土遺物　第１節土器・第８章　考察　第２節　後・晩期の土器編年」『金沢市米泉遺跡』　石川県立埋蔵文化センター
西野秀和・福島正実・浜野伸雄・平田天秋・藤　則雄　1983　『鹿島町徳前Ｃ遺跡調査報告(5)』　石川県立埋蔵文化財センター
丹羽　茂　1989　「中期大木式土器様式」『縄文土器大観１』　小学館
丹羽佑一　1989　「凹線文系土器様式」『縄文土器大観４』　小学館
ヌ　沼田啓太郎　1956　「旧石川郡安原村中屋遺跡調査報告」　石川考古学研究会会誌　第８号
ノ　能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団　1986　『石川県能都町真脇遺跡』
ハ　橋本　正　1970　『富山県立山町吉峰遺跡発掘調査報告書』　富山県教育委員会
橋本　正　1971　『小杉町中山南遺跡調査報告書』　富山県教育委員会
橋本　正　1972　「富山市小竹貝塚遺跡」『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』　富山県教育委員会
橋本　正　他　1974　『富山県小杉町水上谷遺跡緊急調査概要』　富山県教育委員会
橋本　正　他　1975　『富山県庄川町松原遺跡緊急発掘調査概報』　庄川町教育委員会
橋本　正　他　1975　『富山県庄川町松原遺跡緊急発掘調査概報』　庄川町教育委員会
橋本　正　1976　「竪穴住居の分類と系譜」『考古学研究』第23巻３号　考古学研究会
橋本　正　1976　「御物石器論」『大境』第６号　富山考古学会
橋本　正　他　1980　『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』　井口村教育委員会
橋本　正　他　1981　『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町遺構編－』　上市町教育委員会
橋本　正　他　1981・1982・1983　『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町－遺構編、土器・石器編、木製品・総括編』　上市町教育委員会
橋本正春他　1984　『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編－道下遺跡』　富山県教育委員会
橋本正春他　1985　『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編２－境Ａ遺跡他５遺跡』　富山県教育委員会
橋本正春他　1987　『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編３－馬場山Ｄ・Ｇ・Ｈ遺跡』　富山県教育委員会
橋本正春　1989　「第21号住居跡」『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編４－境Ａ遺跡遺構編』　富山県教育委員会
早川正一　1983　「磨製石斧」『縄文文化の研究　７』　雄山閣
フ　深井三郎　1977　「黒部川扇状地の地形と杉沢の成立」『黒部川扇状地』創刊号　黒部川扇状地地域社会研究所
藤田富士夫　1971　「耳栓の起源について－飾玉の在り方と関連して－」信濃　第23４号
藤田富士夫　1974　「富山県立山古窯跡群」『考古ジャーナル』No97　ニューサイエンス社
藤田富士夫　1975　「玦状耳飾の素材の在り方」　信濃　第27巻９号
藤田富士夫　1978　「玦状耳飾の起源について」　富山史壇69号
藤田富士夫・高橋修宏・古川知明　1983　『古沢Ａ遺跡発掘調査概要』　富山市教育委員会
藤田富士夫　1989　『玉』　考古学ライブラリー52　ニュー・サイエンス社
藤田亮策・清水潤三編　1964　『長者ケ原』　糸魚川市教育委員会
古川知明　1984　『追分茶屋遺跡発掘調査概報』　富山市教育委員会

ホ　細見啓三他　1982　『富山県朝日町国指定史跡不動堂遺跡－その概要と整備のあらまし－』　朝日町
本間信昭　1976　「4　石製品」『兼保遺跡』　妙高高原町教育委員会
マ　松村和男　1985　「堤東遺跡出土の縄文時代の遺物について－前期の石器を中心として－」『群馬文化』第203号
ミ　三上徹也　1988　「唐草文系土器様式」『縄文土器大観3』　小学館
三友国五郎他　1975　『高井東遺跡』　埼玉県教育委員会
湊　晨　他　1959　『天神山遺跡発掘調査報告書』　富山県教育委員会・魚津市教育委員会
湊　晨・竹内俊一　1971　『愛本新遺跡調査概要』　宇奈月町教育委員会
湊　晨　1972　「縄文時代後・晩期」『富山県史』－考古編－
南　久和　1977　『金沢市北塚遺跡』　金沢市教育委員会他
南　久和　1985　『北陸の縄文時代中期の編年　他9編－南久和著作集第1集－』
南　久和・増山　仁　1986　「第四章遺物(土器)」「考察の部1、2、3」『金沢市新保チカモリ遺跡－第四次調査兼土器編－』　金沢市教育委員会他
南　久和　1989　「北陸晩期土器様式」『縄文土器大観4』　小学館
南　久和　1986　『金沢市新保本町チカモリ遺跡』　金沢市教育委員会
宮内克巳　1987　「磨製石斧小考」『東アジアの考古と歴史　中巻』　同朋舎
宮本幸雄編　1982　『富山県滑川市安田・寺町遺跡発掘調査報告書』　滑川市教育委員会
モ　百瀬長秀　1984　「羽状沈線文をもつ土器の系統と展開」　長野県考古学会会誌　第49号
ヤ　八木奘三郎　1893　「本邦発見石鏃形状の分類」『東京人類学雑誌』第9巻第9号　東京人類学会
矢島國雄・前山精明　1983　「石錐」『縄文文化の研究　7』　雄山閣
柳井　睦　他　1975　『富山県立山町吉峰遺跡第4次緊急発掘調査概報』　富山県教育委員会
柳井　睦　他　1976　『富山県立山町岩峅野遺跡緊急発掘調査概要』　富山県教育委員会
柳井　睦　他　1977　『富山県大沢野町布尻遺跡緊急発掘調査概要』　大沢野町教育委員会
山内清男　1964　「縄文式土器－総論－」『日本原始美術1』　講談社
山田時夫・谷井文夫・竹村利夫　1978　「黒部川扇状地における海岸侵食－地図・空中写真による研究－」『黒部川扇状地』第2号　黒部川扇状地地域社会研究所
山田昌久　1983　「木製品」『縄文文化の研究　7』　雄山閣
山本直人　1983　「6　磨製石斧」『野々市町御経塚遺跡』　野々市町教育委員会
山本正敏　他　1975　『富山県黒部市前沢遺跡緊急発掘調査報告書』　黒部市教育委員会
山本正敏　1990　『安居五百歩遺跡(2)』(縄文時代編)　福野町教育委員会
ヨ　吉岡康暢　1971　「石川県下野遺跡の研究」　考古学雑誌　第56巻　第4号
吉田富夫　1940　「石冠考」『考古学』第11巻第9号　東京考古学会
米沢義光　1983　「羽咋郡志賀町火打谷大垣内遺跡出土土器再見」『北陸の考古学』　石川考古学研究会会誌　第26号
米沢義光　1986　「第6章　第1節　第14群土器～第17群土器」『真脇遺跡』　能都町教育委員会
米沢義光　1989　「気屋式土器様式」『縄文土器大観4』　小学館
ワ　渡辺　誠編　1975　『桑飼下遺跡発掘調査報告書』　平安博物館
渡辺　誠　1980　「雪国の縄文家屋」『小田原考古学研究会会報』第9号　小田原考古学研究会

住居跡一覧表

No	出土区　平面形 規模　炉　他	時期 出土遺物他
1号住	53～56　66～68長円形 4×4M　5本柱　炉台形	中期中葉～中期後葉(岩峅野式)～後期前葉　624後期前葉深鉢加曽利BⅠ　磨製石斧5　同未製品13　同欠損品25　砥石A7　敲石15　硬玉加工品16　硬玉原石2　蛇紋岩原石3　礫器1　アカメガシワ　トチノキ炭化物　サメ椎体　獣骨　魚骨
2号住	67～70　72～75長円形 5×4M　4本柱　炉台形	中期中葉　190・202中期中葉深鉢古府　522中期中葉深鉢　510中期中葉台付深鉢　210中期中葉浅鉢古府　400後期後葉深鉢　石鏃2　打製石斧1　石皿1　凹石1磨製石斧2　同未製品2　同欠損品4　砥石A1
3号住	57～59　56～58長円形 4×3M　6本柱　炉長方形	中期中葉　29中期末葉深鉢岩峅野(外来系)　磨製石斧未製品3　同欠損品5　砥石A4　敲石1　削器2　硬玉加工品2　硬玉原石2　炭化物
4号住	50～51　93～95長円形 4×3.5M　4本柱　炉長方形	中期中葉(大木10式)　20中期中葉深鉢古府(外来系)(炉内埋甕)　磨製石斧未製品4　同欠損品4　砥石B2敲石2　硬玉加工品5　蛇紋岩原石2　炭化物　タイ科骨　獣骨　魚骨
5号住	54～56　91～93長円形 4×3M　6本柱　炉旧長方形　新正方形	中期中葉～中期後葉(岩峅野式)　磨製石斧1　同未製品3　同欠損品3　砥石A2　敲石10　台石1　硬玉加工品13　硬玉原石1　蛇紋岩原石2
6号住	60～62　50～53長円形 4×4M　4本柱　炉長方形	中期中葉～中期後葉(串田新Ⅰ式)　601後期前葉深鉢気屋　磨製石斧未製品1　同欠損品3　砥石A2　敲石2　硬玉加工品1　蛇紋岩原石1　石核1　その他1　炭化物
7号住	63～65　51～53隅丸方形 3.5×3M　4本柱　炉長方形	中期中葉(串田新Ⅰ式)　557中期中葉浅鉢上山田式　磨製石斧欠損品3　砥石A1　削器1　硬玉原石2　蛇紋岩原石2　炭化物　獣骨　魚骨
8号住	61～64　48～50隅丸方形 6×5M　8本柱　炉長方形	中期中葉(串田新Ⅰ式)～中期後葉　30中期後葉深鉢プレ串田新式　円盤状土製品1　磨製石斧未製品2　同欠損品4　砥石A16　敲石3　台石2　硬玉加工品4　硬玉原石2　玉1　アカメガシワ　炭化物　獣骨　魚骨
9号住	63～65　46～49長円形 6×3.5M　6本柱　炉長方形複式	中期中葉(串田新Ⅰ式)　磨製石斧1　同未製品2　同欠損品2　砥石A9　敲石3　炭化物　アオザメ歯1サメ椎体　獣骨　魚骨　歯骨
10-11号住	64～66　45～48長円形 5本柱　炉隣接炉長方形正方形	中期中葉(串田新Ⅰ式)～中期後葉　19中期後葉深鉢串田新Ⅱ式　石錘B有溝1　磨製石斧1　同未製品2　同欠損品4　敲石1　削器1　硬玉加工品12　硬玉原石2　蛇紋岩原石3　炭化物
12号住	60～62　48～50長円形 3×3M　3本柱　炉長方形	中期前葉～中期中葉　30中期後葉深鉢プレ串田新式　磨製石斧未製品1　同欠損品1　硬玉加工品1　ホオノキ　アカメガシワ　カラスサンショウ属　ブドウ属　クマノミズキ　クサギ　炭化物
13号住	62～64　47～483×3M 5本柱　炉正方形	中期中葉(串田新Ⅰ式)　205中期中葉浅鉢古府　打製石斧1　磨製石斧未製品4　同欠損品7　敲石1　硬玉加工品3　硬玉原石1　蛇紋岩原石2　炭化物
14号住	63～65　45～46長円形 3×2.5M　5と6本柱　炉台形	中期中葉(串田新Ⅰ・Ⅱ式)　179中期中葉深鉢古府　円盤状土製品1　中期後葉土偶1　打製石斧2　磨製石斧未製品16　同欠損品18　砥石A5　敲石2　台石2　削石4　硬玉加工品11　硬玉原石5　蛇紋岩原石6　炭化物　獣骨
15号住	54～56　68～70長円形 3.8×3M　6本柱　炉台形	中期中葉　磨製石斧1　同欠損品2　砥石A1　敲石1　硬玉加工品7　硬玉原石1　蛇紋岩原石1
16号住	65～67　49～51長円形 4×3.5M　2本柱　炉隅丸長方形	中期前葉～中期中葉　5中期中葉深鉢穴19　27中期中葉深鉢古府(外来系)　36中期中葉深鉢上山田穴208　34中期中葉台付深鉢古府　71中期中葉深鉢古府　203中期中葉浅鉢穴19　204中期中葉浅鉢上山田穴19　241中期中葉台付浅鉢上山田　250中期中葉有孔鍔付古府P2　503中期中葉深鉢天神山穴19　円盤状土製品1　打製石斧1　磨製石斧未製品6　同欠損品3　砥石A1　敲石1　擦切石器1　硬玉加工品2　硬玉原石2　玉1　蛇紋岩原石1　トチノキ　炭化物　サメ椎体　獣骨　魚骨
17号住	66～68　48～50長円形 4×4M　8本柱　炉長方形複式	中期中葉(串田新Ⅰ式)～中期後葉　3・49中期中葉深鉢古府　4中期深鉢無文P4　125中期後葉深鉢串田新Ⅱ式穴33　磨製石斧未製品2　同欠損品4　砥石A11　敲石1　台石1　玉1　硬玉加工品3　硬玉原石2　炭化物　サメ椎体　獣骨　魚骨　ヘビ類
18号住	65～67　45～46隅丸方形 3×2.5M　4本柱　炉五角形	中期前葉～中期中葉　磨製石斧未製品1　同欠損品1　硬玉加工品3　硬玉原石2　蛇紋岩原石1　炭化物　サメ椎体　獣骨　魚骨
19(34)号住	71～74　72～75長円形 4×3M　4本柱　炉長方形	中期中葉　埋設土器　458中期中葉深鉢穴132　円盤状土製品1　石鏃1　打製石斧1　磨製石斧2　同未製品5　同欠損品4　砥石A1　敲石7　硬玉加工品4　炭化物　獣骨　魚骨

No	出土区　平面形 規模　炉　他	時期 出土遺物他
20号住	70～74　75～78長円形 4×4M　4本柱　炉長方形	中期前葉～中期中葉(上山田・天神山Ⅱ～Ⅳ)～中期後葉(曽利Ⅰb)　埋設土器　33中期中葉深鉢古府　1・21中期中葉深鉢古府(外来系)23・37・38中期中葉深鉢古府(水上谷)　26中期前葉深鉢上山田　31中期中葉有孔鍔付古府　32中期後葉深鉢プレ串田新式(外来系)　39中期中葉深鉢古府　40中期中葉台付深鉢古府　円盤状土製品後期後葉1・他1　磨製石斧未製品4　同欠損品3　砥石A2　砥石B3　敲石4　台石1　硬玉加工品2　蛇紋岩原石3　凹石1　炭化物　獣骨　魚骨
21・27号住	70～73　42～45長円形 7×6.5M　5本柱　炉正方形	中期後葉(串田新Ⅱ式・気屋Ⅰab式)～後期前葉(気屋ⅠⅡ式・堀之内式)　36中期中葉深鉢上山田穴208　58後期初頭深鉢気屋　681晩期後葉深鉢中屋P43　円盤状土製品後期前葉5・後期2・他9　土偶2　石鏃31　打製石斧1　石皿2　凹石3　石錘A打欠5　石錘B有溝1　磨製石斧13　同未製品104　同欠損品129　砥石A16　敲石34　台石8　石錐2　石棒1　石刀2　石冠1　三脚形石器1　玉23　硬玉加工品55　硬玉原石18　蛇紋岩原石56　オニグルミ　アカメガシワ　カラスザンショウ属　トチノキ　ミズキ　クサギ　エゴノキ　炭化物　アオザメ歯14　ネズミザメ歯2　魚歯6　タイ歯35　ベラ歯35　タイ　サメ　ベラ　カワハギ　ハタ　サケ　エイ　ヘビ　鳥　イタチ　イノシシ　獣骨　魚骨
22号住	67～70　43～45長円形 7×6.5M　4本柱　炉長方形	中期中葉～中期後葉(串田新ⅠⅡ式・岩峅野式・気屋式)～後期前葉　円盤状土製品3　石鏃2　打製石斧1　石錘A打欠1　磨製石斧6　同未製品21　同欠損品28　砥石A12　敲石9　台石2　石棒1　硬玉加工品4　硬玉原石9　蛇紋岩原石8　オニグルミ　クリ　ブナ　ホオノキ　アカメガシワ　カラスザンショウ属　トチノキ　ブドウ属　クマノミズキ　クサギ　炭化物　獣骨　魚骨
23号住	66～69　42～45長円形 5×3.5M　5本柱　炉正方形	中期中葉～中期後葉(串田新Ⅱ式・気屋Ⅰb式)～後期前葉　389中期後葉深鉢串田新式　円盤状土製品1　石鏃4　石皿1　石錘A打欠2　磨製石斧3　同未製品10　同欠損品8　砥石A9　砥石B1　敲石2　硬玉加工品4　硬玉原石1　アカメガシワ　炭化物　サメ椎体　獣骨　魚骨
24号住	62～64　45～47隅丸方形 4×4M　2本柱　炉長方形	中期中葉　磨製石斧4　同未製品1　同欠損品3　砥石A1　敲石2　硬玉加工品2　硬玉原石1　炭化物　サメ椎体獣骨　魚骨
25号住	64～66　41～43隅丸方形 6×6.5M　4本柱　炉長方形	中期中葉(串田新Ⅰ式)～中期後葉　59中期後葉深鉢プレ串田新式　擦石1　磨製石斧4　同未製品7　同欠損品12　砥石A13　敲石13　硬玉加工品14　硬玉原石1　蛇紋岩原石1　炭化物　獣骨　魚骨
26号住	70～73　46～49長円形 4×3.5M　4本柱　炉正方形	中期前葉～中期中葉～後期前葉(串田新ⅠⅡ式・岩峅野式・気屋Ⅰ式・堀之内ⅠⅡ式・称名寺式)～後期前葉～　後期中葉　66・127中期後葉深鉢串田新Ⅱ式　266・288・469中期中葉深鉢　292後期小型深鉢　407・455中期後葉深鉢串田新式　496中期後葉台付深鉢串田新Ⅱ式　504中期後葉深鉢P46　198中期中葉深鉢古府P48　681晩期後葉深鉢中屋式　円盤状土製品1　土錘切H1　石鏃7　石匙1　打製石斧1　石錘A打欠1　磨製石斧4　同未製品50　同欠損品69　砥石A18　砥石B2　敲石26　台石4　石錐1　削器2　石核1　玉6　硬玉加工品27　硬玉原石19　蛇紋岩原石19　アカメガシワ　炭化物　サメ椎体アオザメ歯2　カワハギ　獣骨　魚骨
28号住	52～54　68～70長円形 5×4M　6本柱　炉長方形	中期中葉～中期後葉(気屋Ⅰb式・串田新式)　624後期前葉深鉢加曽利BⅠ　土製耳飾滑車1　磨製石斧1　同未製品12　同欠損品19　砥石A3　敲石15　台石1　玉1　硬玉加工品10　硬玉原石1　炭化物　サメ椎体獣骨　魚骨
29号住	59～62　60～62長円形 4本柱炉長方形　5.5×3.5M	中期中葉～中期後葉(串田新Ⅱ式)　石鏃2　打製石斧1　磨製石斧2　同未製品5　同欠損品10　砥石A3　敲石1　硬玉加工品2　硬玉原石1　蛇紋岩原石4　炭化物　獣骨　魚骨
30号住	61～65　59～61長円形 5×4M　4本柱　炉台形	中期中葉～中期後葉(串田新Ⅱ式・気屋Ⅰb式)　90後期初頭深鉢気屋　打製石斧2　磨製未製品2　同欠損品3　砥石A4　硬玉加工品3　硬玉原石2　炭化物　獣骨　魚骨
31号住	65～66　52～54隅丸方形 4×3.5M　4本柱　炉長方形	中期前葉(新保式・新崎第Ⅳ～Ⅵ様式)～中期中葉　55中期中葉深鉢巌正寺Ⅲ　168中期前葉深鉢巌正寺Ⅲ　磨製石斧1　同欠損品1　硬玉原石1　炭化物　獣骨　魚骨
32号住	64～66　43～45長円形 3×2.5M　5本柱　炉不整円形	中期中葉～中期後葉(古串田新式・串田新Ⅱ式)　2中期後葉深鉢P10　429中期中葉深鉢穴27　磨製石斧1　同未製品4　同欠損品5　砥石A1　敲石3　円盤形1　硬玉加工品2　硬玉原石1　蛇紋岩原石1　炭化物　獣骨　魚骨
33号住	65～68　57～60長円形 6×5M　4本柱　炉長方形	中期中葉～中期後葉(三十稲場式古段階・岩峅野式・気屋Ⅰab式・串田新Ⅱ式)～後期前葉　470後期初頭深鉢気屋(外来系)三十稲場　凹石1　磨製石斧1　同未製品2　同欠損品7　敲石1　三脚形1　硬玉加工品1　獣骨　魚骨
35号住	72～75　45～47長円形 5×4.5M　5本柱　炉長方形	中期後葉(串田新Ⅱ式・気屋Ⅰab式)～後期前葉　35中期後葉深鉢プレ串田新式　磨製石斧未製品9　同欠損品5　砥石A4　敲石5　硬玉原石1　蛇紋岩原石1
36号住	51～54　66～68長円形 6×5M　6本柱　炉長方形	中期中葉(加曽利E式)　61中期中葉深鉢古府　238中期中葉浅鉢上山田　278中期中葉台付深鉢古府　621後期前葉深鉢加曽利BⅠ　磨製石斧1　削器1

穴時期正誤表

穴	時代時期	穴	時代時期	穴	時代時期	穴	時代時期
11	中期中葉？	296	中期中葉 ~晩期前葉	548	中期後葉 ~晩期前葉	690	中期中葉 ~晩期中葉
59	中期前葉 ~中期	300	後期後葉	549	中期中葉 ~後期後葉	691a	中期後葉 ~晩期
127	中期中葉 ~後期・晩期	321	中期中葉 ~晩期前葉	552	中期中葉 ~晩期前葉	691b	中期後葉 ~晩期中葉
139	中期末葉 ~晩期前葉	326	後期前葉 ~後期中葉	553	中期中葉？	691c	晩期前葉
145	中期中葉 ~後期・晩期	327	後期前葉 ~晩期中葉	554	後期中葉 ~	705	中期後葉 ~後期中葉
148	中期中葉	328	後期前葉 ~晩期前葉	555	後期後葉	714	中期中葉 ~晩期中葉
149	中期中葉 ~晩期	337	後期前葉 ~後期後葉	556	中期中葉 ~晩期前葉	728	後期中葉 ~晩期前葉
153	中期中葉 ~後期中葉	341	後期前葉 ~晩期前葉	560	中期中葉 ~晩期前葉	746	後期中葉
154	後期前葉	344	中期後葉 ~晩期前葉	562	中期中葉 ~晩期前葉	747	中期中葉 ~晩期前葉
156	後期中葉	345	中期中葉 ~晩期前葉	566	中期中葉 ~後期前葉	750	中期中葉 ~後期中葉
162	後期前葉 ~後期中葉	346	後期後葉 ~晩期前葉	567	中期中葉 ~後期	753	後期中葉
168	中期中葉 ~後期中葉~	347	後期前葉 ~晩期前葉	570	中期中葉 ~後期後葉	757	後期前葉
170	中期前葉 ~後期中葉	351	後期中葉	572	晩期前葉	764	後期初頭 ~後期中葉
173	後期中葉	352	中期中葉 ~晩期中葉	573a	後期前葉	780	後期中葉
175	後期末葉 ~晩期	359	後期前葉 ~晩期中葉	573b	後期前葉 ~後期中葉	782	中期 ~晩期前葉
179	中期後葉	362	中期中葉 ~後期前葉	584	後期前葉 ~晩期	786	中期中葉 ~後期前葉
187	中期前葉 ~後期前葉	364	後期前葉 ~晩期中葉	590a	後期後葉 ~晩期前葉	787	中期 ~後期
189	後期	365	後期前葉	590b	後期中葉 ~晩期前葉	794	中期中葉
190	後期中葉 ~晩期前葉	379	後期前葉 ~後期中葉	591	中期中葉 ~晩期前葉	801	晩期前葉
192	中期中葉 ~後期前葉	388	後期前葉 ~後期中葉	592	後期中葉 ~後期後葉	802	後期中葉 ~晩期前葉
193	中期中葉 ~後期中葉	400	中期中葉 ~晩期前葉	594	中期中葉	806	中期後葉 ~晩期前葉
199	後期前葉 ~晩期前葉	401	後期前葉 ~晩期前葉	595	後期中葉	807	中期後葉 ~後期中葉
213	中期中葉 ~後期後葉	409	後期前葉 ~晩期前葉	604	後期中葉 ~晩期	811	中期後葉 ~晩期前葉
215	後期前葉	416	後期前葉 ~後期後葉	605	後期前葉	820	後期前葉 ~晩期中葉
216	後期前葉	421	後期前葉 ~晩期中葉	613	中期後葉 ~晩期前葉	833	後期前葉 ~後期中葉
222	後期前葉 ~晩期中葉	423	後期前葉 ~晩期	615	中期中葉 ~後期前葉	837	中期後葉 ~後期中葉
223	中期末葉 ~晩期中葉	425	中期後葉 ~後期中葉	618	中期中葉 ~晩期前葉	839	後期前葉 ~晩期前葉
227	後期？	429	後期前葉 ~晩期前葉	625	中期前葉 ~晩期前葉	840	後期前葉 ~晩期前葉
233	中期中葉 ~後期前葉	503	中期中葉 ~後期中葉	628	中期中葉 ~晩期前葉	848	後期前葉 ~晩期前葉
235	中期前葉 ~後期前葉	506	中期後葉 ~晩期前葉	636	後期前葉	850	後期前葉
244	後期前葉 ~後期中葉	512	後期前葉 ~後期中葉	642	中期後葉 ~後期中葉	851	中期後葉 ~晩期中葉
248	後期前葉 ~後期中葉	529	後期後葉	650a	中期中葉 ~晩期前葉	854	中期中葉 ~晩期前葉
253	中期中葉 ~後期前葉	536	中期中葉 ~晩期	651	後期後葉	857	後期 ~晩期
258	後期中葉	538	中期後葉 ~晩期前葉	656	中期中葉	862	中期中葉 ~後期前葉
266	中期中葉 ~晩期中葉	540	後期中葉 ~晩期前葉	661	後期中葉	864	後期前葉
273	後期前葉	541	後期中葉 ~晩期前葉	666	中期中葉 ~後期前葉	867	後期前葉
289	後期前葉 ~晩期中葉	543	中期中葉 ~晩期前葉	675	中期中葉 ~晩期中葉	869	中期後葉
290	後期前葉	546	中期中葉 ~晩期前葉	680	中期中葉 ~晩期中葉	870	中期後葉 ~後期前葉

穴	時代時期
871	中期中葉 ～後期
875	中期後葉
901	中期中葉 ～晩期前葉
902	後期中葉～
908	中期 ～晩期前葉
913	後期前葉
914	中期中葉 ～晩期前葉
916	後期前葉 ～晩期前葉
917	後期中葉 ～
918	後期中葉 ～
920	中期末葉 ～後期中葉
924	後期 ～
927	後期前葉 ～晩期中葉
932	晩期中葉
934	後期前葉 ～晩期中葉
936	中期中葉 ～晩期中葉
940	後期前葉
943	晩期前葉
947	後期中葉 ～
948	中期前葉 ～晩期中葉
950	後期前葉 ～晩期中葉
952	後期 ～晩期
955	中期中葉 ～晩期前葉
957	晩期中葉
977	後期前葉 ～晩期前葉
981	後期末葉
992	後期
999	晩期中葉
1013	後期前葉 ～晩期前葉
1014	後期
1018	後期後葉 ～晩期前葉
1022	晩期前葉
1025	後期後葉 ～晩期前葉
1028	後期前葉 ～晩期
1041	後期後葉
1043	後期中葉 ～後期後葉
1102	中期中葉 ～晩期前葉
1106	晩期前葉
1107	中期中葉 ～晩期前葉

穴	時代時期
1109	後期後葉
1112	中期後葉 ～晩期前葉
1113	晩期中葉
1117	後期前葉 ～晩期
1118	後期前葉 ～晩期
1120	後期後葉
1122	後期後葉 ～晩期後葉
1128	後期前葉 ～晩期前葉
1134	後期後葉
1137	後期
1138	晩期前葉
1139	後期 ～晩期
1143	後期後葉？
1145	後期末葉 ～晩期初頭
1146	後期
1159	晩期前葉
1160	後期
1161	後期
1163	後期後葉
1170	後期 ～晩期
1171	後期 ～晩期
1172	後期前葉 ～晩期前葉
1173	後期前葉 ～晩期
1174	後期中葉 ～晩期中葉
1180	晩期中葉
1181	後期中葉 ～晩期
1184	後期前葉 ～晩期
1189	後期 ～晩期
1190	後期 ～晩期
1191	後期前葉 ～晩期
1192	後期中葉 ～晩期
1194	後期末葉 ～晩期中葉
1203	晩期前葉
1209	中期 ～後期
1214	後期後葉
1217	晩期
1219	後期 ～晩期
1222	後期前葉 ～晩期
1227	後期 ～晩期

穴	時代時期
1230	後期前葉 ～晩期
1231	後期後葉 ～晩期
1232	晩期前葉
1319	晩期前葉 ～晩期中葉
1322	後期前葉 ～晩期中葉
1325	後期 ～晩期
1327	中期後葉 ～晩期前葉
1329	後期 ～晩期
1332	後期中葉 ～晩期
1333	晩期前葉 ～晩期中葉
1340	後期 ～晩期
1341	後期中葉 ～晩期
1353	中期中葉 ～晩期中葉
1357	晩期前葉 ～晩期中葉
1365	晩期前葉 ～晩期中葉
1366	後期 ～晩期
1372	後期中葉
1376	後期 ～
1378	後期 ～
1382	晩期
1390	後期 ～晩期
1392	後期中葉 ～晩期
1393	後期中葉 ～晩期
1396	中期中葉 ～晩期前葉
1397	後期 ～晩期
1398	後期中葉 ～晩期
1399	後期中葉 ～後期後葉
1401	晩期
1402	後期後葉 ～晩期前葉
1403	後期後葉 ～晩期中葉
1406	後期前葉 ～晩期
1408	後期 ～晩期
1410	後期中葉 ～晩期中葉
1411	後期 ～晩期
1412	晩期
1414	晩期前葉
1415	後期中葉
1416	後期前葉 ～晩期中葉
1417	後期前葉 ～晩期前葉

穴	時代時期
1418	後期 ～晩期
1422	後期 ～晩期
1427	晩期中葉
1428	後期 ～晩期
1501	後期前葉 ～晩期前葉
1507	中期中葉？
1519	前期？ ～晩期前葉
1522	後期中葉 ～晩期前葉
1523	後期前葉 ～晩期中葉
1526	後期 ～晩期前葉
1530	後期中葉 ～晩期中葉
1531	後期前葉 ～晩期中葉
1532	後期中葉 ～晩期
1533	後期後葉 ～晩期
1537	晩期前葉
1538	後期末葉 ～晩期初頭
1539	後期末葉 ～晩期初頭
1544	中期中葉
	後期末葉 ～晩期
1601	中期中葉 ～後期前葉
1605	後期前葉
1606	後期前葉 ～後期中葉
1611	後期中葉 ～晩期前葉
1612	中期前葉 ～後期前葉
1613	中期中葉 ～中期後葉
1615	中期後葉 ～後期中葉
2000	後期前葉 ～晩期前葉
2007	後期 ～晩期前葉
2008	後期中葉
2015	中期中葉 ～晩期前葉

土製品表

土偶　DG

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1	穴927	頭部	4.5×4.7	49.7	後期後
2	穴584	右足	3.3×2.9	24.9	後期？
3	穴839	左腕	5.3×1.7	18.6	後期後
4	穴839	右足	4.5×2.7	27.4	晩期？
5	住27	左腕	4.5×1.9	13.9	後期？
6	住14	胴部	3.3×3.1	23.6	中・後
7	77 51	左足	6.4×3.2	46.5	後期？
8	85 58	右足	3.3×2.4	21.3	不明
9	66 67	胴部	5.2×4.9	61.4	中期中
10	81 51	左腕	4.1×6.9	89.9	中期前
11	70 61	右足	5.3×3.1	44.9	後期？
12	66 57	右腕	6.6×3.8	67.1	後期後
13	77 59	右足	5.1×2.2	41.3	後期後
14	80 59	左腕	4.1×1.9	12.8	後期？
15	65 48	胴部	3.2×4.0	20.3	中・後
16	66 55	左腕	3.6×4.1	25.5	中・後
17	75 55	右腕	4.2×2.2	18.4	後期？
18	表採	左足	3.4×1.5	9.2	後期？
19	86 58	左足	5.3×2.7	40.6	晩期？
20	80 71	左腕	6.2×5.0	67.5	後期？
21	表採	左腕	3.6×2.0	12.6	後期？
22	表採	右腕	4.1×2.1	16.6	後期？
23	78 55	右腕	1.5×3.5	5.6	中期中
24	82 64	胴部	5.1×4.3	52.2	中・後
25	88 45	胴部	3.8×1.9	14.7	後期後
26	表採	胴部	4.3×4.9	44.9	中期前
27	86 42	左腕	5.2×7.4	71.6	後期後
28	88 50	胴部	6.6×5.1	12.3	晩期？
29	表採	左腕	4.0×1.1	7.9	後期後
30	78 80	左腕	3.2×5.2	53.4	後期後
31	80 67	左腕	4.5×1.7	21.7	後期後
32	73 61	左腕	3.4×1.6	10.6	後期後
33	69 49	右腕	4.2×2.0	16.8	後期後
34	69 42	右腕	8.0×2.2	52.5	後期後
35	穴629	右足	6.2×1.5	51.0	後期前
36	91 43	頭部	6.1×3.8	45.4	後期後
37	77 47	左腕	3.7×1.6	9.7	後期前
38	86 60	左足	3.0×1.7	10.8	後期
39	93 43	左腕	3.8×4.4	33.4	中・後
40	86 65	右腕	4.3×2.1	31.1	後期中
41	81 66	左腕	2.8×1.7	10.6	後期後
42	64 45	胴部	4.4×3.7	27.4	中期中
43	78 66	頭部	6.5×6.6	114.	後期後
44	83 65	頭部	4.2×5.7	30.6	晩期中
45	75 45	頭部	3.9×3.6	20.5	後期？
46	66 44	胴部	5.3×3.7	39.5	中期後
47	84 65	胴部	5.6×3.8	69.4	後期後
48	住27	右腕	3.3×1.7	9.8	後期後
49	73 44	頭部	2.7×2.0	6.5	後期？
50	表採	左足	3.5×2.2	22.0	後期？
51	表採	頭部	2.7×2.0	18.8	後期？
52	表採	胴部	3.6×4.5		不明
53	80 61	頭部	2.9×2.8		不明
54	79 79	胴部	5.4×5.1		不明
55	表採	胴部	6.8×4.5		不明
56	82 52	右足	3.5×2.2	26.8	後期？
57	66 57	胴部	3.9×4.4		不明

土製有孔円盤　DUE

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1	54 67	円形	5.9×5.1	30.7	不明
2	87 68	方形	4.6×4.1	14.8	後期前
3	穴1183	円形	2.9×2.8	5.6	不明
4	表	円形	3.4×3.0	7.6	不明
5	83 65	方形	3.5×2.1	7.6	不明
6	72 48	円形	4.4×4.0	15.0	後期前
7	表	方形	3.1×2.1	4.9	不明
8	66 60	円形	4.0×2.4	7.9	不明
9	44 70	円形	4.0×2.4	9.3	後期後

土錘　DS

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1	81 52	打欠	5.3×4.5	17.8	不明
2	59 59	打欠	4.1×3.2	9.4	不明
3	80 79	切目	4.8×3.6	15.0	不明
4	穴860	打欠	5.4×4.4	29.2	不明
5	84 62	切目	4.9×2.9	17.1	不明
6	82 61	有溝	4.0×2.3	12.7	不明
7	79 64	有溝	3.6×2.1	11.3	不明
8	82 65	有溝	3.6×2.4	14.7	不明
9	78 39	有溝	4.7×2.8	14.1	不明
10	82 65	球状	5.2×4.4	44.9	不明
11	80 53	有溝	4.3×2.5	14.0	不明
12	住26	切目	2.8×2.6	6.6	不明

土製耳飾　DM

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1	穴222	滑車	1.6×1.5	5.9	中期？
2	穴348	滑車	5.2×4.0	12.6	後・晩
3	80 64	滑車	1.3×1.2	1.2	後・晩
4	85 53	滑車	1.6×1.5	4.1	中期？
5	80 56	滑車	7.0×6.6	5.5	晩期前
6	75 45	滑車	2.5×2.5	9.6	晩期中
7	81 66	滑車	2.2×2.1	8.3	後・晩
8	80 65	滑車	4.2	3.6	晩期中
9	82 45	滑車	3.6×3.4	9.3	後期後
10	80 68	滑車	7.6×7.2	13.1	後・晩
11	78 58	滑車	6.0×5.4	6.7	晩期中
12	表採	滑車	6.0×5.6	5.4	晩期前
13	87 50	滑車	3.0×2.8	2.7	晩期前
14	72 45	滑車	2.0×1.4	5.3	後・晩
15	92 43	滑車	6.4×5.6	5.3	後・晩
16	63 52	滑車	2.9×2.8	13.8	後・晩
17	71 67	滑車	2.5×2.3	9.8	後期？
18	60 50	滑車	2.5×1.5	1.5	後期？
19	表採	滑車	5.5×1.5	7.5	晩期中
20	74 41	滑車	2.7×2.5	5.0	後・晩
21	80 61	滑車	4.0×2.2	5.9	後・晩
22	83 67	滑車	2.7×2.0	9.1	後・晩
23	83 49	滑車	3.0×1.8	4.9	後・晩
24	77 64	滑車	4.0×1.2	16.9	後・晩
25	83 70	滑車	2.0×1.2	1.7	後・晩
26	83 61	滑車	1.8×1.6	1.7	後・晩
27	住28	滑車	2.5×2.5	6.5	後・晩

土製玉　DT

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
28	82 67	臼形	1.1×1.0	0.6	不明
29	80 67	臼形	1.1×1.1	0.7	不明
30	85 63	球状	0.7×0.6	0.2	不明
31	84 65	円錐	2.5×1.6	4.9	後期？
32	82 62	円錐	1.2×1.2	0.7	不明
33	73 44	環状	2.0×0.7	1.5	不明

不明土製品　DX

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
34	穴1372		4.6×3.8	45.8	後期？
35	穴300		6.6×4.5	97.2	後期？
36	穴738		6.3×3.7	43.5	不明
37	82　63		5.2×2.8	60.2	不明
38	80　61		1.4×2.7	5.1	不明
39	78　49		2.3×2.2	3.0	不明
40	穴401		2.4×3.0	5.8	不明
41	穴179		2.1×1.8	1.8	後期？
42	穴296		2.9×1.7	30.9	不明
43	83　67		4.3×2.4	26.6	不明
44	76　61		6.4×4.4	32.1	不明
45	83　64		7.7×3.8	84.9	不明
46	66　50		2.5×2.5	4.9	不明
47	表採		1.6×1.2		不明
48	表採		2.6×1.5	4.0	不明
49	85　47		4.1×2.3	24.1	不明
50	83　68		3.8×3.6	15.5	不明
51	74　39		4.4×3.8	31.1	不明
52	82　68		3.4×3.4	9.2	不明
53	86　63		3.1×1.7	9.0	不明
54	62　59		3.9×3.0	18.7	不明
55	64　53		3.6×3.4	14.0	不明
56	76　67		4.1×3.4	26.9	不明
57	70　76		4.0×0.3	1.0	不明

土版　DBA

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1	83　64		5.7×6.6	56.2	後・後

円盤状土製品表

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1	住22	円形	4.3×3.9	21.9	後期？
2	住21	円形	5.0×4.9	20.2	後期前
4	住20	円形	4.5×4.3	20.1	後後？
5	住21	隅丸	6.5×5.3	39.4	後期前
14	住21	正円	4.9×4.7	23.9	不明
24	住21	円形	4.5×4.3	12.5	後期前
26	住08	円形	4.4×4.1	18.5	不明
27	住21	円形	4.4×4.1	12.9	後期？
28	住20	隅丸	4.7×4.2	17.8	不明
35	住21	円形	4.4×4.2	13.6	後期
36	住14	円形	4.0×3.7	10.3	不明
39	住21	円形	4.6×3.9	18.5	不明
44	住21	円形	3.3×2.9	8.0	不明
45	住21	正円	3.7×3.6	10.8	不明
47	住21	正円	3.8×3.5	10.8	後期
54	住21	円形	4.0×3.6	11.3	不明
62	配石	円形	3.1×2.9	6.9	不明
64	住35	円形	3.2×2.9	5.1	後期
70	住21	正円	4.0×3.2	11.1	後期
71	住22	楕円	3.9×3.5	8.4	後期
74	住22	正円	3.2×2.9	11.5	不明
79	穴1173	円形	4.6×4.4	18.9	不明
80	穴1164	隅丸	4.7×4.1	18.6	不明
81	穴 989	円形	3.6×3.3	11.3	後期前
88	穴1026	円形	3.4×3.3	6.4	不明
91	穴 694	円形	6.1×5.4	31.3	後期前
94	穴 841	円形	5.1×4.7	24.9	不明
99	穴 445	隅丸	5.4×5.1	30.4	不明
101	穴 105	円形	5.1×4.9	23.4	後期後
102	穴 937	隅丸	4.7×4.0	17.5	後期後
104	穴1017	楕円	6.0×4.8	31.0	不明
106	穴1379	円形	6.4×5.8	31.2	不明
110	穴 863	円形	5.7×5.4	30.9	中期後
112	穴 631	円形	6.2×5.9	37.6	後期後
114	穴 258	正円	5.4×5.1	23.8	不明
125	穴 842	円形	4.7×4.2	22.9	不明
147	穴 138	円形	4.6×4.2	18.0	不明
156	住19	円形	4.4×3.7	16.3	不明
158	穴675a	正円	4.4×4.0	20.0	後期後
160	穴1383	円形	4.6×4.1	12.3	不明
161	穴 185	隅丸	5.2×4.4	18.8	不明
164	穴 145	円形	3.8×3.5	8.5	不明
170	穴 865	隅丸	4.2×3.5	13.6	不明
171	穴 672	円形	4.2×3.7	18.5	不明
172	穴 781	円形	2.4×2.2	3.7	不明
173	穴 847	円形	3.6×3.2	11.1	晩期？
181	穴 865	円形	2.7×2.5	6.7	不明
187	穴 771	正円	2.8×2.6	7.2	不明
191	穴 721	隅丸	3.4×3.0	7.7	不明
193	穴 637	円形	3.4×3.1	7.5	不明
200	穴1033	正円	3.6×3.4	11.0	後期前
208	住16	円形	4.1×3.8	12.1	後期？
210	穴　91	円形	3.4×3.2	8.9	不明
218	穴 164	円形	2.9×2.6	6.3	不明
220	穴 809	円形	3.5×3.1	7.6	不明
227	穴 424	円形	2.9×2.7	5.7	後期？
234	穴 685	円形	3.7×3.3	10.5	不明
243	穴 733	正円	3.7×3.5	12.2	不明
244	穴 296	円形	3.7×3.2	13.6	不明
249	穴 710	正円	3.9×3.5	13.0	不明
254	穴 694	円形	3.8×3.6	15.6	不明
262	穴 296	円形	3.7×3.5	12.9	不明
272	穴 694	円形	3.8×3.4	15.0	不明
277	穴 781	円形	3.8×3.5	11.7	不明
278	穴 781	円形	3.6×3.2	10.8	後期前
279	穴1348	正円	4.0×3.7	10.8	不明
281	穴 694	円形	4.4×4.1	16.3	後期後
284	穴 807	正円	3.7×3.7	16.8	不明
287	穴 676	隅丸	4.4×3.8	13.4	後期？
296	穴 613	正円	4.1×3.8	13.5	不明
301	穴 706	正円	3.6×3.2	10.3	不明
304	穴 738	円形	2.7×2.5	7.2	不明
309	穴 839	円形	3.2×3.0	9.3	後期前
310	穴 919	円形	2.7×2.4	4.5	不明
312	穴 696	円形	2.3×2.1	3.5	不明
319	穴 348	円形	2.3×2.1	3.8	不明
323	穴2003	円形	2.7×2.4	6.0	不明
325	穴 413	円形	3.1×2.9	9.7	不明
326	穴 768	隅丸	3.2×2.9	9.5	不明
330	穴 424	円形	2.7×2.5	5.6	不明
337	穴 296	隅丸	3.3×2.8	8.2	不明
345	穴 824	円形	2.7×2.5	6.2	不明
348	穴 377	正円	3.0×2.8	6.2	不明
353	穴 338	円形	3.5×3.1	9.5	不明
381	住23	円形	5.2×3.7	17.3	不明
384	住26	隅丸	3.3×3.0	10.8	不明
388	住16	円形	4.1×3.5	10.5	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
408	住21	円形	3.6×3.4	10.6	不明
410	住21	円形	3.6×3.3	8.1	不明
413	住21	円形	3.5×3.2	13.2	不明
417	住21	円形	2.9×2.7	5.7	不明
435	穴 546	円形	3.9×3.3	8.8	後期中
439	穴 144	正円	3.2×3.0	7.7	後期前
440	住30	円形	2.6×2.4	7.1	後期？
445	穴 771	円形	3.9×3.7	12.5	後期？
450	84-71	正円	3.5×3.2	10.2	中期後
454	94-43	正円	3.7×3.4	12.9	不明
461	71-43	正円	3.4×3.2	15.4	不明
467	86-65	正円	3.5×3.2	14.1	中期後
477	89-55	正円	3.6×3.3	11.1	不明
478	87-62	円形	3.9×3.5	12.5	後期後
494	83-63	不整	3.1×2.8	7.9	不明
498	71-43	円形	3.3×3.0	8.7	不明
499	84-64	正円	2.6×2.3	4.9	不明
500	93-45	正円	2.9×2.6	7.1	不明
509	配石	円形	3.3×2.8	7.8	不明
519	80-62	正円	2.9×2.7	5.7	不明
523	86-61	正円	3.0×2.8	7.7	不明
530	71-44	欠損	4.4×3.2	14.6	中期後
537	85-40	円形	3.0×2.8	5.8	不明
538	77-64	正円	3.6×3.3	12.4	不明
539	75-63	正円	3.1×2.8	8.3	中期末
540	74-75	正円	3.9×3.5	15.9	不明
541	83-47	正円	4.1×3.9	17.7	不明
542	90-45	正円	3.8×3.5	14.2	不明
551	84-62	正円	3.0×2.9	7.6	不明
567	79-64	正円	4.5×4.1	17.0	不明
585	83-67	円形	3.5×3.2	13.5	不明
600	83-68	正円	3.8×2.8	8.8	後期後
607	86-60	欠損	4.0×3.7	11.1	後期後
627	87-62	円形	3.3×3.0	9.2	後期？
629	81-69	円形	3.6×3.4	8.1	後期？
632	84-78	円形	4.0×3.6	10.9	不明
639	76-67	円形	3.3×2.9	9.2	後期？
649	83-63	正円	3.1×2.9	8.1	後期中
653	80-65	正円	3.1×2.8	10.5	不明
661	85-63	不整	3.7×2.7	7.6	不明
679	82-65	正円	4.2×3.8	13.9	不明
682	84-64	正方	4.0×3.3	10.6	後期後
696	88-62	正円	2.9×2.7	5.5	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
698	83-62	正円	3.9×3.7	13.4	不明
700	65-45	正円	2.9×2.7	5.0	不明
704	83-68	円形	4.0×3.4	18.2	不明
715	82-67	円形	3.0×2.7	5.6	不明
735	81-69	正円	2.7×2.5	7.0	不明
749	90-44	円形	3.2×2.9	10.3	不明
761	81-63	円形	3.8×3.4	10.3	不明
774	87-64	円形	3.4×3.1	11.8	不明
786	83-67	円形	2.7×2.5	4.8	晩期
788	73-79	正円	4.7×4.3	21.5	不明
791	71-43	円形	4.5×4.1	18.5	不明
792	73-44	正円	4.3×3.9	16.2	不明
802	82-44	隅丸	5.1×4.3	18.1	不明
809	65-43	円形	4.3×4.0	19.5	不明
816	88-62	円形	2.4×2.1	3.2	不明
819	83-65	正円	2.9×2.6	8.6	不明
820	65-43	正円	2.9×2.7	8.2	不明
822	85-64	円形	3.2×2.6	7.5	後期後
832	84-67	正円	3.6×3.3	9.3	不明
837	87-64	正円	3.6×3.1	7.3	不明
838	82-70	隅丸	4.0×3.0	10.7	不明
857	70-44	正円	5.1×4.9	20.2	不明
860	72-44	円形	4.8×4.2	22.3	不明
861	77-43	円形	4.3×3.6	13.1	不明
863	73-43	正円	4.4×4.1	15.9	不明
867	71-69	不整	2.6×2.4	5.0	不明
884	穴845	円形	3.9×3.6	19.1	不明
889	88-44	不整	4.5×3.8	18.0	不明
890	66-43	正円	3.2×3.1	9.1	不明
892	92-43	円形	3.2×2.9	5.8	後期後
899	90-43	正円	4.1×3.7	12.7	後期後
904	71-44	円形	4.1×3.6	13.0	不明
907	81-44	方形	3.9×3.3	10.1	不明
913	79-44	正円	3.8×3.5	16.1	不明
915	71-44	不整	4.5×3.7	17.9	後期前
917	70-44	円形	3.9×3.7	15.0	不明
921	69-44	円形	4.0×3.6	11.4	不明
923	79-44	円形	4.0×3.7	9.9	後期？
925	66-44	正円	3.6×3.3	10.5	不明
927	66-43	円形	3.2×2.9	8.3	不明
935	80-45	不整	4.3×3.7	17.0	不明
938	68-44	楕円	3.3×2.8	7.8	不明
941	75-43	円形	3.7×3.4	11.4	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
948	76-43	円形	3.9×3.6	14.1	不明
950	92-43	不整	5.3×4.6	18.9	不明
954	89-45	円形	4.5×4.0	18.4	不明
958	93-43	欠損	4.3×3.3	8.5	不明
976	82-65	円形	3.2×3.1	6.5	後期後
991	62-50	正円	2.3×2.2	4.0	不明
999	81-65	不整	3.5×3.0	8.3	不明
1000	81-67	円形	2.8×2.5	5.9	不明
1003	86-61	正円	3.5×3.2	7.6	晩期？
1009	81-65	円形	3.0×2.8	7.3	不明
1013	90-45	正円	3.3×3.0	10.9	不明
1016	80-44	楕円	3.6×3.0	10.9	不明
1017	75-44	正円	4.2×3.8	13.2	不明
1027	80-64	正円	3.8×3.6	12.4	不明
1028	83-61	円形	3.4×2.9	7.8	不明
1029	70-47	円形	4.0×3.8	12.7	不明
1034	80-43	円形	4.1×3.6	9.3	不明
1052	80-64	円形	2.5×2.3	5.5	不明
1058	81-63	正円	2.6×2.3	3.9	不明
1059	82-65	円形	2.9×2.7	6.0	後期
1061	65-45	楕円	4.3×3.2	15.4	晩期
1062	84-63	円形	3.4×3.0	6.9	不明
1063	93-43	円形	3.7×3.2	11.7	後期
1071	83-64	欠損	3.8×3.0	10.4	晩期
1076	75-43	不整	5.9×5.3	33.2	不明
1078	81-61	正方	3.8×3.7	13.5	不明
1090	80-62	円形	3.5×3.2	8.9	後期？
1092	58-62	円形	3.2×2.9	8.2	不明
1093	84-62	円形	3.7×3.4	13.4	不明
1094	66-61	円形	4.0×3.4	10.2	不明
1096	84-62	正円	4.0×3.6	13.0	不明
1101	84-60	不整	4.5×3.6	14.4	不明
1105	82-73	円形	2.8×2.6	5.4	中期後
1107	78-39	円形	4.1×3.9	17.1	不明
1109	65-61	円形	4.0×3.3	9.1	後期後
1111	73-38	円形	4.2×3.9	12.4	不明
1114	63-60	円形	5.2×4.7	24.3	不明
1118	85-70	円形	3.6×3.2	6.9	中期末
1123	77-61	楕円	4.6×3.8	13.8	不明
1124	83-60	正円	4.2×3.7	14.0	不明
1127	81-61	円形	5.3×4.8	21.0	不明
1128	76-72	円形	3.6×3.3	11.3	不明
1133	73-73	楕円	4.4×3.5	9.5	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1140	62-57	欠損	5.4×4.3	21.8	不明
1151	85-61	円形	4.5×4.3	14.2	不明
1152	74-77	隅丸	6.3×5.7	39.9	不明
1153	74-77	円形	5.6×4.8	30.5	不明
1156	84-69	円形	4.4×4.1	18.4	不明
1159	80-70	円形	5.4×4.9	43.4	不明
1160	75-78	円形	5.3×4.8	25.8	不明
1163	54-68	円形	4.7×4.3	20.9	不明
1164	86-68	円形	4.2×3.7	12.2	不明
1165	81-72	円形	4.2×3.8	15.9	中期後
1166	84-72	正方	4.0×3.6	16.3	不明
1167	80-79	円形	3.8×3.4	9.9	不明
1169	85-68	正円	3.6×3.2	14.5	不明
1172	80-70	円形	3.4×2.7	5.4	不明
1173	73-70	欠損	3.4×3.0	7.1	不明
1174	73-71	欠損	3.9×3.1	11.0	不明
1175	84-69	円形	3.5×3.2	11.3	不明
1179	70-37	方形	4.3×3.3	15.2	不明
1180	72-76	正円	3.7×3.3	11.3	不明
1182	81-72	欠損	4.8×4.0	21.0	不明
1190	85-68	円形	3.8×3.6	11.0	不明
1195	73-74	円形	3.6×3.2	11.0	不明
1196	73-71	円形	3.6×3.2	10.8	不明
1200	81-70	円形	4.7×4.2	14.3	不明
1202	73-72	円形	3.2×3.0	7.2	不明
1208	81-70	正円	5.0×4.5	19.6	不明
1209	78-71	正円	4.3×4.0	13.8	不明
1210	72-37	円形	4.4×4.0	17.4	不明
1211	76-68	円形	4.2×3.8	19.2	不明
1212	76-68	隅丸	6.8×5.7	35.8	不明
1215	77-72	欠損	5.0×4.8	19.4	不明
1216	83-68	正方	4.4×3.5	12.1	不明
1220	73-76	円形	3.6×3.2	9.2	不明
1221	71-71	円形	3.8×3.5	13.8	不明
1223	74-76	円形	3.1×2.8	8.2	不明
1225	80-70	隅丸	3.5×3.0	9.1	不明
1226	78-68	欠損	4.3×3.2	8.9	中期末
1230	74-72	円形	3.4×3.2	12.1	不明
1231	79-80	円形	3.9×3.6	12.2	不明
1232	83-70	正円	2.9×2.6	5.3	不明
1238	78-77	正円	6.0×5.6	37.8	不明
1241	66-49	円形	3.7×3.3	9.5	不明
1255	85-54	正円	2.9×2.7	5.0	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1259	90-47	円形	3.8×3.4	10.0	晩期中
1262	81-70	不整	4.6×4.1	19.6	不明
1266	63-52	正円	3.7×3.5	11.0	不明
1267	74-43	円形	3.7×3.2	11.0	不明
1272	62-50	正円	3.0×2.8	7.9	不明
1274	82-53	正円	3.2×3.0	7.3	不明
1275	88-52	隅丸	4.0×3.4	10.9	後期前
1277	78-69	正円	3.2×3.1	9.1	不明
1279	63-51	正円	3.6×3.4	15.9	不明
1285	66-49	不整	3.7×3.1	12.9	中期後
1286	87-51	円形	3.5×3.3	11.6	不明
1287	62-50	円形	4.1×3.6	11.9	中期中
1289	78-49	欠損	4.0×2.8	11.4	不明
1294	63-52	円形	3.7×3.4	10.3	不明
1296	72-38	円形	4.8×4.0	18.9	不明
1297	71-71	正円	4.4×3.9	13.7	不明
1298	83-52	正円	3.8×3.5	7.8	不明
1314	62-50	正円	3.9×3.8	18.9	不明
1315	60-51	正円	3.2×3.0	7.5	不明
1319	61-51	円形	3.8×3.4	12.0	不明
1320	85-48	円形	3.6×3.3	12.5	不明
1327	66-53	欠損	4.7×2.9	14.9	不明
1328	64-52	円形	3.3×3.0	8.4	不明
1331	67-50	円形	3.6×3.2	7.1	不明
1332	70-61	円形	3.7×3.3	11.6	後期
1335	65-53	円形	3.9×3.4	13.6	不明
1336	61-50	円形	3.3×3.0	6.6	不明
1338	56-79	正方	4.3×3.7	14.0	不明
1344	62-49	正円	2.9×2.6	6.2	不明
1346	70-51	円形	3.2×3.0	8.7	後期？
1347	82-51	円形	3.5×3.1	8.6	不明
1353	80-64	正円	2.9×2.7	7.0	後期後
1356	88-42	隅丸	3.8×3.2	13.9	不明
1359	84-64	円形	4.7×4.5	24.9	中期後
1360	58-60	円形	3.3×3.1	7.3	不明
1361	81-63	正円	4.6×4.2	12.0	不明
1363	81-61	円形	4.6×4.3	19.7	晩期中
1364	85-69	円形	3.6×3.3	9.9	中期後
1366	84-73	円形	3.9×3.5	10.6	不明
1369	85-61	正円	3.2×3.0	7.8	不明
1370	80-70	円形	3.1×2.6	8.7	不明
1374	71-60	円形	4.3×3.8	13.4	不明
1375	66-61	円形	4.6×3.9	11.4	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時　期
1376	81-63	不整	3.7×2.9	7.5	晩期前
1379	80-64	正円	2.9×2.7	7.5	不明
1382	87-60	欠損	4.6×3.3	15.4	不明
1383	82-62	欠損	4.0×3.4	13.9	不明
1385	70-73	円形	2.7×2.5	6.8	不明
1388	71-60	不整	4.6×3.7	20.0	不明
1393	61-60	不整	4.6×4.1	21.3	不明
1398	70-61	円形	3.0×2.7	6.3	不明
1415	63-60	欠損	4.0×2.5	7.9	不明
1420	79-70	不整	3.8×3.2	12.3	中期中
1423	61-60	正円	3.0×2.8	7.4	不明
1432	81-72	円形	3.5×3.2	8.6	不明
1433	87-64	円形	2.8×2.5	5.5	不明
1434	51-60	欠損	5.1×3.2	17.4	不明
1437	81-61	楕円	4.2×3.6	13.5	不明
1438	80-64	円形	3.7×3.4	8.4	不明
1439	85-64	欠損	4.4×4.0	11.8	後期後
1446	85-69	正円	2.8×2.6	6.7	不明
1451	69-64	円形	4.8×4.3	25.3	不明
1452	83-61	不整	5.2×4.3	24.1	後期
1454	81-63	不整	4.6×4.0	13.7	不明
1455	73-74	円形	3.5×2.7	11.0	不明
1457	86-61	円形	3.2×2.9	6.8	不明
1463	表採	正円	3.2×2.9	6.8	不明
1464	表採	正円	3.3×2.9	8.8	不明
1467	表採	円形	3.0×2.6	7.1	不明
1470	表採	正円	3.7×3.2	10.7	不明
1472	表採	円形	5.2×4.4	28.1	不明
1479	表採	円形	4.1×3.6	11.7	不明
1482	表採	円形	4.3×3.9	11.0	不明
1492	表採	正円	3.3×3.1	10.6	不明
1494	表採	不整	4.2×3.6	12.8	不明
1496	表採	欠損	3.8×2.8	8.7	不明
1497	表採	正円	3.7×3.5	14.4	中期中
1499	表採	欠損	4.3×3.1	14.2	不明
1502	表採	正方	3.8×3.4	9.0	不明
1507	表採	欠損	3.9×3.1	8.0	不明
1514	表採	正方	4.2×3.5	15.4	後期？
1517	表採	円形	4.0×3.6	10.3	不明
1524	表採	円形	3.3×3.0	6.1	不明
1525	表採	円形	3.1×2.8	6.2	不明
1526	表採	円形	4.3×3.9	12.3	不明
1528	表採	円形	3.7×3.4	10.5	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時 期
1533	表採	円形	3.8×3.6	8.9	不明
1535	表採	円形	3.6×3.3	10.1	中期後
1537	表採	円形	4.2×3.6	16.9	不明
1544	表採	円形	3.3×2.8	7.6	不明
1557	表採	円形	4.4×4.1	20.3	後期
1559	表採	楕円	3.9×3.3	9.9	不明
1560	表採	方形	4.6×3.9	14.4	不明
1561	表採	正方	3.8×3.4	12.3	不明
1564	表採	不整	4.0×3.5	17.8	不明
1570	表採	円形	3.6×3.2	9.0	不明
1577	表採	正円	3.4×3.2	10.5	不明
1583	表採	正円	2.6×2.5	4.9	不明
1585	表採	円形	3.3×3.0	8.9	不明
1593	表採	正円	3.3×3.0	10.3	不明
1594	表採	円形	3.8×3.4	10.6	後期
1598	表採	円形	3.1×2.7	7.1	不明
1600	表採	円形	4.0×3.5	11.4	不明
1601	表採	正円	2.8×2.6	5.5	不明
1606	表採	正円	2.9×2.7	8.0	不明
1612	表採	円形	3.5×3.0	9.9	不明
1623	表採	正円	3.8×3.6	11.0	不明
1636	表採	正円	4.1×3.7	15.1	不明
1637	表採	正方	3.1×2.9	7.4	不明
1641	表採	円形	3.1×2.7	8.1	不明
1652	表採	円形	2.9×2.6	5.4	中期中
1659	表採	正円	2.6×2.3	3.3	不明
1671	表採	円形	3.0×2.8	5.8	不明
1674	表採	円形	3.1×2.8	6.5	不明
1686	表採	円形	3.8×3.3	11.2	後期後
1688	表採	円形	3.1×2.6	4.2	後期？
1701	表採	円形	5.4×4.8	24.7	不明
1702	表採	円形	5.3×4.7	19.6	不明
1704	表採	欠損	5.9×5.3	23.3	不明
1705	表採	正円	5.4×5.1	29.1	不明
1713	表採	正円	4.6×4.3	15.8	後期？
1714	表採	欠損	6.9×4.8	33.9	中期中
1715	表採	円形	4.4×3.9	16.0	不明
1727	表採	楕円	4.8×4.0	16.6	後期？
1734	表採	正円	4.6×4.2	17.3	中期中
1736	表採	円形	5.6×4.9	25.6	不明
1738	表採	円形	4.3×3.7	18.1	後期
1741	表採	不整	4.6×4.0	18.1	不明
1755	表採	欠損	4.8×4.2	22.4	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時 期
1757	表採	正円	5.1×4.5	23.8	不明
1764	表採	正円	4.6×4.2	27.3	不明
1766	表採	欠損	5.1×3.4	14.9	不明
1767	表採	正円	4.8×4.4	17.2	不明
1769	表採	正方	4.3×3.8	19.5	不明
1773	表採	方形	5.0×4.4	29.3	不明
1774	表採	円形	5.1×4.8	30.1	不明
1775	表採	隅丸	5.4×4.6	22.5	不明
1776	表採	円形	5.2×4.7	29.8	不明
1777	表採	隅丸	5.2×4.1	23.9	不明
1778	表採	正円	4.4×4.1	20.0	不明
1786	表採	円形	5.8×5.5	41.7	不明
1790	表採	円形	4.5×4.1	16.4	不明
1792	表採	正円	4.8×4.4	34.4	中期中
1798	表採	円形	4.9×4.3	18.4	不明
1800	表採	正円	4.8×4.6	17.0	不明
1805	87-49	正方	4.2×3.7	12.4	不明
1806	63-50	楕円	4.2×3.7	15.1	不明
1810	66-49	正円	4.2×3.7	14.5	不明
1811	89-50	正円	3.9×3.5	10.0	不明
1820	81-52	円形	4.1×3.7	11.7	不明
1825	89-50	円形	4.4×3.9	13.7	晩期中
1827	56-67	不整	3.6×3.0	8.3	不明
1834	83-65	円形	3.8×3.4	12.5	不明
1836	66-49	円形	4.1×3.6	11.8	不明
1837	66-47	方形	4.4×3.4	14.5	不明
1839	66-49	正円	3.6×3.5	11.9	不明
1842	63-50	円形	4.1×3.9	17.5	中期中
1843	82-64	円形	4.3×3.9	14.5	不明
1844	85-67	不整	4.0×3.4	11.8	不明
1847	79-67	円形	4.3×3.9	18.9	後期？
1852	64-49	円形	5.0×4.5	18.2	後期？
1855	81-52	正円	4.2×3.9	19.1	不明
1859	89-51	正円	5.1×4.4	26.5	不明
1863	86-50	正円	5.1×4.7	25.3	不明
1869	66-50	円形	4.2×4.0	14.2	中期中
1871	72-49	円形	4.9×4.2	21.0	不明
1872	85-50	不整	5.0×4.4	17.2	後期？
1873	60-52	正円	4.6×4.4	18.0	不明
1874	63-51	円形	4.7×4.1	24.3	不明
1875	66-53	正円	4.3×3.9	17.9	不明
1876	66-51	方形	4.8×3.4	19.3	不明
1877	63-52	正円	5.1×4.7	23.2	不明

番号	出土区	形状	規　模	重さ	時 期
1879	45-53	円形	5.1×4.6	26.4	不明
1880	64-51	正円	4.8×4.1	17.6	不明
1881	75-52	正円	4.7×4.3	20.5	不明
1884	82-52	正円	4.9×4.5	29.6	不明
1885	69-49	正円	6.2×5.6	40.7	不明
1886	66-50	隅丸	6.4×5.5	36.5	不明
1901	83-47	楕円	3.1×2.7	7.8	不明
1912	77-67	正円	3.6×3.4	12.8	不明
1919	86-66	円形	2.9×2.5	5.0	後期後
1924	83-67	正円	4.1×3.9	17.9	不明
1929	65-50	正円	4.3×4.0	17.1	不明
1934	90-47	正円	4.6×4.4	17.4	不明
1936	65-50	正円	4.7×4.1	13.2	不明
1937	85-65	方形	4.7×3.9	18.4	後期？
1938	72-65	正円	4.7×4.3	14.0	不明
1939	78-66	不整	4.9×4.2	22.0	不明
1940	77-65	不整	5.7×4.5	25.6	後期初
1941	81-66	円形	5.0×4.3	21.1	中期後
1943	76-66	不整	5.7×5.0	31.8	不明
1949	78-65	円形	5.3×4.7	21.8	不明
1955	82-67	円形	5.3×4.7	30.3	晩期？
1967	80-66	正円	4.5×4.3	18.9	不明
1968	85-66	正円	5.3×5.1	22.7	晩期？
1974	55-67	円形	2.6×2.4	5.1	不明
1975	80-66	正円	2.6×2.4	5.7	不明
1983	86-67	欠損	3.6×3.2	8.6	不明
1985	82-64	円形	4.3×3.6	13.2	後期
1988	81-65	円形	4.7×3.8	16.6	不明
1991	77-65	不整	4.1×3.5	15.5	不明
1998	82-66	正方	4.4×3.8	12.2	不明
2000	78-67	円形	4.1×3.6	15.3	後期
2001	75-66	円形	3.5×3.1	10.8	不明
2011	81-54	円形	3.7×3.5	11.6	不明
2013	87-58	正円	3.3×3.1	10.9	後期後
2018	84-59	方形	3.9×3.1	9.4	不明
2025	67-57	円形	4.2×3.8	12.3	後期？
2031	66-57	円形	3.8×3.3	12.2	不明
2036	81-59	円形	3.6×2.7	9.9	不明
2038	87-59	正円	3.2×3.0	9.8	不明
2044	80-58	円形	3.6×3.1	10.8	不明
2047	61-54	正円	3.4×3.3	10.4	不明
2051	84-59	正円	2.9×2.7	7.6	不明
2071	86-56	円形	3.9×3.8	14.5	不明

番号	出土区	形状	規模	重さ	時期
2072	86-56	隅丸	3.7×2.9	7.5	不明
2075	65-55	円形	3.6×3.5	10.5	不明
2077	64-54	正方	4.1×3.6	16.1	不明
2079	84-56	円形	4.2×4.0	15.2	不明
2080	85-54	正円	4.2×4.1	19.2	晩期？
2081	78-57	方形	4.4×3.7	13.5	不明
2084	66-57	円形	3.4×3.4	7.0	不明
2085	67-44	円形	5.0×5.0	23.9	不明
2086	86-42	隅丸	4.9×4.3	16.4	後期？
2093	71-44	円形	4.5×4.3	21.3	不明
2095	67-43	不整	3.9×3.5	20.5	中期？
2112	63-50	隅丸	3.5×2.9	15.8	不明
2120	住21	円形	3.0×2.6	5.8	不明
2138	76-61	円形	3.5×3.3	8.9	不明
2143	86-48	楕円	3.4×3.0	12.0	不明
2146	84-73	正円	3.0×2.7	7.8	不明
2163	65-48	正円	3.7×3.1	11.3	不明
2166	63-60	正円	3.2×2.8	11.2	不明
2167	70-48	円形	2.7×2.5	6.2	不明
2177	78-54	円形	2.5×2.3	3.9	後期
2182	63-59	円形	2.9×2.4	7.7	後期
2193	80-76	正円	3.0×2.6	5.7	不明
2198	68-40	円形	3.2×2.9	5.7	不明
2216	84-53	円形	3.0×2.7	5.8	不明
2222	73-73	正円	3.1×2.9	10.9	不明
2223	79-47	円形	2.9×2.6	5.4	後期後
2225	84-53	正円	3.9×3.6	3.1	不明
2226	80-54	円形	3.0×2.7	6.3	不明
2227	74-40	不整	4.6×4.1	21.5	不明
2230	83-61	正円	3.9×3.7	13.7	不明
2231	71-75	円形	3.4×3.1	8.0	不明
2244	62-50	正円	3.5×3.2	10.3	不明
2245	70-44	正円	2.4×2.3	3.9	不明
2250	65-45	正円	4.2×3.7	18.5	不明
2256	68-45	正円	2.8×2.8	8.1	不明
2266	92-46	正円	4.3×4.0	11.3	後期
2267	43-46	正円	3.2×2.9	7.4	不明
2277	91-46	円形	3.1×2.8	5.2	不明
2301	64-46	正円	3.3×3.1	10.8	不明
2303	91-46	円形	3.8×3.7	14.3	不明
2306	65-46	正円	4.2×4.0	16.5	後期
2311	66-46	円形	3.1×2.9	5.4	不明
2332	65-46	不整	4.3×3.3	11.1	不明

番号	出土区	形状	規模	重さ	時期
2335	90-46	円形	3.8×3.3	10.0	後期前
2357	71-45	円形	3.7×3.4	12.4	不明
2362	70-45	正円	4.7×4.6	21.9	不明
2365	79-45	正円	4.9×4.6	33.0	中期中
2367	66-45	正円	4.2×4.1	15.6	不明
2372	64-45	円形	4.5×4.3	24.9	不明
2381	80-46	円形	4.0×3.7	17.2	不明
2382	63-46	円形	4.2×4.0	16.0	不明
2383	72-46	正円	4.7×4.2	13.6	不明
2384	67-45	円形	4.9×4.3	22.3	後期
2395	90-45	正円	4.6×4.4	19.6	晩期？
2396	83-46	正円	5.7×5.4	37.0	不明
2397	88-46	円形	5.0×4.8	22.5	晩期？
2405	78-40	円形	5.0×4.3	19.8	不明
2408	75-40	円形	5.1×4.4	24.3	不明
2410	71-43	不整	5.1×4.4	27.8	不明
2413	87-43	円形	6.0×5.6	34.7	不明
2418	69-41	円形	5.0×4.6	21.1	不明
2419	69-43	方形	5.1×3.9	15.6	不明
2421	78-48	不整	4.8×4.2	13.7	不明
2425	77-48	正円	4.2×4.0	11.0	不明
2426	65-48	方形	5.8×4.3	32.0	不明
2429	62-48	不整	4.8×3.9	14.2	不明
2431	72-48	方形	4.7×3.2	14.1	不明
2435	74-47	楕円	4.1×3.6	15.5	後期
2453	86-48	正円	4.8×4.5	18.1	不明
2454	61-48	不整	4.7×4.2	18.1	不明
2456	81-47	欠損	5.1×4.4	34.8	不明
2503	91-43	正円	4.4×4.1	17.5	後期？
2510	69-46	不整	3.7×3.3	12.1	不明
2522	67-50	正円	4.3×4.1	12.6	不明
2529	表採	円形	4.3×4.2	19.6	後期後
2544	73-47	円形	3.5×3.2	10.6	不明
2553	77-47	円形	2.8×2.9	6.1	不明
2554	63-47	円形	3.2×2.9	3.8	不明
2555	65-47	円形	3.3×3.1	9.8	不明
2556	71-47	円形	3.5×3.2	10.4	不明
2561	62-47	正円	3.2×2.9	10.7	不明
2568	86-48	正円	4.9×3.8	17.6	不明
2573	91-47	円形	3.1×2.8	6.5	不明
2581	63-50	円形	3.2×2.6	9.3	不明
2582	68-47	円形	3.1×3.0	7.3	不明
2583	64-48	円形	3.3×3.1	7.4	中期末

番号	出土区	形状	規模	重さ	時期
2584	71-49	正円	3.4×3.2	10.7	不明
2587	66-50	円形	3.8×3.6	13.3	不明
2588	79-75	円形	3.5×3.3	13.2	不明
2593	64-48	正円	3.7×3.5	14.2	不明
2605	87-48	円形	3.1×2.7	5.1	晩期中
2615	68-48	円形	3.2×2.9	10.1	不明
2625	79-42	円形	3.6×3.3	11.0	不明
2629	70-48	円形	3.2×3.1	9.0	不明
2641	74-57	円形	3.2×2.8	6.7	不明
2643	83-54	円形	2.5×2.4	5.0	不明
2648	87-59	不整	6.0×5.1	39.4	不明
2650	71-56	円形	4.6×4.5	20.7	不明
2657	82-57	円形	4.4×4.0	22.0	後期？
2660	67-57	円形	4.2×4.0	15.7	不明
2661	84-56	円形	4.3×4.0	17.1	不明
2662	71-56	隅丸	5.0×3.9	24.9	不明
2663	80-56	正円	4.6×4.1	14.7	後期後
2664	63-54	円形	4.4×4.1	18.8	不明
2667	80-58	円形	4.6×4.2	18.9	不明
2668	77-54	円形	5.0×4.6	23.8	不明
2674	85-55	欠損	4.9×4.4	21.7	不明
2679	87-58	正円	4.1×3.5	15.7	不明
2683	76-53	円形	4.7×4.3	17.7	不明
2686	88-56	隅丸	4.4×3.9	20.1	中期末
2689	84-56	円形	4.1×3.9	18.3	不明
2690	67-57	欠損	4.3×3.3	10.8	不明
2691	73-58	円形	4.1×3.9	14.8	後期後
2698	83-53	方形	4.3×3.1	11.4	不明
2699	85-55	円形	3.8×3.4	11.4	不明
2700	70-55	楕円	4.3×3.8	14.0	不明
2705	76-58	欠損	3.6×3.3	11.1	後期後
2711	56-58	円形	3.6×3.2	12.0	不明
2712	85-58	正円	3.1×2.8	6.0	後期後
2731	70-40	円形	4.5×4.1	17.3	不明
2733	70-40	円形	3.7×3.5	11.2	不明
2758	89-42	円形	3.8×3.7	12.2	不明
2803	住26	円形	4.3×3.7	12.2	不明

有孔球状土製品表　DKU

番号	出土区	形状	規模	重さ	時期
1	穴1125	下膨	6.5×3.5×1.0	90.0	晩期？
3	穴1316	下膨	4.9×3.0×0.8	59.1	晩期？
4	穴987	紡錘	5.5×2.7×1.0	63.0	後期？
5	穴1173	紡錘	7.1×2.6×0.8	53.3	後期
6	穴1307	下膨	6.4×4.1×0.7	1167	後期？
7	穴1378	紡錘	6.7×2.4	41.8	後期？
9	穴1371	下膨	4.3×3.0×1.1	40.3	晩期？
10	穴771	紡錘	3.5×5.2×0.8	71.8	晩期？
11	穴401	紡錘	7.5×6.0×1.0	210.	後期
12	配 石	球形	3.1×5.3×1.0	39.2	後期
13	穴140	紡錘	7.4×3.3×0.9	107.	後期？
14	穴548	紡錘	4.3×2.6×0.8	31.0	後期？
15	穴1359	紡錘	4.2×3.4×1.1	26.4	後期
16	住05	球形	6.0×4.1×1.1	78.3	晩期？
17	穴440	下膨	4.4×7.7×9-8	190.	晩期？
18	穴331	紡錘	7.6×6.4×1.1	234.	後期？
19	穴1032	球形	1.6×3.0	10.9	後・晩
20	穴326	紡錘	2.8×2.6×0.6	17.7	不明
21	配 石	紡錘	5.1×3.5×1.1	43.9	後期？
22	穴543	紡錘	6.1×2.8×1.2	35.6	後期？
23	穴139?	角形	4.9×6.4	118.	後期？
24	91　47	下膨	3.8×5.2×0.7	72.0	晩期？
25	83　54	下膨	4.9×2.2×0.7	153.	晩期？
26	89　51	紡錘	5.7×3.0×0.8	90.0	後期？
27	80　66	下球	4.4×2.6	39.0	晩期？
28	81　63	下膨	6.2×3.6	80.0	晩期？
29	81　67	下球	4.8×3.4×0.7	64.0	晩期？
30	81　55	紡錘	6.2×2.3×0.8	52.0	後期？
31	93　47	球形	6.3×3.7×0.7	138.	晩期？
32	88　52	下膨	6.6×4.4×1.0	113.	晩期？
33	82　66	下膨	3.5×3.2×1.0	32.0	晩期？
34	82　65	下膨	3.4×4.3×0.7	42.0	晩期？
35	85　64	紡錘	4.3×2.4×1.2	40.0	後期
36	88　63	下膨	4.7×3.3×0.8	49.0	晩期？
37	81　61	下膨	3.3×4.5×1.0	50.0	晩期？
38	90　43	角形	3.6×3.5×1.0	35.0	晩期？
39	72　37	下球	3.2×3.3	18.0	晩期？
40	90　49	下球	2.9×2.8	12.0	晩期？
41	96　47	下球	3.1×2.3	37.0	晩期？
42	88　48	球形	4.9×4.1×0.7	90.0	晩期？
43	91　48	球形	3.7×3.7	73.0	晩期？
44	88　52	角形	3.6×2.8×1.0	32.0	晩期？
45	75　71	紡錘	6.1×2.9×1.1	50.0	後期？
46	86　49	下膨	3.9×2.9	42.0	晩期？
47	90　43	球形	6.1×4.9×1.2	142.	晩期？
48	80　52	球形	5.0×7.3×1-11	284.	晩期
49	84　68	下膨	6.7×7.1×0.6	208.	晩期
50	80　59	下膨	7.8×6.5×1.0	218.	晩期？
51	84　47	下膨	7.9×5.3×0.8	213.	晩期
52	87　48	下球	6.7×5.1	228.	晩期
53	88　48	下膨	6.6×4.0×0.6	129.	晩期？
54	55　67	角形	6.0×3.2×0.8	110.	晩期
55	84　65	下膨	8.1×6.6×0.8	135.	晩期？
56	84　52	角形	4.4×3.5×0.6	68.0	晩期？
57	88　59	球形	5.1×3.6×1.0	71.0	晩期
59	82　49	球形	5.9×3.2×1.0	83.0	後期？
60	93　43	下膨	7.4×7.0×0.6	345.	晩期？
61	86　63	球形	5.4×3.5×1.0	70.0	後期？
62	87　49	下膨	6.6×7.8×0.6	255.	晩期？
63	71　56	下球	4.2×3.4	49.0	晩期？
64	88　52	下球	5.6×4.1×1.0	70.0	晩期？
65	87　59	紡錘	7.4×2.6×1.0	52.0	後期
66	88　48	下膨	2.9×4.5×0.6	40.0	晩期
67	81　63	下球	4.8×2.1	38.0	晩期
68	84　67	算盤	5.2×2.5×1.4	32.0	後期
69	85　75	下球	5.2×2.7	43.0	晩期？
70	80　52	下膨	4.1×3.4×1.0	40.0	晩期？
71	81　63	下膨	4.5×3.9×1.0	40.0	晩期？
72	76　62	下膨	4.1×3.7×1.0	48.0	晩期
73	82　48	紡錘	5.5×2.5×0.8	52.0	晩期？
74	91　46	下膨	4.7×4.2×0.6	48.0	晩期？
75	84　67	紡錘	4.4×2.6×1.0	42.0	後期
76	85　58	下球	5.0×2.7	39.0	晩期？
77	79　79	紡錘	4.2×2.8×0.8	31.0	後期？
78	83　65	下膨	3.7×2.8×1.0	22.0	晩期？
79	81　39	紡錘	4.5×2.5×1.2	32.0	後期？
80	83　50	下膨	3.7×2.6×1.4	28.0	晩期？
81	77　47	下球	3.4×2.2	23.0	晩期？
82	88　46	下球	3.7×2.7	33.0	晩期？
83	72　45	下膨	3.3×2.6×0.6	21.0	後期
84	82　68	下球	3.0×1.7	19.0	晩期？
85	75　64	紡錘	4.7×3.0×0.6	33.0	後期
86	81　65	下球	3.5×2.4×1.0	12.0	後期
89	78　52	下膨	9.1×9.3×1.2	591.	晩期？
90	92　43	下膨	7.3×5.0×1.1	109.	晩期？
91	86　46	下膨	4.9×7.2×0.5	159.	晩期？
92	93　42	下球	5.5×4.5×0.8	199.	晩期？
93	90　43	下膨	5.3×4.2×0.6	98.0	晩期？
94	88　50	下膨	6.9×5.9×0.6	379.	晩期？
95	88　48	下膨	5.4×4.3×1.6	102.	晩期？
96	88　55	下膨	5.8×4.6×1.2	105.	晩期？
97	87　57	球形	7.8×7.5×7-9	402.	晩期？
98	86　51	球形	9.1×4.1×1.1	182.	晩期？
99	84　53	紡錘	7.2×3.5×0.9	83.0	後期？
100	72　40	角形	6.3×4.1×0.8	129.	晩期？
101	92　43	球形	7.0×3.6×1.1	145.	晩期？
102	84　62	球形	3.3×3.1×0.6	32.0	晩期？
103	88　46	球形	6.4×2.8×0.8	83.0	晩期？
104	92　45	下膨	5.3×4.3×0.8	112.	晩期？
105	84　49	算盤	7.0×4.1×1.0	100.	晩期？
106	83　67	球形	8.2×4.0×0.8	138.	晩期？
107	86　46	下膨	3.3×2.8×0.8	22.0	晩期？
108	87　50	下球	3.1×2.3×0.7	11.0	晩期？
109	89　42	下膨	5.7×3.5×1.0	80.0	晩期？
110	86　48	算盤	6.2×3.7×1.0	84.0	晩期？
111	88　45	球形	7.0×3.1×0.9	94.0	晩期？
112	77　51	紡錘	6.0×2.4×0.6	46.0	晩期？
113	81　67	下膨	3.9×3.1×0.8	48.0	晩期？
114	80　51	下球	4.1×3.2×1.0	45.0	晩期？
115	89　44	紡錘	3.1×2.3×0.9	20.0	後期？
116	93　47	球形	6.6×3.5×0.6	85.0	晩期？
117	86　44	下膨	5.7×3.5×0.8	102.	晩期？
118	84　62	下球	3.2×2.6×1.0	18.0	後期？
119	88　45	下球	4.6×3.2×0.9	53.0	晩期？
120	86　48	下膨	4.4×3.5×1.0	62.0	晩期？
121	89　56	下膨	5.8×9.2×1.2	276.	晩期？
122	90　43	球形	8.0×4.5×0.6	204.	晩期？
123	91　42	下膨	5.4×6.5×0.5	171.	晩期？
124	92　44	下膨	5.5×5.0×0.7	138.	晩期？
125	87　61	球形	7.8×4.5	112.	晩期？
126	86　46	下膨	4.3×4.8×1.0	110.	晩期？
127	87　49	紡錘	6.5×3.1×1.2	81.0	後期？
128	92　43	下膨	4.0×4.2×0.6	68.0	晩期？
129	82　66	球形	4.5×3.6×1.0	74.0	晩期？
130	88　39	算盤	3.9×3.7×1.0	50.0	後期
131	90　43	下膨	6.6×4.0×1.2	100.	晩期？

番号	出土区	形状	規模	重さ	時期
132	75 58	紡錘	7.4×6.5×0.9	248.	後期？
133	85 49	算盤	7.0×6.3×1.2	229.	後期？
134	87 61	下膨	4.9×4.9×0.6	130.	晩期？
135	83 70	下膨	5.3×6.6×1.2	179.	晩期？
136	86 48	球形	5.6×6.0×1.0	158.	晩期？
137	72 77	下膨	6.1×6.9×1.0	200.	晩期？
138	91 47	下膨	8.2×6.2×0.7	345.	晩期？
139	82 68	紡錘	6.8×2.4×1.0	35.0	後期
140	91 45	球形	6.7×4.5×1.0	172.	晩期？
141	84 45	球形	7.5×3.9×0.8	121.	後期？
142	91 43	球形	7.7×4.3×0.5	184.	晩期？
143	93 43	球形	6.2×3.9×0.6	113.	晩期？
144	81 67	下膨	7.6×5.0×1.2	240.	晩期？
145	91 47	球形	7.3×5.6×0.8	375.	晩期？
146	81 56	角形	6.5×5.8×1.0	222.	後期？
147	90 43	球形	7.5×5.5×0.5	278.	晩期？
148	89 45	算盤	5.3×3.5×0.6	87.0	後期？
149	87 61	下膨	4.2×6.4×0.7	100.	晩期？
150	88 52	下膨	5.6×9.5×0.6	190.	晩期？
151	92 46	下膨	3.5×8.0×0.6	98.0	晩期？
152	76 69	算盤	5.7×6.3×1.2	185	後期？
153	88 45	球形	6.0×4.5×0.6	99.0	晩期？
154	91 44	下膨	5.7×4.0×1.0	73.0	晩期？
155	73 72	紡錘	6.7×4.3×1.2	138	晩期？
156	87 60	球形	5.3×3.4×1.0	79.0	晩期？
157	85 45	下膨	3.7×4.5×1.4	94.0	晩期？
158	93 44	下膨	4.5×5.7×0.8	61.0	晩期？
159	86 43	下球	3.5×4.1	29.0	晩期？
160	91 47	下球	3.4×3.4	35.0	晩期？
161	66 44	紡錘	5.9×5.6×1.1	125.	後期？
162	90 43	下球	3.8×3.3×1.0	41.0	晩期？
163	81 65	紡錘	5.4×2.8×1.2	46.0	後期後
164	85 64	球形	3.3×3.2×1.4	42.0	晩期？
165	83 63	下膨	4.5×2.5×1.4	39.0	後期？
166	93 43	下球	3.1×2.7	21.0	晩期？
167	85 64	紡錘	4.2×2.4×1.0	20.0	後期？
168	84 60	下膨	4.1×3.0	41.0	晩期
169	85 62	下球	4.3×3.3×0.8	37.7	晩期？
170	85 41	紡錘	3.0×5.0×1.0	29.9	後期
171	92 41	下膨	5.1×2.6	39.1	晩期？
172	87 55	紡錘	5.8×2.6×1.2	32.9	後期？
173	80 65	下膨	1.7×2.3×0.8	7.3	晩期？
174	83 67	紡錘	4.4×2.3×0.8	17.6	後期？
175	85 69	下膨	3,7×2.2	21.0	晩期？
176	86 44	紡錘	9.6×4.9×1.0	190.	後期
177	72 42	下球	5.8×2.8	47.7	晩期？
178	82 68	下膨	3.2×4.1×0.8	47.7	晩期？
179	72 42	下膨	6.4×4.2×0.6	125.	晩期？
180	93 44	下膨	4.4×3.8×1.2	49.7	晩期？
181	83 68	下球	4.3×3.0	48.8	晩期？
182	91 49	下膨	8.7×9.9×11-15	812.	晩期？
183	83 54	紡錘	7.1×6.2×12-13	244.	後期
184	83 71	紡錘	8.7×5.3×14-15	253.	後期？
185	85 56	下膨	7.6×9.0×0.7	412.	晩期？
186	91 42	球形	7.8×3.7×0.8	80.6	晩期？
187	93 43	下膨	7.4×5.1×0.8	232.	晩期？
188	84 65	下膨	8.0×7.9×0.8	519.	晩期？
189	78 47	算盤	6.5×5.9×1.0	69.7	後期
190	85 65	下膨	3.5×3.7×0.8	50.6	晩期？
191	64 68	下球	3.1×3.2×0.8	26.3	晩期？
192	81 67	下球	4.3×3.3×0.8	29.3	晩期？
193	90 48	下球	3.9×3.3×0.9	30.7	晩期？
194	91 49	下球	3.1×3.3×0.8	21.0	晩期？
195	84 66	下膨	5.6×4.0×0.9	38.8	後期
196	92 47	下球	4.8×3.0	35.6	晩期？
197	91 43	下膨	4.6×3.3×0.9	50.5	晩期？
198	92 43	下膨	4.4×1.5	25.8	晩期？
199	94 43	下球	5.1×2.2	46.9	晩期？
200	93 44	下膨	3.0×1.5	16.4	晩期？
201	75 41	紡錘	3.8×2.4×0.7	21.1	後期？
202	93 45	紡錘	3.4×2.2×0.8	24.3	晩期？
203	表	下膨	5.3×4.9×1.2	58.5	晩期？
204	表	下膨	5.6×3.2×0.6	73.7	晩期？
205	表	球形	6.8×4.6×0.6	53.1	晩期？
206	表	下球	3.3×3.0×1.2	21.4	晩期
207	表	紡錘	4.1×3.0×1.0	47.7	晩期
208	表	下膨	6.5×3.7×1.0	78.3	晩期？
209	表	下膨	4.8×3.6×1.4	68.4	晩期
210	表	下膨	5.3×3.6×1.2	88.5	晩期？
211	表	下膨	4.1×2.9×2.4	30.4	晩期？
212	表	下膨	4.4×2.4×1.2	28.5	後期？
213	表	下球	3.5×2.9×1.2	25.3	晩期？
214	表	紡錘	4.9×2.2×0.4	29.5	後期？
215	表	下球	2.6×1.8	17.0	晩期？
216	表	下膨	2.0×3.2×0.8	15.2	後期？
217	表	下球	4.1×2.1	26.1	後期？
218	表	紡錘	2.7×2.0	13.2	後期
219	86 47	下膨	6.2×4.2×0.6	120.	晩期？
220	79 62	下膨	4.1×2.4×1.6	29.0	後期？
221	83 64	下球	5.9×3.7×1.0	84.0	晩期？
222	82 67	下膨	4.7×3.2×1.6	56.0	晩期？
223	82 64	紡錘	4.7×3.8×1.0	31.0	後期？
224	表採	下膨	3.7×2.9×1.0	38.0	不明

胎土分析一覧表　境A遺跡・縄文時代

No	出土区	時代	他
1	表採	中期中葉	深鉢 前半
2	表採	中期中葉	深鉢 前半
3	68-73	中期中葉	深鉢 前半
4	71-78	中期中葉	深鉢 中頃
5	65-46	中期中葉	深鉢 前半
6	72-75	中期中葉	深鉢 中頃
7	56-65	中期中葉	深鉢 中頃
8	66-50	中期中葉	深鉢 後半
9	64-52	中期中葉	深鉢 後半
10	73-77	中期中葉	深鉢 後半
11	62-52	中期中葉	深鉢 後半
12	住22	中期中葉	深鉢 後半
13	64-51	中期中葉	深鉢 中頃
14	71-77	中期中葉	616 深鉢 後半
15	表採	中期中葉	410 深鉢 後半
16	71-77	中期中葉	浅鉢 後半
17	71-76	中期中葉	浅鉢 中頃
18	72-76	中期中葉	浅鉢 中頃
19	75-76	中期中葉	浅鉢 中頃
20	70-71	中期中葉	有孔鍔付 中頃？
21	70-75	中期中葉	有孔鍔付 中頃？
22	64-51	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
23	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
24	78-75	中期中葉	511 深鉢 後半 新潟系
25	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
26	74-73	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
27	63-51	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
28	73-74	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
29	65-46	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
30	62-53	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
31	70-64	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
32	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
33	65-50	中期中葉	64 図63-3 写68 写展20 深鉢 後半 新潟系
34	66-50	中期中葉	480 図64-2 実65 深鉢 後半 新潟系
35	53-51	中期中葉	深鉢 後半 曽利系
36	73-76	中期中葉	533 深鉢 後半 曽利系
37	表採	中期中葉	深鉢 後半 曽利系
38	70-75	中期中葉	深鉢 後半 曽利系
39	71-74	中期中葉	529 527 図47-10 深鉢 後半 曽利系
40	71-73	中期中葉	32 図20-6 写109 写展19 深鉢 後半 曽利系
41	72-77	中期中葉	263 図47-9 写281 深鉢 後半 曽利系
42	74-75	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
43	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
44	65-47	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b？
45	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
46	73-78	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b？
47	71-43	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
48	63-53	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
49	68-45	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
50	64-47	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木8b
51	73-75	中期中葉	544 図47-6 深鉢 後半 新潟系 大木8b？
52	住20	中期中葉	炉 421 図23 実65 深鉢 後半 新潟系 大木8b
53	66-50	中期中葉	22 図64-1 写229 写展73 深鉢 後半 新潟系8b
55	75-75	中期中葉	423 図47-7 実45 深鉢 後半 新潟系 大木8b？
56	住20	中期中葉	1 図20-1 写179 写展29 深鉢 後半 新潟系大木8b？
57	住19	中期中葉	294 図5-6 写243 深鉢 後半 新潟系 大木8b？
58	65-50	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
59	53-67	中期中葉	565 深鉢 後半 新潟系
60	70-76	中期中葉	1 深鉢 後半 新潟系
61	74-77	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
62	58-66	中期中葉	集石 61 図25 深鉢 後半 新潟系？ 大木8b
63	72-43	後期前葉	配石 深鉢 堀之内Ⅰ
64	75-40	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
65	85-55	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
66	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
71	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
72	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
73	74-60	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
74	住21	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
75	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
76	73-45	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
77	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
78	73-40	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
79	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
80	住33	後期前葉	炉 470 図24-5 写31 深鉢 新潟系 三十稲場
81	73-44	後期前葉	深鉢 気屋？
82	表採	後期前葉	深鉢 気屋？
83	70-43	後期前葉	深鉢 気屋？
85	72-44	後期前葉	深鉢 気屋
86	住21	後期前葉	深鉢 気屋
87	住21	後期前葉	浅鉢？ 気屋
88	住21	後期前葉	深鉢 気屋
89	75-31	後期前葉	深鉢 気屋
90	68-45	後期前葉	浅鉢？ 気屋
91	55-68	後期前葉	深鉢 気屋

No	出土区	時 代	他
92	表採	後期前葉	615 深鉢 気屋
93	表採	後期前葉	深鉢 気屋
94	69-43	後期前葉	深鉢 気屋
95	表採	後期前葉	深鉢 気屋
96	79-41	後期前葉	深鉢 気屋
97	70-44	後期前葉	深鉢 気屋
98	住21	後期前葉	深鉢 気屋
99	住21	後期前葉	深鉢 気屋
100	表採	後期前葉	図64-1 深鉢 気屋
101	表採	後期後葉	652 図70-2 新潟系深鉢 コブ付Ⅱ
102	62-60	後期中葉	図188-38 西日本系
103	83-50	晩期中葉	図73-11 大洞系浅鉢 中屋 C1
104	77-47	後期後葉	635 図69-6 井口
107	84-68	晩期中葉	435 図74-5 新潟系 下野
108	84-68	晩期中葉	697 図68-10 大洞系 下野
109	87-54	晩期中葉	条痕 深鉢 下野
110	表採	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋 BC
111	99-44	晩期中葉	広口壺 中屋 C1
112	85-61	晩期中葉	大洞系深鉢 下野 在地的
114	87-53	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋
115	82-55	晩期中葉	大洞系浅鉢 中屋 C1
117	86-51	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋 BC
118	表採	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋
119	83-53	晩期中葉	新潟系深鉢 下野
120	表採	晩期中葉	在地浅鉢 中屋
121	表採	晩期中葉	在地浅鉢 中屋 C1
122	表採	晩期中葉	在地深鉢 中屋 C1
123	表採	晩期中葉	在地深鉢 中屋～下野
130	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
131	表採	後期中葉	注口 加曽利B前半
132	表採	後期中葉	注口 加曽利B前半
133	表採	後期中葉	鉢 加曽利BⅡ 新潟
134	住21	後期中葉	深鉢 加曽利B後半～コブ
135	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
136	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半 ?
137	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
138	83-70	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
139	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
140	表採	後期中葉	深鉢 加曽利B前半
141	表採	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
148	表採	後期中葉	浅鉢 加曽利B前半
156	表採	後期後葉	深鉢？ 井口
157	表採	後期後葉	深鉢 井口

No	出土区	時 代	他
158	表採	後期後葉	深鉢 井口
159	表採	後期後葉	注口 コブⅠ
160	表採	後期後葉	注口 コブⅠ
161	80-66	後期後葉	注口 コブⅠ
162	表採	後期後葉	壺 コブⅠ
163	表採	後期後葉	壺 コブⅠ
164	70-43	後期後葉	注口 コブⅠ
165	表採	後期後葉	深鉢 コブⅠ
166	表採	後期後葉	深鉢 井口
167	表採	後期末葉	浅鉢 八日市新保
168	表採	後期末葉	深鉢 八日市新保
169	表採	後期後葉	深鉢 井口 東海系
170	表採	後期後葉	深鉢 コブⅡ
171	77-67	後期後葉	深鉢 コブⅡ
172	表採	後期後葉	深鉢 コブⅡ
173	74-73	後期後葉	深鉢 コブⅡ

馬場山D遺跡・縄文時代

No	出土区	時 代	他
177	38-44	中期前葉	深鉢
178	45-40	中期前葉	深鉢
179	穴49	中期前葉	深鉢

馬場山F遺跡・縄文時代

No	出土区	時 代	他
180	16-61	中期前葉	深鉢

馬場山G遺跡・縄文時代

No	出土区	時 代	他
181	住2	中期前葉	深鉢
182	穴74	中期前葉	深鉢
183	24-26	中期前葉	深鉢

馬場山H遺跡・縄文時代

No	出土区	時 代	他
184	G区	中期前葉	深鉢
185	H区	中期前葉	深鉢

境A遺跡・製塩土器

No	出土区	時 代	他
186	建物近	平安時代	製塩土器
187	町道	平安時代	拡幅 16 製塩土器

境A遺跡・土師器

No	出土区	時　代	他
188	建物近	古墳~平安	杯身
189	50-67	古墳~平安	かめ
190	82-63	古墳~平安	かめ

境A遺跡・須恵器

No	出土区	時　代	他
191	56-61	古墳~平安	杯身
192	56-49	古墳~平安	P5　かめ

境A遺跡・珠洲

No	出土区	時　代	他
194	35-77	中世	スリバチ　珠洲Ⅲ~Ⅳ

境A遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
196	表採	後期後葉	図159-24図159-25安行Ⅰ近似
200	表採	晩期中葉	図241-41　下野　大洞系

表「他」項目の中の数字・図No他は、土器編の図版頁と土器番号を示す。例、480図64-2は、土器実測No480番、土器編図64頁の2番の土器を示す。件の写No、展Noは、土器の写真・展開図Noを示している。

胎土分析一覧表　境A遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
1	表採	中期中葉	深鉢 前半
2	表採	中期中葉	深鉢 前半
3	68-73	中期中葉	深鉢 前半
4	71-78	中期中葉	深鉢 中頃
5	65-46	中期中葉	深鉢 前半
6	72-75	中期中葉	深鉢 中頃
7	56-65	中期中葉	深鉢 中頃
8	66-50	中期中葉	深鉢 後半
9	64-52	中期中葉	深鉢 後半
10	73-77	中期中葉	深鉢 後半
11	62-52	中期中葉	深鉢 後半
12	住22	中期中葉	深鉢 後半
13	64-51	中期中葉	深鉢 中頃
14	71-77	中期中葉	616 深鉢 後半
15	表採	中期中葉	410 深鉢 後半
16	71-77	中期中葉	浅鉢 後半
17	71-76	中期中葉	浅鉢 中頃
18	72-76	中期中葉	浅鉢 中頃
19	75-76	中期中葉	浅鉢 中頃
20	70-71	中期中葉	有孔鍔付 中頃？
21	70-75	中期中葉	有孔鍔付 中頃？
22	64-51	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
23	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
24	78-75	中期中葉	511 深鉢 後半 新潟系
25	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
26	74-73	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
27	63-51	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
28	73-74	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
29	65-46	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
30	62-53	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
31	70-64	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
32	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系？ 曽利系？
33	65-50	中期中葉	64 図63-3 写68 写展20 深鉢 後半 新潟系
34	66-50	中期中葉	480 図64-2 実65 深鉢 後半 新潟系
35	53-51	中期中葉	深鉢 後半 曽利系
36	73-76	中期中葉	533 深鉢 後半 曽利系
37	表採	中期中葉	深鉢 後半 曽利系
38	70-75	中期中葉	深鉢 後半 曽利系
39	71-74	中期中葉	529 527 図47-10 深鉢 後半 曽利系
40	71-73	中期中葉	32 図20-6 写109 写展19 深鉢 後半 曽利系
41	72-77	中期中葉	263 図47-9 写281 深鉢 後半 曽利系
42	74-75	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b

No	出土区	時　代	他
43	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b
44	65-47	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b？
45	表採	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b
46	73-78	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b？
47	71-43	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b
48	63-53	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b
49	68-45	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b
50	64-47	中期中葉	深鉢 後半 新潟系 大木８b
51	73-75	中期中葉	544 図47-6 深鉢 後半 新潟系 大木８b？
52	住20	中期中葉	炉 421 図23 実65 深鉢 後半 新潟系 大木８b
53	66-50	中期中葉	22 図64-1 写229 写展73 深鉢 後半 新潟系８b
54	住20	中期中葉	21 図20-2 写84 写展10 深鉢 後半 新潟系８b？
55	75-75	中期中葉	423 図47-7 実45 深鉢 後半 新潟系 大木８b？
56	住20	中期中葉	1 図20-1 写179 写展29 深鉢 後半 新潟系８b？
57	住19	中期中葉	294 図5-6 写243 深鉢 後半 新潟系 大木８b？
58	65-50	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
59	53-67	中期中葉	565 深鉢 後半 新潟系
60	70-76	中期中葉	1 深鉢 後半 新潟系
61	74-77	中期中葉	深鉢 後半 新潟系
62	58-66	中期中葉	集石 61 図25 深鉢 後半 新潟系？ 大木８b
63	72-43	後期前葉	配石 深鉢 堀之内Ⅰ
64	75-40	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
65	85-55	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
66	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
67	71-44	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
68	76-63	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅱ？
69	住21	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
70	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
71	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
72	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
73	74-60	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
74	住21	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
75	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
76	73-45	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
77	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ？
78	73-40	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
79	表採	後期前葉	深鉢 堀之内Ⅰ
80	住33	後期前葉	炉 470 図24-5 写31 深鉢 新潟系 三十稲場
81	73-44	後期前葉	深鉢 気屋？
82	表採	後期前葉	深鉢 気屋？
83	70-43	後期前葉	深鉢 気屋？
84	表採	後期前葉	深鉢 気屋
85	72-44	後期前葉	深鉢 気屋

No	出土区	時　代	他
86	住21	後期前葉	深鉢 気屋
87	住21	後期前葉	浅鉢？ 気屋
88	住21	後期前葉	深鉢 気屋
89	75-31	後期前葉	深鉢 気屋
90	68-45	後期前葉	浅鉢？ 気屋
91	55-68	後期前葉	深鉢 気屋
92	表採	後期前葉	615 深鉢 気屋
93	表採	後期前葉	深鉢 気屋
94	69-43	後期前葉	深鉢 気屋
95	表採	後期前葉	深鉢 気屋
96	79-41	後期前葉	深鉢 気屋
97	70-44	後期前葉	深鉢 気屋
98	住21	後期前葉	深鉢 気屋
99	住21	後期前葉	深鉢 気屋
100	表採	後期前葉	図64-1 深鉢 気屋
101	表採	後期後葉	652 図70-2 新潟系深鉢 コブ付II
102	62-60	後期中葉	図188-38 西日本系
103	83-50	晩期中葉	図73-11 大洞系浅鉢 中屋 C1
104	77-47	後期後葉	635 図69-6 井口
105	76-38	後期後葉	634 図75-4 井口
106	表採	晩期中葉	図243-8 大洞系壺 下野
107	84-68	晩期中葉	435 図74-5 新潟系 下野
108	84-68	晩期中葉	697 図68-10 大洞系 下野
109	87-54	晩期中葉	条痕 深鉢 下野
110	表採	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋 BC
111	99-44	晩期中葉	広口壺 中屋 C1
112	85-61	晩期中葉	大洞系深鉢 下野 在地的
113	表採	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋 BC
114	87-53	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋
115	82-55	晩期中葉	大洞系浅鉢 中屋 C1
116	82-69	晩期中葉	在地系壺 中屋
117	86-51	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋 BC
118	表採	晩期中葉	大洞系深鉢 中屋
119	83-53	晩期中葉	新潟系深鉢 下野
120	表採	晩期中葉	在地浅鉢 中屋
121	表採	晩期中葉	在地浅鉢 中屋 C1
122	表採	晩期中葉	在地深鉢 中屋 C1
123	表採	晩期中葉	在地深鉢 中屋～下野
124	表採	晩期中葉	浅鉢 中屋
125	表採	晩期中葉	深鉢 中屋 BC
126	表採	晩期中葉	深鉢 中屋 C1
127	82-48	晩期中葉	深鉢 中屋
128	表採	晩期中葉	浅鉢 中屋

No	出土区	時　代	他
129	表採	後期中葉	鉢 加曽利B後半～コブ
130	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
131	表採	後期中葉	注口 加曽利B前半
132	表採	後期中葉	注口 加曽利B前半
133	表採	後期中葉	鉢 加曽利BII 新潟
134	住21	後期中葉	深鉢 加曽利B後半～コブ
135	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
136	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半 ？
137	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
138	83-70	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
139	表採	後期中葉	在地深鉢 加曽利B前半
140	表採	後期中葉	深鉢 加曽利B前半
141	表採	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
142	表採	後期中葉	東日本系注口 加曽利B後半
143	表採	後期中葉	深鉢 加曽利B前半
144	表採	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
145	85-68	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
146	75-40	後期中葉	西日本系注口 加曽利B後半
147	表採	後期中葉	深鉢 加曽利B前半
148	表採	後期中葉	浅鉢 加曽利B前半
150	表採	後期中葉	深鉢 加曽利B前半
151	表採	後期後葉	注口 コブI
152	表採	後期後葉	浅鉢 井口
153	表採	後期後葉	注口 コブI 井口
154	表採	後期後葉	注口 井口
155	表採	後期後葉	注口 井口
156	表採	後期後葉	深鉢？ 井口
157	表採	後期後葉	深鉢 井口
158	表採	後期後葉	深鉢 井口
159	表採	後期後葉	注口 コブI
160	表採	後期後葉	注口 コブI
161	80-66	後期後葉	注口 コブI
162	表採	後期後葉	壺 コブI
163	表採	後期後葉	壺 コブI
164	70-43	後期後葉	注口 コブI
165	表採	後期後葉	深鉢 コブI
166	表採	後期後葉	深鉢 井口
167	表採	後期末葉	浅鉢 八日市新保
168	表採	後期末葉	深鉢 八日市新保
169	表採	後期後葉	深鉢 井口 東海系
170	表採	後期後葉	深鉢 コブII
171	77-67	後期後葉	深鉢 コブII
172	表採	後期後葉	深鉢 コブII

No	出土区	時　代	他
173	74-73	後期後葉	深鉢 コブII
174	表採	後期後葉	注口 コブIII 東北系
175	表採	後期後葉	深鉢 コブIII
176	74-73	後期後葉	深鉢 コブIII 新潟系

馬場山D遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
177	38-44	中期前葉	深鉢
178	45-40	中期前葉	深鉢
179	穴49	中期前葉	深鉢

馬場山F遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
180	16-61	中期前葉	深鉢

馬場山G遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
181	住2	中期前葉	深鉢
182	穴74	中期前葉	深鉢
183	24-26	中期前葉	深鉢

馬場山H遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
184	G区	中期前葉	深鉢
185	H区	中期前葉	深鉢

境A遺跡・製塩土器

No	出土区	時　代	他
186	建物近	平安時代	製塩土器
187	町道	平安時代	拡幅 16 製塩土器

境A遺跡・土師器

No	出土区	時　代	他
188	建物近	古墳~平安	杯身
189	50-67	古墳~平安	かめ
190	82-63	古墳~平安	かめ

境A遺跡・須恵器

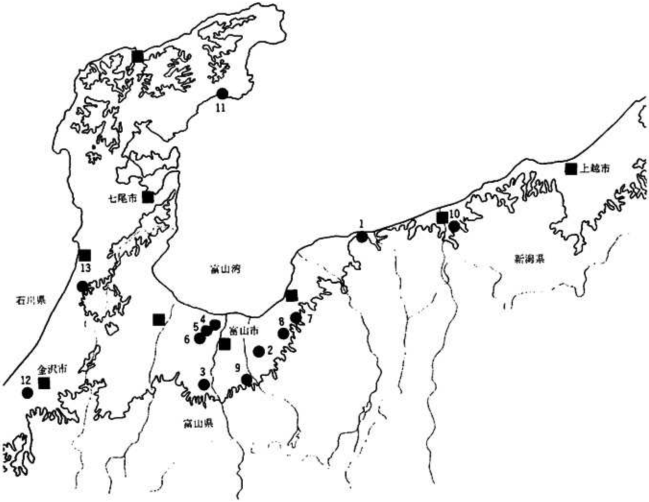
No	出土区	時　代	他
191	56-61	古墳~平安	杯身
192	56-49	古墳~平安	P5 かめ

境A遺跡・珠洲

No	出土区	時　代	他
193	34-80	中世	スリバチ 珠洲III～IV
194	35-77	中世	スリバチ 珠洲III～IV

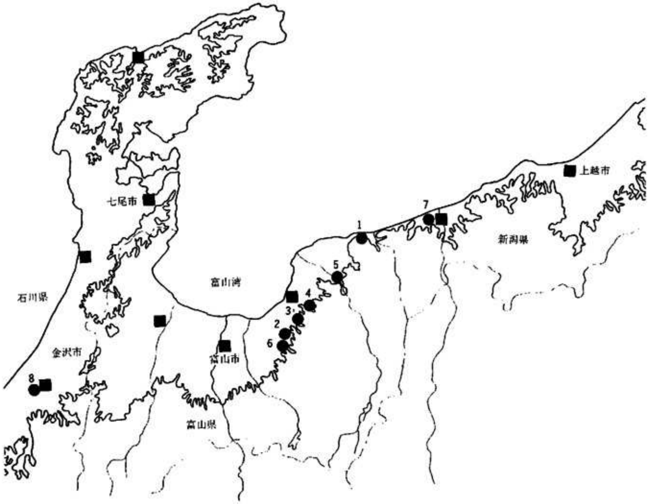
境A遺跡・縄文時代

No	出土区	時　代	他
195	81-72	後期後葉	図159-7 東海系
196	表採	後期後葉	図159-24図159-25安行I 似たもの
197	91-51	後期後葉	図159-28 安行I
198		晩期中葉	図241-29 下野 新潟系 大洞
199	77-44	晩期前葉	図240-23 注口 大洞B 大洞系
200	表採	晩期中葉	図241-41 下野 大洞系
202	84-60	晩期前葉	大洞B 図201-27 に似る 大洞系
203	表採	晩期前葉	図195-36 大洞B 大洞系 玉抱三叉文
204	84-69	後期後葉	図159-10 東海系



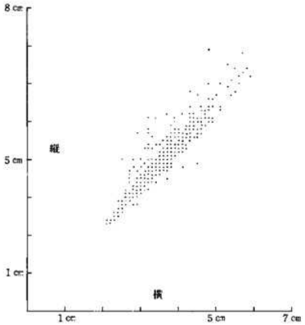
番号	遺跡名	点数
1	境A	57
2	二ッ塚	24
3	長山	49
4	北代	22
5	追分茶屋	10
6	古沢	32
7	早川上野	13
8	本江・広野新	12
9	東黒牧	
10	長者ヶ原	
11	真脇	10
12	御経塚	77
13	上田うまばち	11

第11図　富山県および隣県の土偶出土主要遺跡（上段：分布図、下段：一覧表、10点以上）

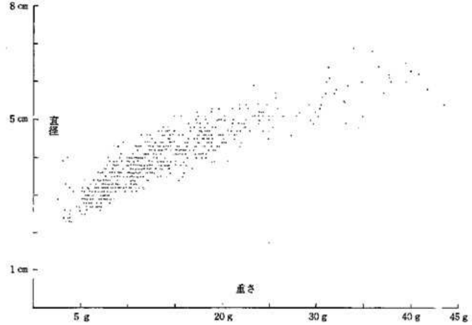


番号	遺跡名	点数
1	境A	224
2	本江・広野新	10
3	早月上野	14
4	石垣	7
5	愛本新	17
6	丸山	7
7	寺地	18
8	米泉	24

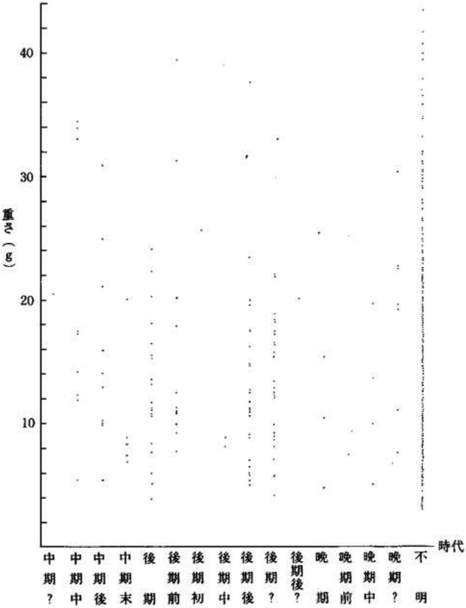
第12図　富山県および隣県の有孔球状土製品出土主要遺跡
（上段：分布図、下段：一覧表、５点以上）



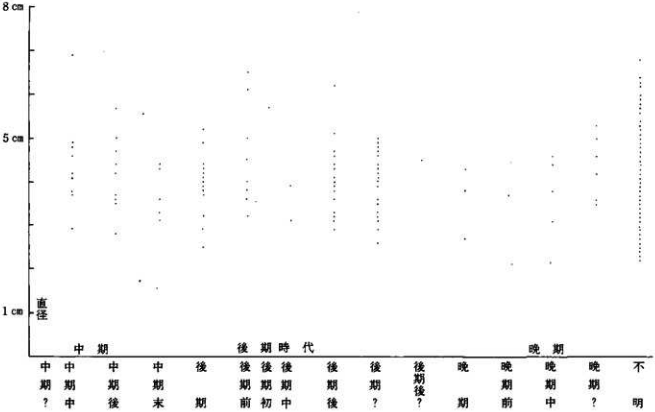
第13図　土製円盤の大きさ



第14図　土製円盤の直径と重さ

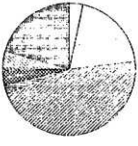


第15図　土製円盤の時代と重さ

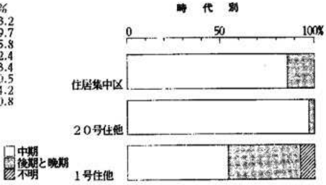


第16図　土製円盤の時代と直径

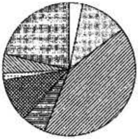
西側調査区全体



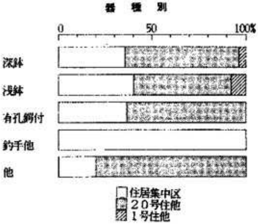
項目名	1個	%
戴正寺式	12	3.2
上山他式	75	19.7
古府式	174	45.8
プレ串他新	9	2.4
串他新式	13	3.4
岩くら野式	2	0.5
気屋式	16	4.2
他	79	20.8
合計値	380	



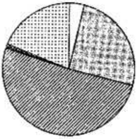
住居集中区



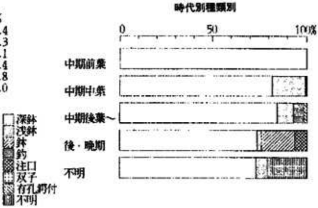
項目名	1個	%
戴正寺式	4	3.2
上山田式	14	11.4
古府式	51	41.5
プレ串田新	7	5.7
串田新式	13	10.6
岩くら野式	2	1.6
気屋式	6	4.9
他	26	21.1
合計値	123	



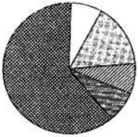
20号住居跡他



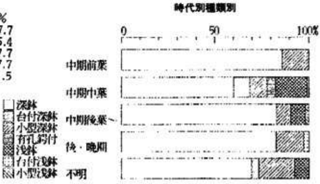
項目名	1個	%
戴正寺式	8	3.4
上山田式	60	25.3
古府式	121	51.1
プレ串田新	1	0.4
気屋式	2	0.8
他	45	19.0
合計値	237	



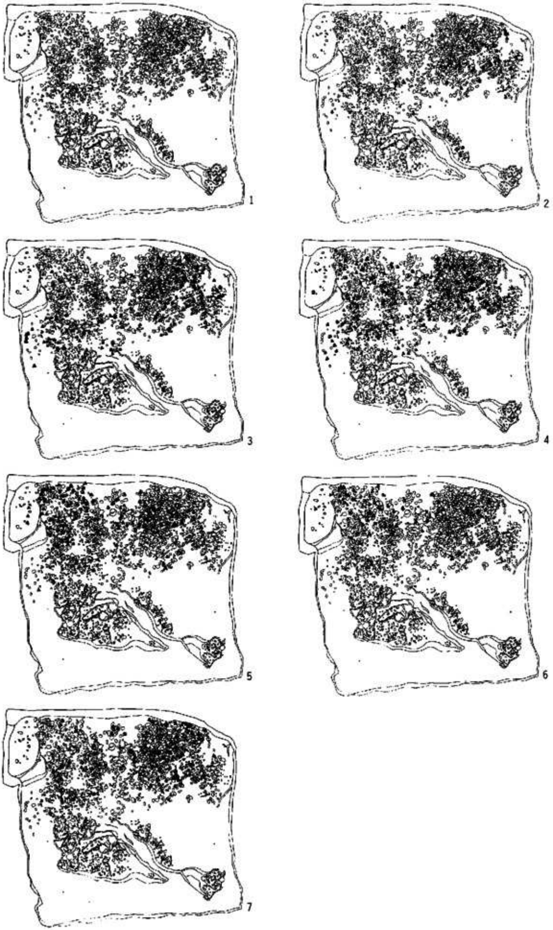
1号住居跡他



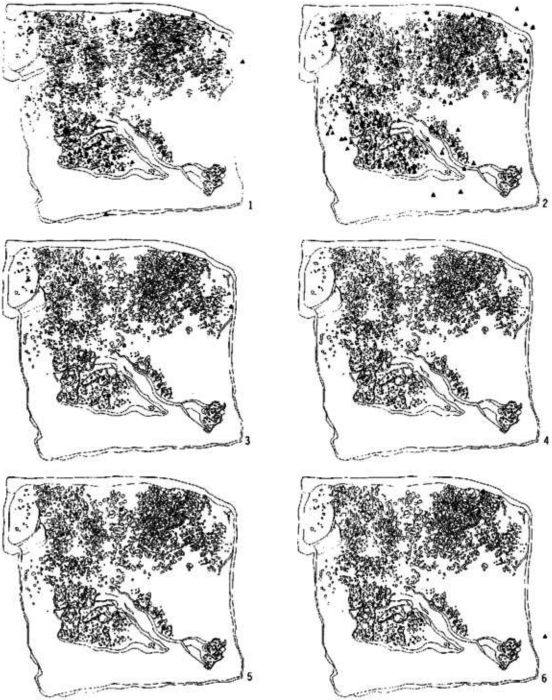
項目名	1個	%
上山田式	1	7.7
古府式	2	15.4
プレ串田新	1	7.7
気屋式	1	7.7
他	8	61.5
合計値	13	



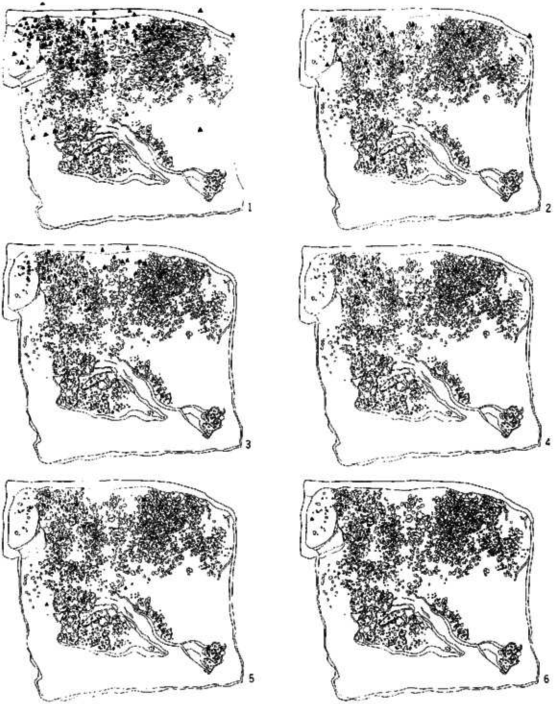
第19図　土器の出土状況等



第20図　土器の時期別分布図　1．前期～後期、前期～晩期　2．中期　3．中期～後期
（出土土器より）4．後期　5．後期～晩期　6．晩期　7．中期～晩期



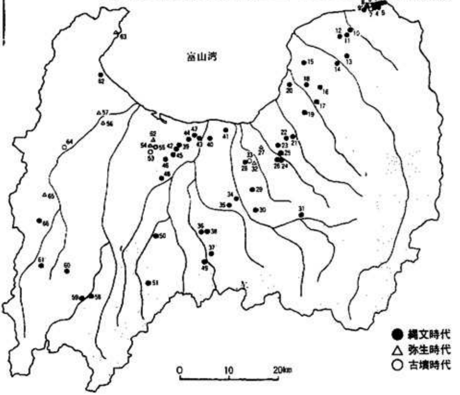
第21図 円盤状土製品の形による出土状況図 1．正円形 2．円形 3．隅丸方形
4．楕円形 5．方形 6．正方形



第22図　有孔球状土製品出土状況図　1．全体　2．紡錘形　3．球形
4．下膨形　5．角形　6．算盤形

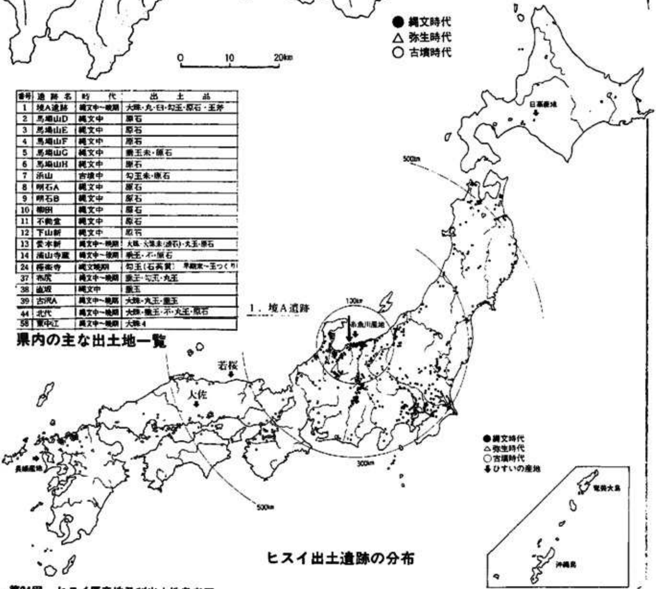
第23図　土製品出土状況図　1．土製有孔円盤　2．土製耳飾　3．土製玉　4．土錘
5．土版　6．土偶　7．不明土製品

県内のヒスイ及び大珠出土遺跡分布図



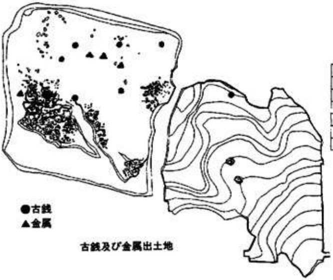
番号	遺跡名	時代	出土品
1	境A遺跡	縄文中～晩期	大珠・丸・臼・勾玉・原石・玉斧
2	馬場山D	縄文中	原石
3	馬場山E	縄文中	原石
4	馬場山F	縄文中	原石
5	馬場山G	縄文中	垂玉未・原石
6	馬場山H	縄文中	原石
7	浜山	古墳中	勾玉未・原石
8	明石A	縄文中	原石
9	明石B	縄文中	原石
10	柳田	縄文中	原石
11	不動堂	縄文中	原石
12	下山新	縄文中	原石
13	愛本新	縄文中～晩期	大珠・大珠未(原石)・丸玉・原石
14	浦山寺蔵	縄文中～後期	垂玉・不・原石
24	極楽寺	縄文晩期	勾玉(石英質)　早期末～玉つくり
37	布尻	縄文中～晩期	垂玉・勾玉・丸玉
38	直坂	縄文中	垂玉
39	古沢A	縄文中～晩期	大珠・丸玉・垂玉
44	北代	縄文中～晩期	大珠・垂玉・不・丸玉・原石
58	東中江	縄文中～晩期	大珠4

県内の主な出土地一覧



ヒスイ出土遺跡の分布

第24図　ヒスイ原産地及び出土地参考図
（1987年図録ひすいより加筆修正）

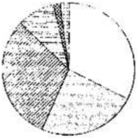


古銭及び金属出土地

境A遺跡出土古銭一覧

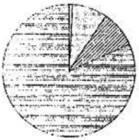
	名　称	出土区	製造紀年度	場　所　他
1	開元通宝	X71Y46	621年と845年	唐鋳銭有
2	祥符通宝	X83Y68	1008年	北宋鋳銭有
3	政和通宝	水　洗	1111年	宋
4	洪武通宝	X83Y77	1368年	明模鋳銭有
5	文久永宝	X82Y52	1863年	日本文久3年
6	寛永通宝	各地区12枚	1636年	日本明正より

種類別



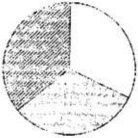
項目名	1個	%
アンギン	41	32.0
スダレ編み	31	24.2
アジロ編み	39	30.5
織物?	12	9.4
葉	2	1.6
不明	3	2.3
合計値	128	

遺構別種類別

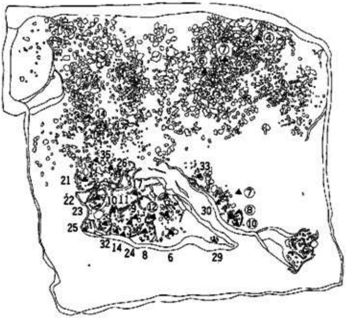


項目名	1個	%
住居跡	1	0.7
穴	12	8.7
集中区	12	8.7
XY他	113	81.9
合計値	138	

遺構別底部



項目名	1個	%
アンギン	7	31.8
スダレ	7	31.8
アジロ編み	8	36.4
合計値	22	



第25図　（上）古銭出土地　（中）土器圧痕分類　（下）考古地磁気測定地

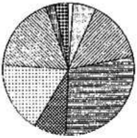
境 A 遺 跡 出 土 石 器

第1号住

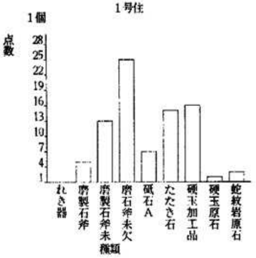
1れき器1　2磨製石斧5　3磨製石斧未製品13　4磨製石斧未欠損25

5砥石A7　6たたき石15　7硬玉加工品16　8硬玉原石2　9蛇紋岩原石3

合計　87



項目名	1個	%
れき器	1	1.2
磨製石斧	5	5.8
磨石斧未	13	15.0
磨石斧未欠	25	28.7
砥石A	7	8.0
たたき石	15	17.2
硬玉加工品	16	18.4
硬玉原石	2	2.3
蛇紋岩原石	3	3.4
合計値	87	

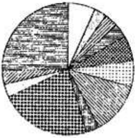


第2号住居跡

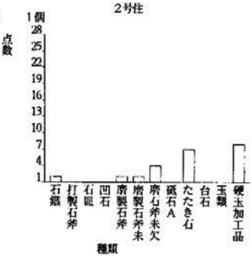
1石鏃2　2打製石斧1　3石皿1　4凹石1　5磨製石斧2　6磨製石斧未成品2

7磨製石斧未欠損4　8砥石A1　9たたき石7　10台石1　11玉類1

12硬玉加工品8　合計31



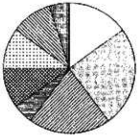
項目名	1個	%
石鏃	2	6.5
打製石斧	1	3.2
石皿	1	3.2
凹石	1	3.2
磨製石斧	2	6.5
磨石斧未	2	6.5
磨石斧未欠	4	12.9
砥石A	1	3.2
たたき石	7	22.6
台石	1	3.2
玉類	1	3.2
硬玉加工品	8	25.8
合計値	31	



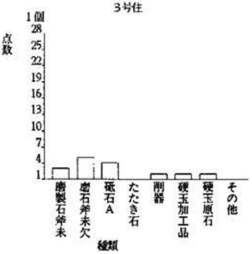
第3号住居跡

1磨製石斧未成品3　2磨製石斧欠損品5　3砥石A4　4たたき石1　5削器2

6硬玉加工品2　7硬玉原石2　8その他1　合計　20



項目名	1	%
磨石斧未	3	15.0
磨石斧未欠	5	25.0
砥石A	4	20.0
たたき石	1	5.0
削器	2	10.0
硬玉加工品	2	10.0
硬玉原石	2	10.0
その他	1	5.0
合計値	20	

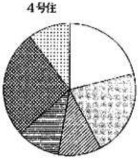


第26図　1～3号住居跡石器出土状況

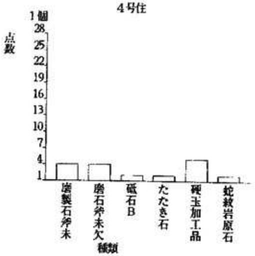
第４号住居跡

１磨製石斧未成品４　２磨製石斧未欠損４　３砥石Ｂ２　４たたき石２

５硬玉加工品５　６蛇紋岩原石２　　合計　１９



項目名 1		%
磨石斧未	4	21.1
磨石斧未欠	4	21.1
砥石B	2	10.5
たたき石	2	10.5
硬玉加工品	5	26.3
蛇紋岩原石	2	10.5
合計値	19	

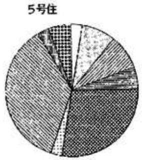


第５号住居跡

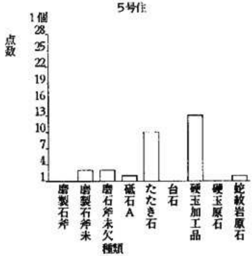
１磨製石斧１　２磨製石斧未成品３　３磨製石斧未欠損３　４砥石Ａ２

５たたき石１０　６台石１　７硬玉加工品１３　８硬玉原石１　９蛇紋岩原石２

合計　３６



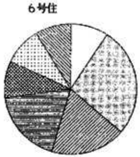
項目名 1		%
磨製石斧	1	2.8
磨石斧未	3	8.3
磨石斧未欠	3	8.3
砥石A	2	5.6
たたき石	10	27.8
台石	1	2.8
硬玉加工品	13	36.1
硬玉原石	1	2.8
蛇紋岩原石	2	5.5
合計値	36	



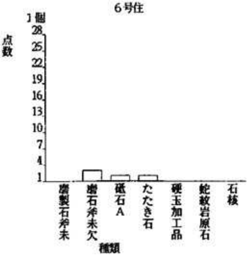
第６号住居跡

１磨製石斧未成品１　２磨製石斧未欠損３　３砥石Ａ２　４たたき石２　５硬玉加工品１

６蛇紋岩原石１　７石核１　　合計　１１



項目名 1		%
磨石斧未	1	9.1
磨石斧未欠	3	27.2
砥石A	2	18.2
たたき石	2	18.2
硬玉加工品	1	9.1
蛇紋岩原石	1	9.1
石核	1	9.1
合計値	11	



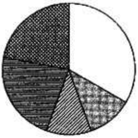
第27図　４～６号住居跡石器出土状況

第７号住居跡

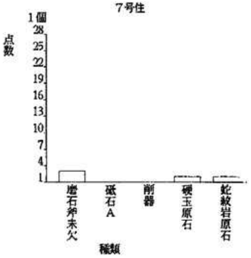
１磨製石斧未欠損３　２砥石Ａ１　３削器１　４硬玉原石２　５蛇紋岩原石２

合計　９

7号住



項目名１		%
磨石斧未欠	3	33.4
砥石A	1	11.1
削器	1	11.1
硬玉原石	2	22.2
蛇紋岩原石	2	22.2
合計値	9	

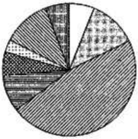


第８号住居跡

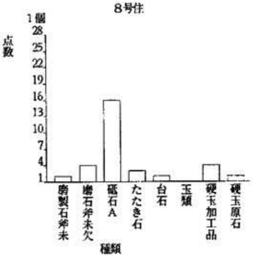
１磨製石斧未成品２　２磨製石斧未欠損４　３砥石Ａ１６　４たたき石３

５台石２　６玉類１　７硬玉加工品４　８硬玉原石２　　合計　３４

8号住



項目名１		%
磨石斧未	2	5.9
磨石斧未欠	4	11.8
砥石A	16	47.0
たたき石	3	8.8
台石	2	5.9
玉類	1	2.9
硬玉加工品	4	11.8
硬玉原石	2	5.9
合計値	34	

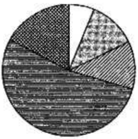


第９号住居跡

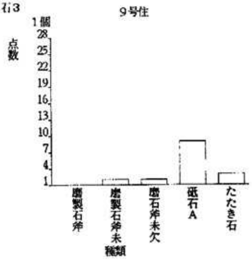
１磨製石斧１　２磨製石斧未成品２　３磨製石斧未欠損２　４砥石Ａ９　５たたき石３

合計　１７

9号住



項目名１		%
磨製石斧	1	5.9
磨石斧未	2	11.8
磨石斧未欠	2	11.8
砥石A	9	52.9
たたき石	3	17.6
合計値	17	



第28図　７～９号住居跡石器出土状況

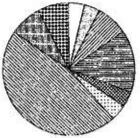
第１０号住居跡

１石錘Ｂ有溝１　２磨製石斧１　３磨製石斧未成品２　４磨製石斧未欠損４

５たたき石１　６削器１　７硬玉加工品１２　８硬玉原石２

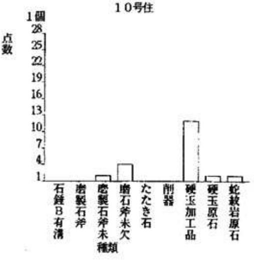
９蛇紋岩原石２　　合計　２６

１０号住



項目名１		%
石錘Ｂ有溝	1	3.9
磨製石斧	1	3.8
磨石斧未	2	7.7
磨石斧未欠	4	15.4
たたき石	1	3.8
削器	1	3.8
硬玉加工品	12	46.2
硬玉原石	2	7.7
蛇紋岩原石	2	7.7
合計値	26	

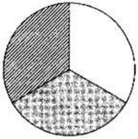
１０号住



第１２号住居跡

１磨製石斧未成品１　２磨製石斧未欠損１　　３硬玉加工品１　　合計３

１２号住



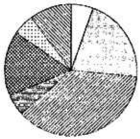
項目名１		%
磨石斧未	1	33.4
磨石斧未欠	1	33.3
硬玉加工品	1	33.3
合計値	3	

第１３号住居跡

１打製石斧１　２磨製石斧未成品４　３磨製石斧未欠損７　４たたき石１

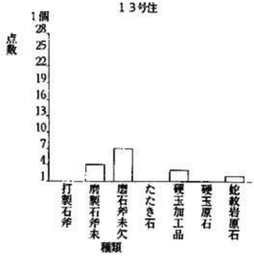
５硬玉加工品３　６硬玉原石１　７蛇紋岩原石２　　合計　１９

１３号住



項目名１		%
打製石斧	1	5.3
磨石斧未	4	21.0
磨石斧未欠	7	36.8
たたき石	1	5.3
硬玉加工品	3	15.8
硬玉原石	1	5.3
蛇紋岩原石	2	10.5
合計値	19	

１３号住



第29図　10～13号住居跡石器出土状況

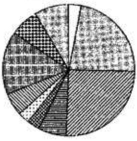
第１４号住居跡

１打製石斧２　２磨製石斧未成品１６　３磨製石斧未欠損１８　４砥石Ａ５

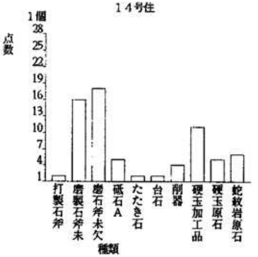
５たたき石２　６台石２　７削器４　８硬玉加工品１１　９硬玉原石５

１０蛇紋岩原石６　合計　７１

１４号住



項目名1		%
打製石斧	2	2.8
磨石斧未	16	22.5
磨石斧未欠	18	25.4
砥石A	5	7.1
たたき石	2	2.8
台石	2	2.8
削器	4	5.6
硬玉加工品	11	15.5
硬玉原石	5	7.0
蛇紋岩原石	6	8.5
合計値	71	

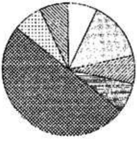


第１５号住居跡

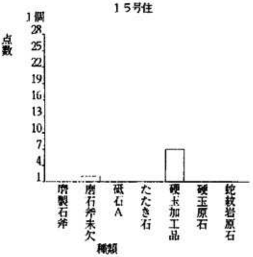
１磨製石斧１　２磨製石斧未欠損２　３砥石Ａ１　４たたき石１　５硬玉加工品７

６玉原石１　７蛇紋岩原石１　合計　１４

１５号住



項目名1		%
磨製石斧	1	7.2
磨石斧未欠	2	14.3
砥石A	1	7.2
たたき石	1	7.1
硬玉加工品	7	50.0
硬玉原石	1	7.1
蛇紋岩原石	1	7.1
合計値	14	



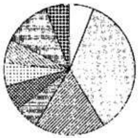
第１６号住居跡

１打製石斧１　２磨製石斧未成品６　３磨製石斧未欠損３　４砥石Ａ１

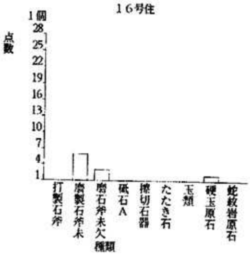
５擦切石器１　６たたき石１　７玉類１　８硬玉原石２　９蛇紋岩原石１

合計　１７

１６号住



項目名1		%
打製石斧	1	5.9
磨石斧未	6	35.3
磨石斧未欠	3	17.6
砥石A	1	5.9
擦切石器	1	5.9
たたき石	1	5.9
玉類	1	5.9
硬玉原石	2	11.7
蛇紋岩原石	1	5.9
合計値	17	



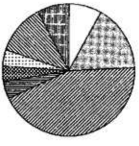
第30図　14～16号住居跡石器出土状況

第１７号住居跡

１磨製石斧未成品２　２磨製石斧未欠損４　３砥石Ａ１１　４たたき石１

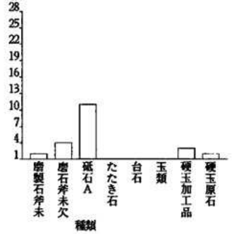
５台石１　６玉類１　７硬玉加工品３　８硬玉原石２　合計　２５

１７号住



項目名１		%
磨石斧未	2	8.0
磨石斧未欠	4	16.0
砥石A	11	44.0
たたき石	1	4.0
台石	1	4.0
玉類	1	4.0
硬玉加工品	3	12.0
硬玉原石	2	8.0
合計値	25	

１７号住

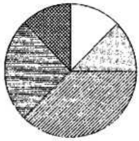


第１８号住居跡

１磨製石斧未成品１　２磨製石斧未欠損１　３硬玉加工品３　４硬玉原石２

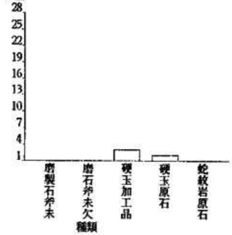
５蛇紋岩原石１　合計　８

１８号住



項目名１		%
磨石斧未	1	12.5
磨石斧未欠	1	12.5
硬玉加工品	3	37.5
硬玉原石	2	25.0
蛇紋岩原石	1	12.5
合計値	8	

１８号住



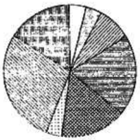
第１９号住居跡

１石鏃１　２打製石斧１　３磨製石斧２　４磨製石斧未成品５

５磨製石斧未欠損４　６砥石Ａ１　７たたき石７　８硬玉加工品４

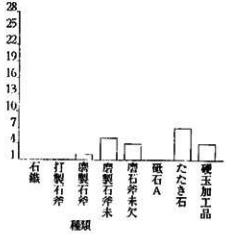
合計　２５

１９号住



項目名１		%
石鏃	1	4.0
打製石斧	1	4.0
磨製石斧	2	8.0
磨石斧未	5	20.0
磨石斧未欠	4	16.0
砥石A	1	4.0
たたき石	7	28.0
硬玉加工品	4	16.0
合計値	25	

１９号住



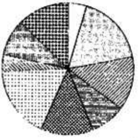
第31図　17～19号住居跡石器出土状況

第２０号住居跡

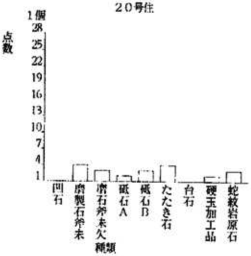
1凹石１　2磨製石斧未成品４　3磨製石斧未欠損３　４砥石Ａ２　５砥石Ｂ３

6たたき石４　7台石１　8硬玉加工品２　9蛇紋岩原石３　合計　２３

２０号住



項目名１		%
凹石	1	4.4
磨石斧未	4	17.4
磨石斧未欠	3	13.1
砥石A	2	8.7
砥石B	3	13.0
たたき石	4	17.4
台石	1	4.3
硬玉加工品	2	8.7
蛇紋岩原石	3	13.0
合計値	23	



第２１号住居跡

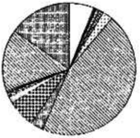
1石鏃３１　2打製石斧１　３石皿２　４凹石３　５石錘Ａ打欠５　６石錘Ｂ有溝１　7磨製石斧１３　８磨製石斧未成品１０４

9磨製石斧未欠損１２９　１０砥石Ａ１６　１１たたき石３４　１２台石８　１３石錐２　１４石棒１　１５石刀２　１６石冠形石器１

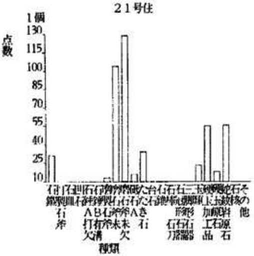
１７三脚形石１　１８玉類２３　１９硬玉加工品５５　２０硬玉原石１８

２１蛇紋岩原石５６　２２石核４　２３その他１　合計５１１

２１号住



項目名１		%
石ぞく	31	6.1
打製石斧	1	0.2
石皿	2	0.4
凹石	3	0.6
石錘	6	1.2
磨製石斧	13	2.5
磨製石斧未	233	45.6
砥石	16	3.1
たたき石	34	6.6
台石	8	1.6
石錐	2	0.4
石棒・石刀	3	0.6
石冠形	1	0.2
三脚形	1	0.2
玉類	78	15.3
原石他	79	15.4
合計値	511	



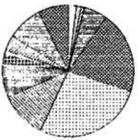
第２２号住居跡

1石鏃２　2打製石斧１　３石錘Ａ打欠１　４磨製石斧６　５磨製石斧未成品２１

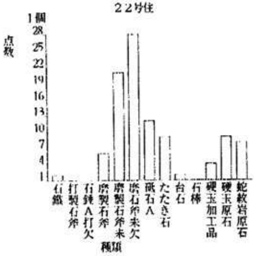
6磨製石斧未欠損２８　７砥石Ａ１２　８たたき石９　９台石２　１０石棒１

１１硬玉加工品４　１２硬玉原石９　１３蛇紋岩原石８　合計　１０４

２２号住



項目名１		%
石鏃	2	1.9
打製石斧	1	1.0
石錘A打欠	1	1.0
磨製石斧	6	5.8
磨石斧未	21	20.2
磨石斧未欠	28	26.9
砥石A	12	11.5
たたき石	9	8.7
台石	2	1.9
石棒	1	1.0
硬玉加工品	4	3.8
硬玉原石	9	8.6
蛇紋岩原石	8	7.7
合計値	104	



第32図　20～22号住居跡石器出土状況

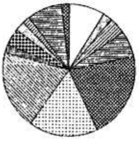
第23号住居跡

1石鏃4　2石皿1　3石錘A打欠2　4磨製石斧3　5磨製石斧未成品10

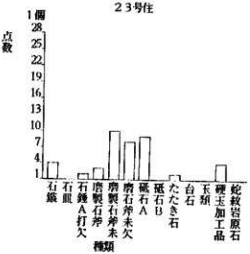
6磨製石斧未欠損8　7砥石A9　8砥石B1　9たたき石2　10台石1

11玉類1　12硬玉加工品4　13蛇紋岩原石1　合計　47

23号住



項目名1		%
石鏃	4	8.5
石皿	1	2.1
石錘A打欠	2	4.3
磨製石斧	3	6.4
磨石斧未	10	21.3
磨石斧未欠	8	17.0
砥石A	9	19.2
砥石B	1	2.1
たたき石	2	4.3
台石	1	2.1
玉類	1	2.1
硬玉加工品	4	8.5
蛇紋岩原石	1	2.1
合計値	47	

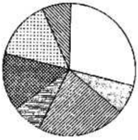


第24号住居跡

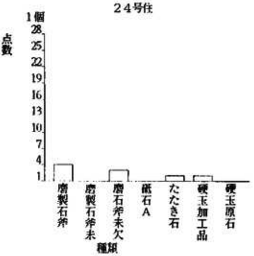
1磨製石斧4　2磨製石斧未成品1　3磨製石斧未欠損3　4砥石A1

5たたき石2　6硬玉加工品2　7硬玉原石1　合計　14

24号住



項目名		%
磨製石斧	4	28.6
磨石斧未	1	7.2
磨石斧未欠	3	21.4
砥石A	1	7.1
たたき石	2	14.3
硬玉加工品	2	14.3
硬玉原石	1	7.1
合計値	14	

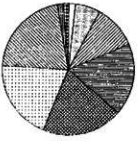


第25号住居跡

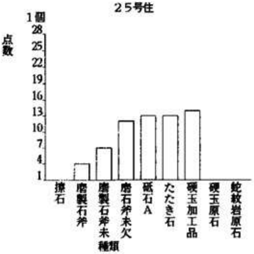
1擦石1　2磨製石斧4　3磨製石斧未成品7　4磨製石斧未欠損12　5砥石A13　6たたき石13

7硬玉加工品14　8硬玉原石1　9蛇紋岩原石1　合計　66

25号住



項目名1		%
擦石	1	1.5
磨製石斧	4	6.1
磨石斧未	7	10.6
磨石斧未欠	12	18.2
砥石A	13	19.7
たたき石	13	19.7
硬玉加工品	14	21.2
硬玉原石	1	1.5
蛇紋岩原石	1	1.5
合計値	66	



第33図　23～25号住居跡石器出土状況

第２６号住居跡

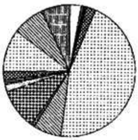
１石鏃７　２石匙１　３打製石斧１　４石錘Ａ打欠１　５磨製石斧６　６磨製石斧未成品５０　７磨製石斧 未欠損６９　８砥石Ａ１８

９砥石Ｂ２　１０たたき石２６　１１台石４　１２石錐１　１３削器２

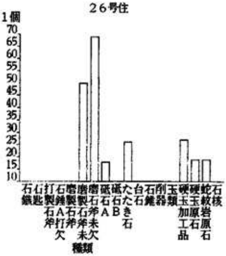
１４玉類６　１５硬玉加工品２７　１６蛇紋岩原石１９

１７硬玉原石１９　１８石核１　合計　２６０

２６号住



項　目　名　1		%
石ぞく	7	2.7
石匙	1	0.4
打製石斧	1	0.4
石錘	1	0.4
磨製石斧	6	2.3
磨製石斧未	119	45.8
砥石A	18	6.9
砥石B	2	0.8
たたき石	26	10.0
台石	4	1.5
石錐	1	0.4
削器	2	0.7
玉類	6	2.3
硬玉加工品	27	10.4
硬玉原石	20	7.7
蛇紋岩原石	19	7.3
合　計　値	260	



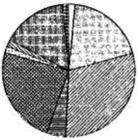
第２８号住居跡

１磨製石斧１　２磨製石斧未成品１２　３磨製石斧未欠損１９　４砥石Ａ３

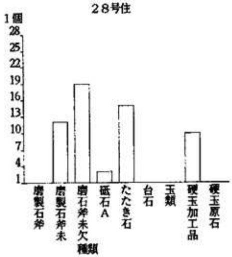
５たたき石１５　６台石１　７玉類１　８硬玉加工品１０　９硬玉原石１

合計　６３

２８号住



項　目　名　1		%
磨製石斧	1	1.6
磨石斧未	12	19.0
磨石斧未欠	19	30.1
砥石A	3	4.8
たたき石	15	23.8
台石	1	1.6
玉類	1	1.6
硬玉加工品	10	15.9
硬玉原石	1	1.6
合　計　値	63	



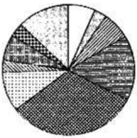
第２９号住居跡

１石鏃２　２打製石斧１　３磨製石斧２　４磨製石斧未成品５　５磨製石斧未欠損１０

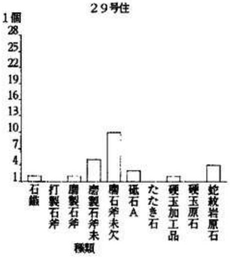
６砥石Ａ３　７たたき石１　８硬玉加工品２　９硬玉原石１　１０蛇紋岩原石４

合計　３１

２９号住



項　目　名　1		%
石鏃	2	6.5
打製石斧	1	3.2
磨製石斧	2	6.5
磨石斧未	5	16.1
磨石斧未欠	10	32.3
砥石A	3	9.7
たたき石	1	3.2
硬玉加工品	2	6.4
硬玉原石	1	3.2
蛇紋岩原石	4	12.9
合　計　値	31	

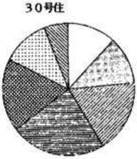


第34図　26～29号住居跡石器出土状況

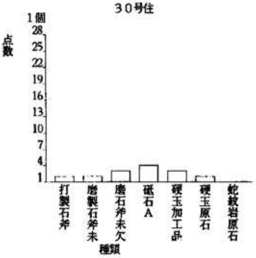
第30号住居跡

1打製石斧2　2磨製石斧未成品2　3磨製石斧未欠損3　4砥石A4

5硬玉加工品3　6硬玉原石2　7蛇紋岩原石1　　合計　17

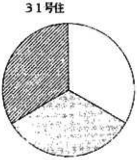


項目名1		%
打製石斧	2	11.8
磨石斧未	2	11.8
磨石斧未欠	3	17.6
砥石A	4	23.5
硬玉加工品	3	17.6
硬玉原石	2	11.8
蛇紋岩原石	1	5.9
合計値	17	



第31号住居跡

1磨製石斧1　2磨製石斧未欠損1　3硬玉原石1　合計　3

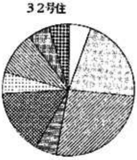


項目名1		%
磨製石斧	1	33.4
磨石斧未欠	1	33.3
硬玉原石	1	33.3
合計値	3	

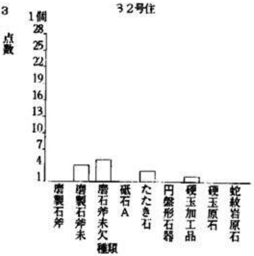
第32号住居跡

1製石斧1　2磨製石斧未成品4　3磨製石斧未欠損5　4砥石A1　5たたき石3

6円盤形石器1　7硬玉加工品2　8硬玉原石1'　9蛇紋岩原石1　　合計　19



項目名1		%
磨製石斧	1	5.3
磨石斧未	4	21.0
磨石斧未欠	5	26.3
砥石A	1	5.3
たたき石	3	15.8
円盤形石器	1	5.3
硬玉加工品	2	10.5
硬玉原石	1	5.3
蛇紋岩原石	1	5.2
合計値	19	



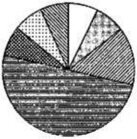
第35図　30〜32号住居跡石器出土状況

第３３号住居跡

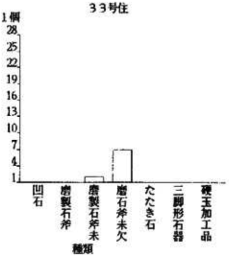
１凹石１　２磨製石斧１　３磨製石斧未成品２　４磨製石斧未欠損７　５たたき石１

６三脚形石器１　７硬玉加工品　１　　　　合計　１４

３３号住



項目名１		%
凹石	1	7.2
磨製石斧	1	7.2
磨製石斧未	2	14.3
磨石斧未欠	7	50.0
たたき石	1	7.1
三脚形石器	1	7.1
硬玉加工品	1	7.1
合計値	14	

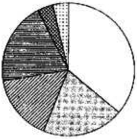


第３５号住居跡

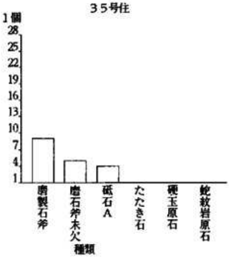
１磨製石斧未成品９　２磨製石斧未欠損５　３砥石Ａ４　４たたき石５　５硬玉原石１

６蛇紋岩原石１　　合計　　２５

３５号住



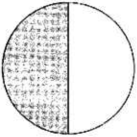
項目名１		%
磨石斧未	9	36.0
磨石斧未欠	5	20.0
砥石A	4	16.0
たたき石	5	20.0
硬玉原石	1	4.0
蛇紋岩原石	1	4.0
合計値	25	



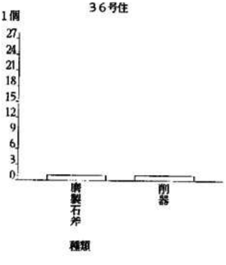
第３６号住居跡

１磨製石斧１　２削器１　　合計　　２

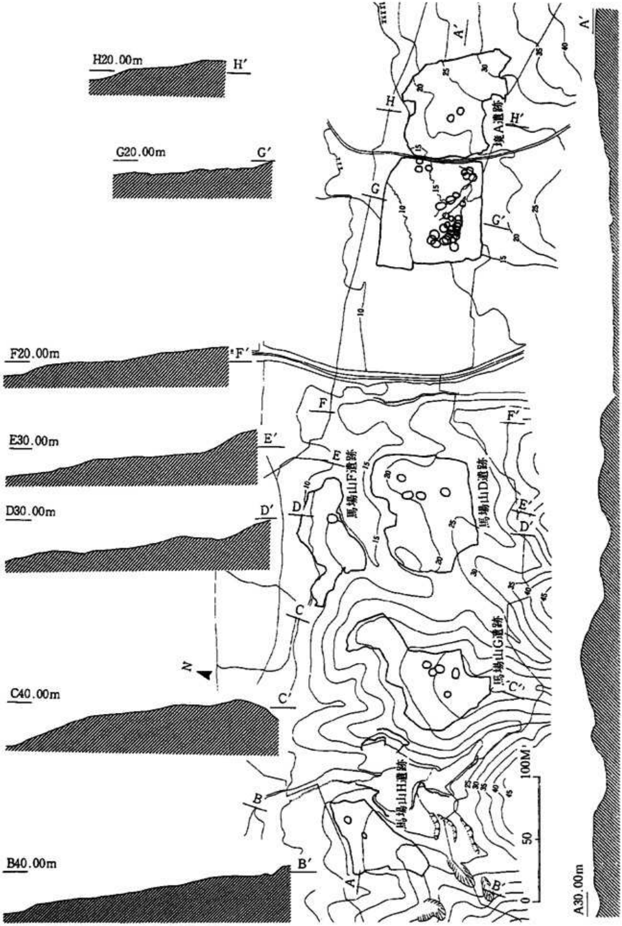
３６号住



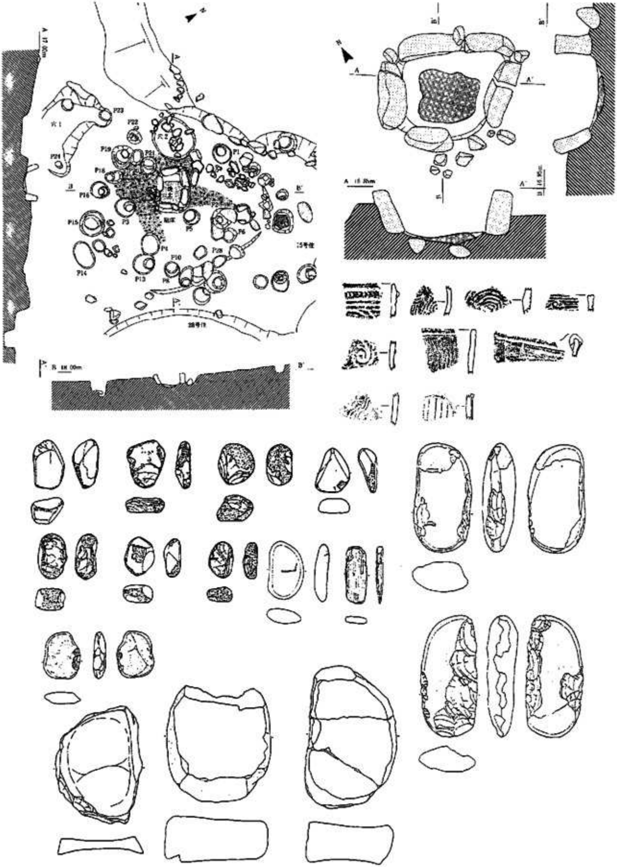
項目名１		%
磨製石斧	1	50.0
削器	1	50.0
合計値	2	



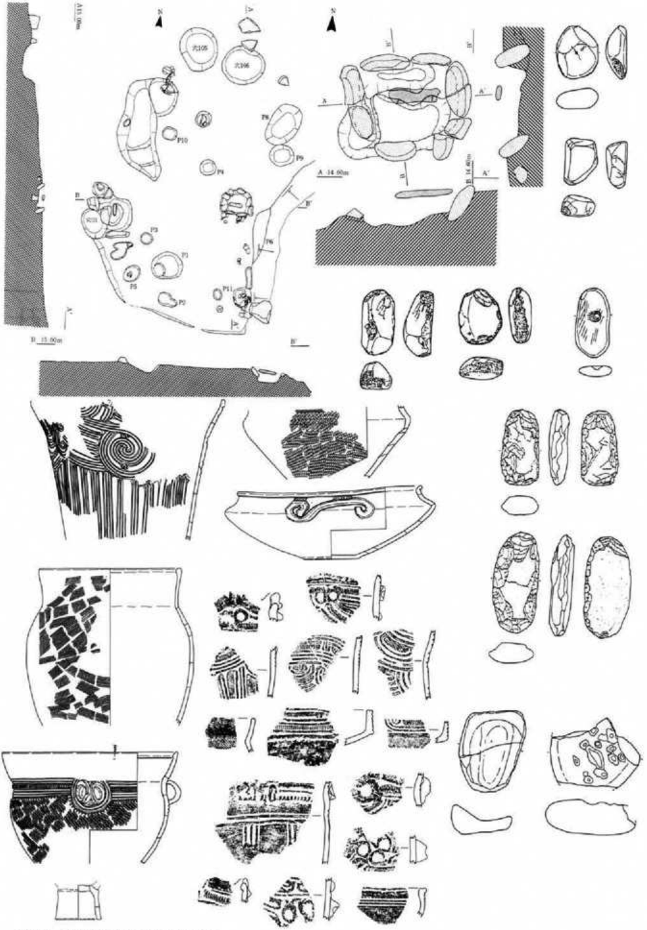
第36図　33～36号住居跡石器出土状況



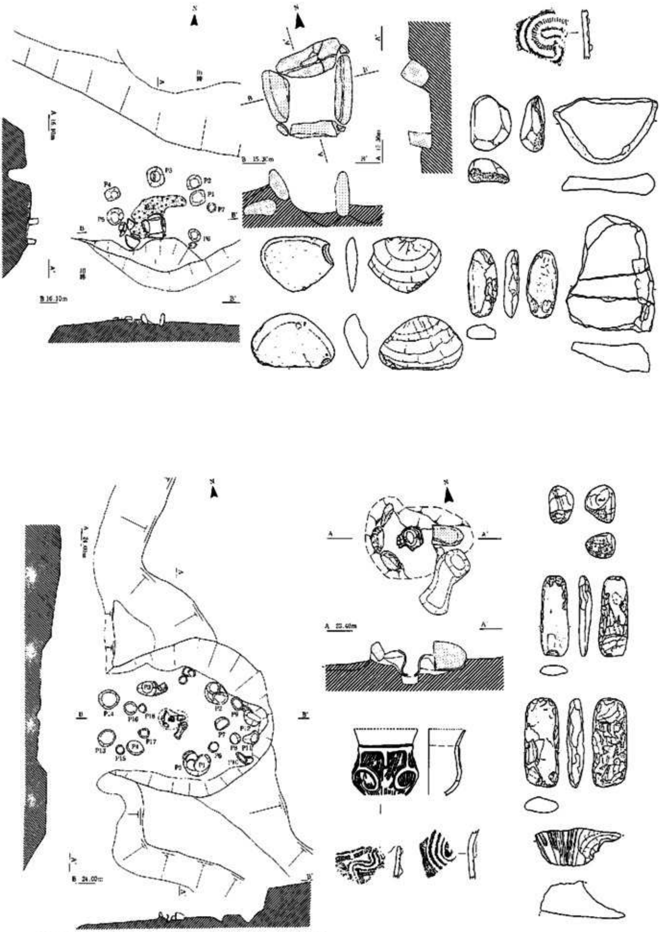
第37図　境Ａ遺跡及び周辺遺跡の遺構概略図



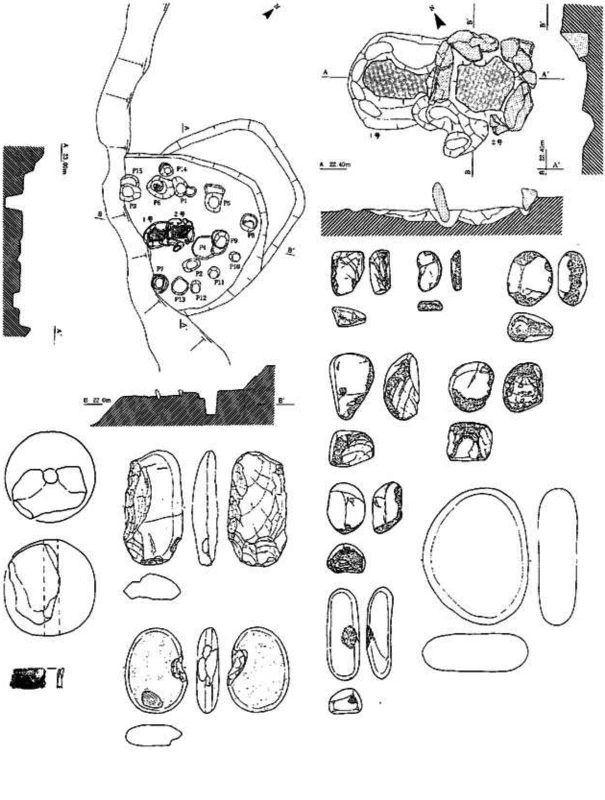
第38図　第1号住居跡出土遺物他編集図（おおよその目安住居$\frac{1}{80}$、炉$\frac{1}{20}$、土器・石器$\frac{1}{3}$、他$\frac{1}{5}$：以下第67図まで）



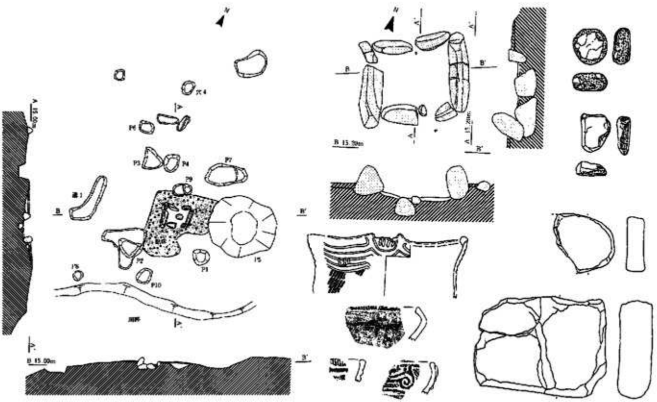
第39図　第２号住居跡出土遺物他編集図

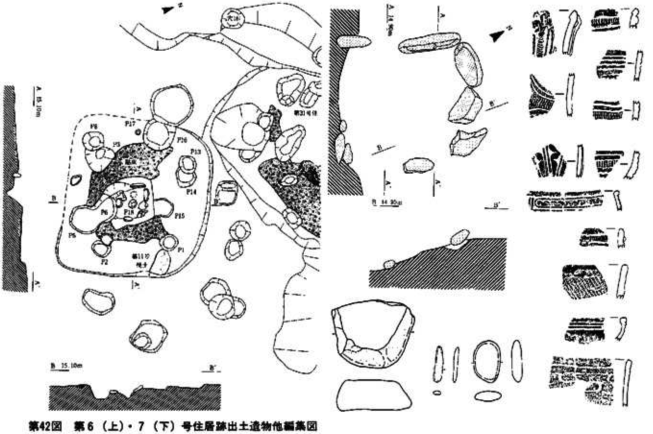


第40図　第3（上）・4（下）号住居跡出土遺物他編集図

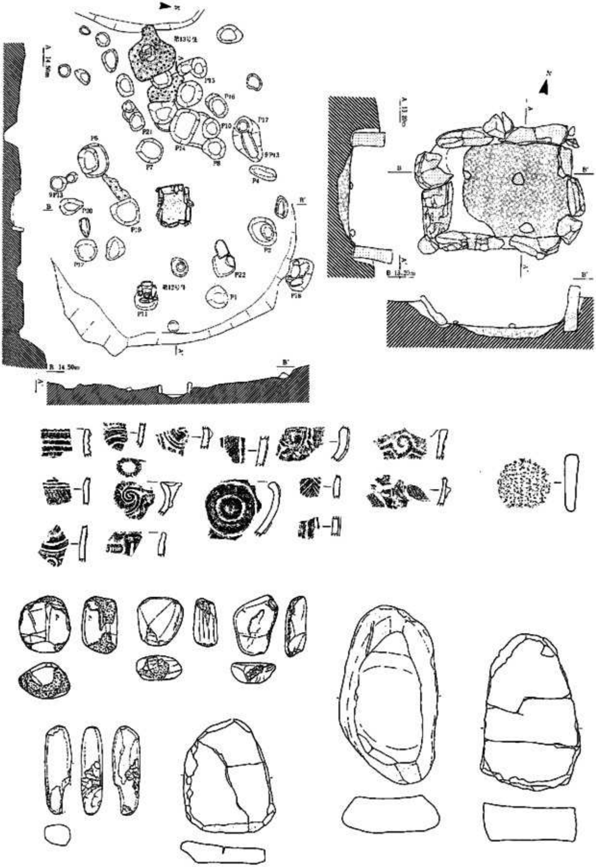


第41図　第５号住居跡出土遺物他編集図

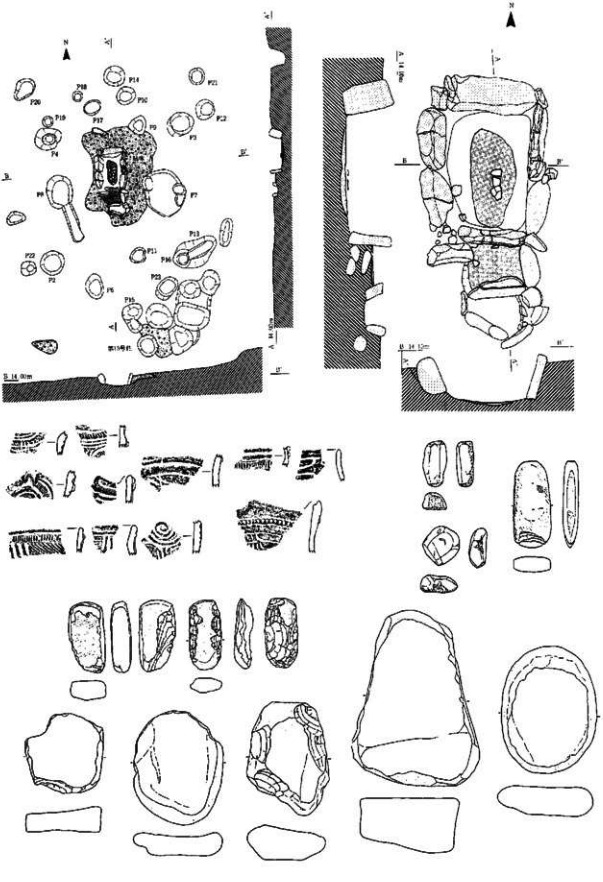




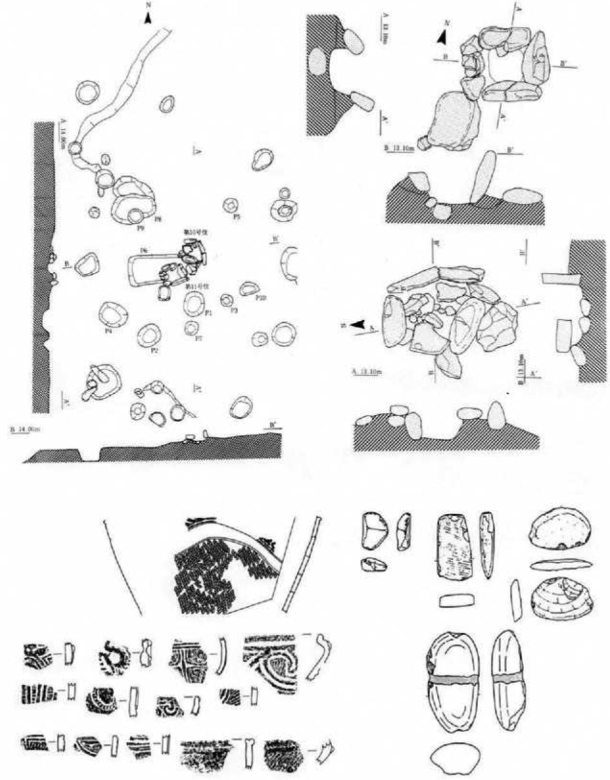
第42図　第６（上）・７（下）号住居跡出土遺物他編集図



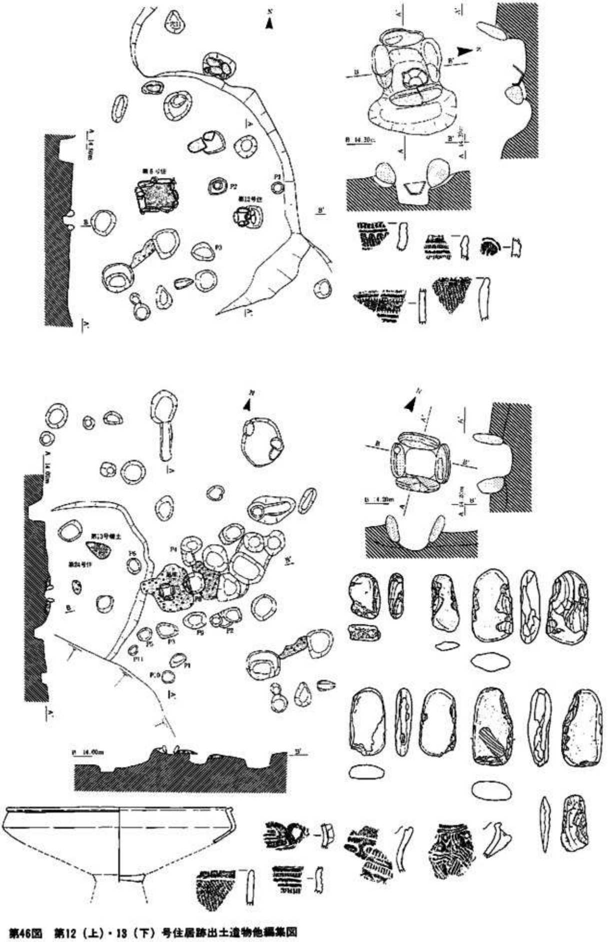
第43図　第８号住居跡出土遺物他編集図



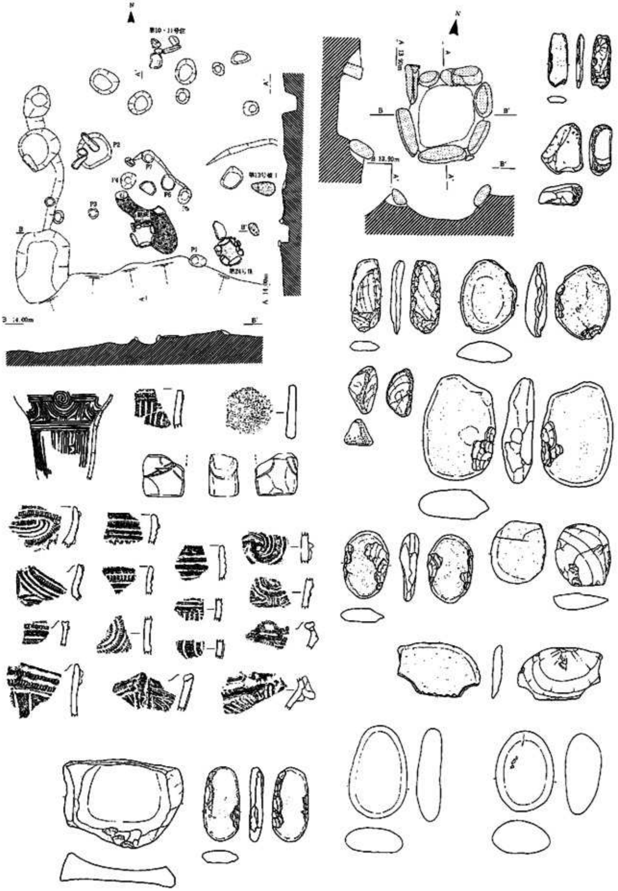
第44図　第９号住居跡出土遺物他編集図



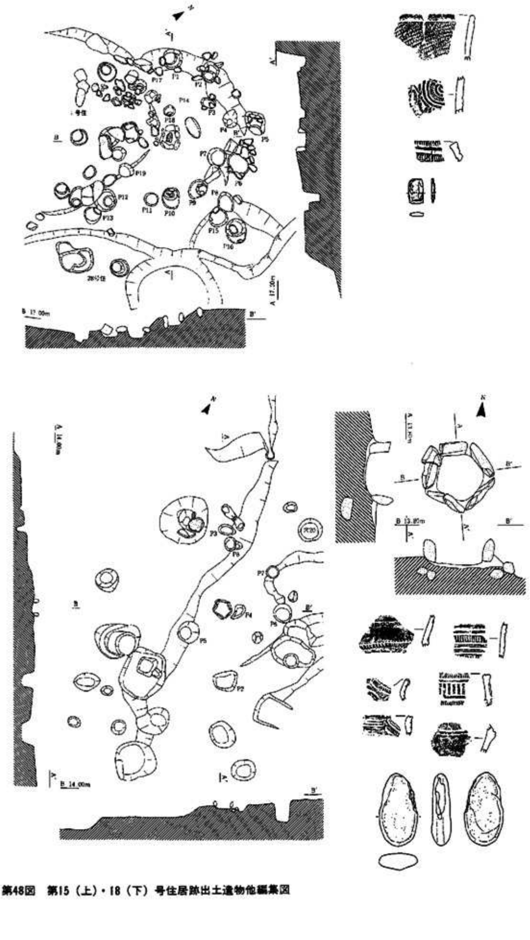
第45図　第10・11号住居跡出土遺物他編集図



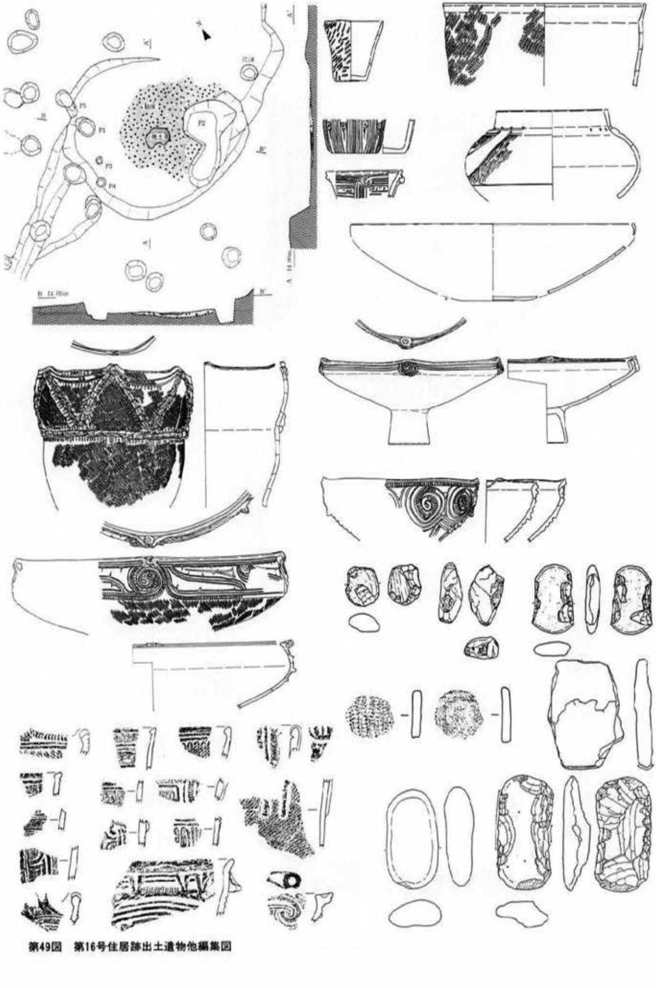
第46図　第12（上）・13（下）号住居跡出土遺物他編集図



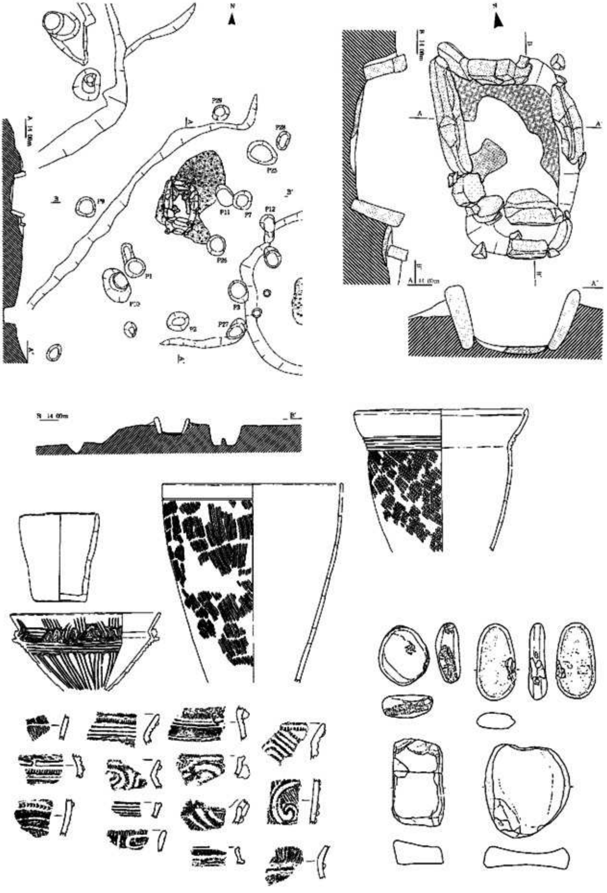
第47図　第14号住居跡出土遺物他編集図



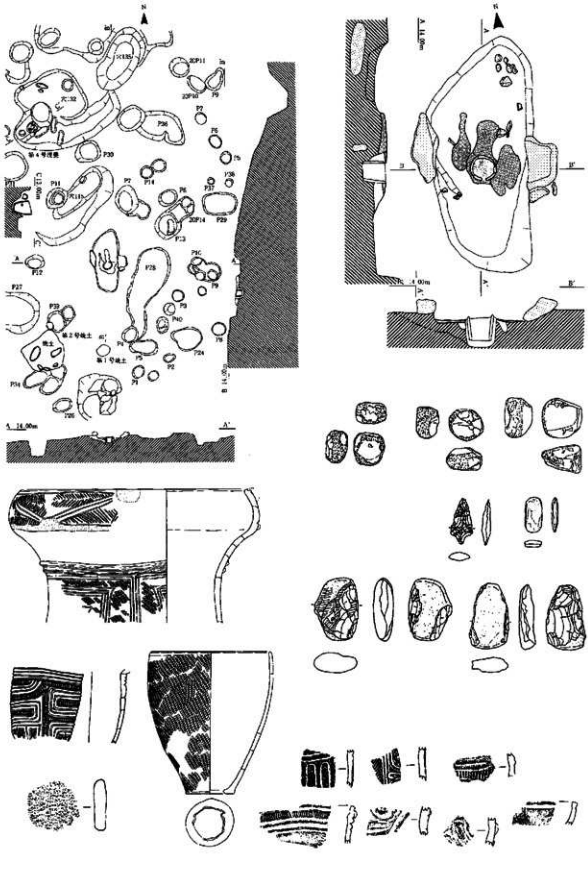
第48図　第15（上）・18（下）号住居跡出土遺物他編集図



第49図　第16号住居跡出土遺物他編集図

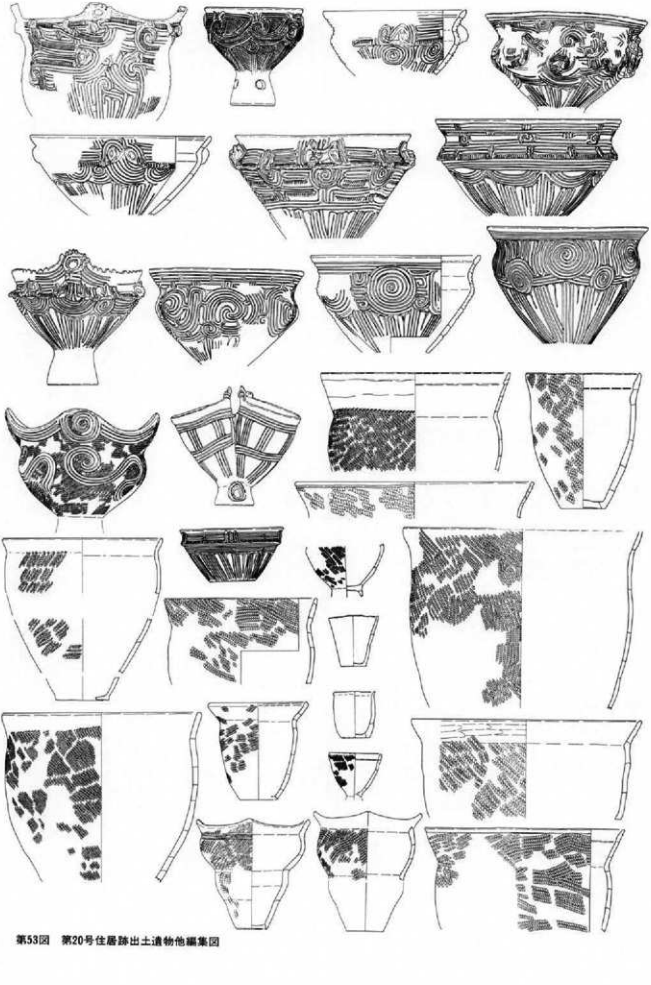


第50図　第17号住居跡出土遺物他編集図

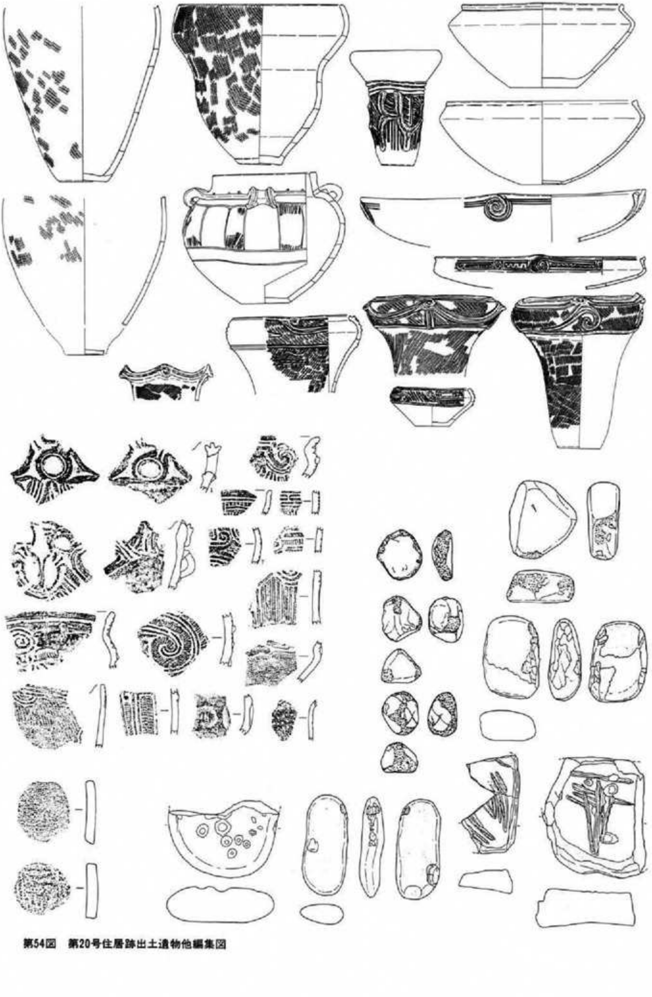


第51図　第19号住居跡出土遺物他編集図

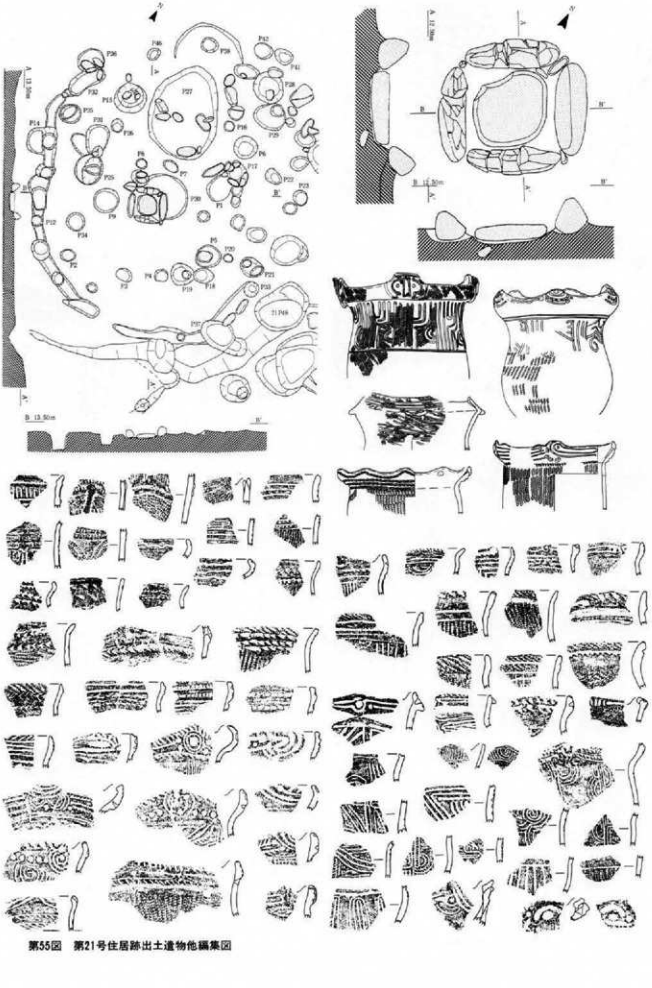
第52図　第20号住居跡出土遺物他編集図



第53図　第20号住居跡出土遺物他編集図

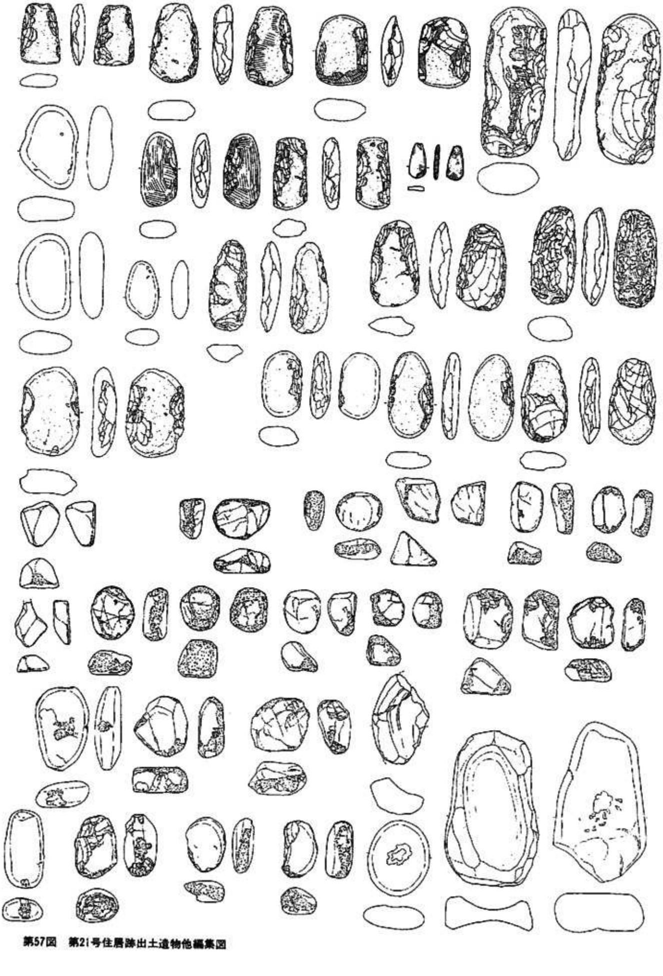


第54図　第20号住居跡出土遺物他編集図

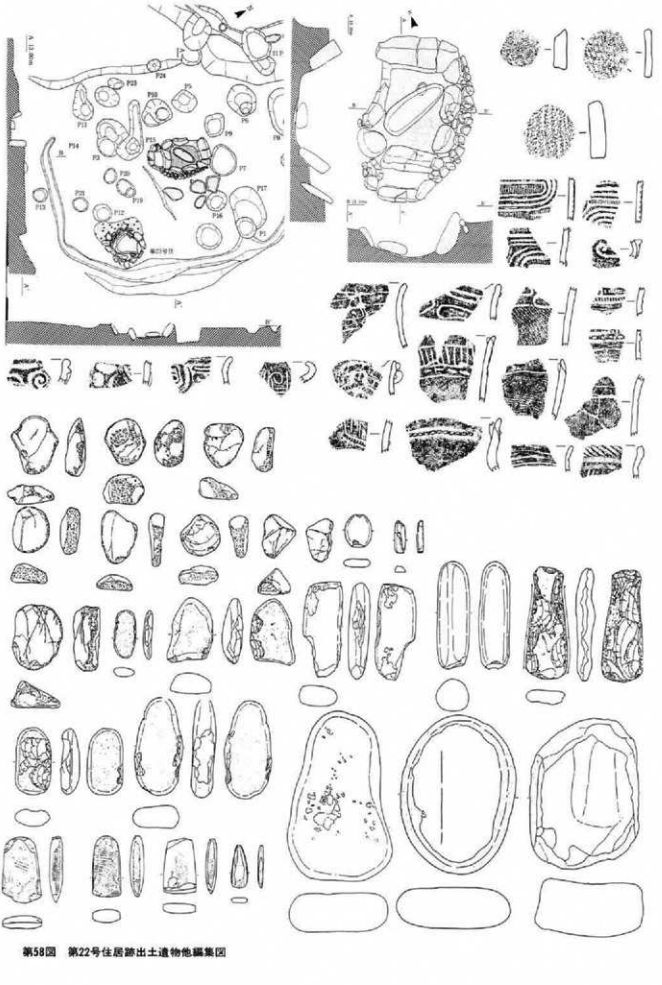


第55図　第21号住居跡出土遺物他編集図

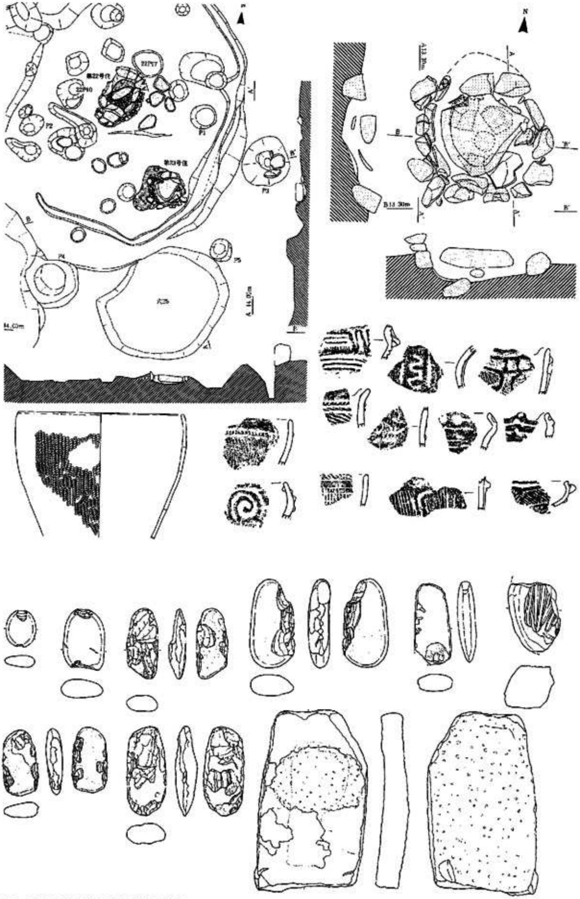
第56図　第21号住居跡出土遺物他編集図



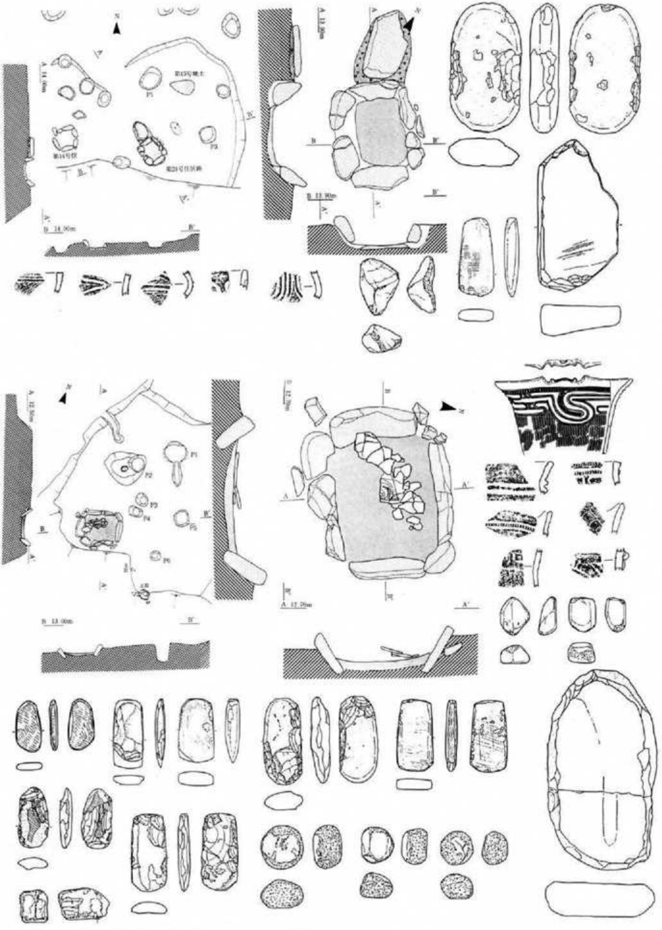
第57図　第21号住居跡出土遺物他編集図



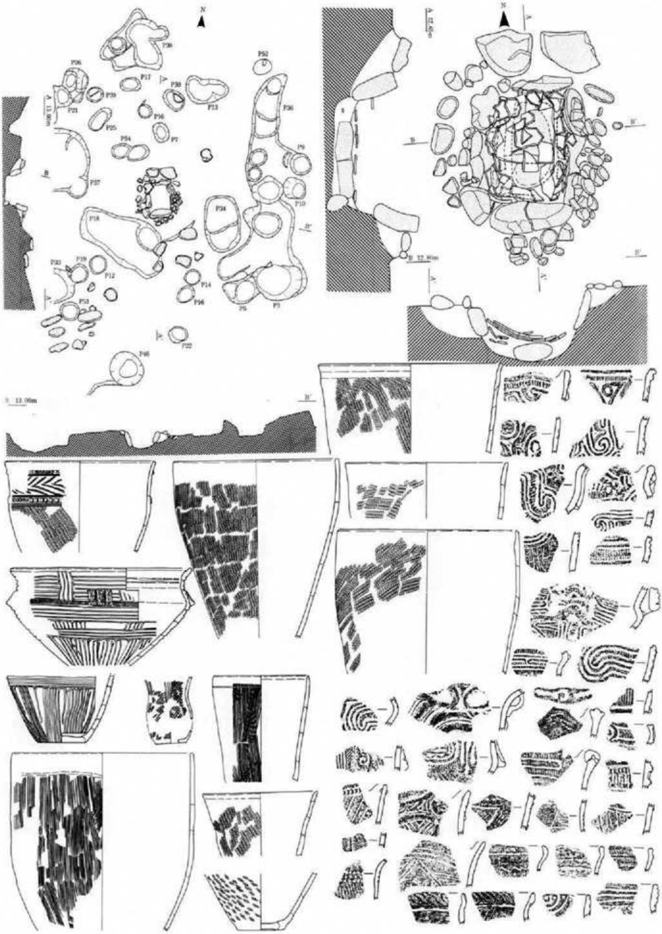
第58図　第22号住居跡出土遺物他編集図



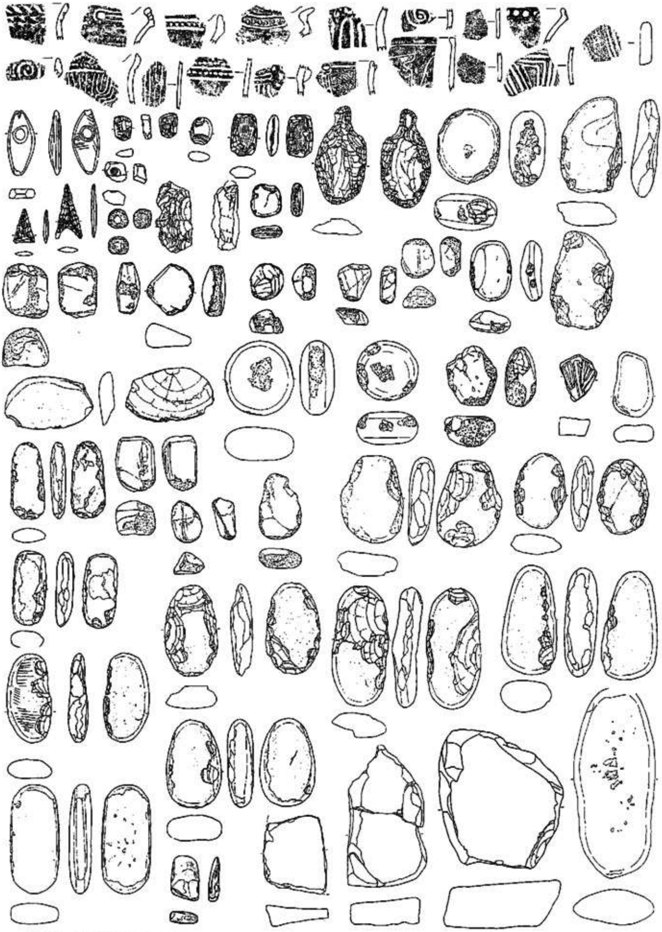
第59図　第23号住居跡出土遺物他編集図



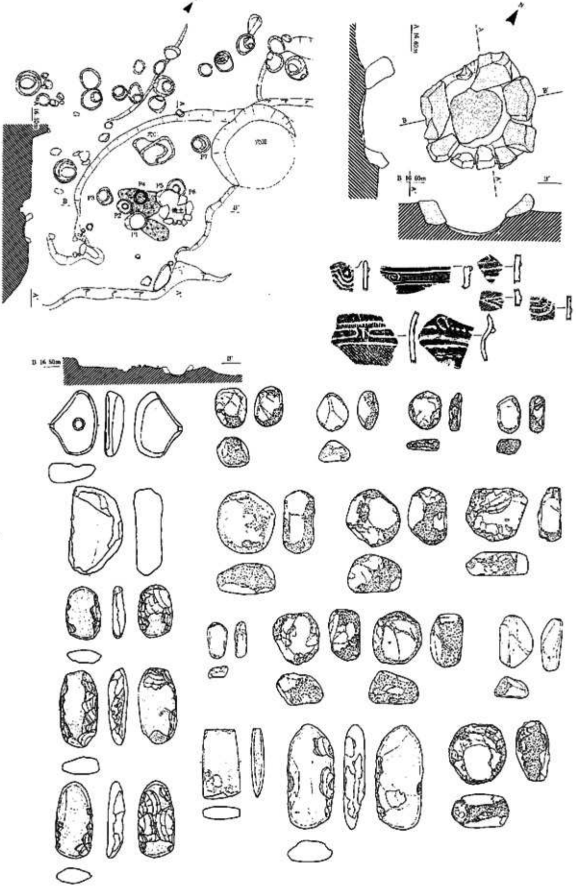
第60図　第24（上）・25（下）号住居跡出土遺物他編集図



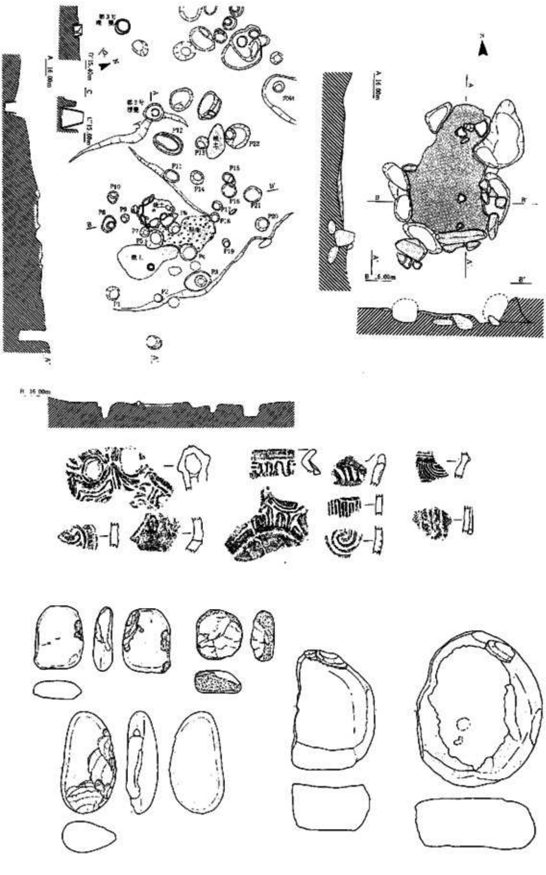
第61図　第26号住居跡出土遺物他編集図



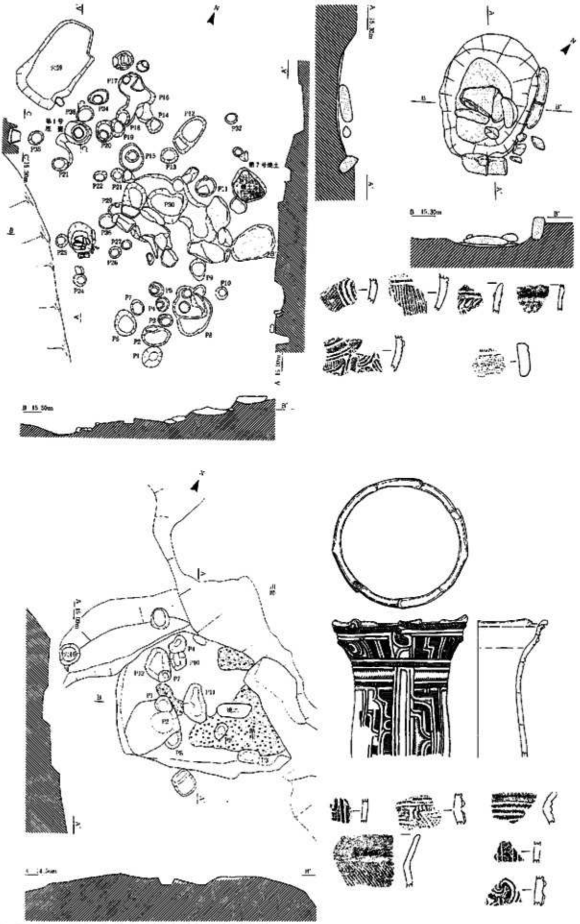
第62図　第26号住居跡出土遺物他編集図



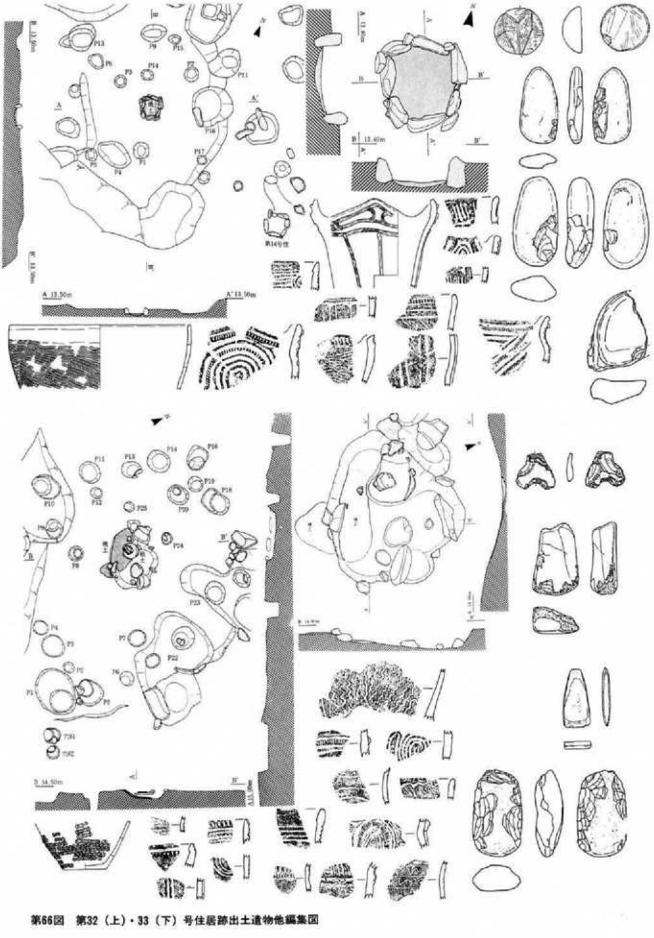
第63図　第28号住居跡出土遺物他編集図



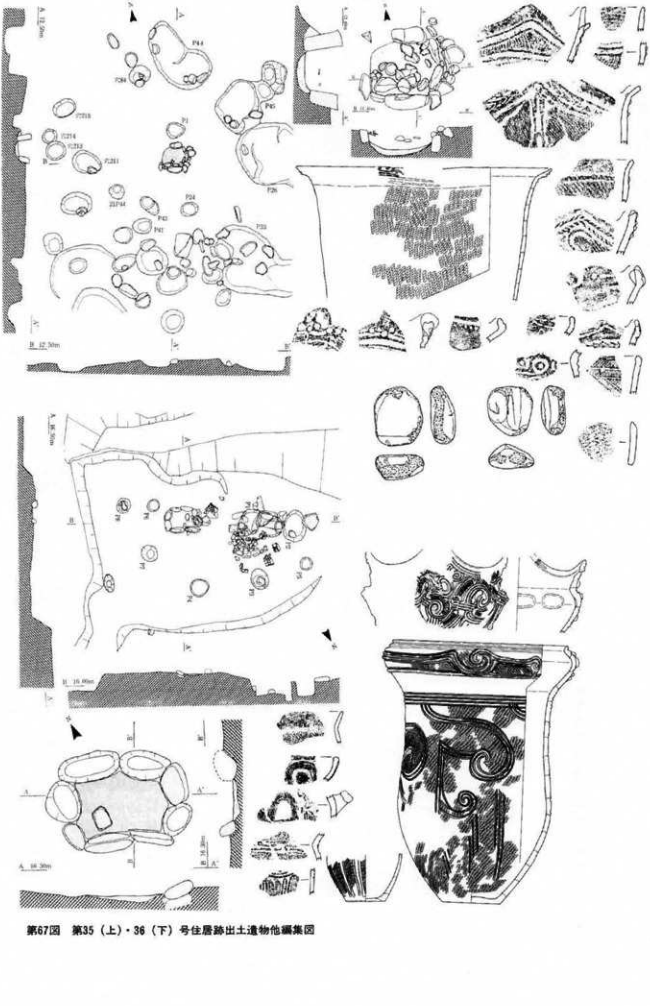
第64図　第29号住居跡出土遺物他編集図



第65図　第30（上）・31（下）号住居跡出土遺物他編集図

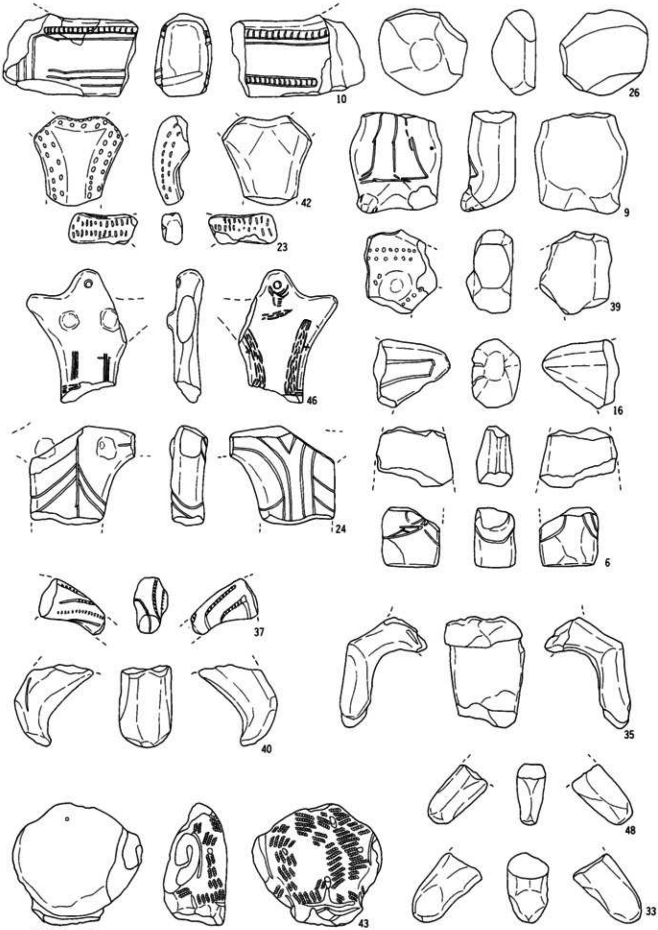


第66図　第32（上）・33（下）号住居跡出土遺物他編集図

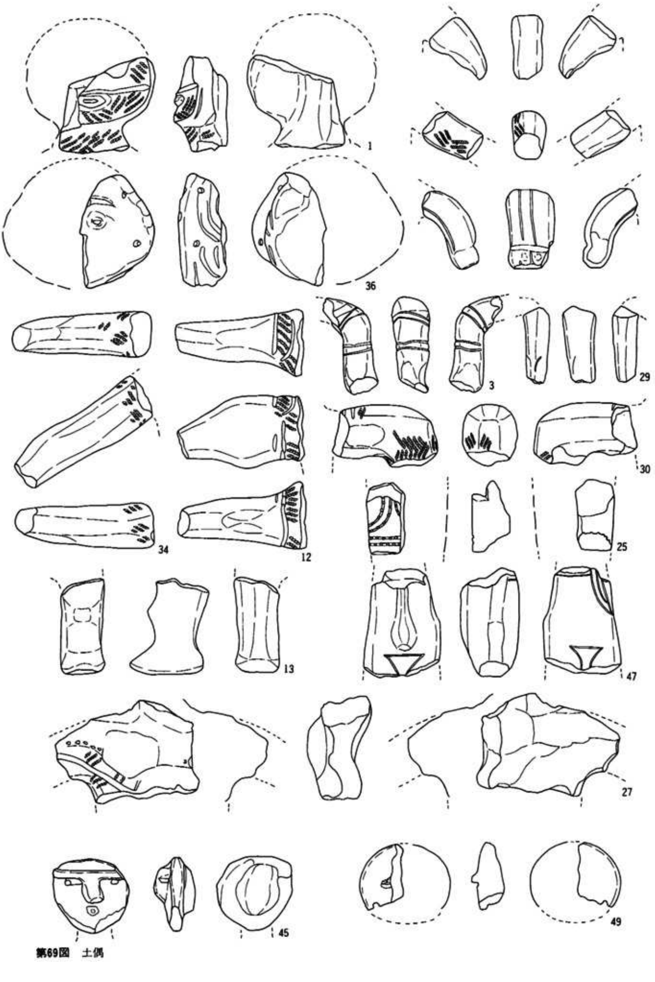


第67図　第35（上）・36（下）号住居跡出土遺物他編集図

図　　版

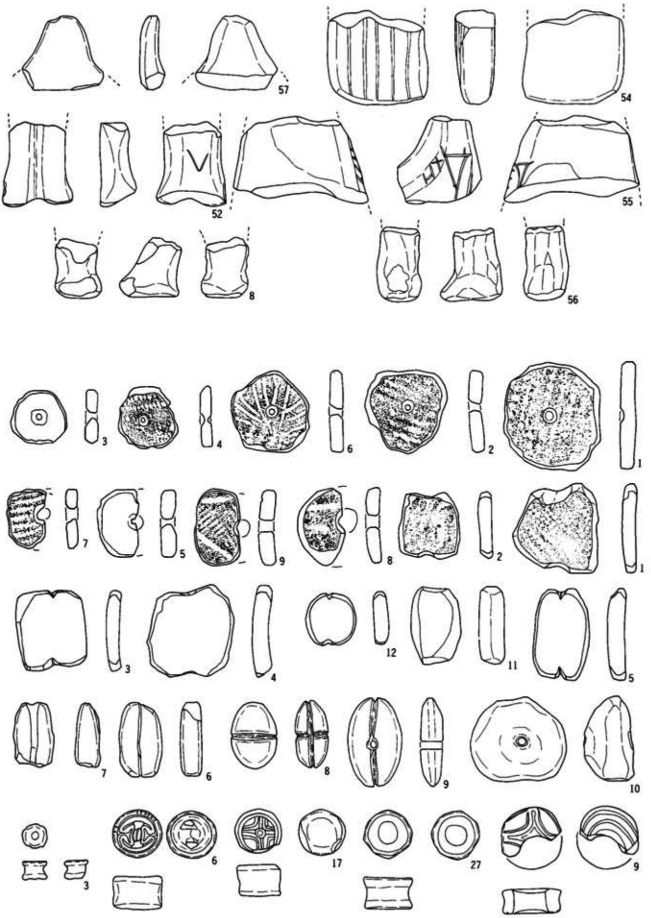


第68図　土偶

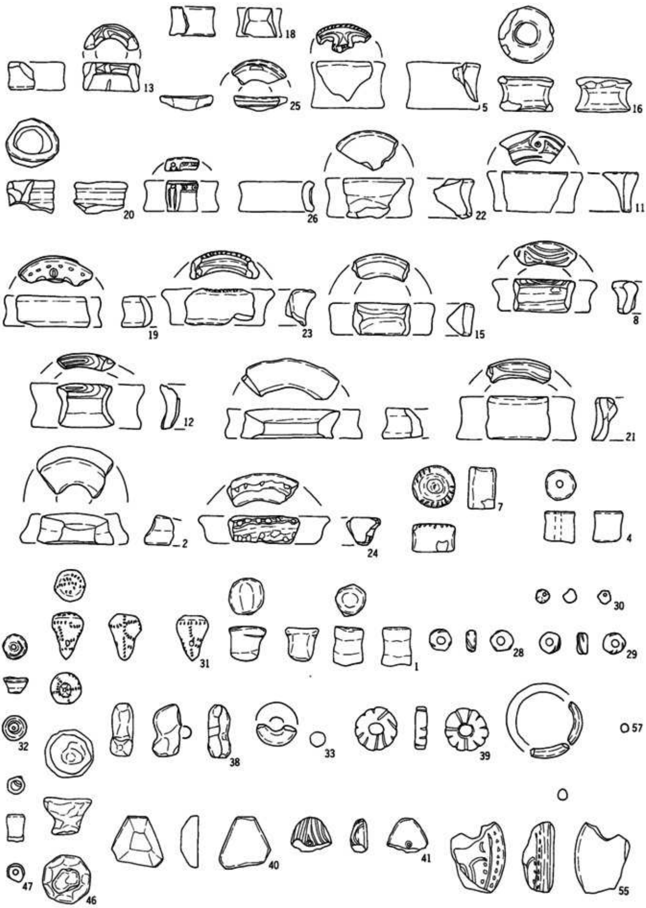


第69図　土偶

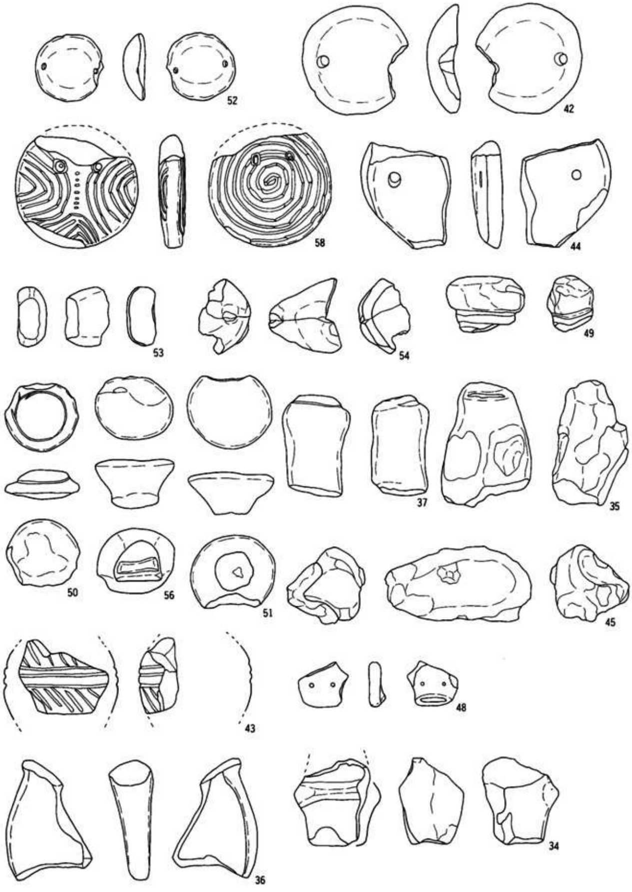
第70図　土偶



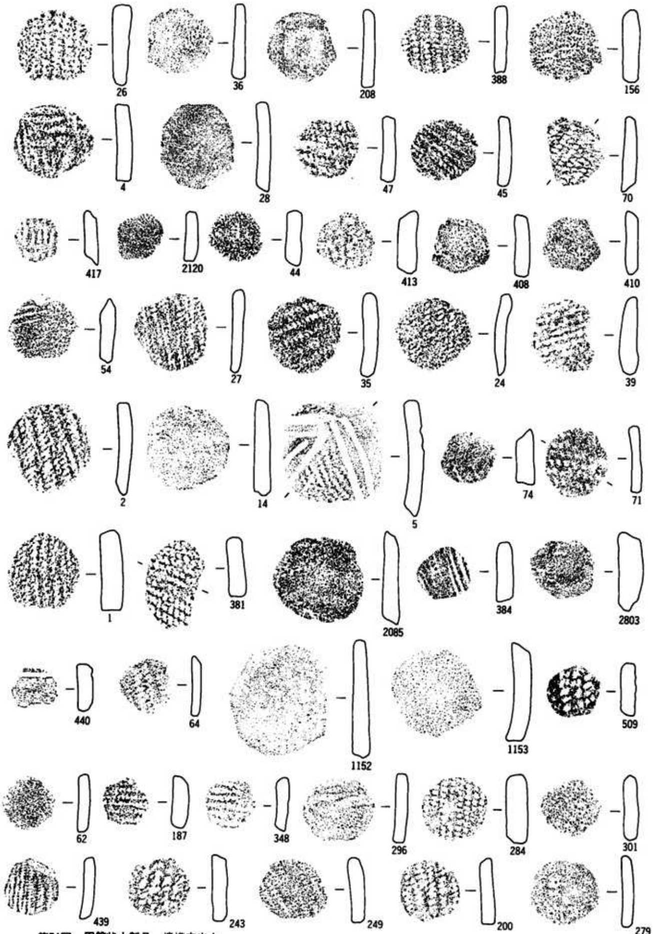
第71図　土偶（上）　土製有孔円盤（中１～９）
土錘（中下１～12）　土製耳飾（３、６、17、27、９）



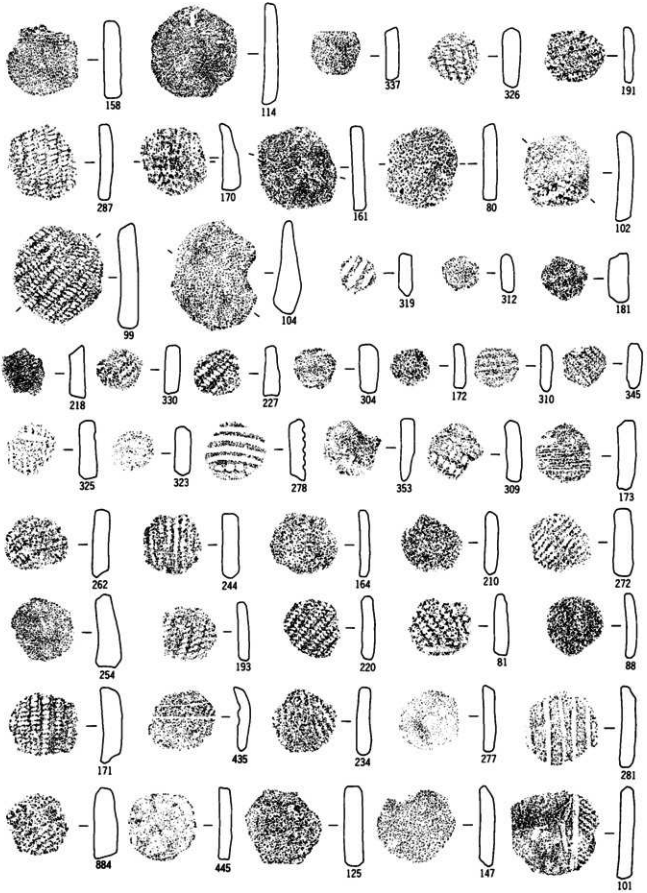
第72図　土製耳飾　土製玉（中）　不明土製品（下）



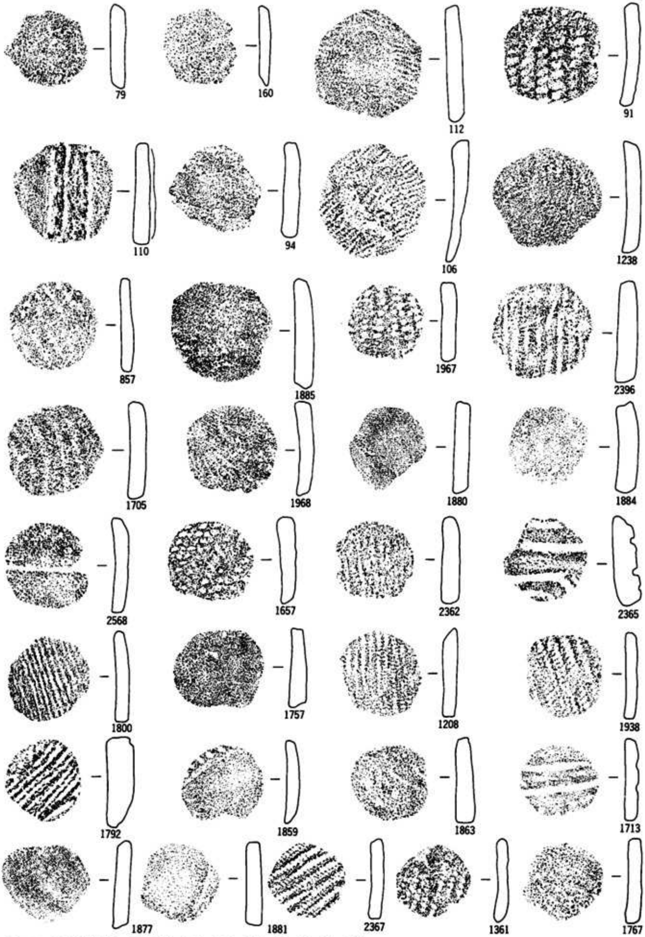
第73図　土版　不明土製品



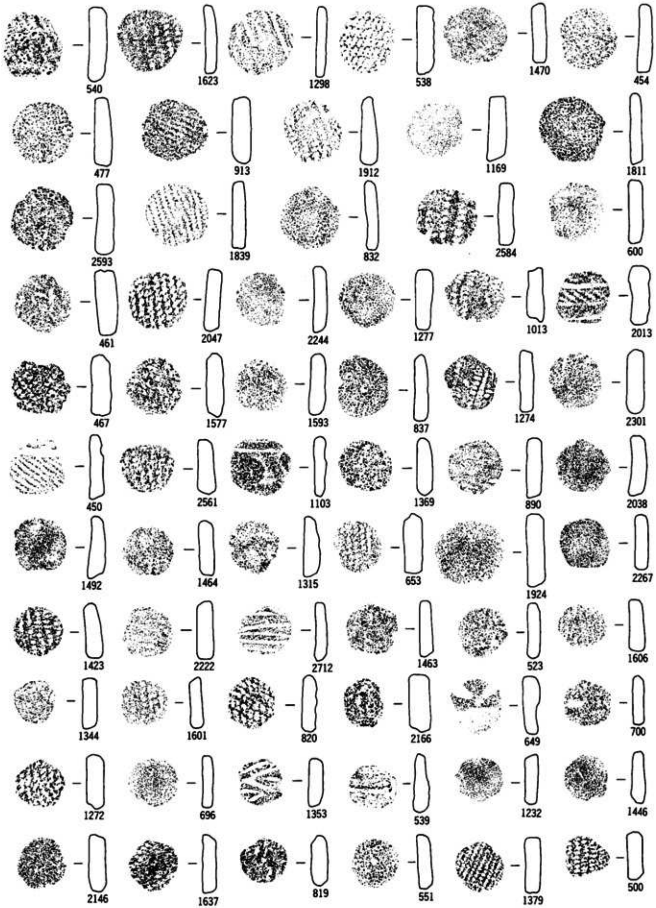
第74図　円盤状土製品　遺構内出土



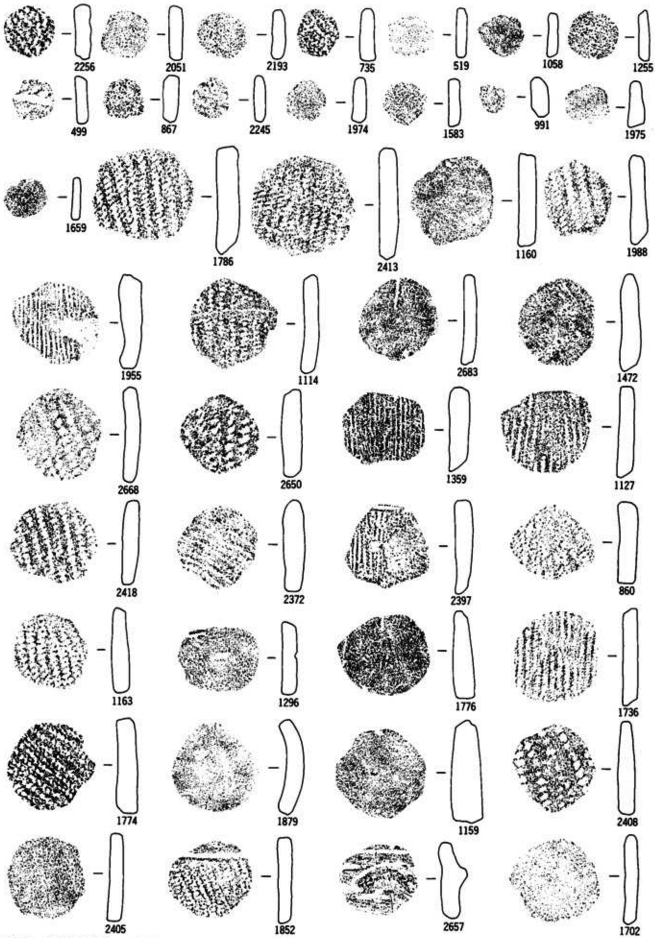
第75図　円盤状土製品　遺構内出土



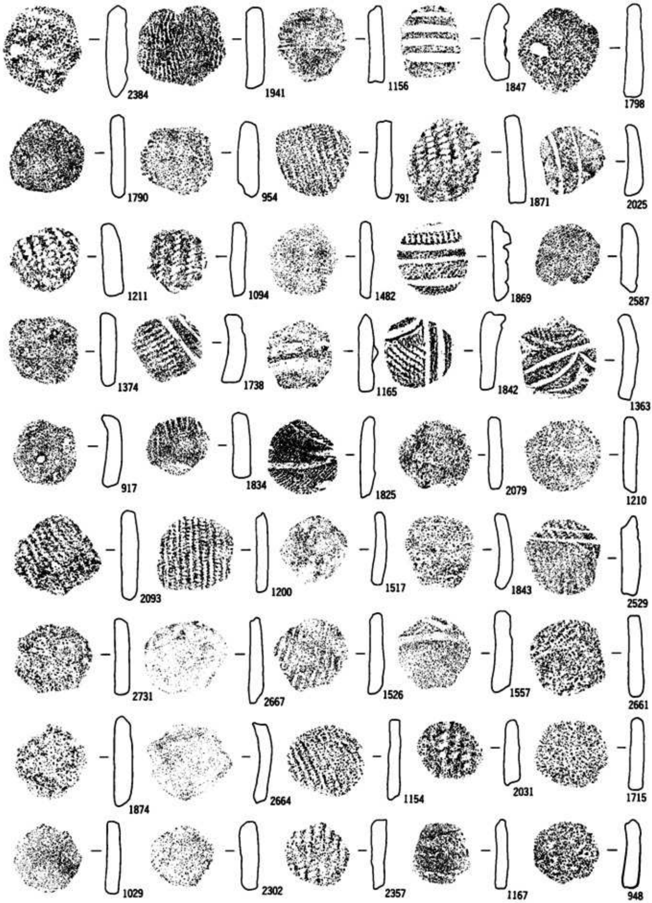
第76図　円盤状土製品　遺構内出土 79、160、112、91、110、94、106
正円形（下）



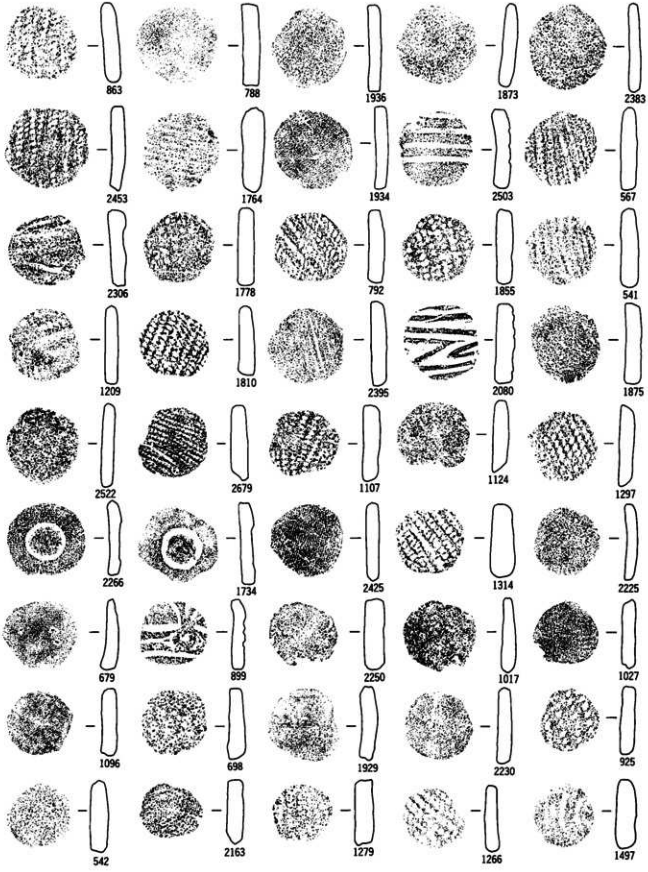
第77図　円盤状土製品　正円形



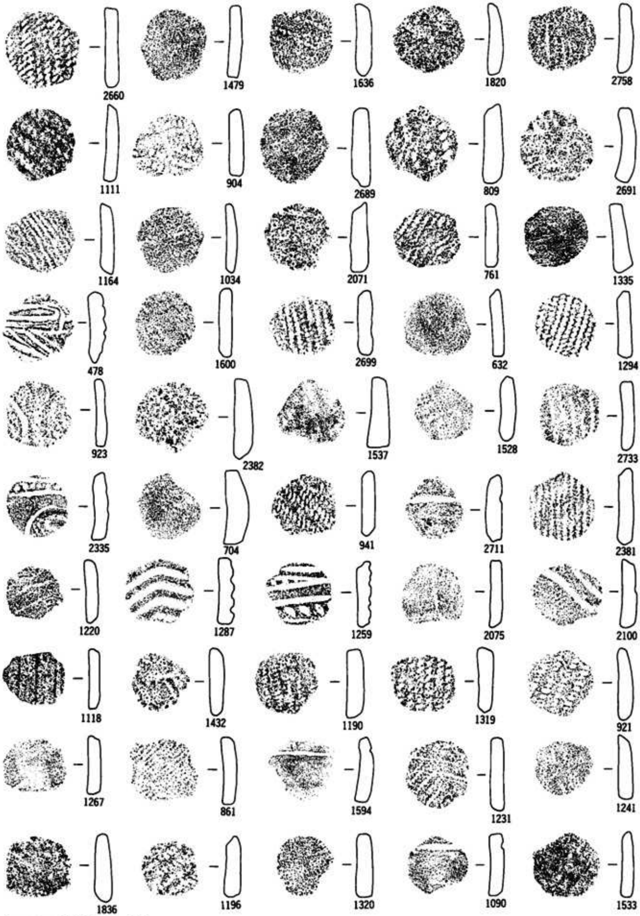
第78図　円盤状土製品　正円形 2256、2051、2193、735、519、1058、1255、499、867、2245、1974、1583、991、1975、1659
円形（下）



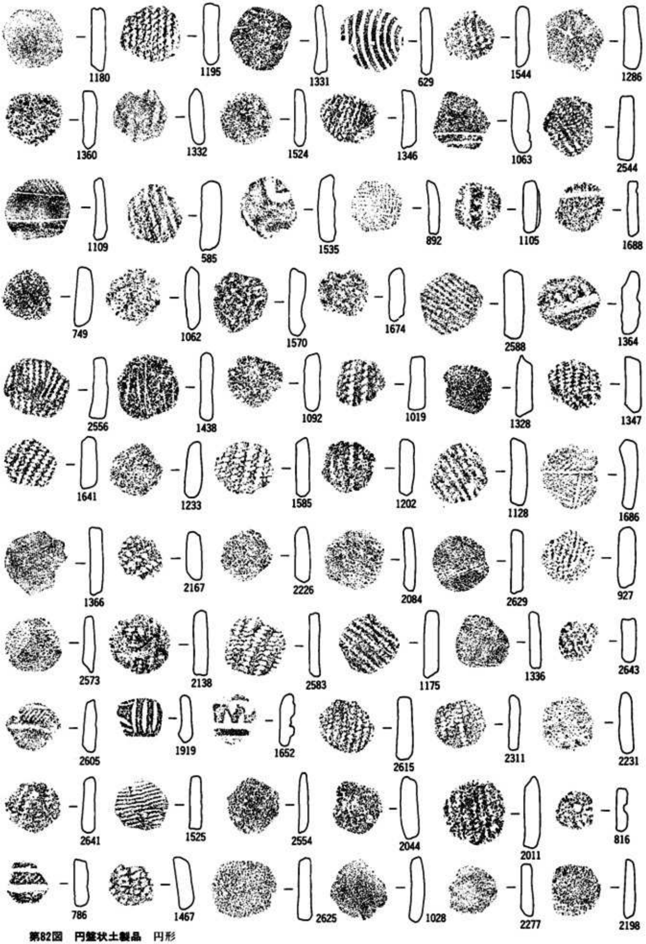
第79図　円盤状土製品　円形



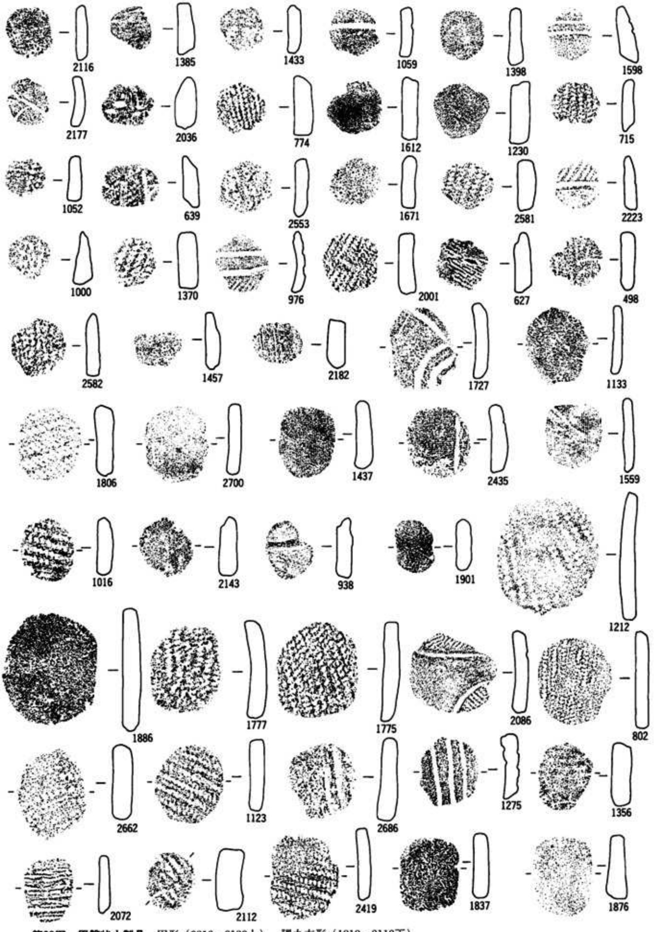
第80図　円盤状土製品　円形



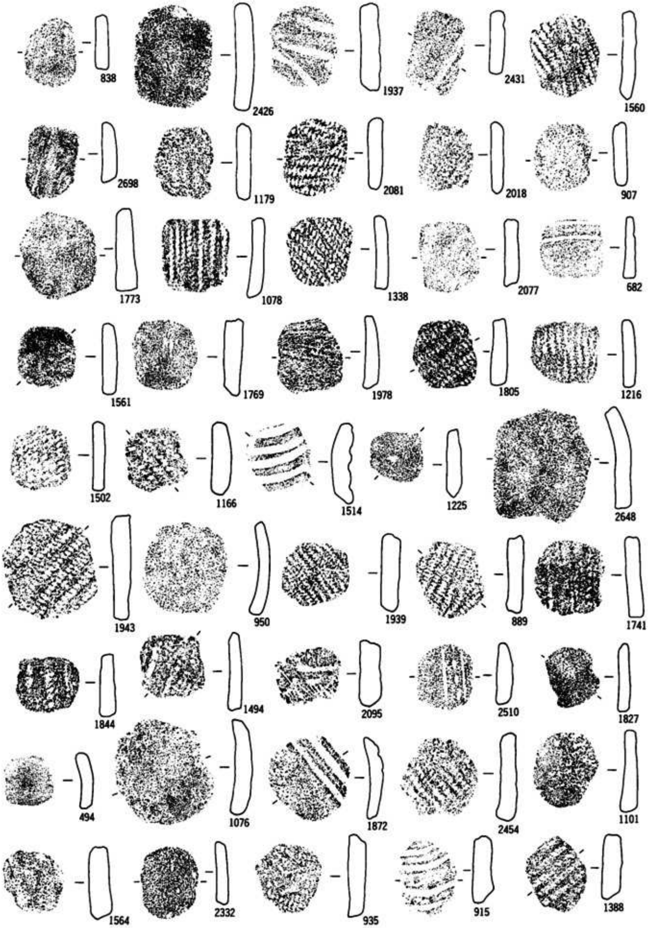
第81図　円盤状土製品　円形



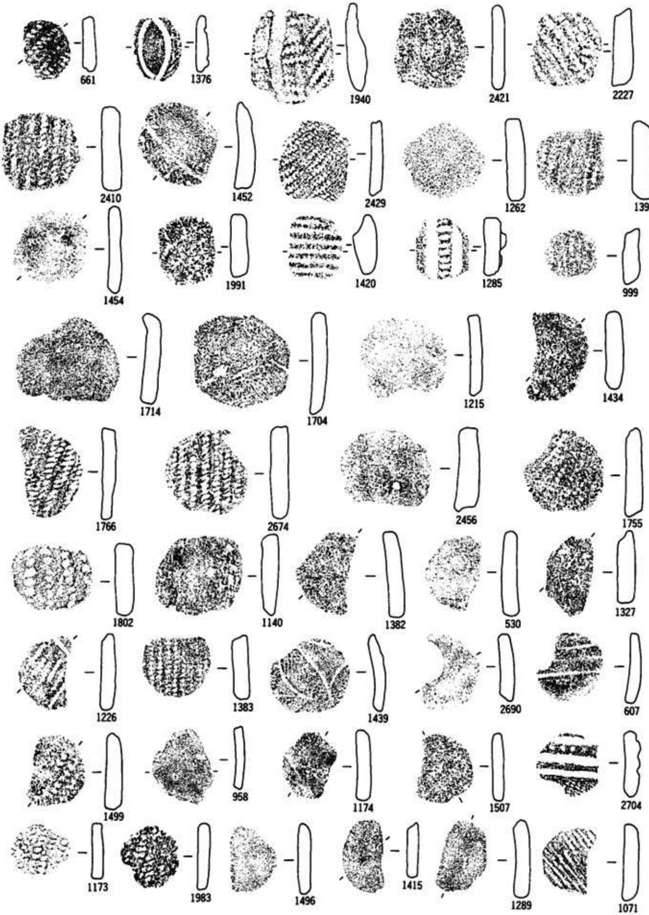
第82図　円盤状土製品　円形



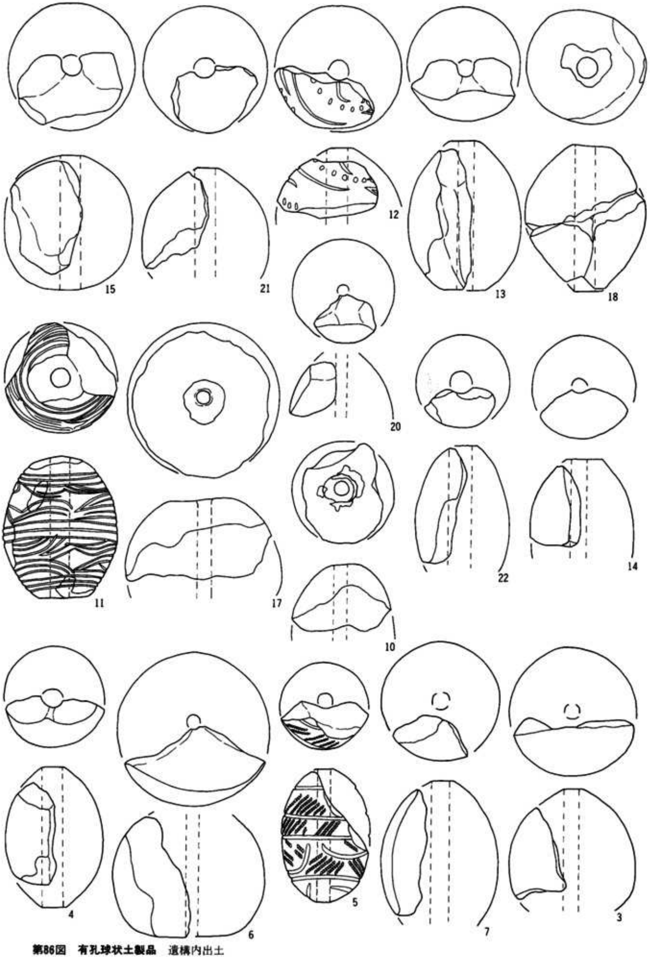
第83図　円盤状土製品　円形（2216～2182上）　隅丸方形（1212～2112下）
楕円形（1727～1901中）　方形 2419、1837、1876



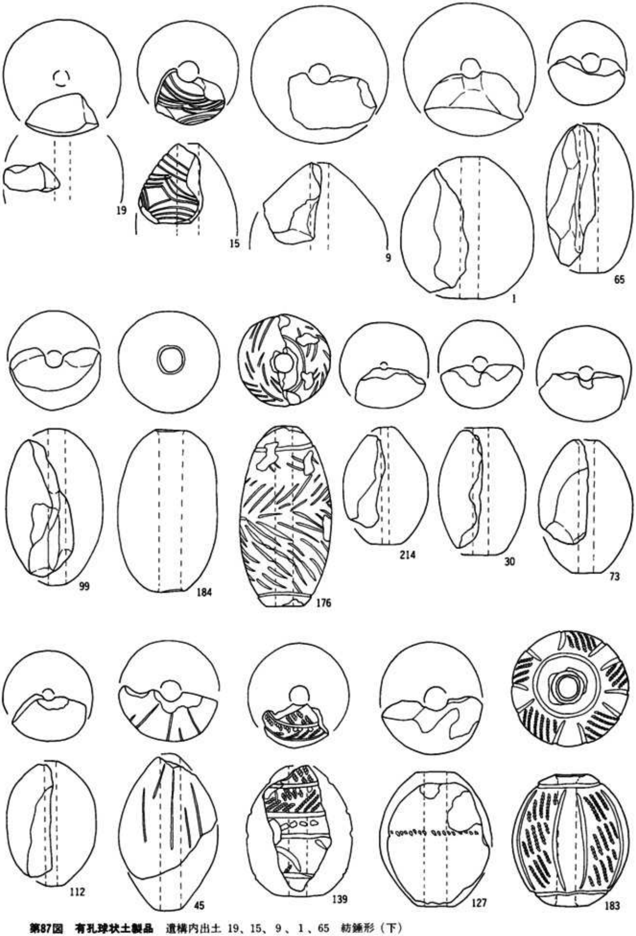
第84図　円盤状土製品　方形（838～1173上）　不整形（下）
正方形（1078～1225中）



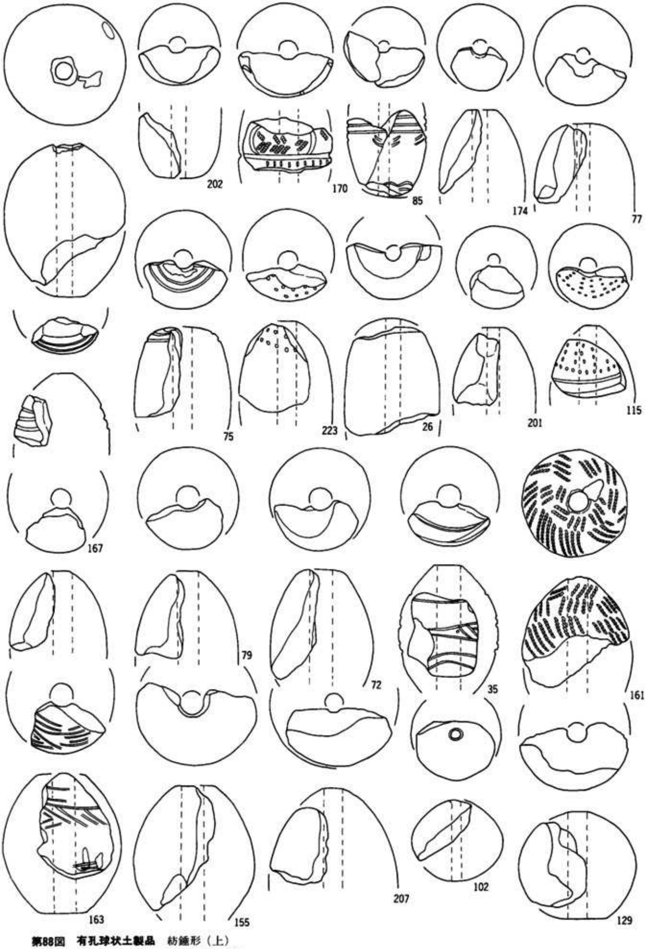
第85図　円盤状土製品　不整形(上)
欠損品(下1714から)



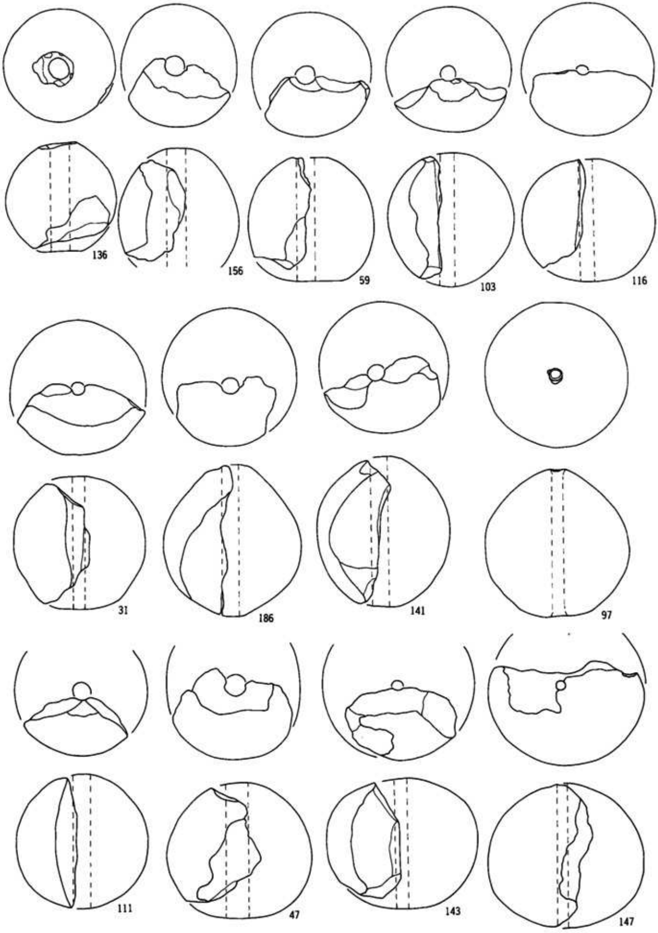
第86図　有孔球状土製品　遺構内出土



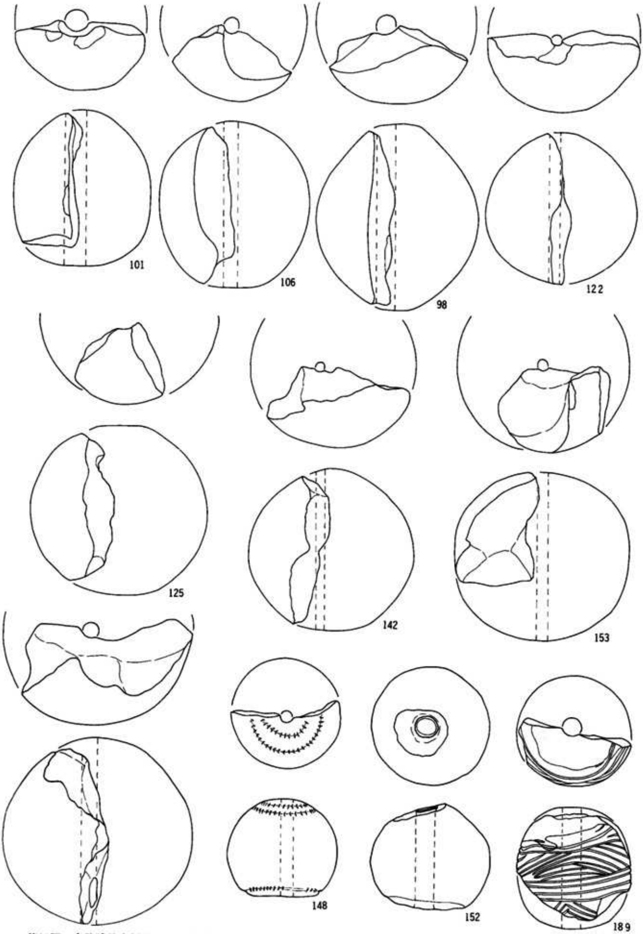
第87図　有孔球状土製品　遺構内出土 19、15、9、1、65　紡錘形（下）



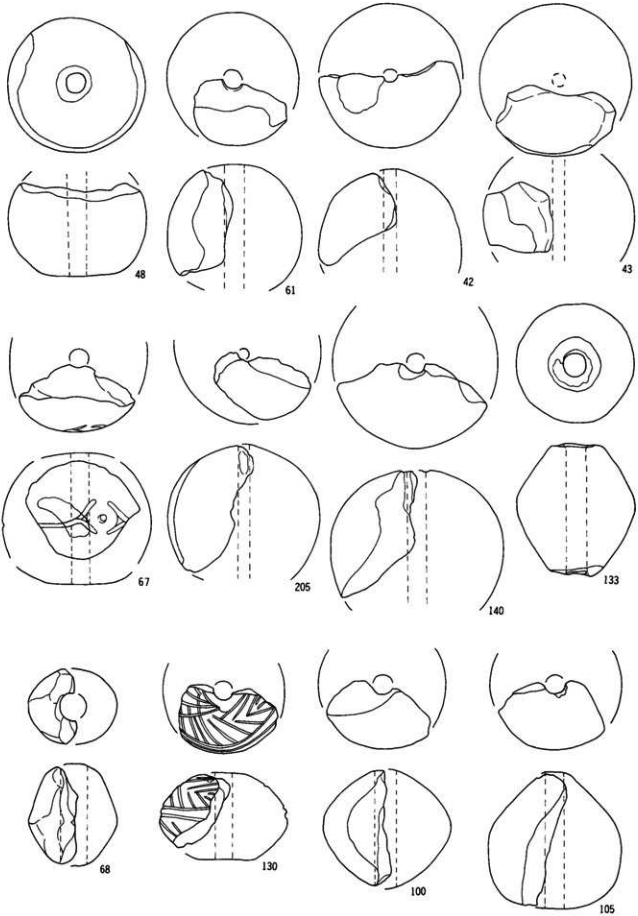
第88図　有孔球状土製品　紡錘形（上）
球形 102、129



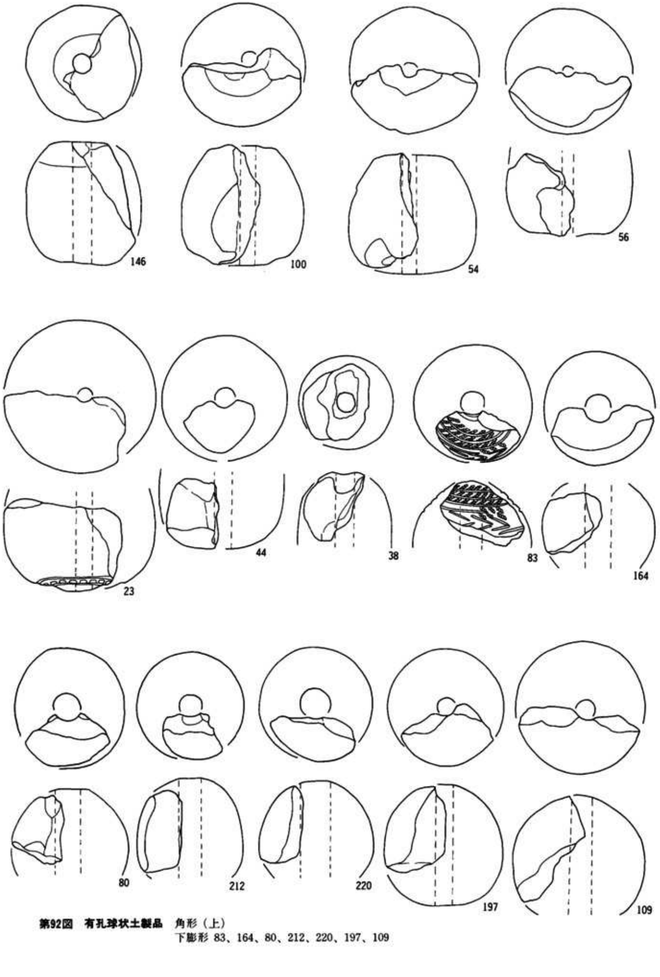
第89図　有孔球状土製品　球形



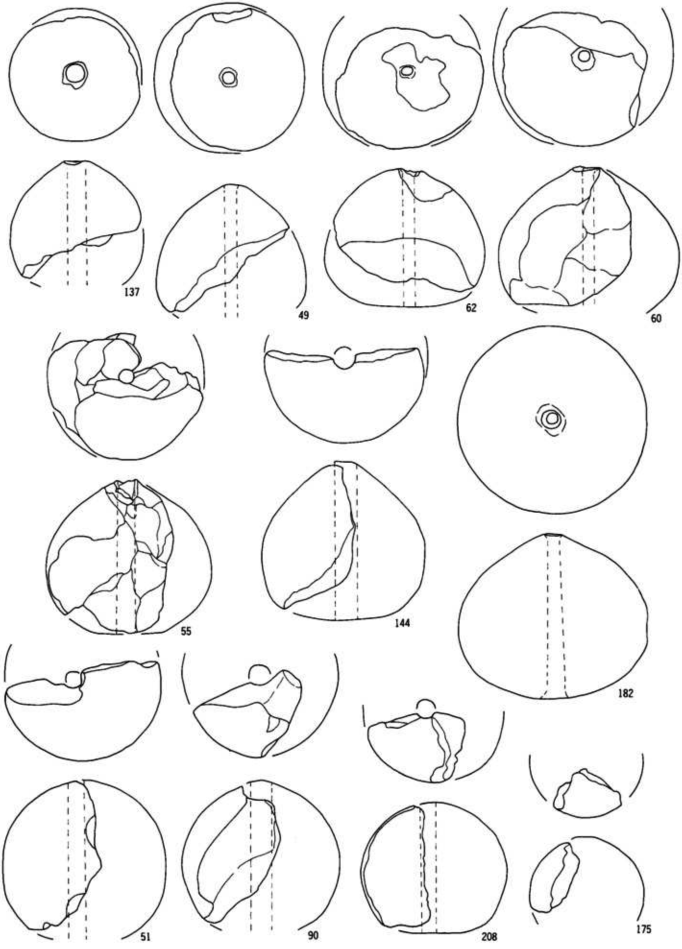
第90図　有孔球状土製品　球形（上）
算盤形 148、152、189



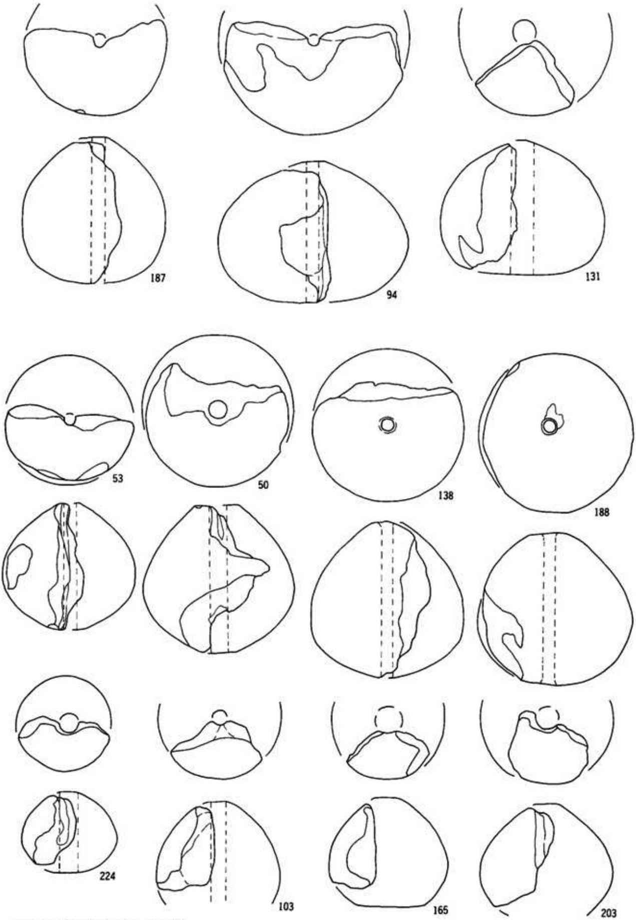
第91図　有孔球状土製品　球形（上）
算盤形 133、68、130、110、105



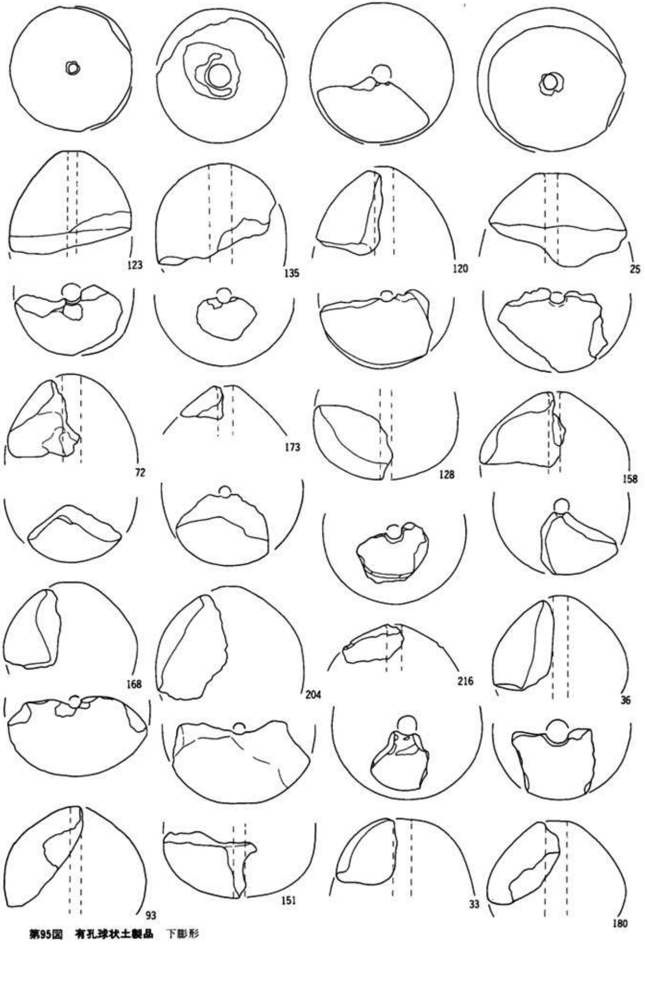
第92図　有孔球状土製品　角形（上）
下膨形 83、164、80、212、220、197、109



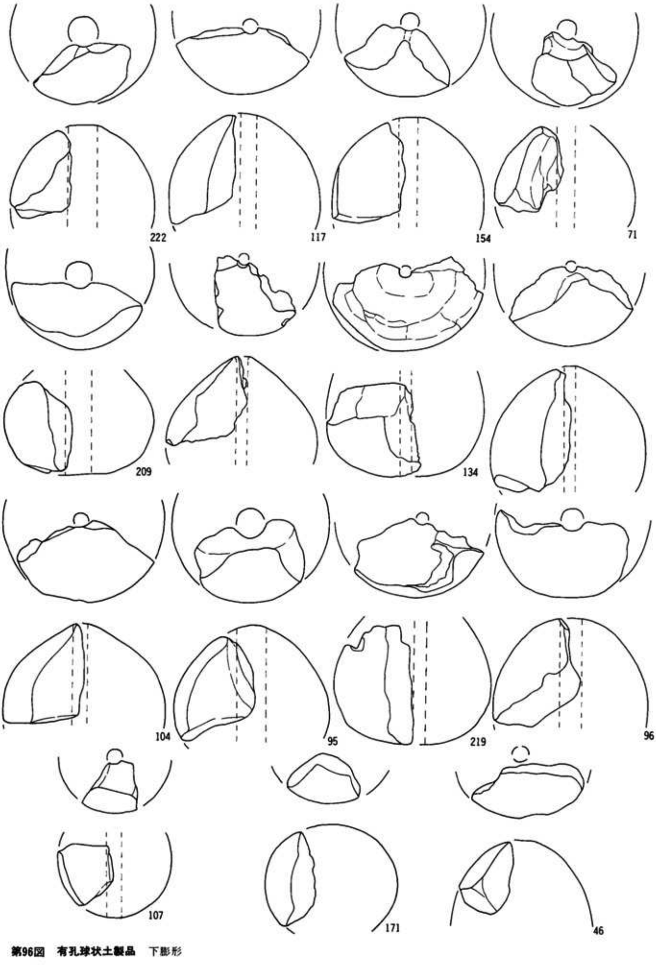
第93図　有孔球状土製品　下膨形



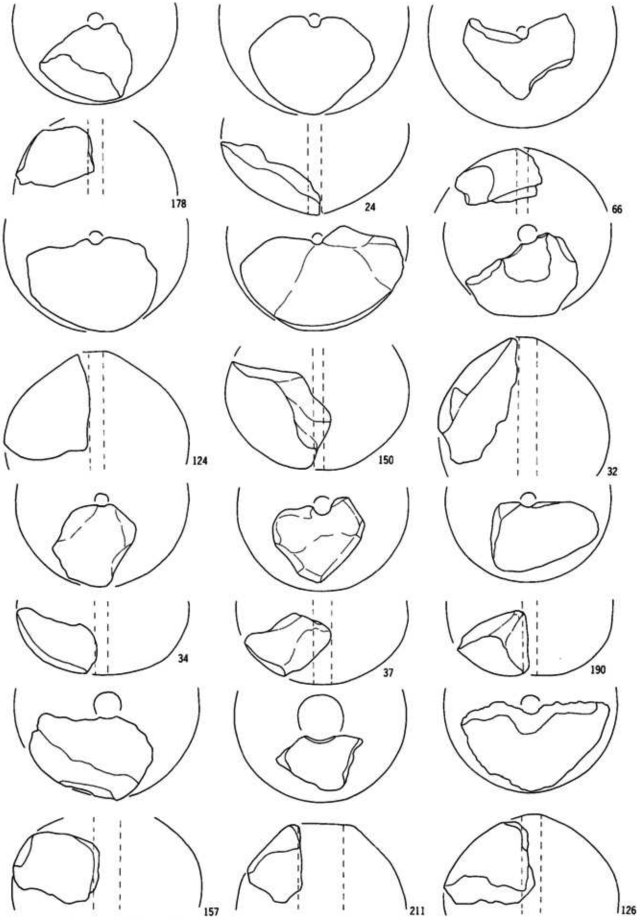
第94図　有孔球状土製品　下膨形



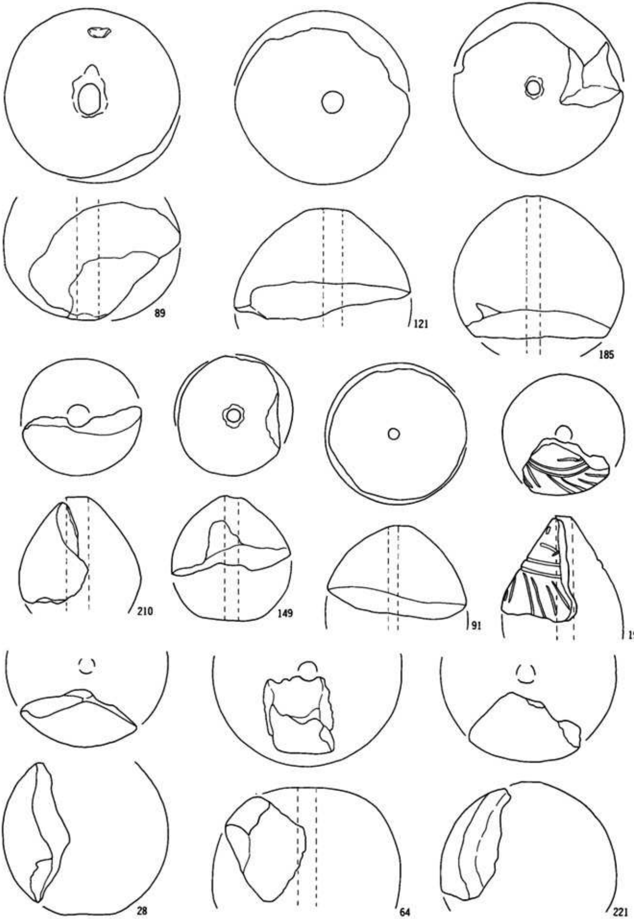
第95図　有孔球状土製品　下膨形



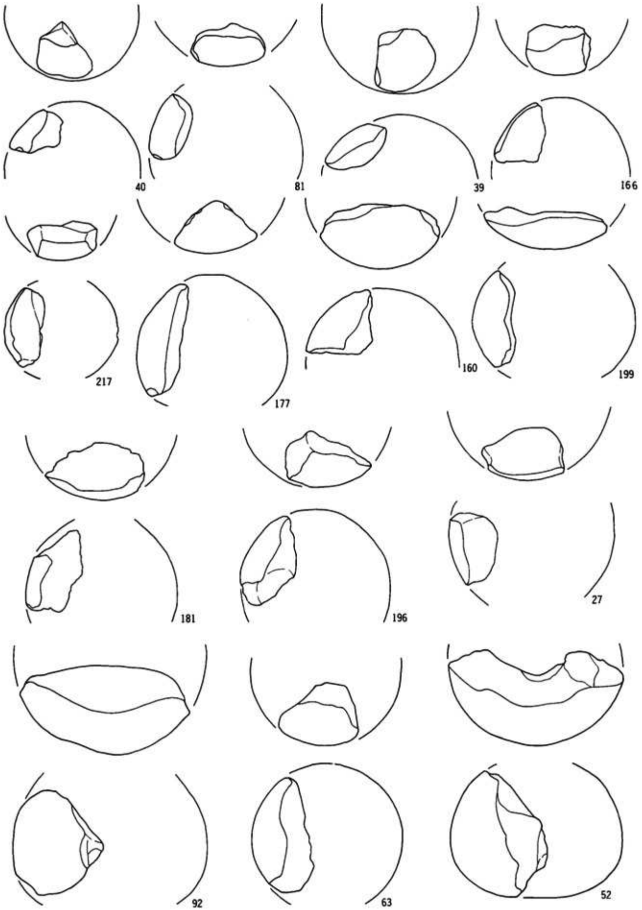
第96図　有孔球状土製品　下膨形



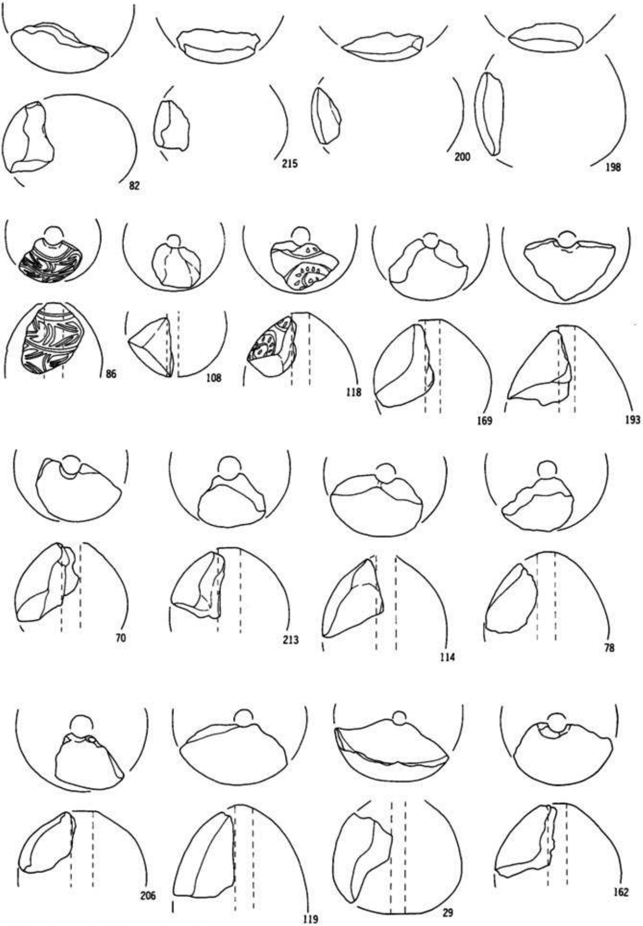
第97図　有孔球状土製品　下影形



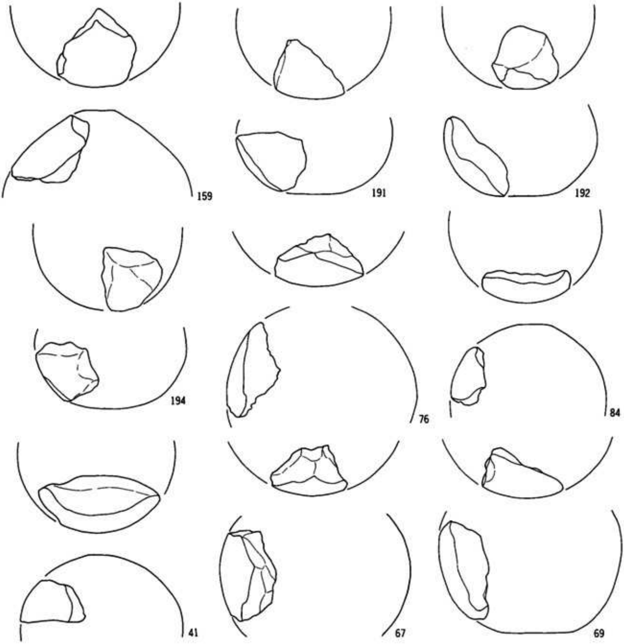
第98図　有孔球状土製品　下膨形（上）
下膨・球形 64、221



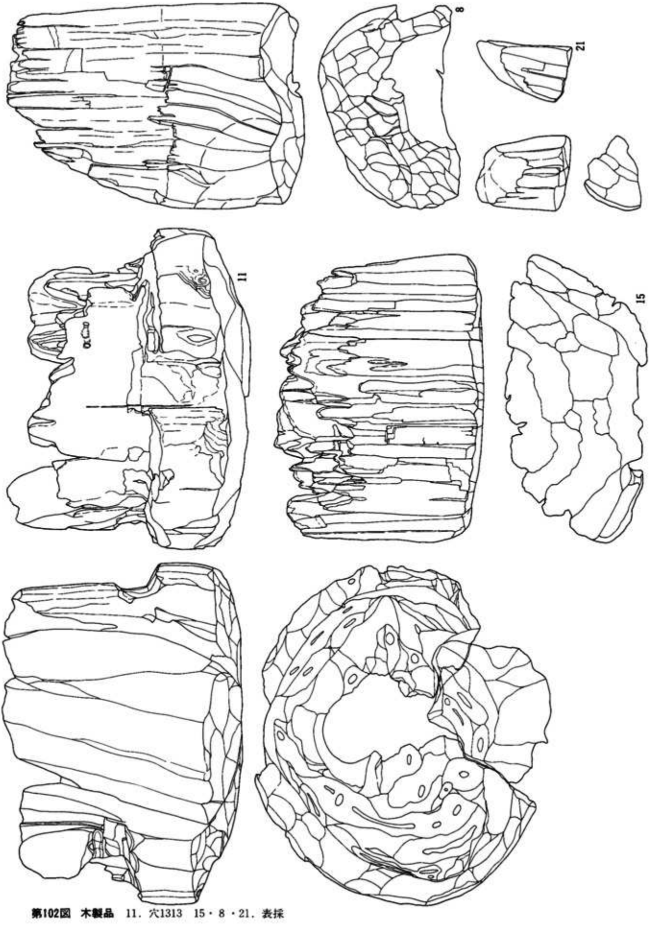
第99図　有孔球状土製品　下影・球形



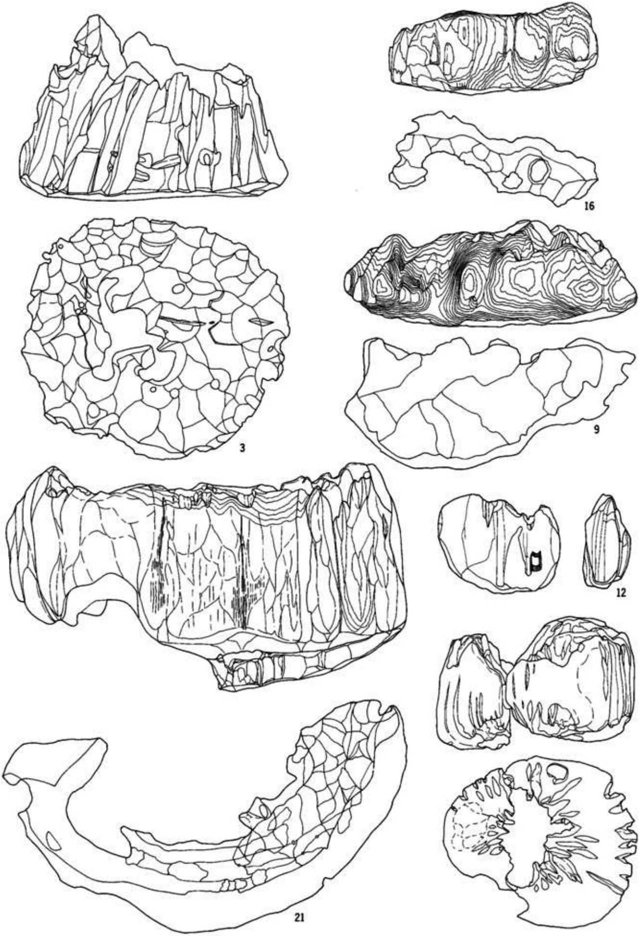
第100図　有孔球状土製品　下膨・球形



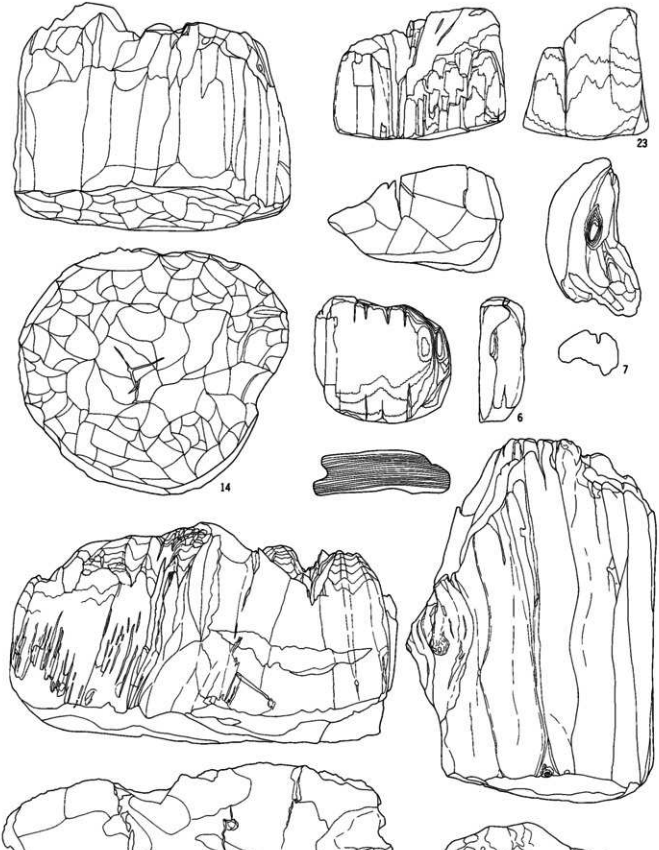
第101図　有孔球状土製品　下影・球形



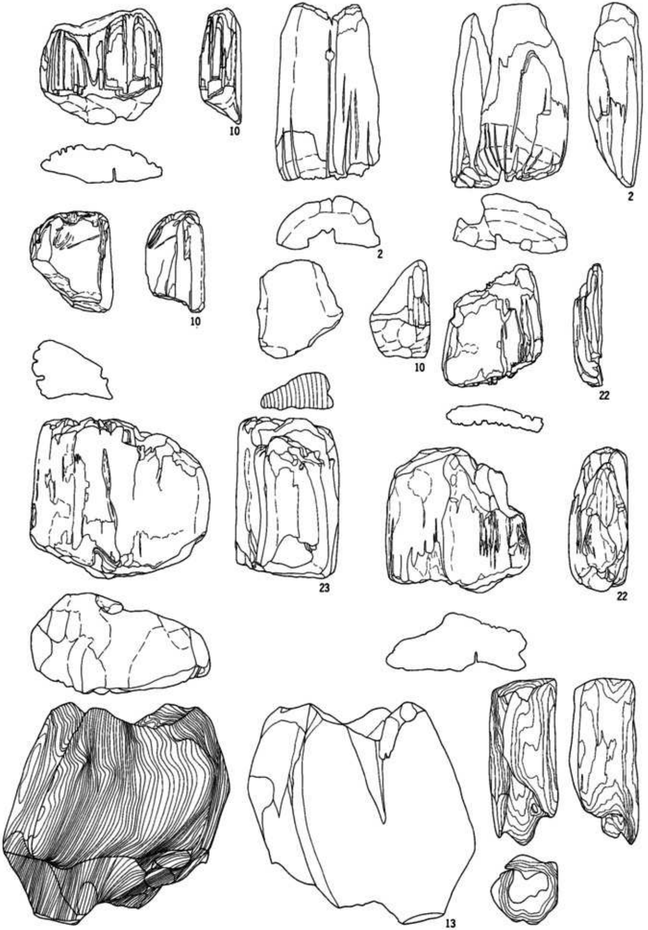
第102図　木製品　11. 穴1313　15・8・21. 表採



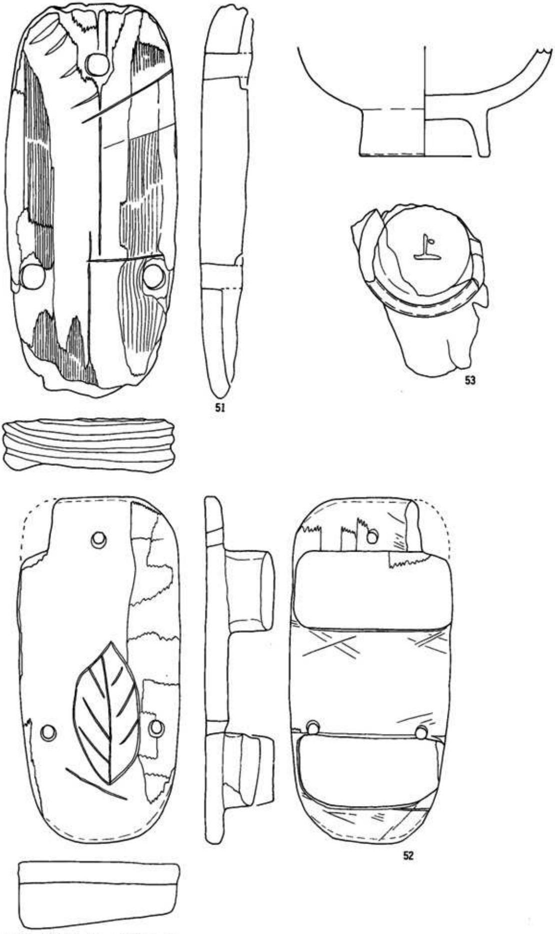
第103図　木製品　3．穴1312　21・12．穴1033　16．穴1316　9．穴1031　1．穴1364



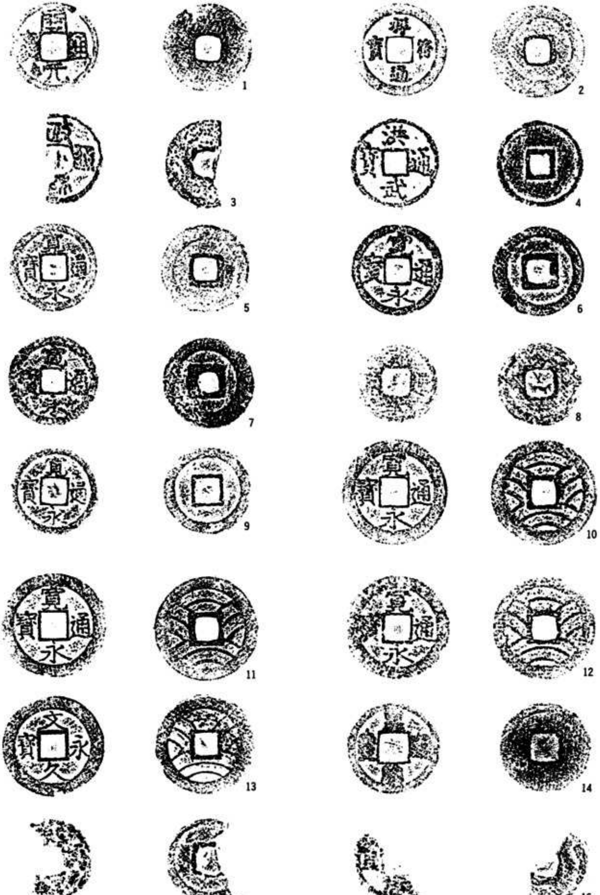
第104図　木製品　14．穴1352　4．表採　23．穴1549　7．穴1521　6．穴370
5．穴242



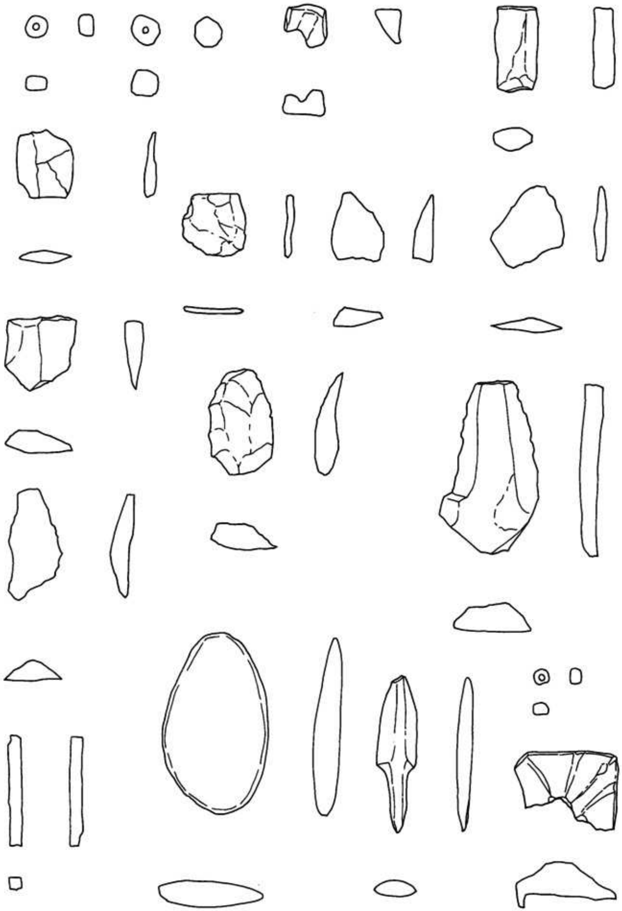
第105図　木製品　10．穴267　2．穴1363　7．穴1549　13．穴1380　22．穴1546
16．穴1316



第106図　木製品　51表採　52. X79Y60　53.

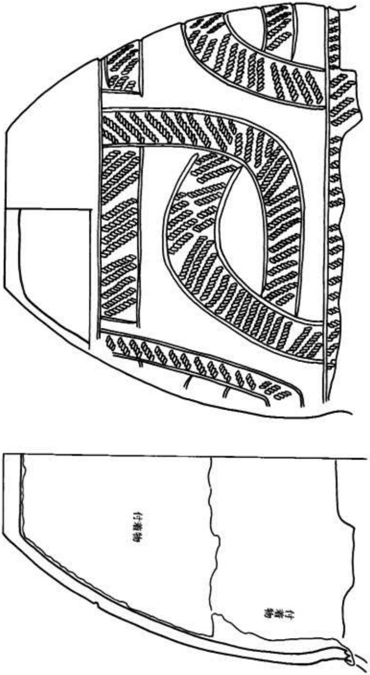


第107図　出土古銭



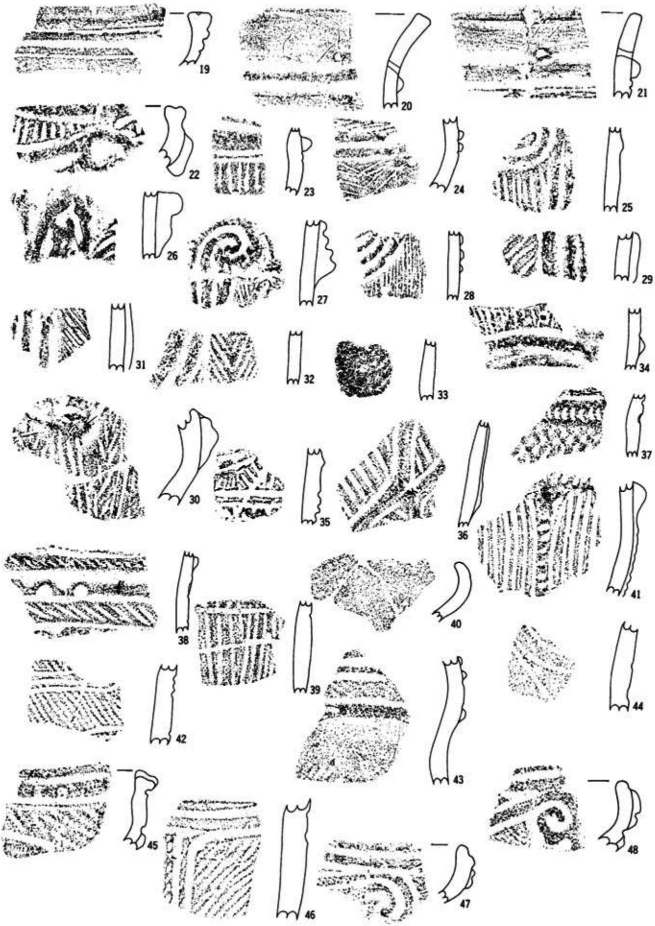
第108図　出土石器他

第109図　出土石器 他

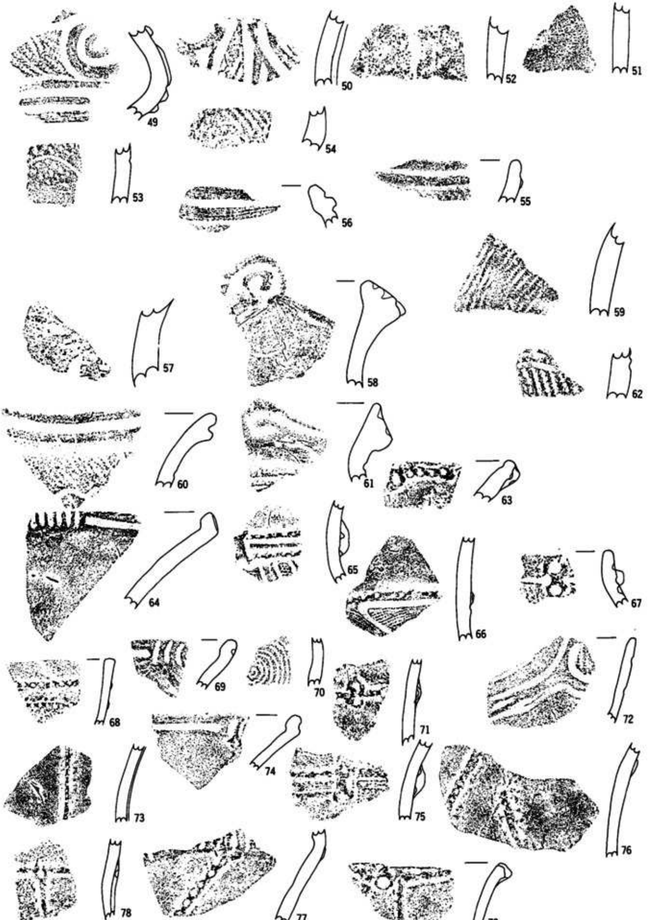


第110図　分析資料（X88Y49区出土土器No.63、S＝[illegible]）

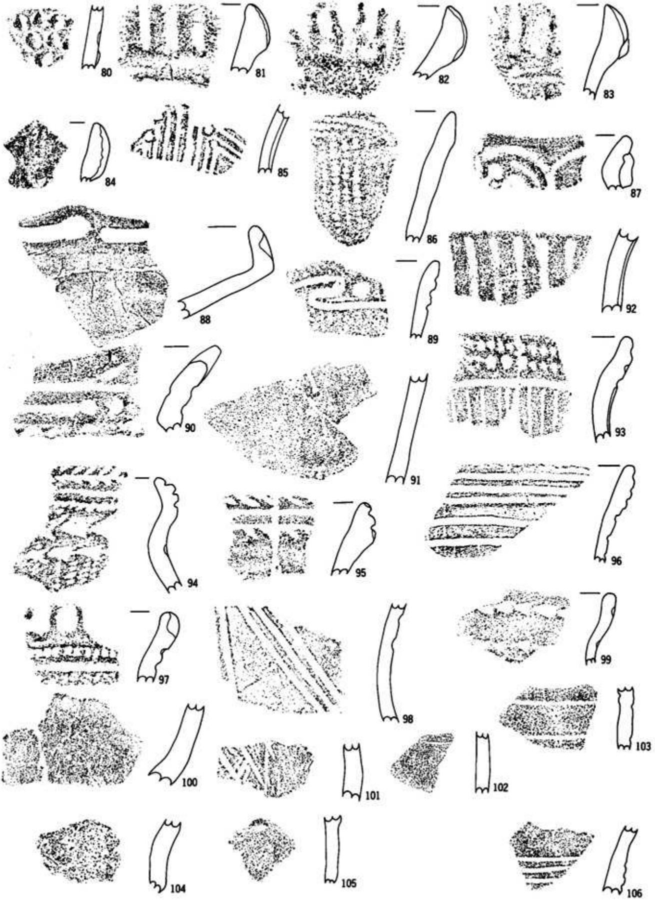
第111図　胎土分析土器　境A遺跡縄文時代



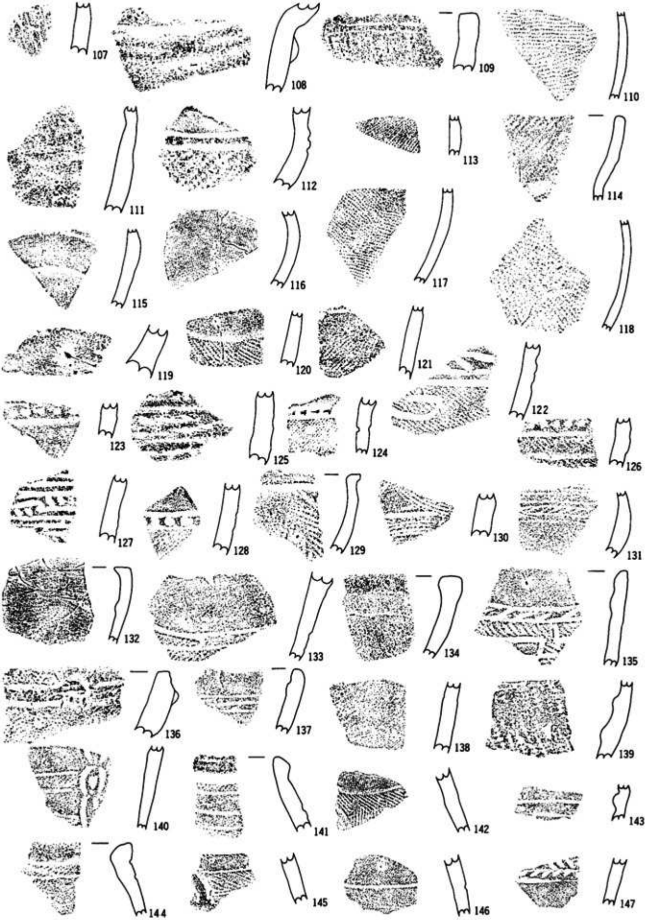
第112図　胎土分析土器　境A遺跡縄文時代



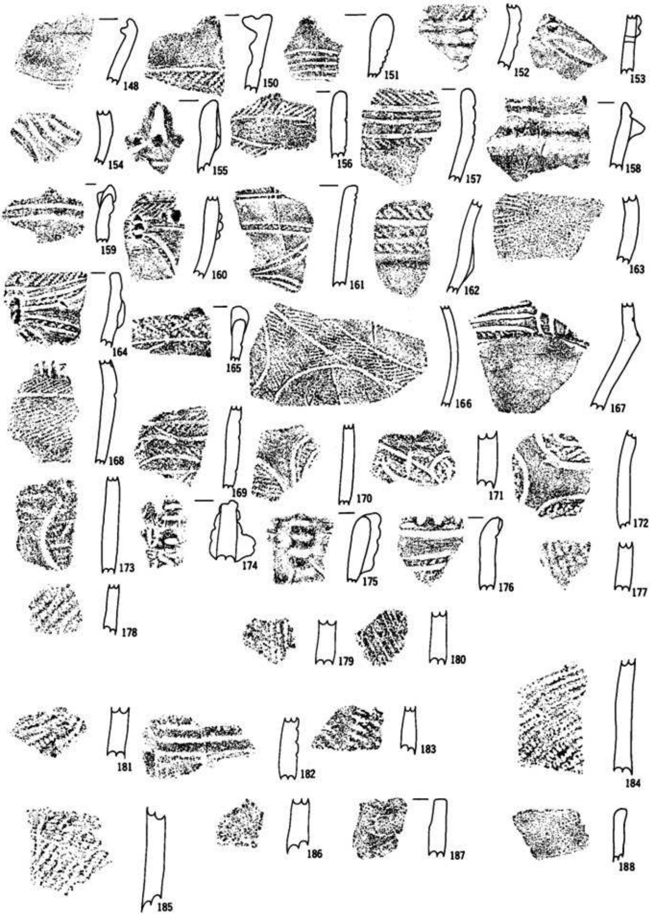
第113図　胎土分析土器　境Ａ遺跡縄文時代



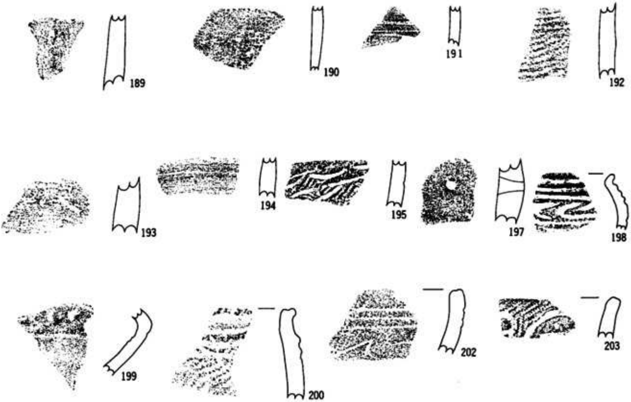
第114図　胎土分析土器　境Ａ遺跡縄文時代



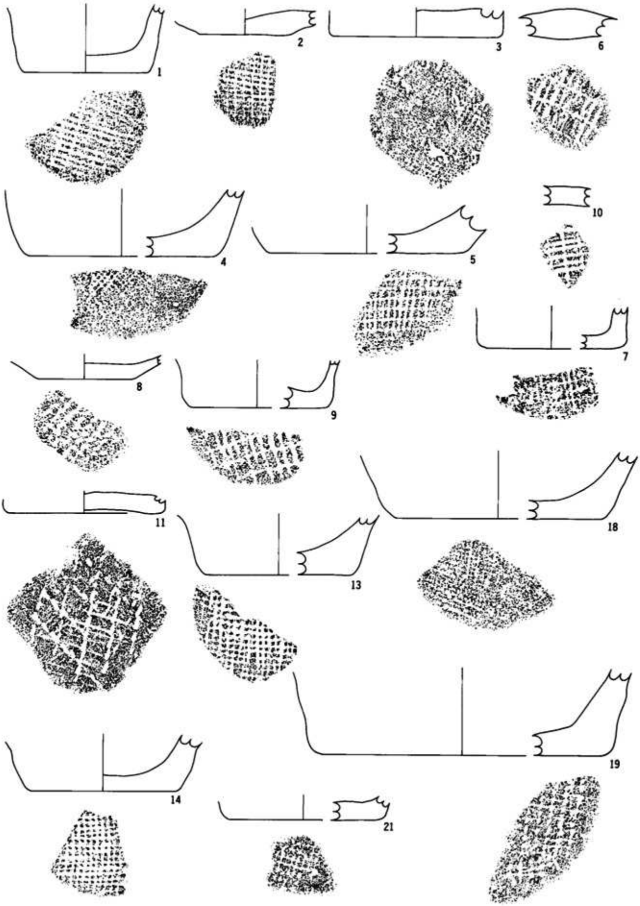
第115図　胎土分析土器　境Ａ遺跡縄文時代



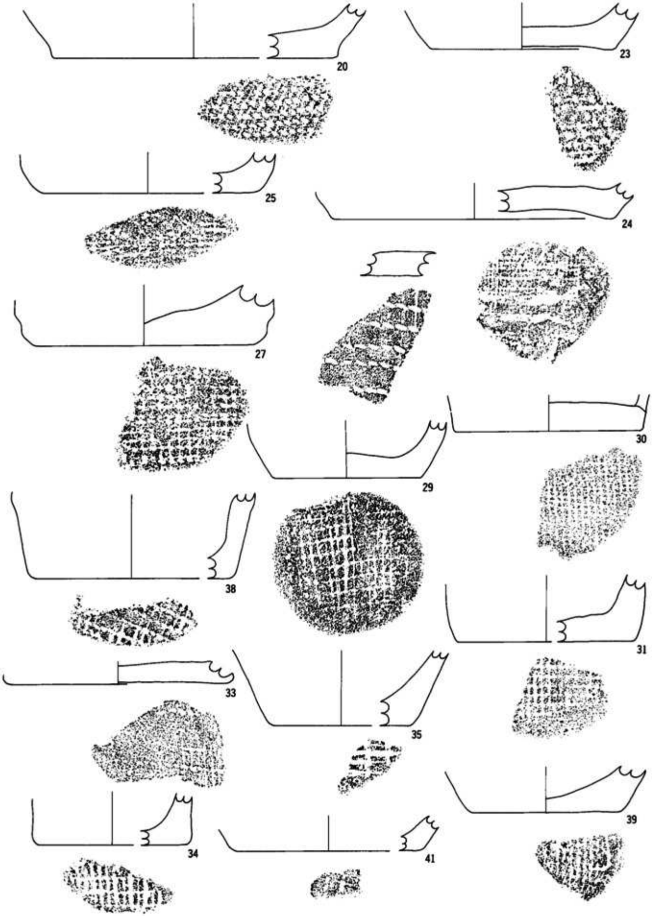
第116図　胎土分析土器　境Ａ遺跡縄文時代 148～176、境Ａ遺跡土師器 188　馬場山Ｄ遺跡縄文時代 177～179
馬場山Ｇ遺跡縄文時代 181～183　馬場山Ｈ遺跡縄文時代 184～185　馬場山Ｆ遺跡縄文時代 180



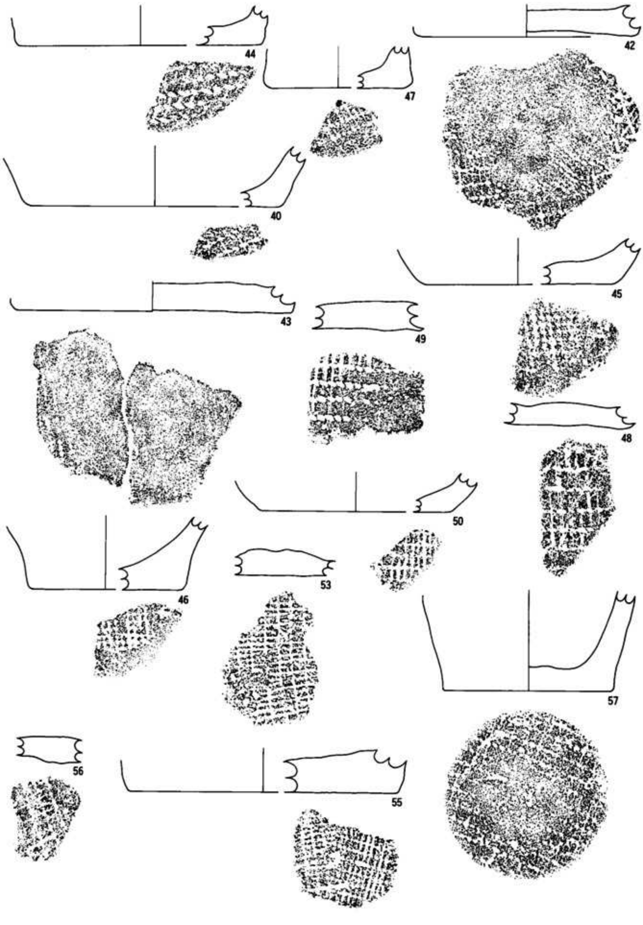
第117図　胎土分析土器　境A遺跡縄文時代 195～203　境A遺跡土師器 189、190　境A遺跡須恵器 191、192、193、194



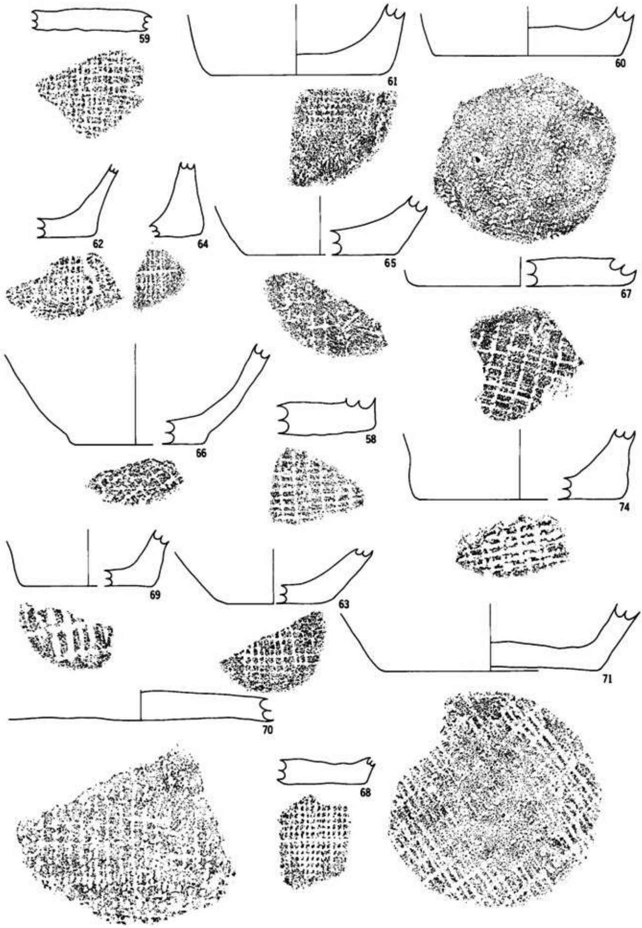
第118図　土器底面の編・織目痕　1類



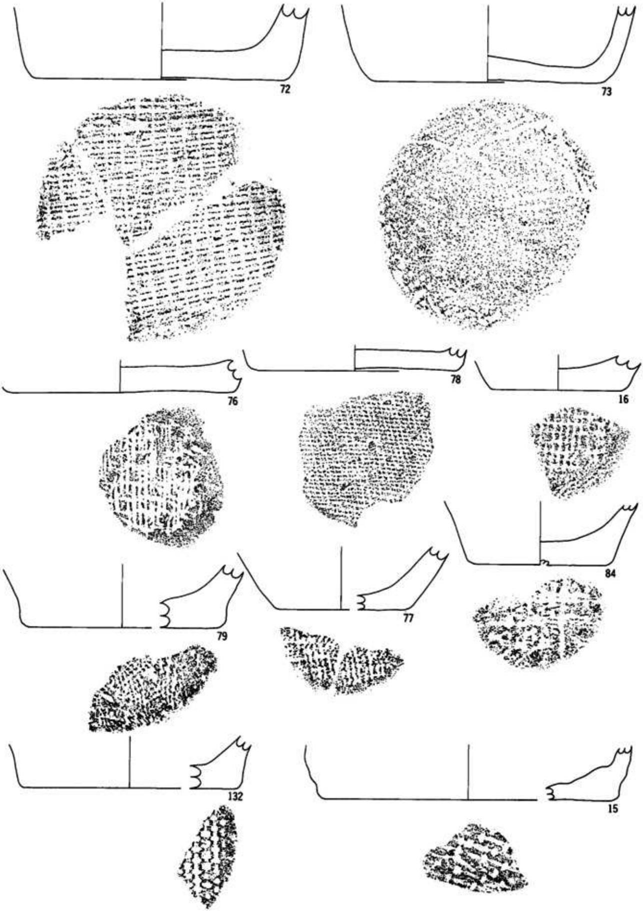
第119図　土器底面の編・織目痕　1類



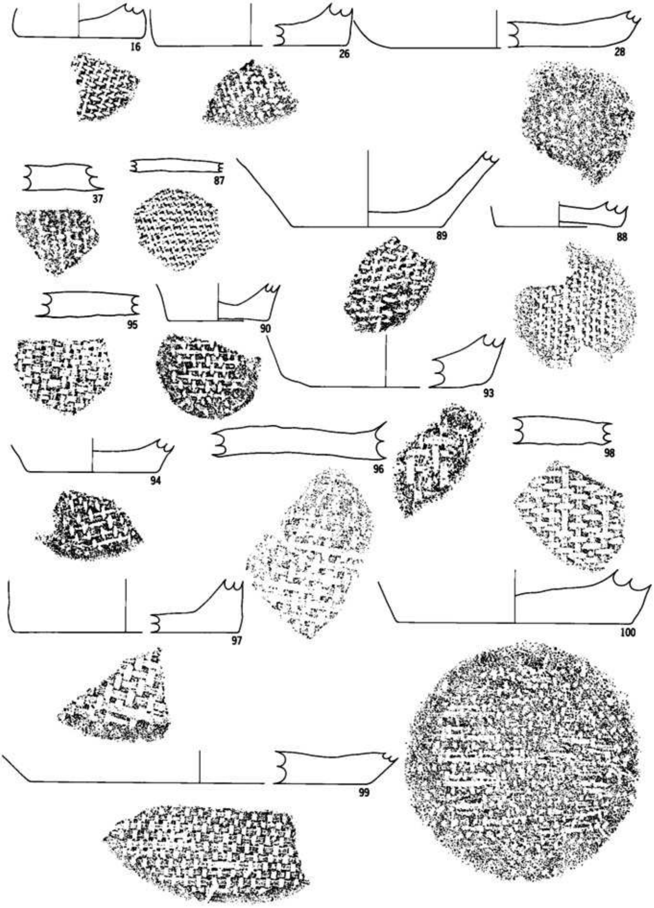
第120図　土器底面の編・織目痕　１類



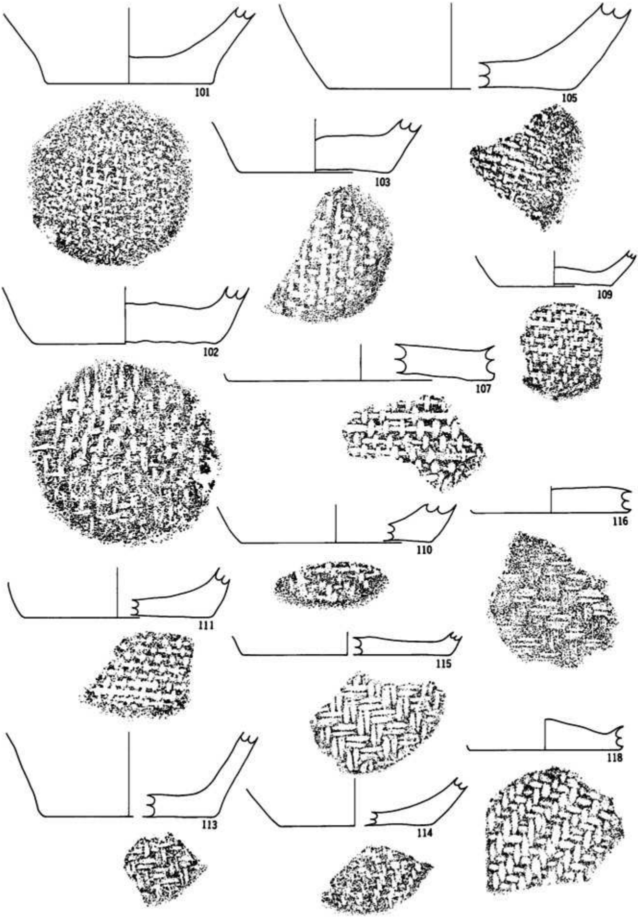
第121図　土器底面の編・織目痕　1類



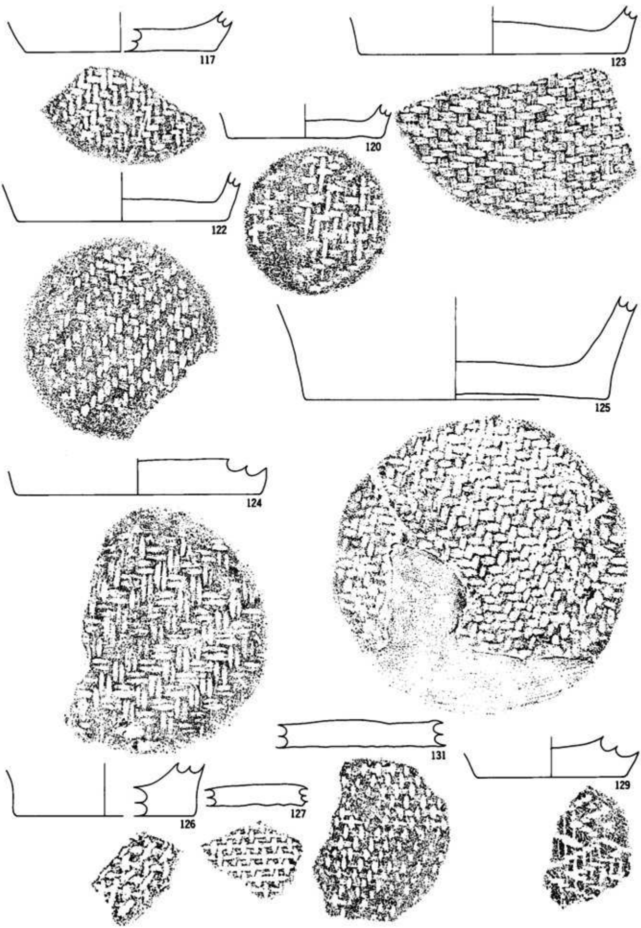
第122図　土器底面の編・織目痕　1類、2類A



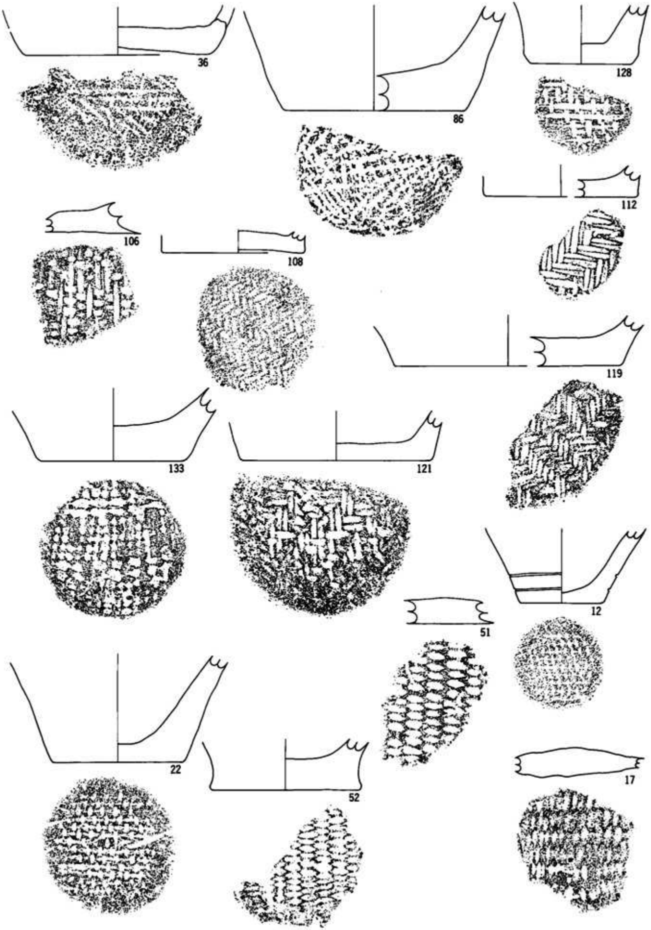
第123図　土器底面の編・織目痕　2類A



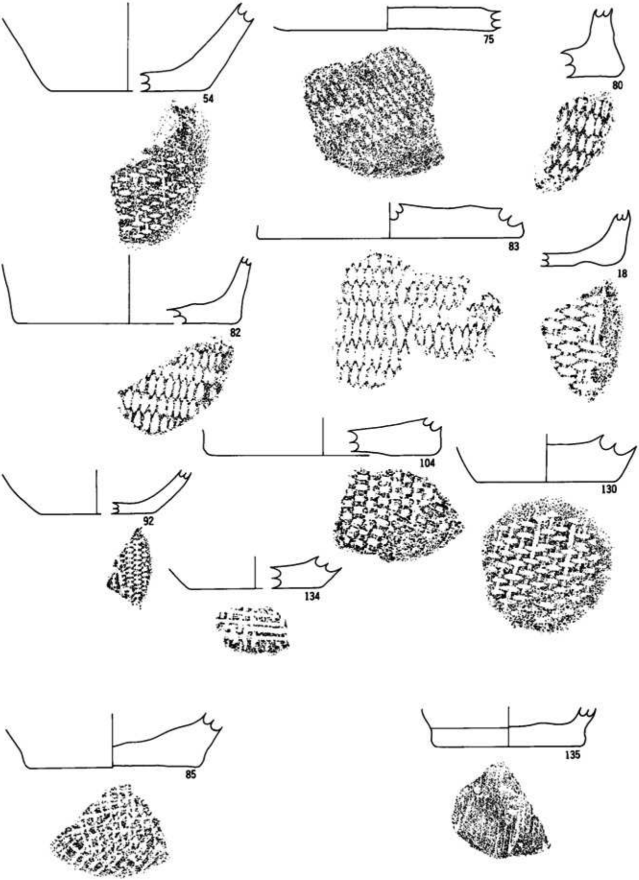
第124図　土器底面の編・織目痕　２類Ａ



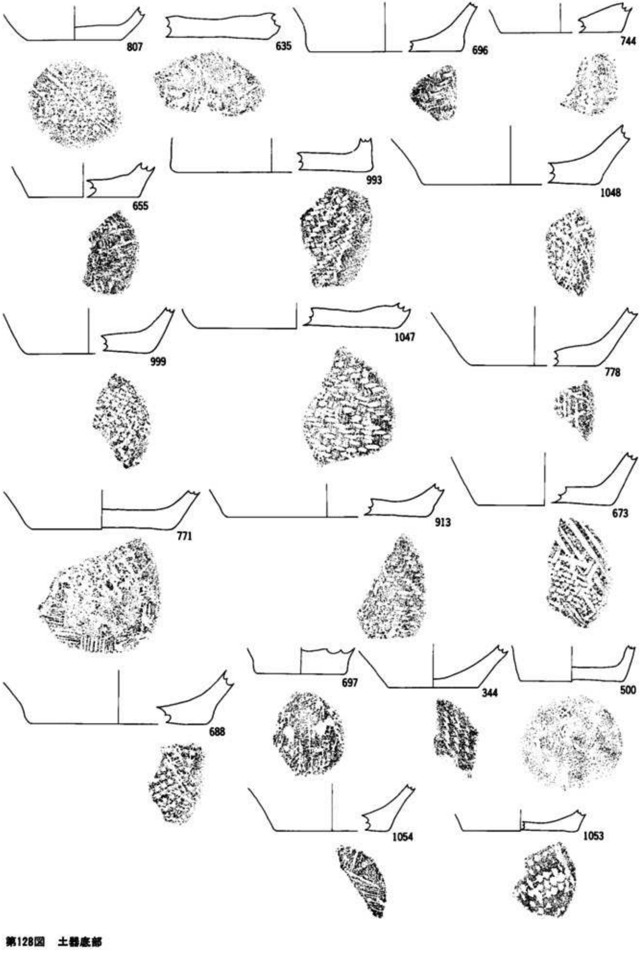
第125図　土器底面の編・織目痕　2類A



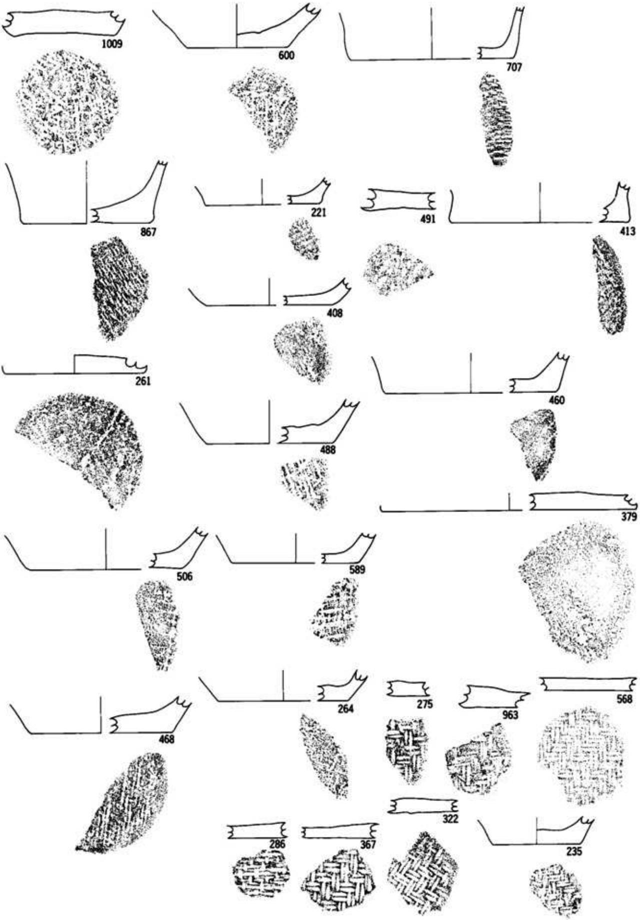
第126図　土器底面の編・織目痕　２類Ｂ・Ｃ、３類



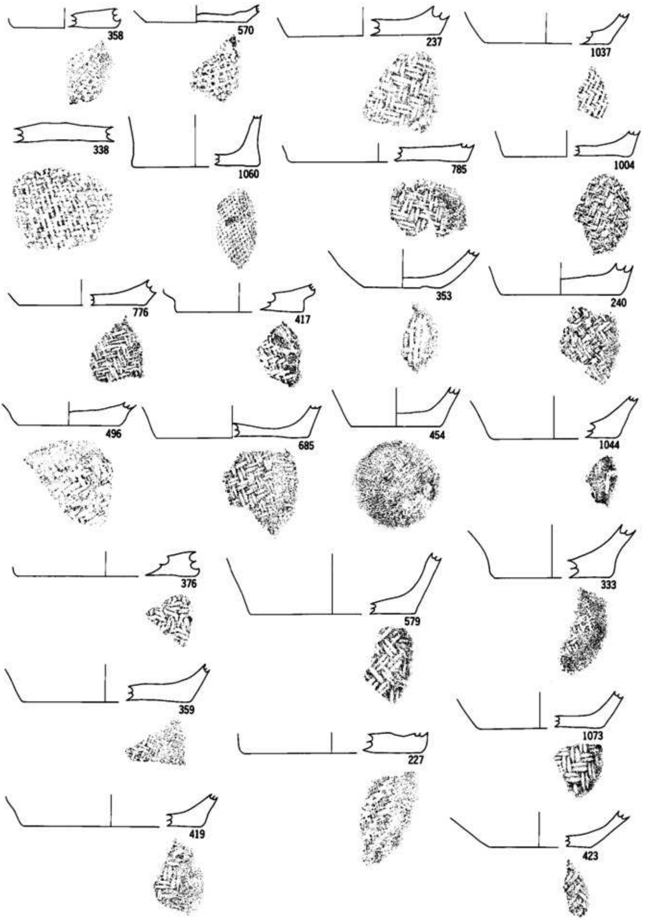
第127図　土器底面の編・織目痕　3類、4類


807
635
696
744
655
993
1048
999
1047
778
771
913
673
697
344
500
688
1054
1053

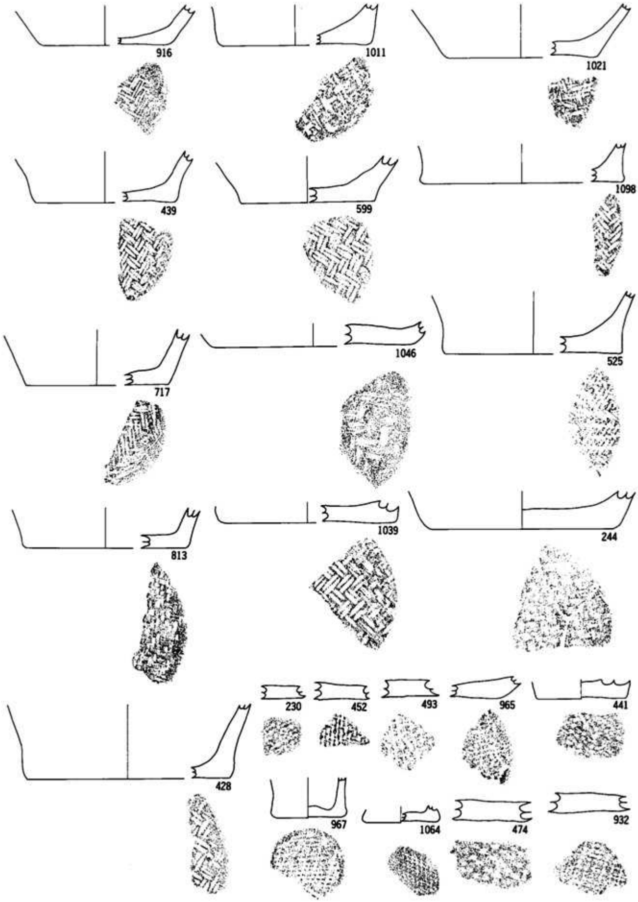
第128図　土器底部


1009
600
707
867
221
491
413
408
261
460
488
379
506
589
468
264
275
963
568
322
286
367
235

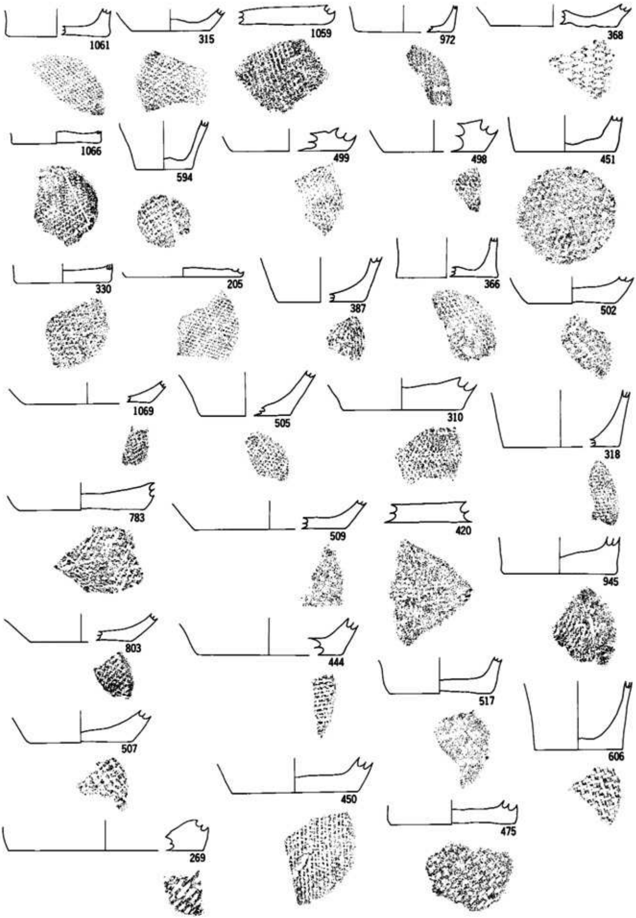
第129図　土器底部


358
570
237
1037
338
1060
785
1004
353
240
776
417
496
685
454
1044
376
579
333
359
1073
227
419
423

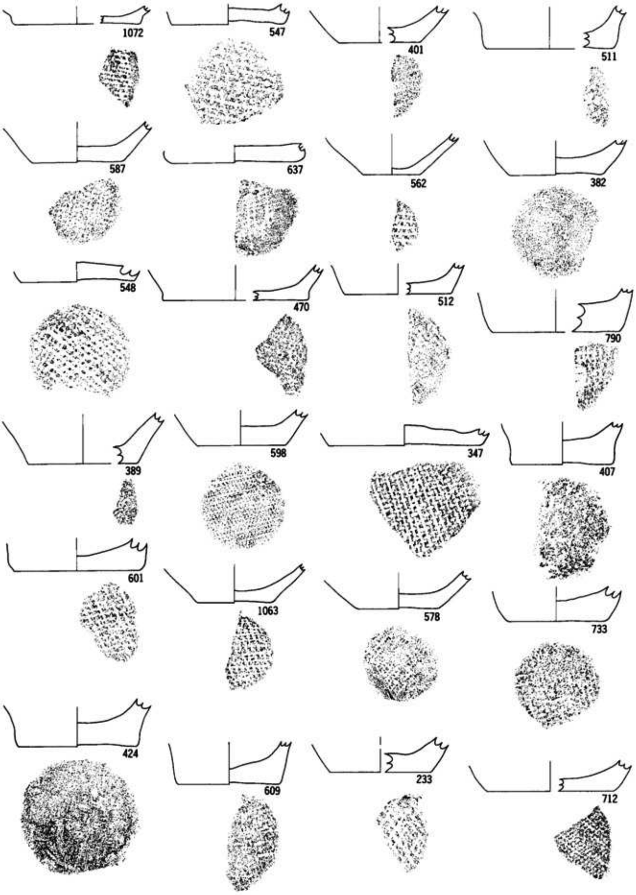
第130図　土器底部


916
1011
1021
439
599
1098
717
1046
525
813
1039
244
230
452
493
965
441
428
967
1064
474
932

第131図　土器底部


1061
315
1059
972
368
1066
594
499
498
451
330
205
387
366
502
1069
505
310
318
783
509
420
945
803
444
517
606
507
450
475
269

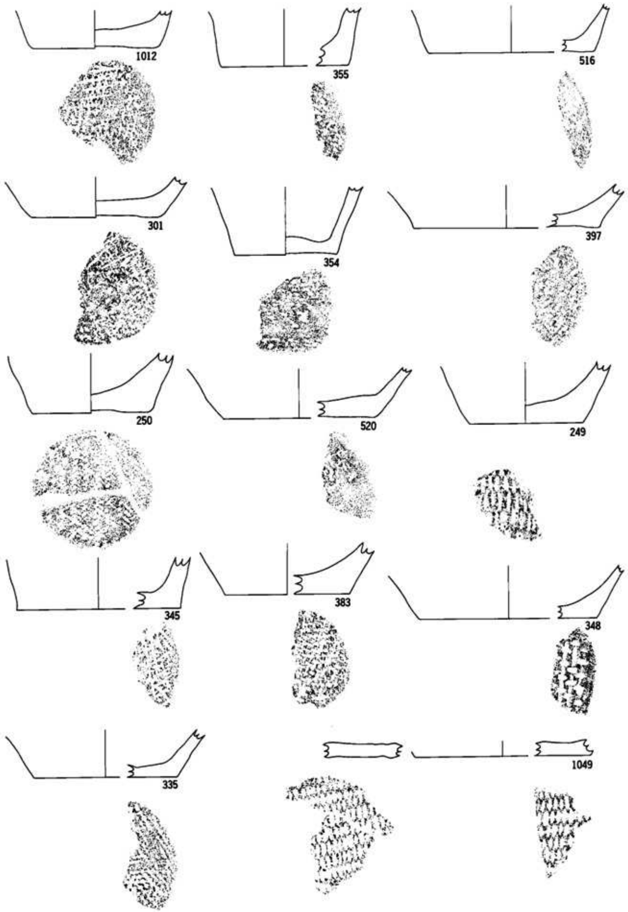
第132図　土器底部


1072
547
401
511
587
637
562
382
548
470
512
790
389
598
347
407
601
1063
578
733
424
609
233
712

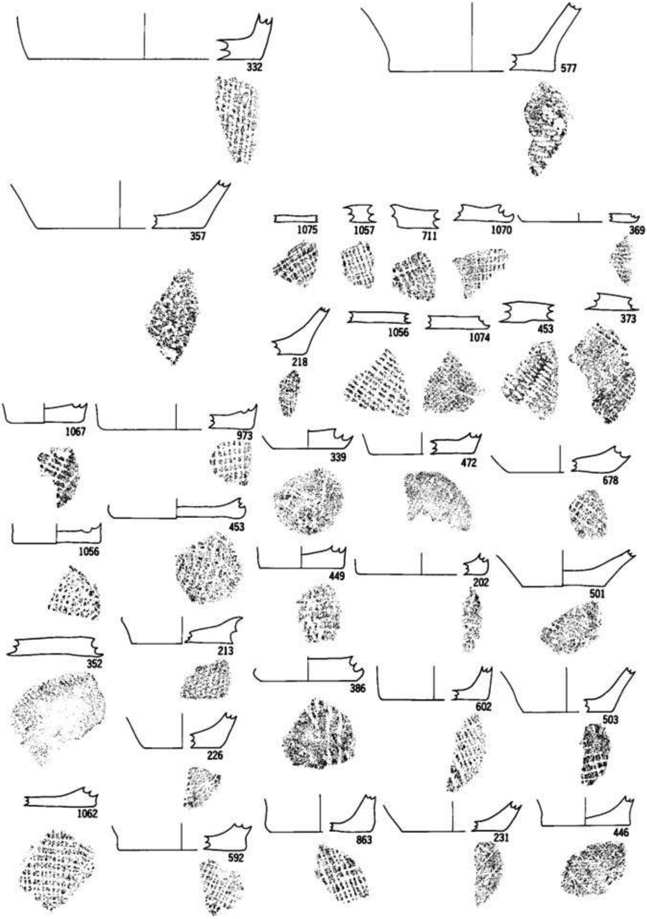
第133図　土器底部

393
241
412
940
409
252
384
522
271
374
674
583
510
308
292
293
296
768
995

第134図　土器底部



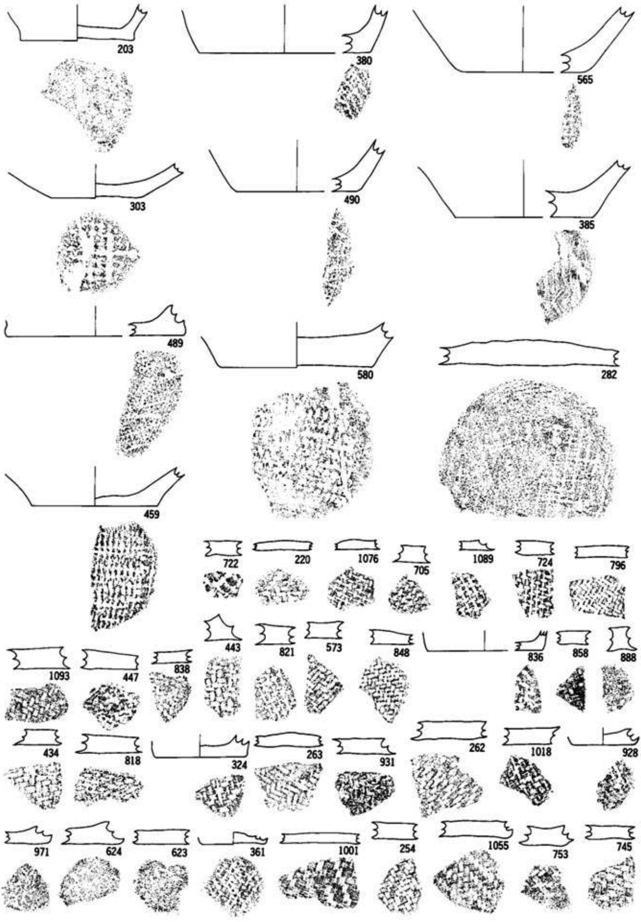
第135図　土器底部


332
577
357
1075
1057
711
1070
369
218
1056
1074
453
373
1067
973
339
472
678
453
1056
449
202
501
213
352
386
602
503
226
1062
863
231
446
592

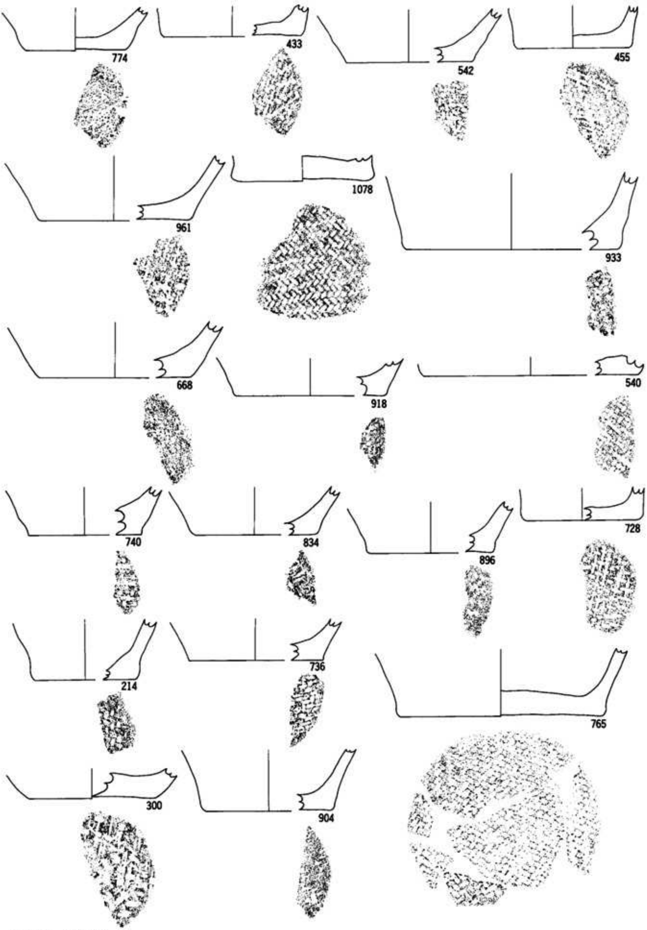
第136図　土器底部

390
795
442
581
458
974
267
723
483
772
957
391
504
1058
1041
866
305
381
653
375
463

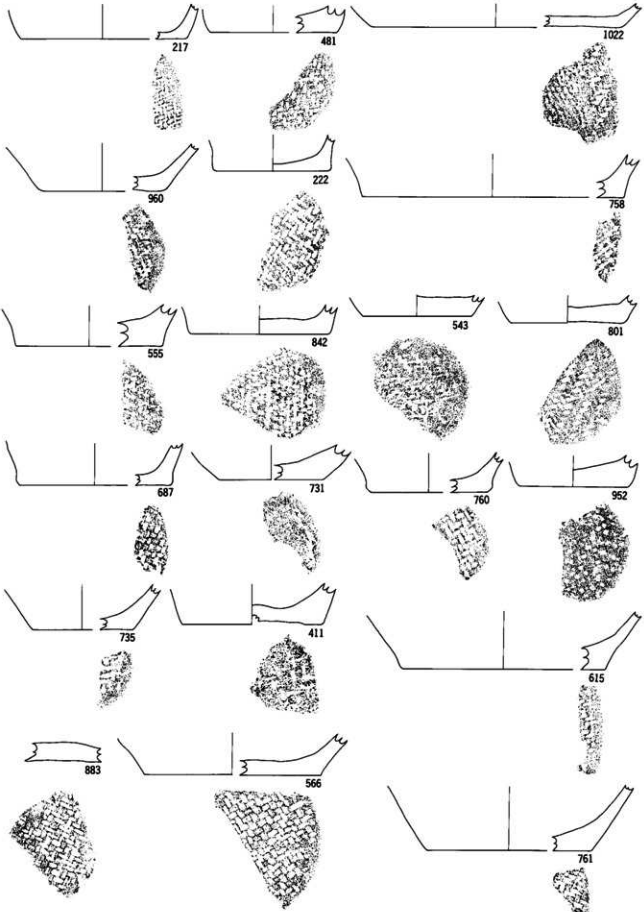
第137図　土器底部


203
380
565
303
490
385
489
580
282
459
722
220
1076
705
1089
724
796
443
821
573
848
836
858
888
1093
447
838
434
818
324
263
931
262
1018
928
971
624
623
361
1001
254
1055
753
745

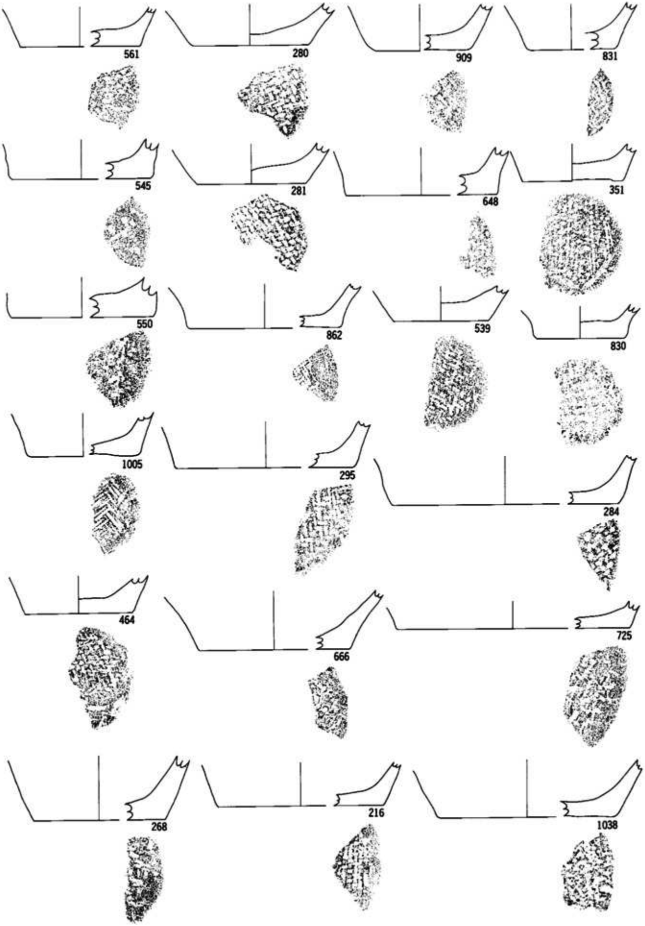
第138図　土器底部


774
433
542
455
961
1078
933
668
918
540
740
834
896
728
214
736
765
300
904

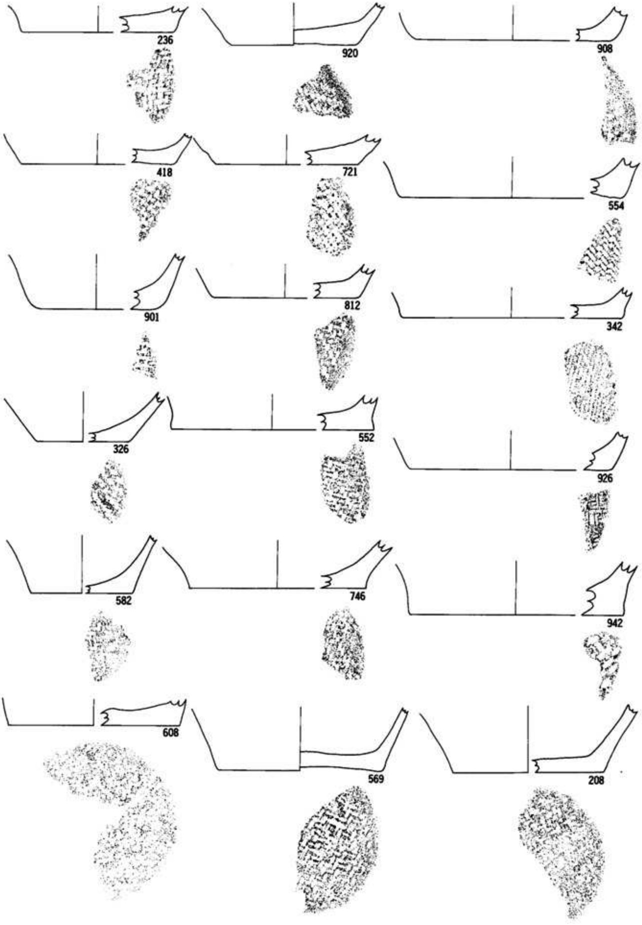
第139図　土器底部


217
481
1022
960
222
758
555
842
543
801
687
731
760
952
735
411
615
883
566
761

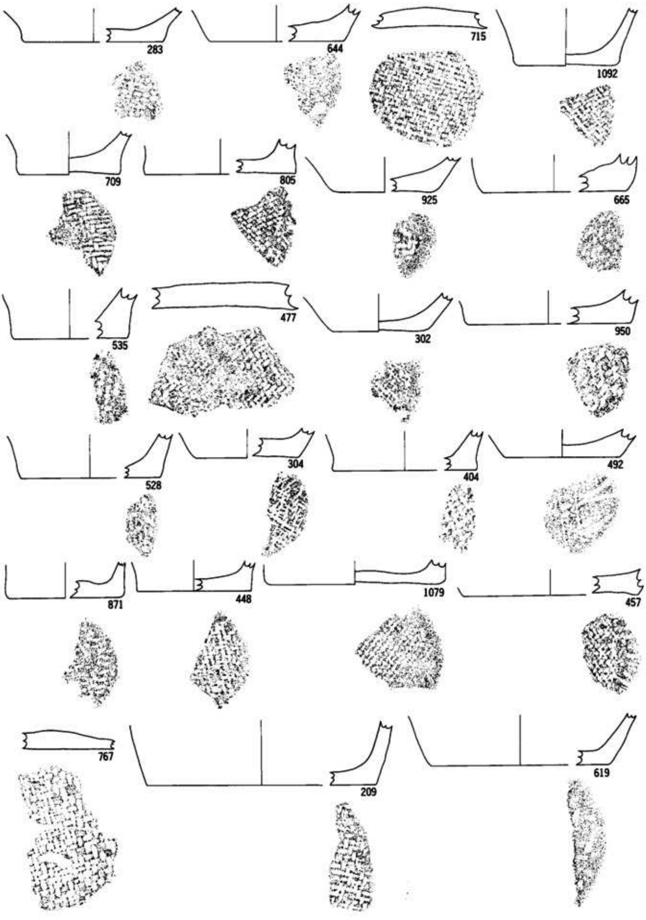
第140図　土器底部


561
280
909
831
545
281
648
351
550
862
539
830
1005
295
284
464
666
725
268
216
1038

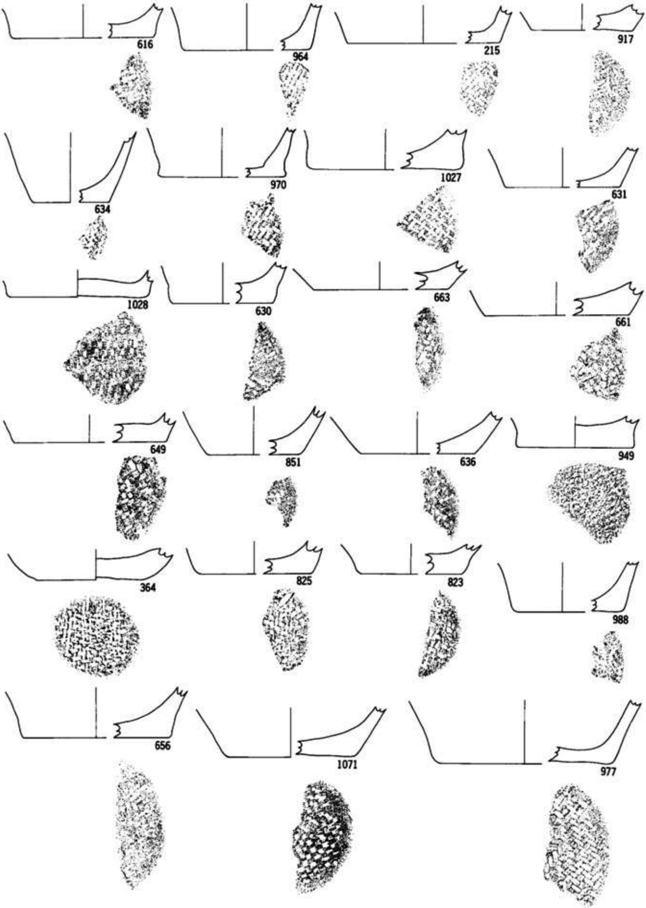
第141図　土器底部


236
920
908
418
721
554
901
812
342
326
552
926
582
746
942
608
569
208

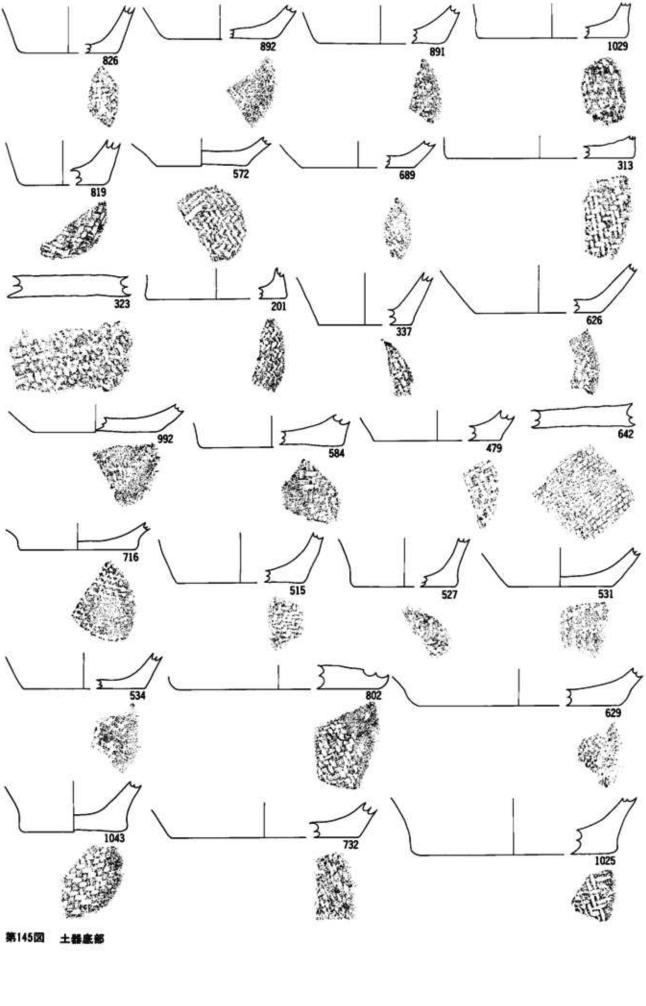
第142図　土器底部


283
644
715
1092
709
805
925
665
535
477
302
950
528
304
404
492
871
448
1079
457
767
209
619

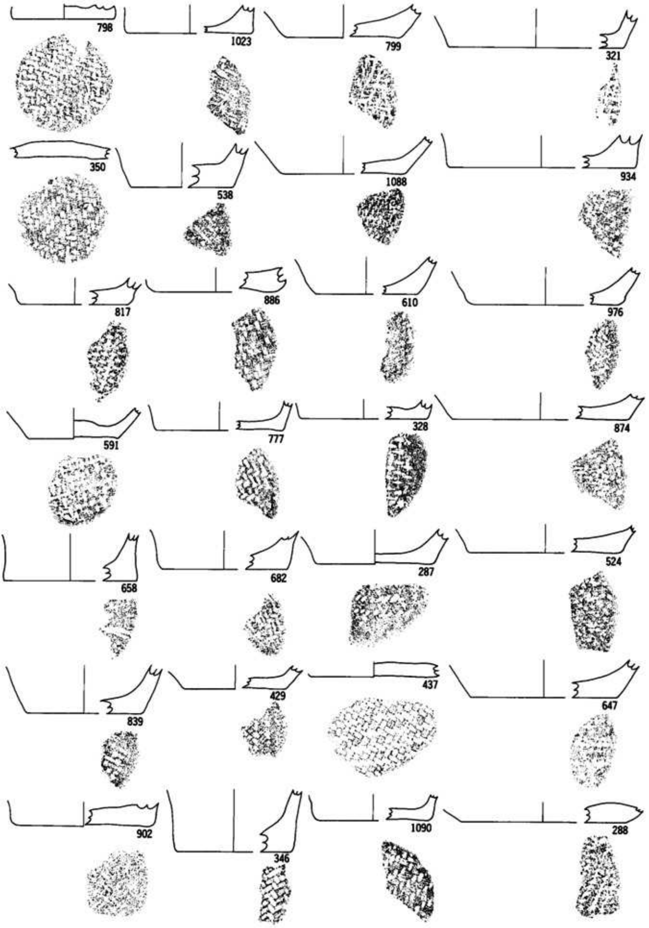
第143図　土器底部


616
964
215
917
634
970
1027
631
1028
630
663
661
649
851
636
949
364
825
823
988
656
1071
977

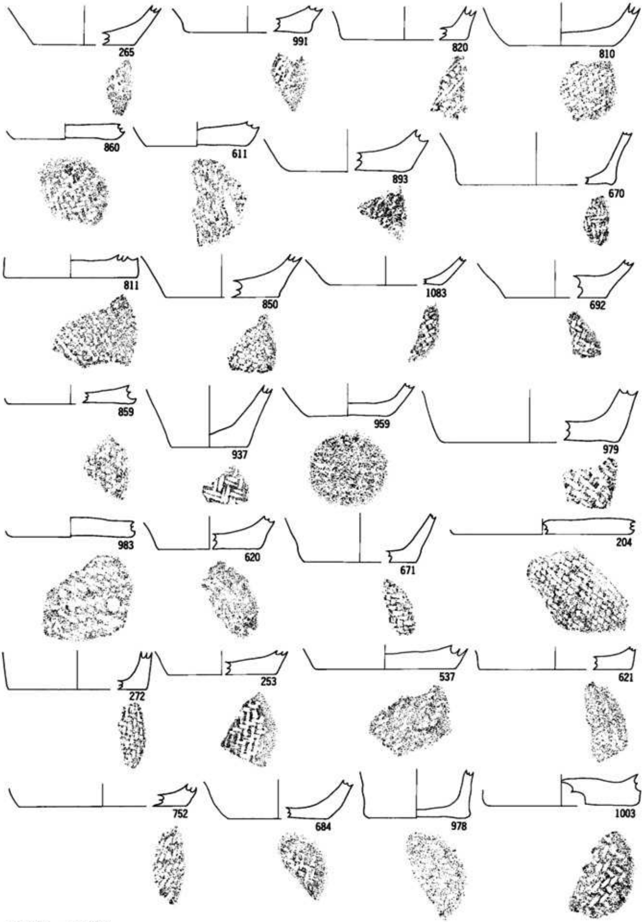
第144図　土器底部


826
892
891
1029
819
572
689
313
323
201
337
626
992
584
479
642
716
515
527
531
534
802
629
1043
732
1025

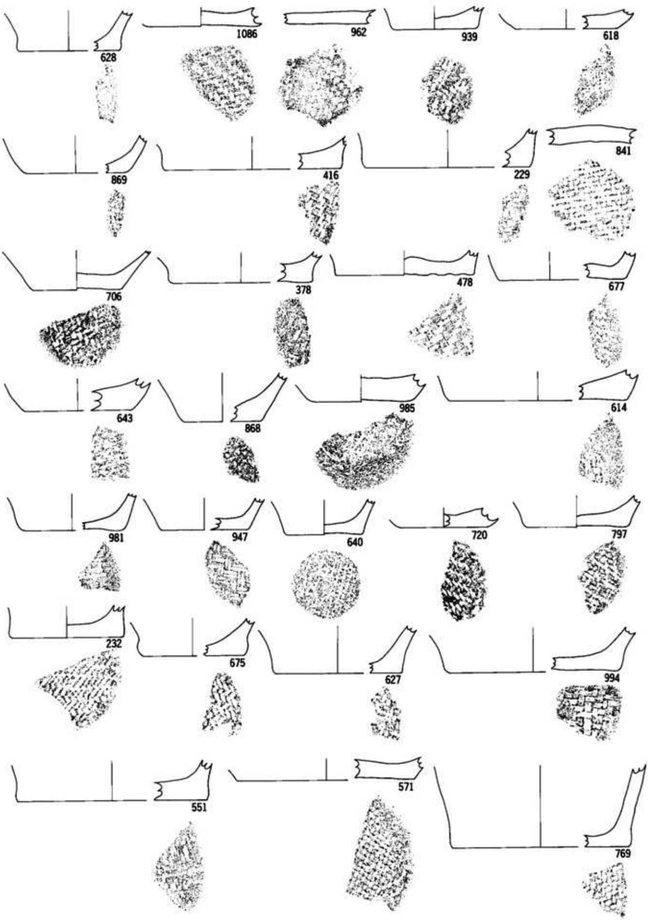
第145図　土器底部


798
1023
799
321
350
538
1088
934
817
886
610
976
591
777
328
874
658
682
287
524
839
429
437
647
902
346
1090
288

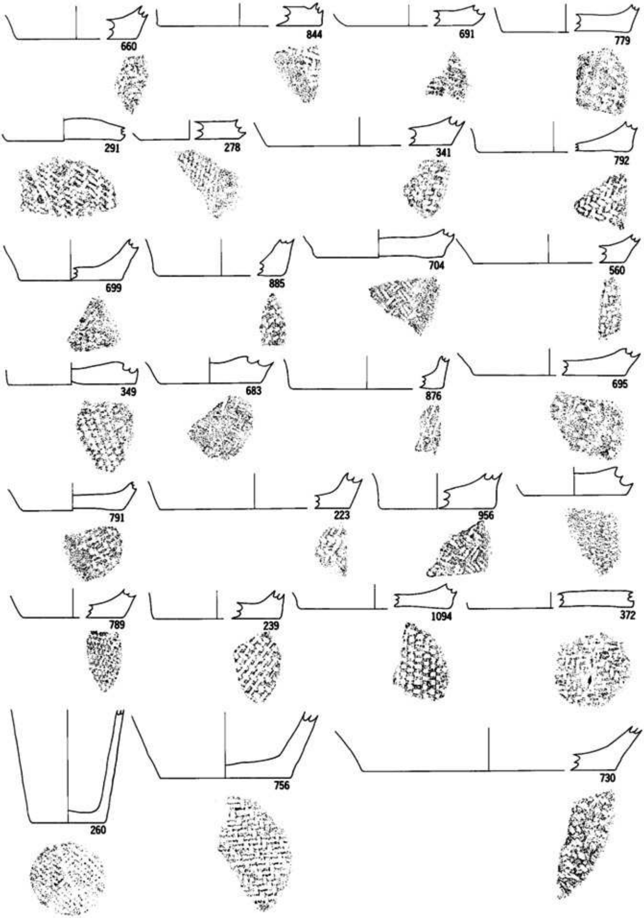
第146図　土器底部


265
991
820
810
860
611
893
670
811
850
1083
692
859
937
959
979
983
620
671
204
272
253
537
621
752
684
978
1003

第147図　土器底部


628
1086
962
939
618
869
416
229
841
706
378
478
677
643
868
985
614
981
947
640
720
797
232
675
627
994
551
571
769

第148図　土器底部


660
844
691
779
291
278
341
792
699
885
704
560
349
683
876
695
791
223
956
789
239
1094
372
260
756
730

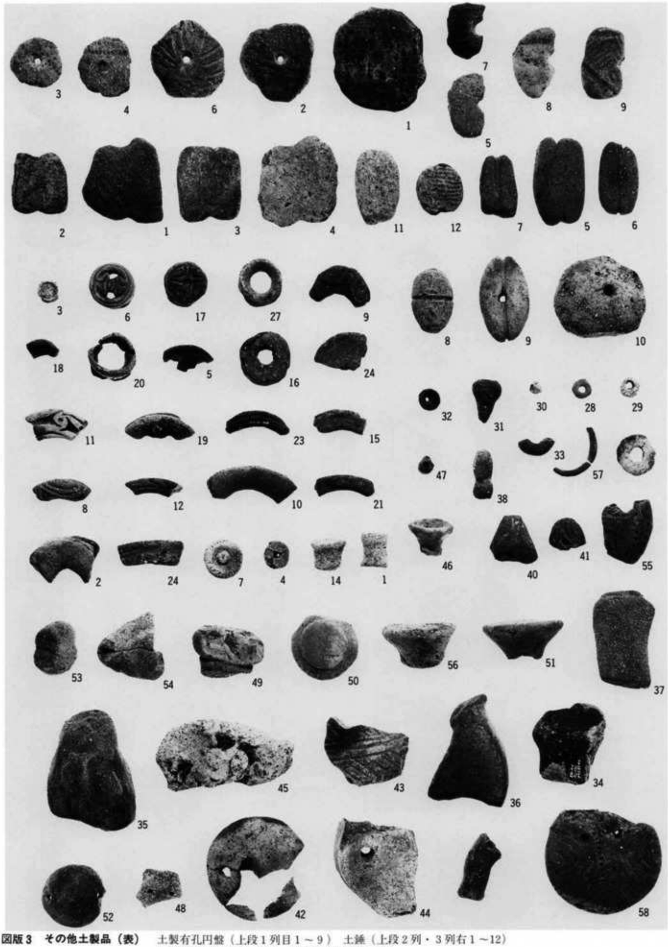
第149図　土器底部

10
42
9
46
39
16
26
23
6
15
35
24
37
40
34
32
48
12
1
41
33
43
36
20
31
3
17
21
45
30
11
5
49
22
14
29
47
27
13
38
18
25
7
50
2
44
4
28
19
51
53
57
54
52
55
8
56

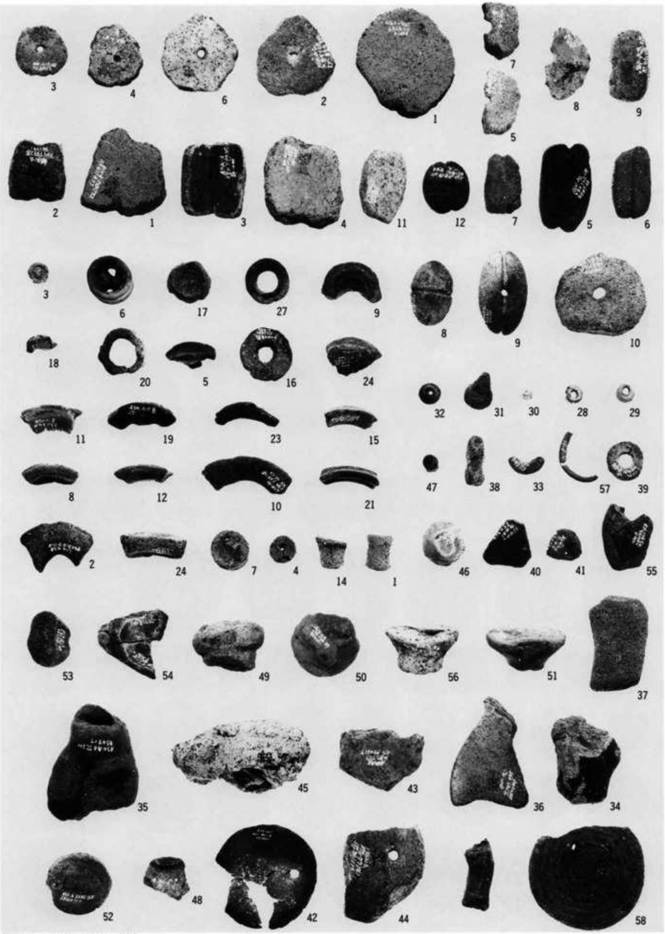
図版1　土偶（表）

10
42
9
46
39
16
26
23
35
6
15
24
34
37
40
32
48
1
41
33
43
12
36
45
31
3
17
21
20
49
30
29
22
14
11
5
47
27
25
13
38
18
7
44
4
28
19
50
2
51
53
57
54
52
55
8
56

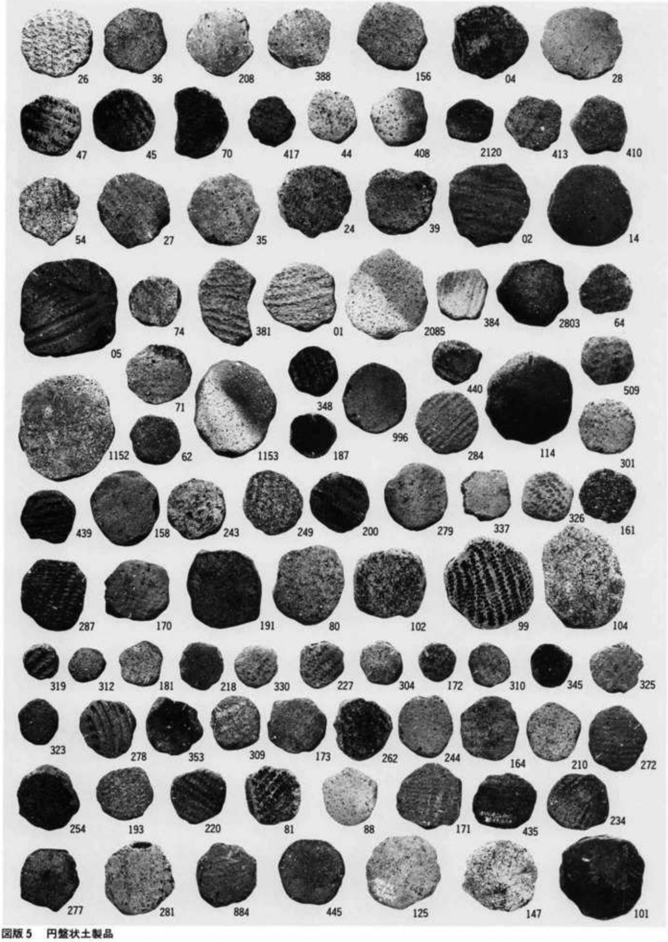
図版２　土偶（裏）



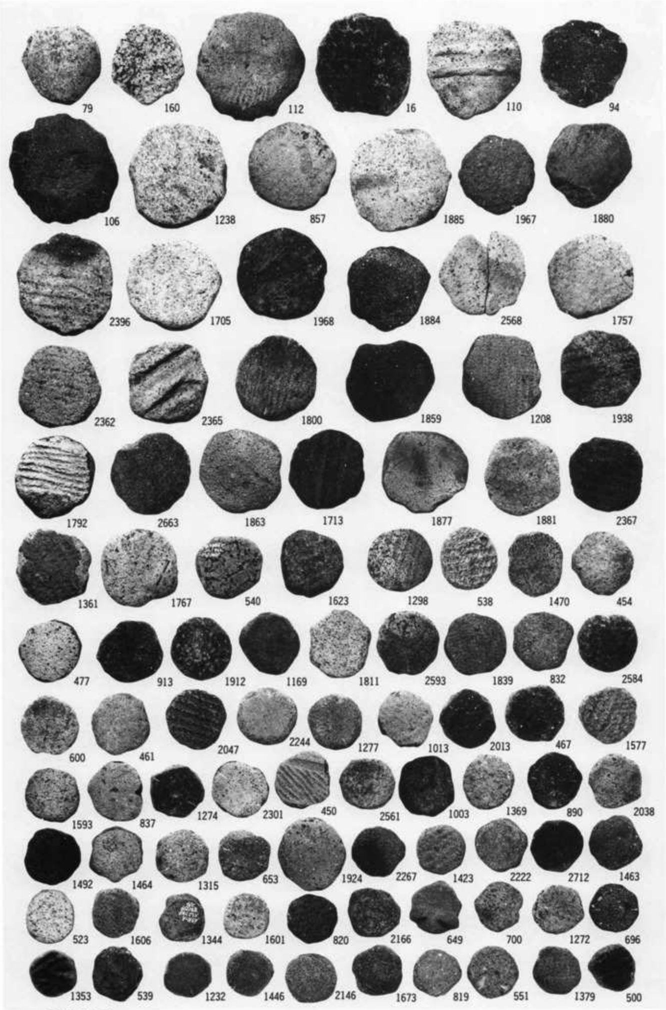
図版 3　その他土製品（表）　土製有孔円盤（上段1列目1～9）　土錘（上段2列・3列右1～12）
土製耳飾（中段1～27）　土製玉（中段28～33）
不明土製品（下中・下段34～57）　土版（右下58）


3 4 6 2 1 7 5 8 9
2 1 3 4 11 12 7 5 6
3 6 17 27 9 8 9 10
18 20 5 16 24
32 31 30 28 29
11 19 23 15
8 12 10 21
47 38 33 57 39
2 24 7 4 14 1 46 40 41 55
53 54 49 50 56 51 37
35 45 43 36 34
52 48 42 44 58

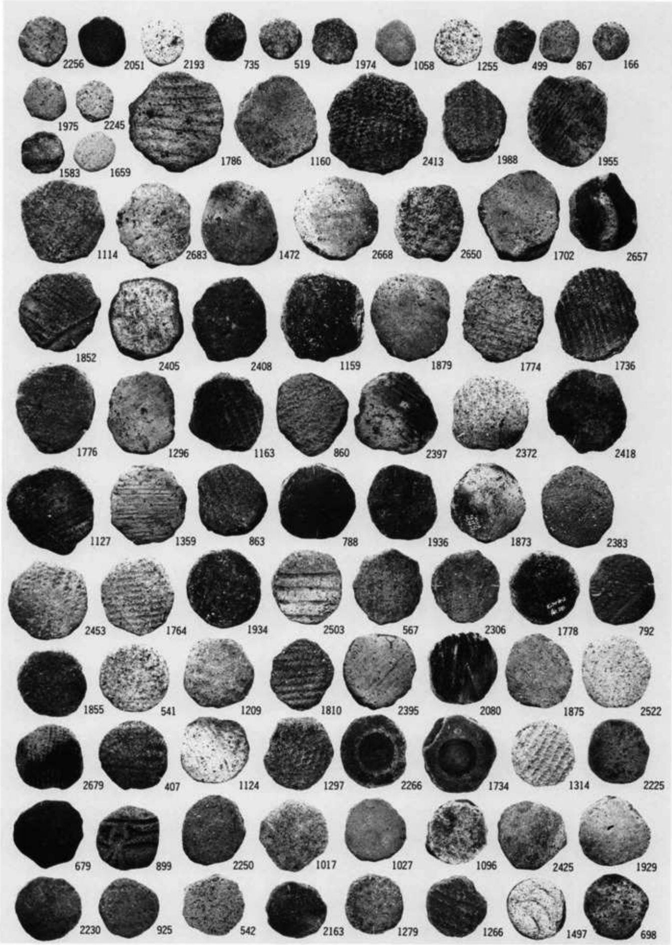
図版4　その他土製品（裏）


26 36 208 388 156 04 28
47 45 70 417 44 408 2120 413 410
54 27 35 24 39 02 14
05 74 381 01 2085 384 2803 64
71 1152 62 1153 348 187 996 440 284 114 509 301
439 158 243 249 200 279 337 326 161
287 170 191 80 102 99 104
319 312 181 218 330 227 304 172 310 345 325
323 278 353 309 173 262 244 164 210 272
254 193 220 81 88 171 435 234
277 281 884 445 125 147 101

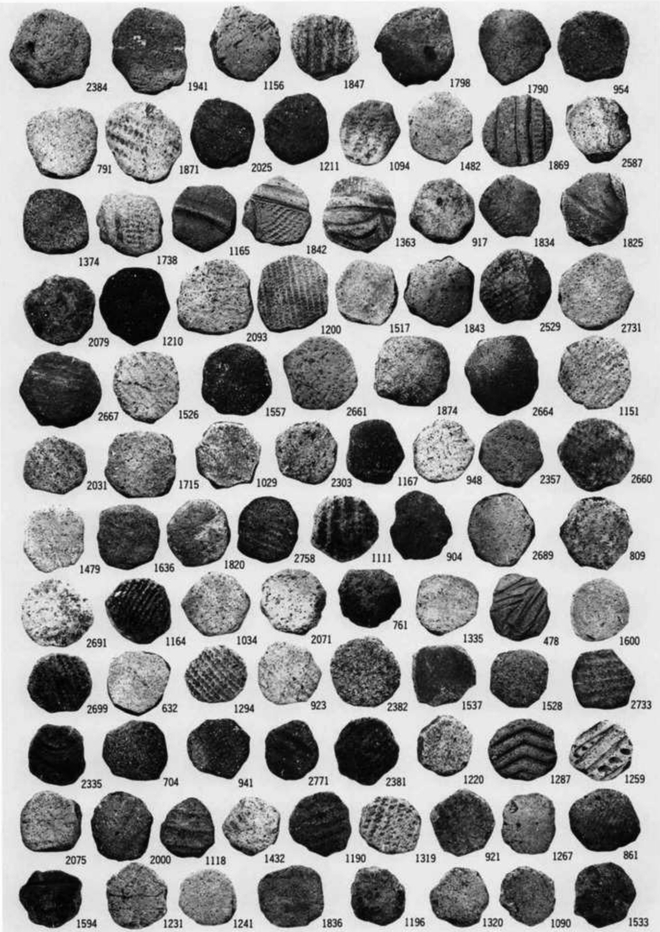
図版5　円盤状土製品


79 160 112 16 110 94
106 1238 857 1885 1967 1880
2396 1705 1968 1884 2568 1757
2362 2365 1800 1859 1208 1938
1792 2663 1863 1713 1877 1881 2367
1361 1767 540 1623 1298 538 1470 454
477 913 1912 1169 1811 2593 1839 832 2584
600 461 2047 2244 1277 1013 2013 467 1577
1593 837 1274 2301 450 2561 1003 1369 890 2038
1492 1464 1315 653 1924 2267 1423 2222 2712 1463
523 1606 1344 1601 820 2166 649 700 1272 696
1353 539 1232 1446 2146 1673 819 551 1379 500

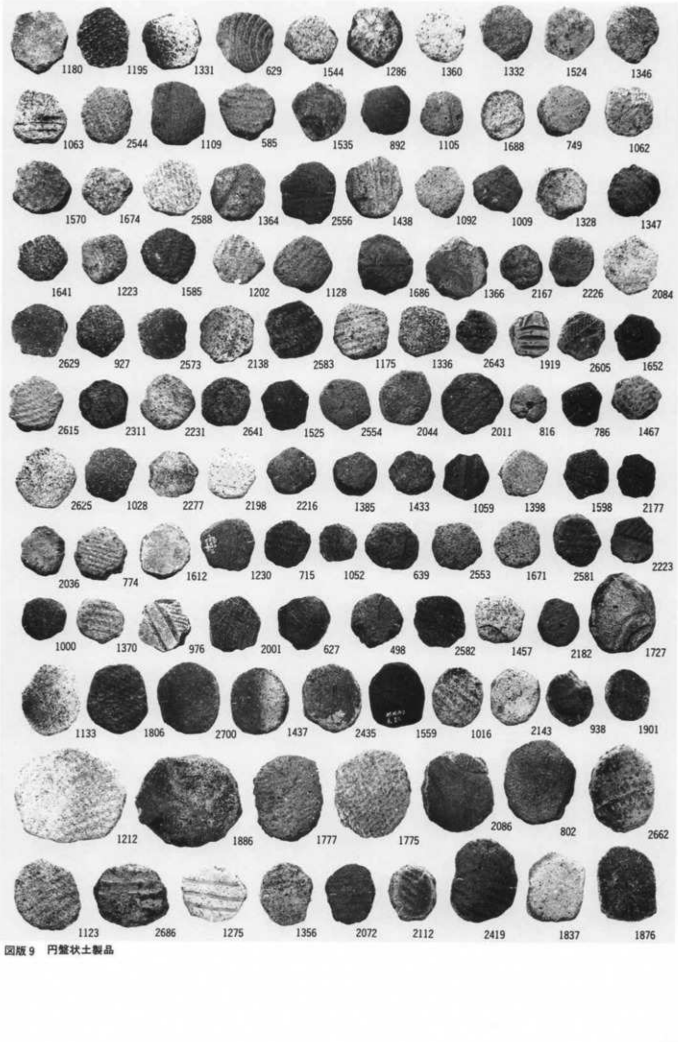
図版 6　円盤状土製品


2256
2051
2193
735
519
1974
1058
1255
499
867
166
1975
2245
1583
1659
1786
1160
2413
1988
1955
1114
2683
1472
2668
2650
1702
2657
1852
2405
2408
1159
1879
1774
1736
1776
1296
1163
860
2397
2372
2418
1127
1359
863
788
1936
1873
2383
2453
1764
1934
2503
567
2306
1778
792
1855
541
1209
1810
2395
2080
1875
2522
2679
407
1124
1297
2266
1734
1314
2225
679
899
2250
1017
1027
1096
2425
1929
2230
925
542
2163
1279
1266
1497
698

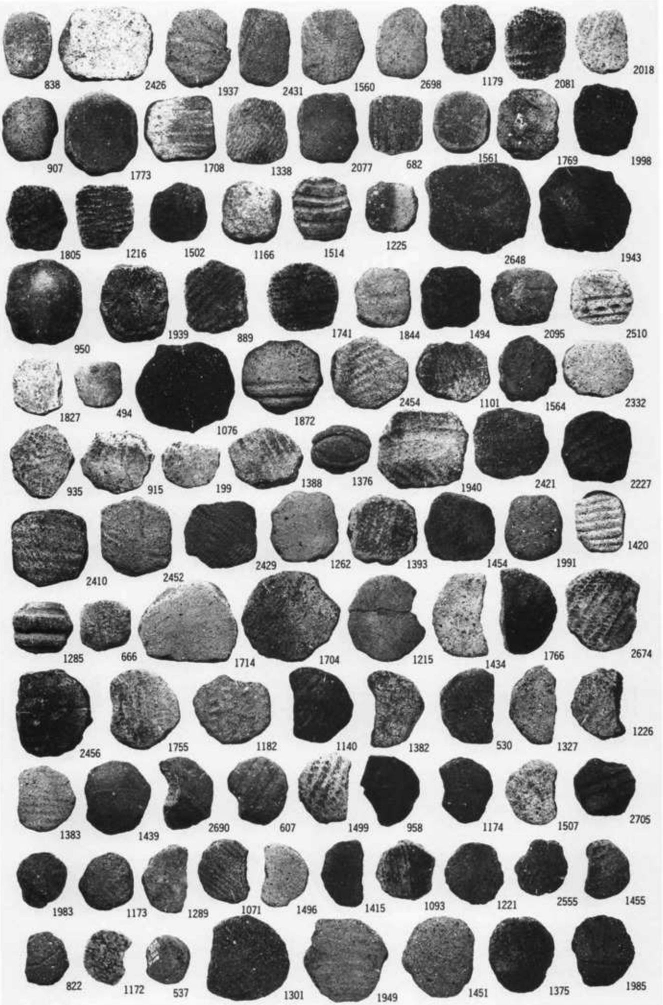
図版 7　円盤状土製品


2384
1941
1156
1847
1798
1790
954
791
1871
2025
1211
1094
1482
1869
2587
1374
1738
1165
1842
1363
917
1834
1825
2079
1210
2093
1200
1517
1843
2529
2731
2667
1526
1557
2661
1874
2664
1151
2031
1715
1029
2303
1167
948
2357
2660
1479
1636
1820
2758
1111
904
2689
809
2691
1164
1034
2071
761
1335
478
1600
2699
632
1294
923
2382
1537
1528
2733
2335
704
941
2771
2381
1220
1287
1259
2075
2000
1118
1432
1190
1319
921
1267
861
1594
1231
1241
1836
1196
1320
1090
1533

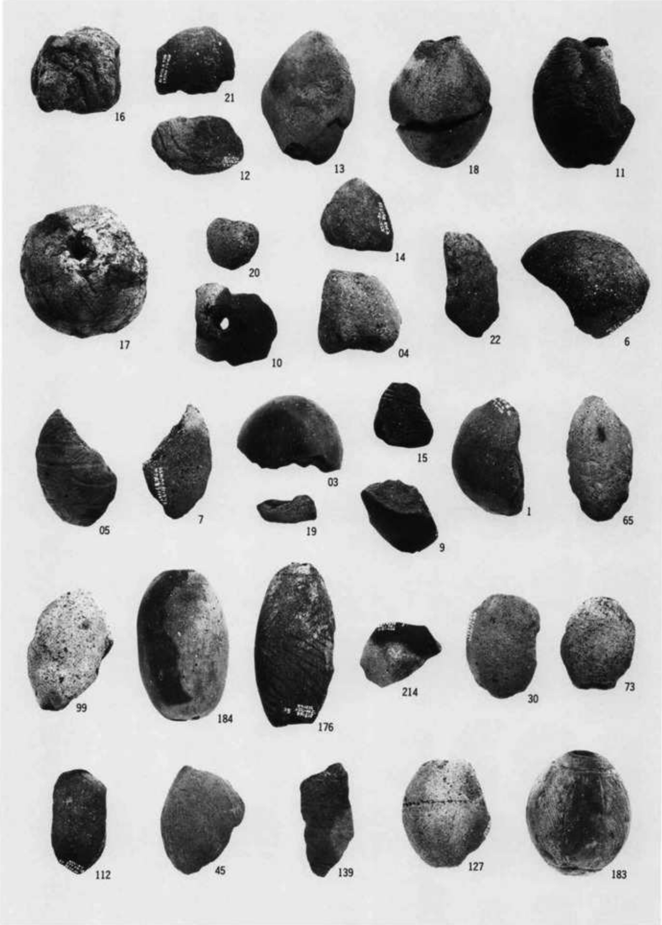
図版 8　円盤状土製品


1180
1195
1331
629
1544
1286
1360
1332
1524
1346
1063
2544
1109
585
1535
892
1105
1688
749
1062
1570
1674
2588
1364
2556
1438
1092
1009
1328
1347
1641
1223
1585
1202
1128
1686
1366
2167
2226
2084
2629
927
2573
2138
2583
1175
1336
2643
1919
2605
1652
2615
2311
2231
2641
1525
2554
2044
2011
816
786
1467
2625
1028
2277
2198
2216
1385
1433
1059
1398
1598
2177
2036
774
1612
1230
715
1052
639
2553
1671
2581
2223
1000
1370
976
2001
627
498
2582
1457
2182
1727
1133
1806
2700
1437
2435
1559
1016
2143
938
1901
1212
1886
1777
1775
2086
802
2662
1123
2686
1275
1356
2072
2112
2419
1837
1876

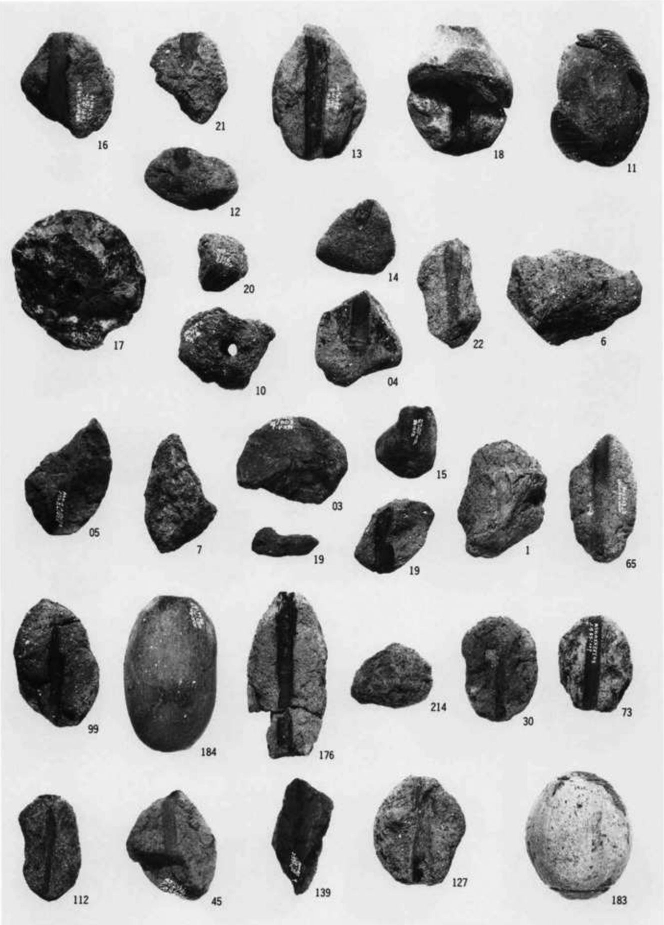
図版 9　円盤状土製品


838 2426 1937 2431 1560 2698 1179 2081 2018
907 1773 1708 1338 2077 682 1561 1769 1998
1805 1216 1502 1166 1514 1225 2648 1943
950 1939 889 1741 1844 1494 2095 2510
1827 494 1076 1872 2454 1101 1564 2332
935 915 199 1388 1376 1940 2421 2227
2410 2452 2429 1262 1393 1454 1991 1420
1285 666 1714 1704 1215 1434 1766 2674
2456 1755 1182 1140 1382 530 1327 1226
1383 1439 2690 607 1499 958 1174 1507 2705
1983 1173 1289 1071 1496 1415 1093 1221 2555 1455
822 1172 537 1301 1949 1451 1375 1985

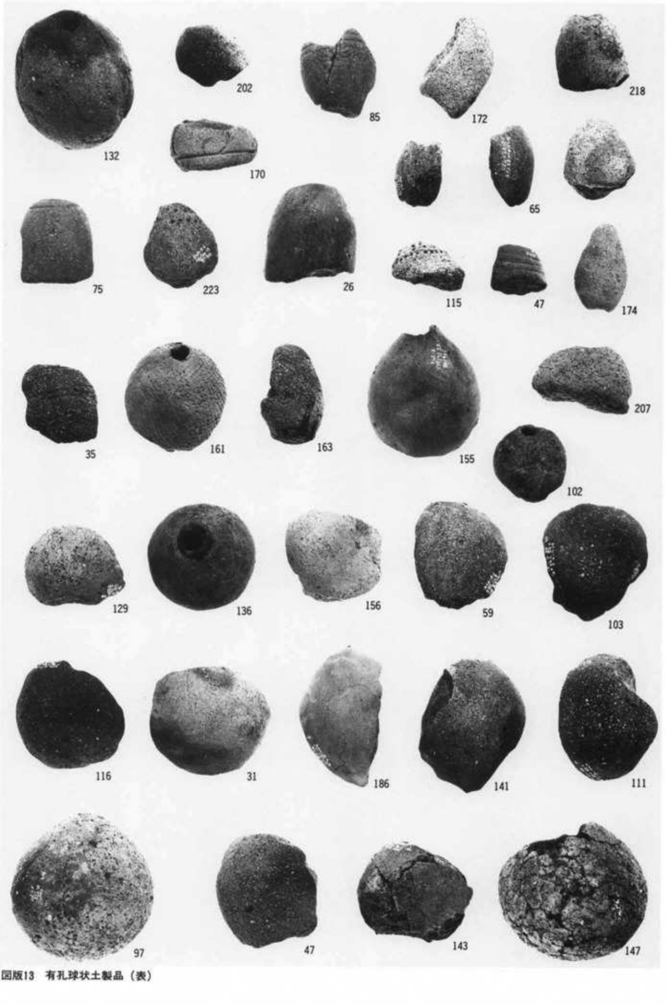
図版10　円盤状土製品



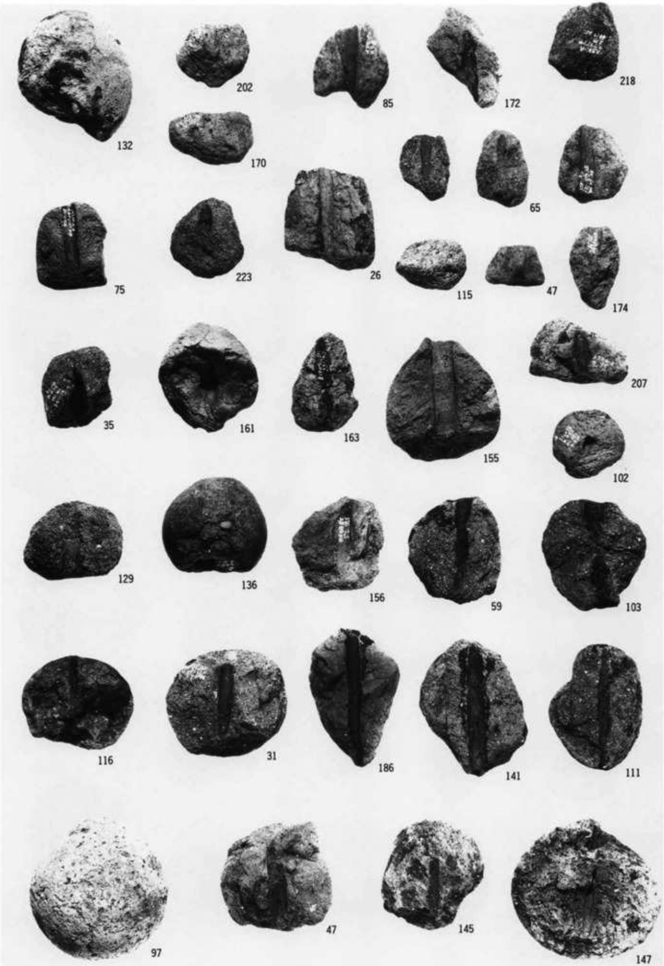
図版11　有孔球状土製品（表）



図版12　有孔球状土製品（裏）

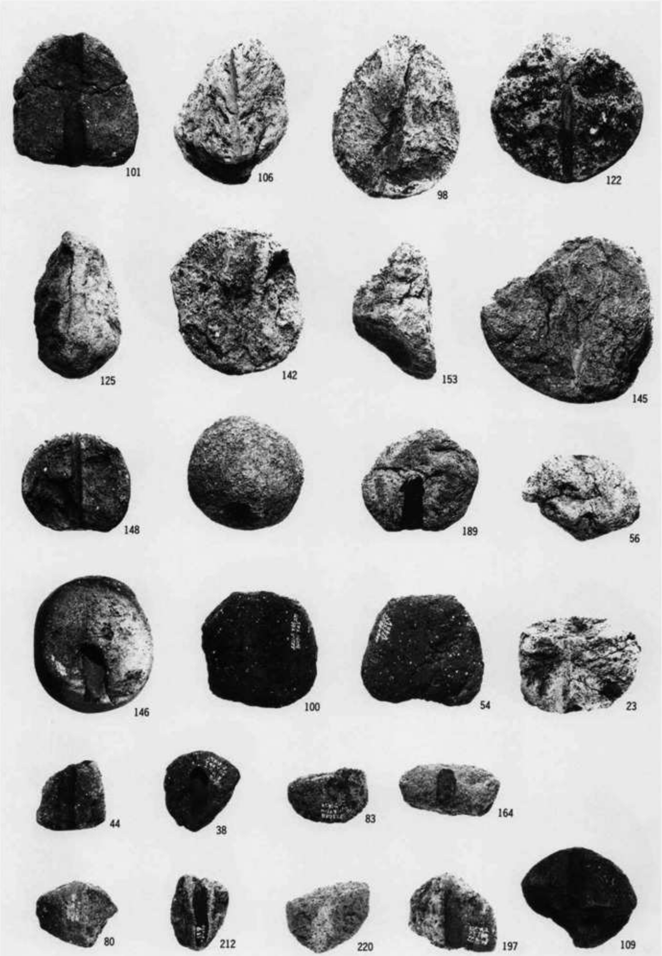


図版13　有孔球状土製品（表）

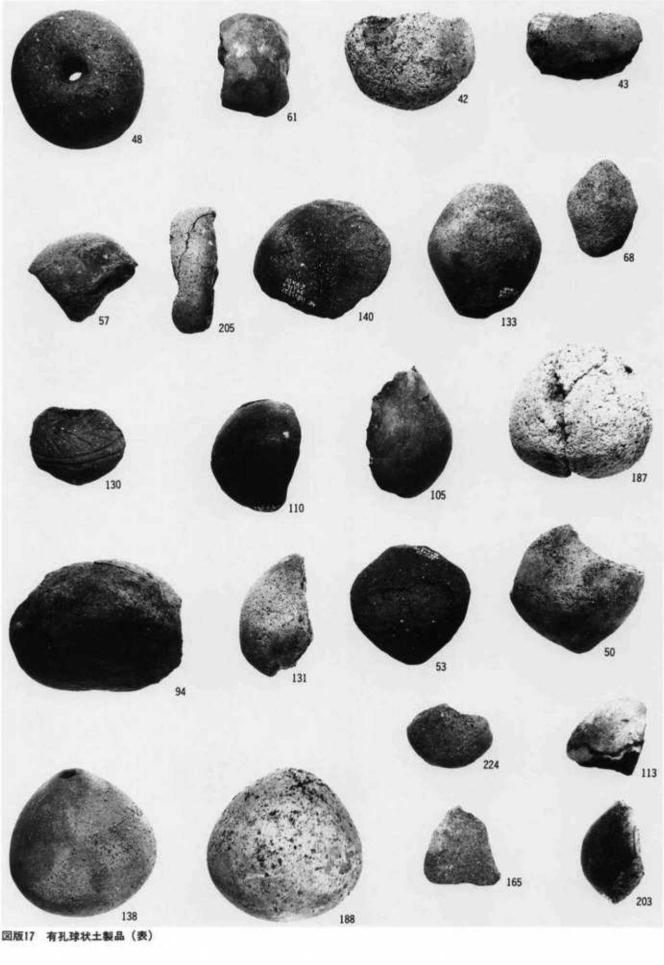


図版14　有孔球状土製品（裏）

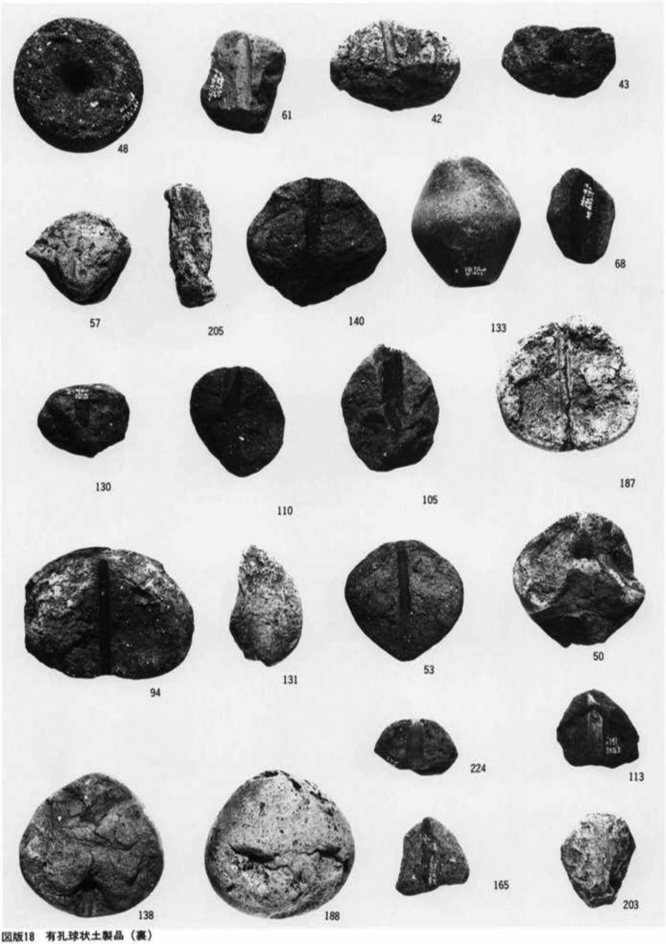
図版15　有孔球状土製品（表）



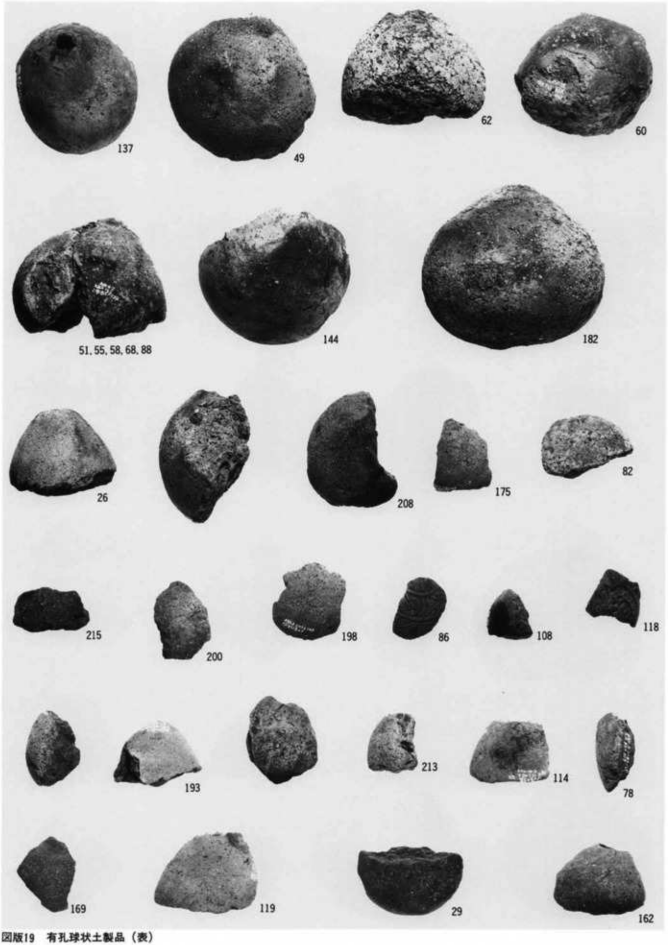
図版16　有孔球状土製品（裏）



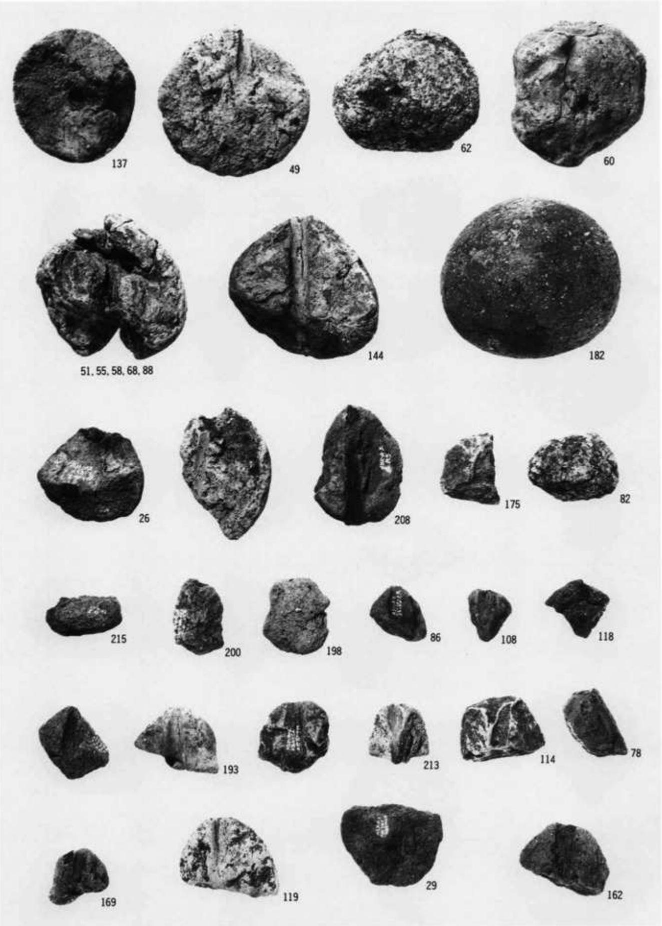
図版17　有孔球状土製品（表）



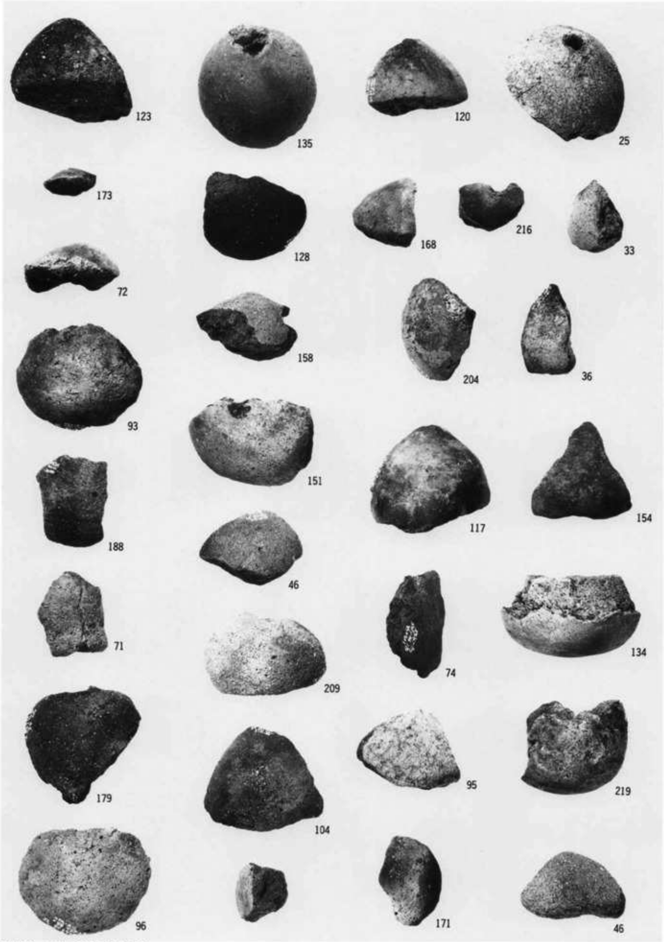
図版18　有孔球状土製品（裏）



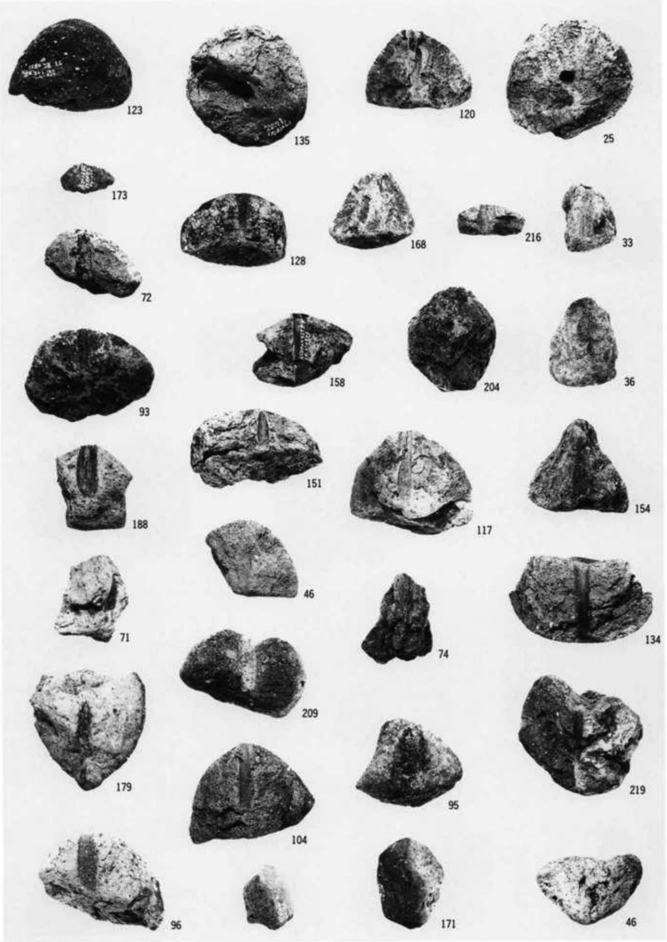
図版19　有孔球状土製品（表）



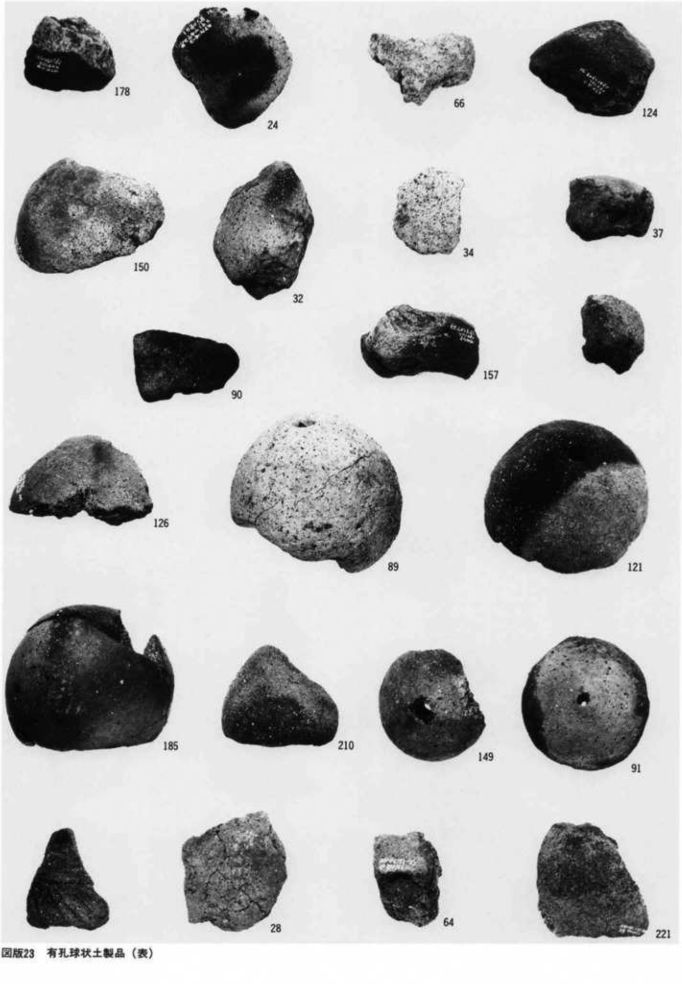
図版20　有孔球状土製品（裏）



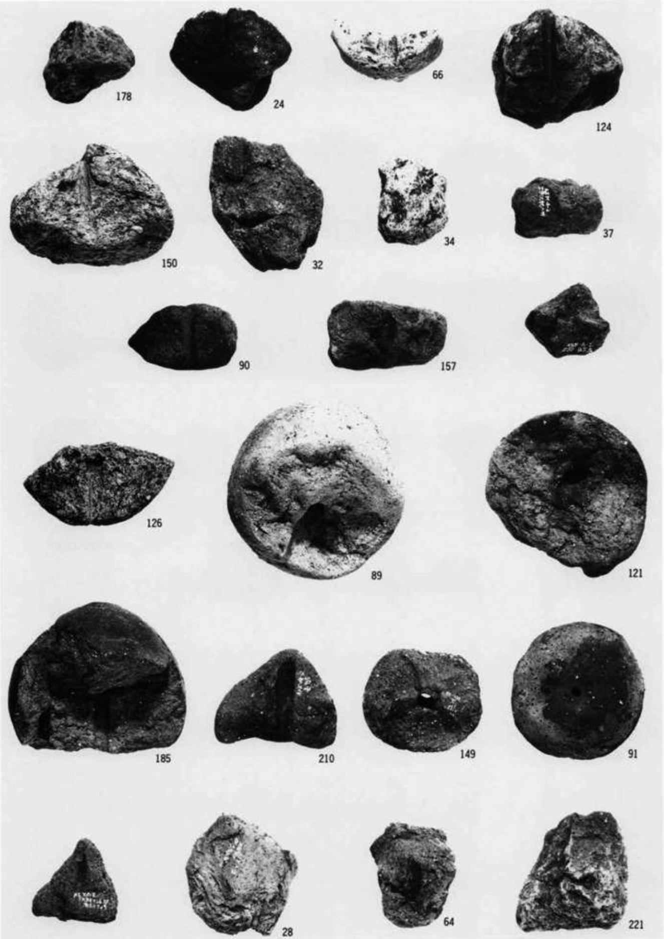
図版21　有孔球状土製品（表）



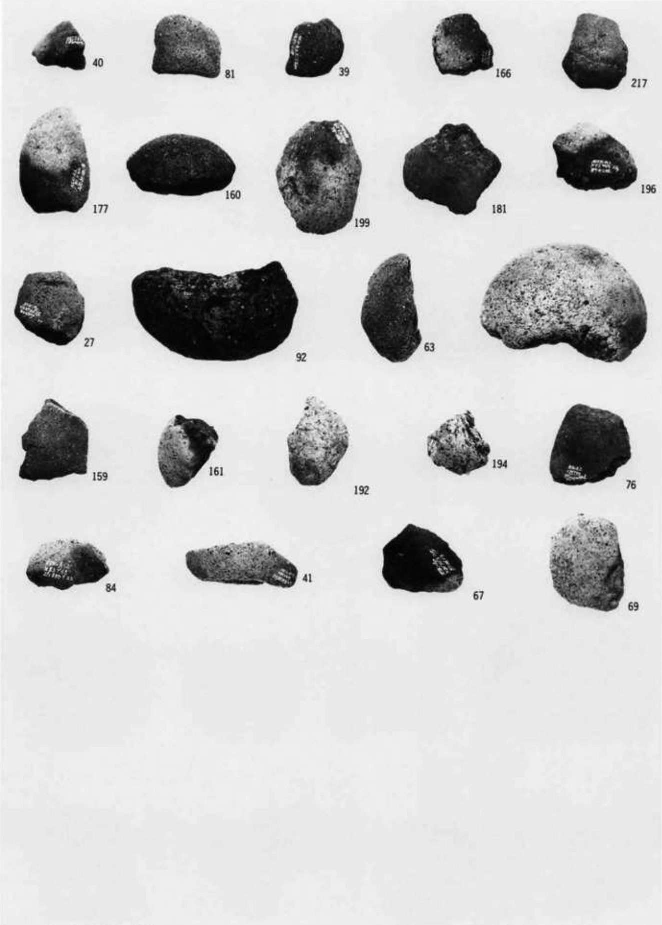
図版22　有孔球状土製品（裏）



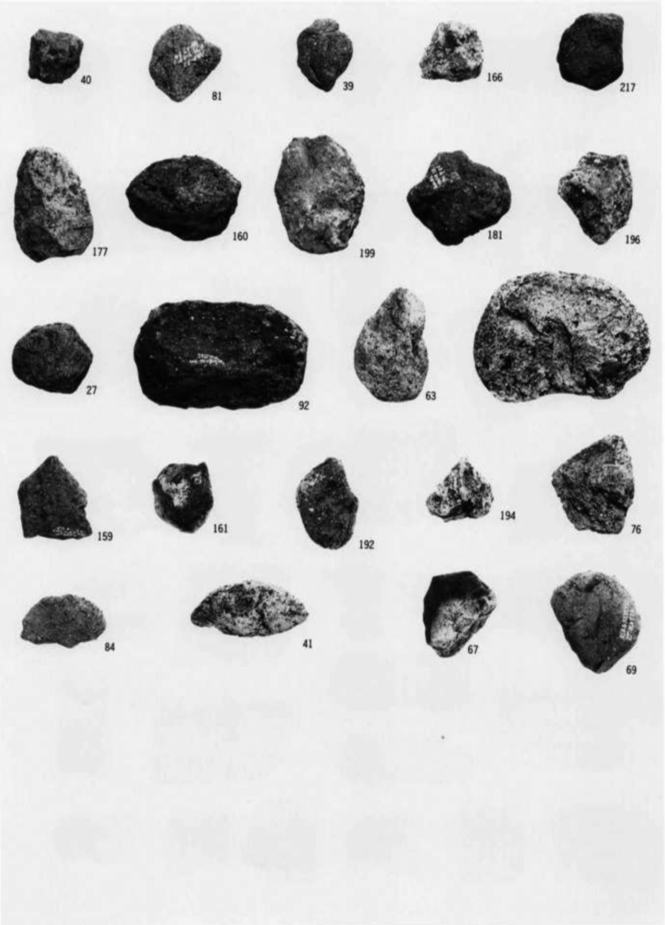
図版23　有孔球状土製品（表）



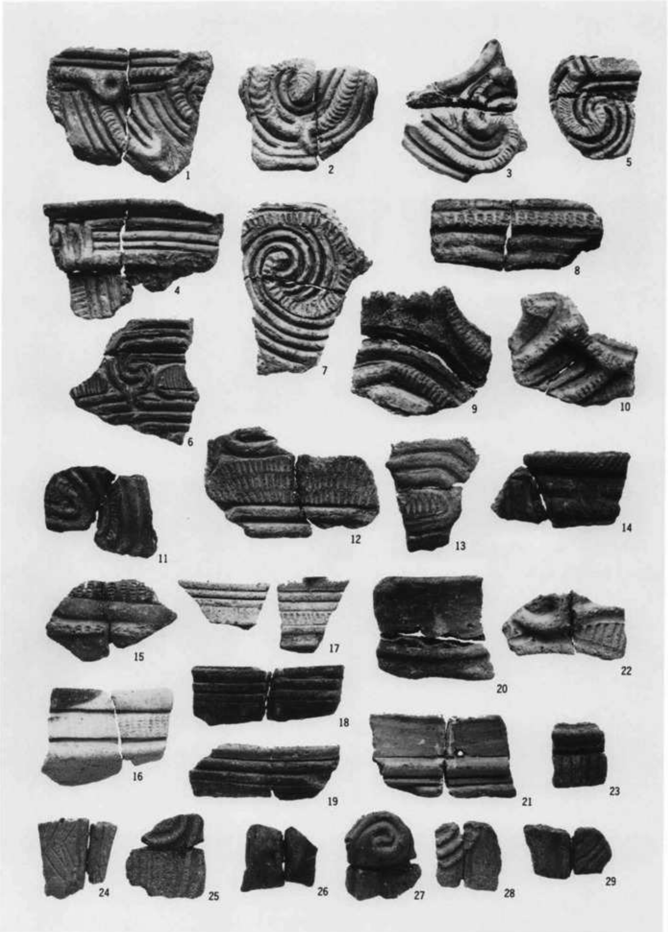
図版24　有孔球状土製品（裏）



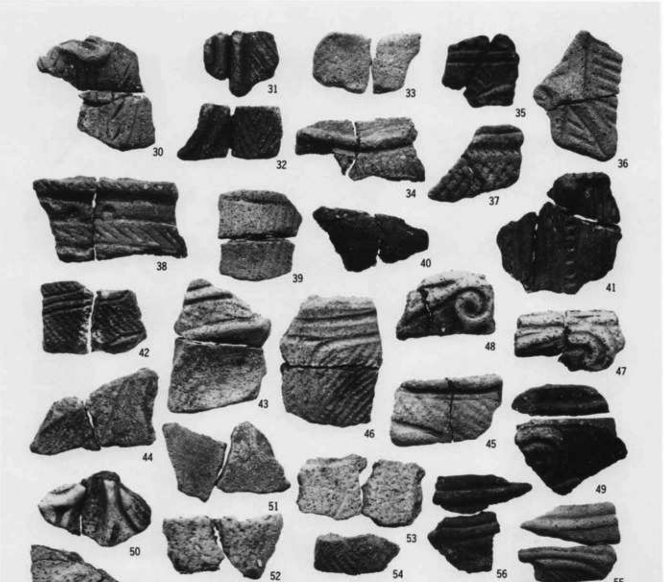
図版25　有孔球状土製品（表）



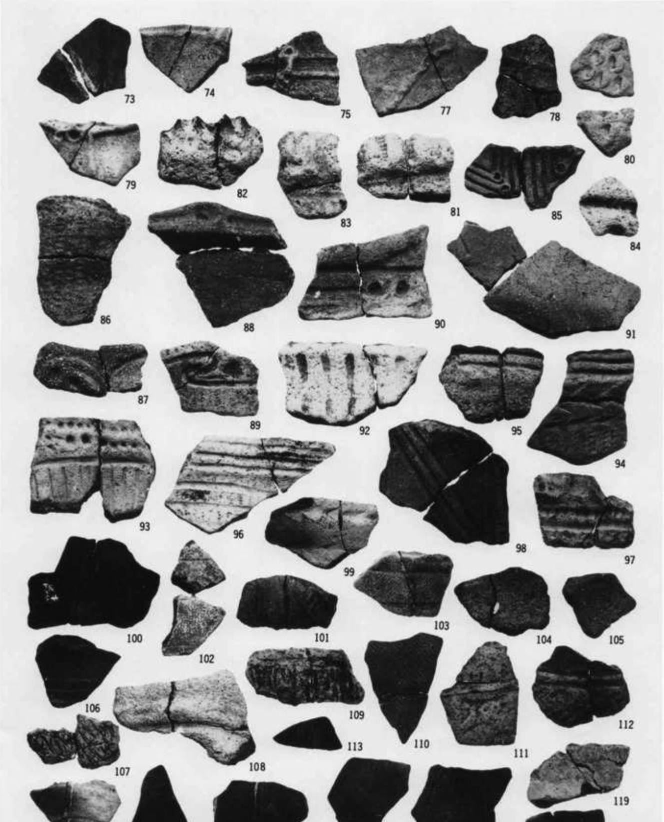
図版26　有孔球状土製品（裏）



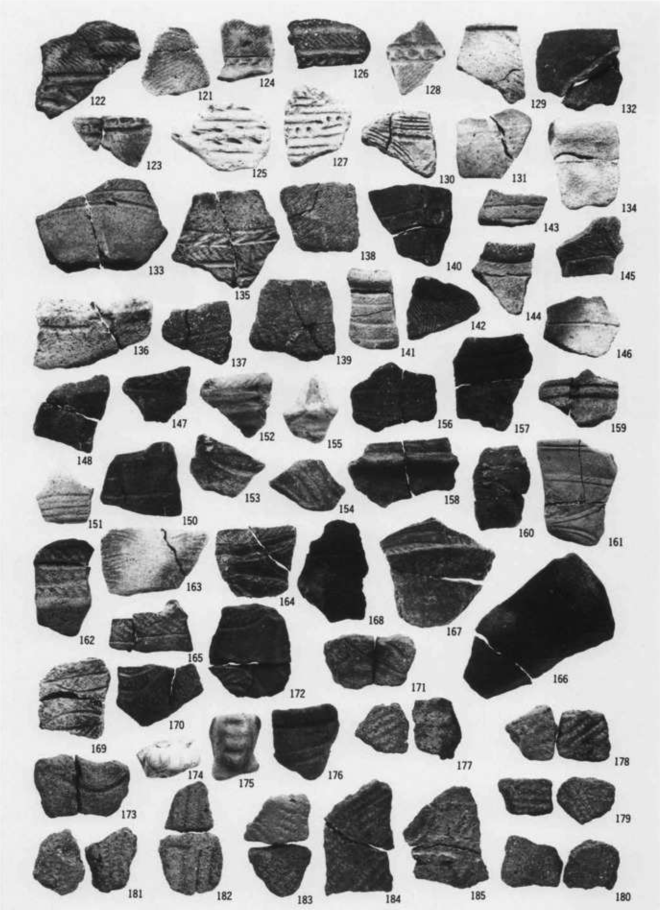
図版27　胎土分析土器　境A遺跡縄文時代



図版28　胎土分析土器　境A遺跡縄文時代

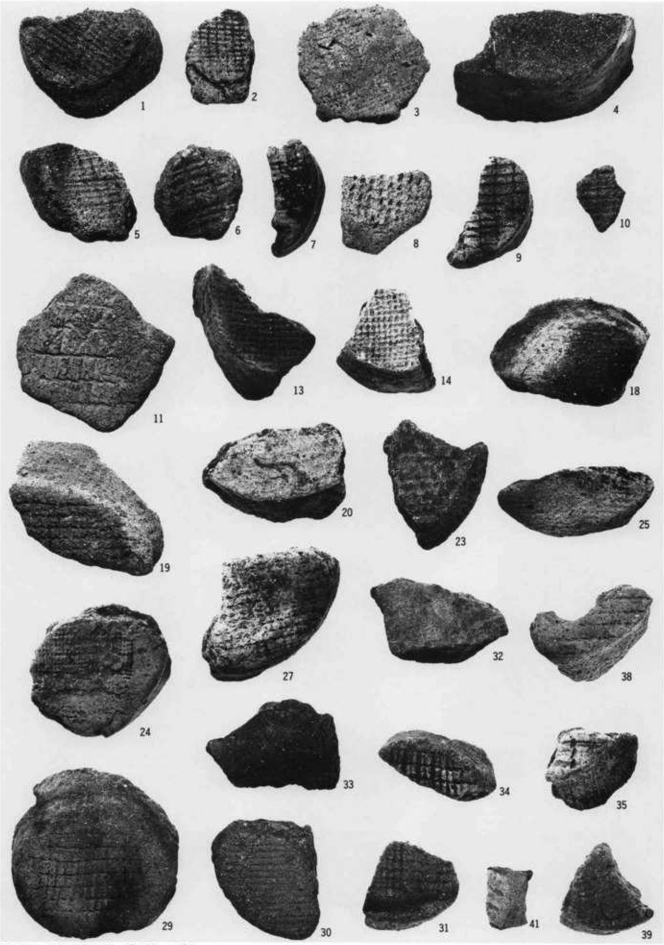


図版29　胎土分析土器　境Ａ遺跡縄文時代

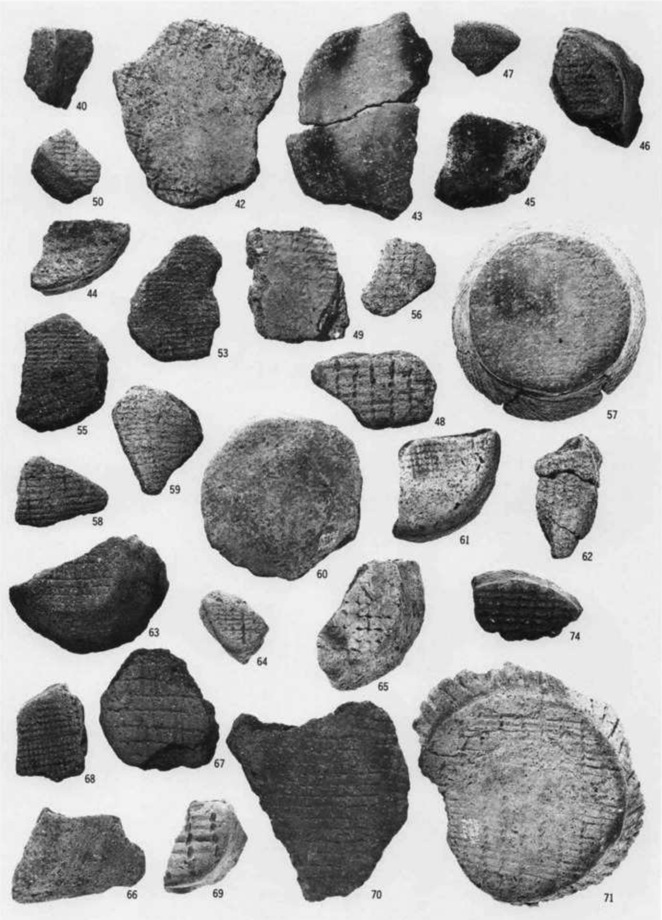


図版30　胎土分析土器　境Ａ遺跡縄文時代 121～176　馬場山Ｄ遺跡縄文時代 177～179　馬場山Ｇ遺跡縄文時代 181～183
馬場山Ｈ遺跡縄文時代 184、185　馬場山Ｆ遺跡縄文時代 180

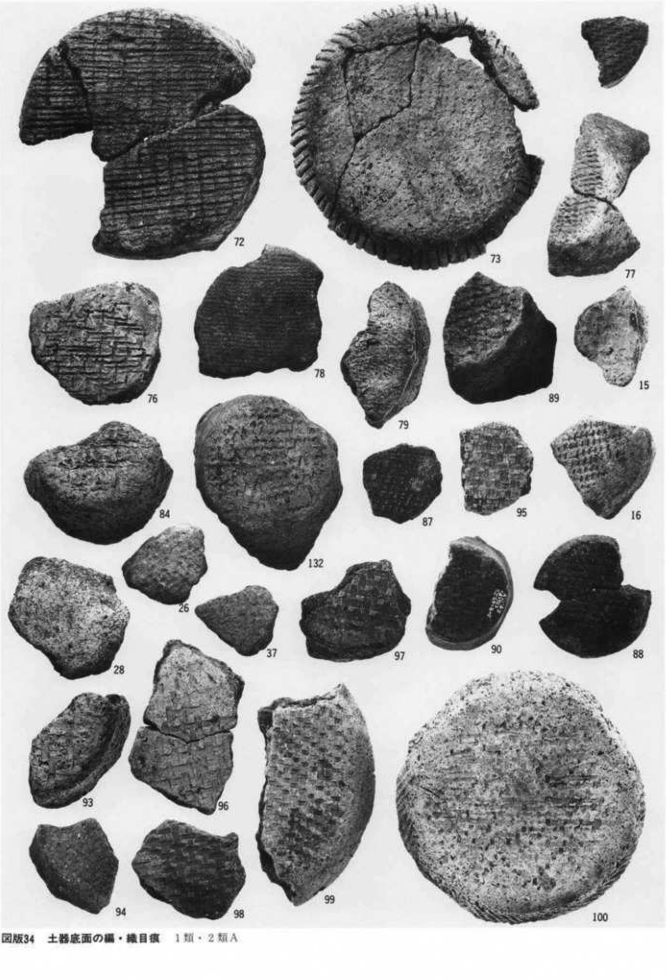
図版31　胎土分析土器　境A遺跡縄文時代 195～204　境A遺跡土師器 188～190　境A遺跡須恵器 191、192
境A遺跡 193、194



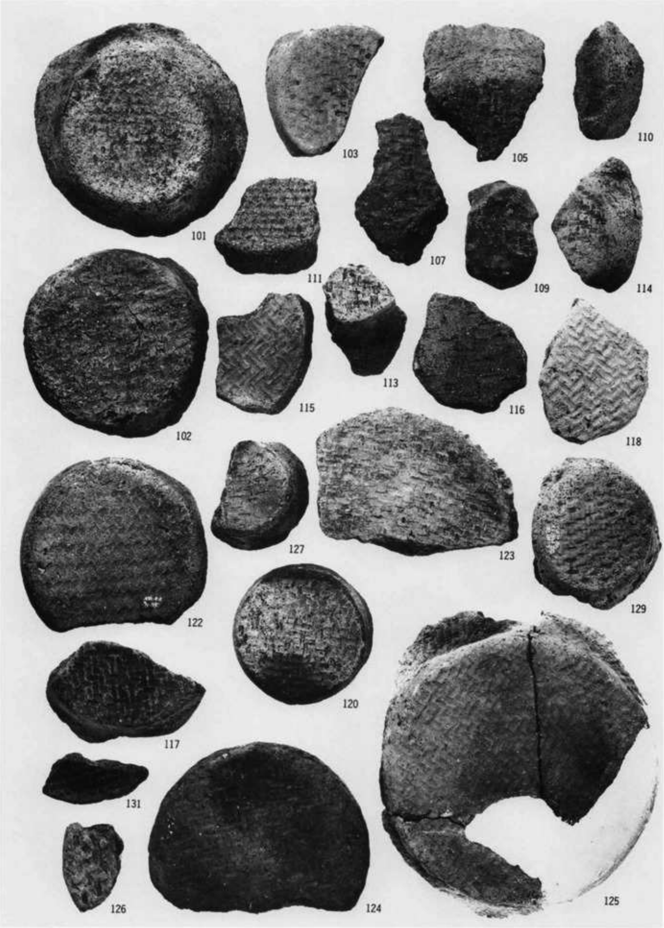
図版32　土器底部の編・織目痕　1類



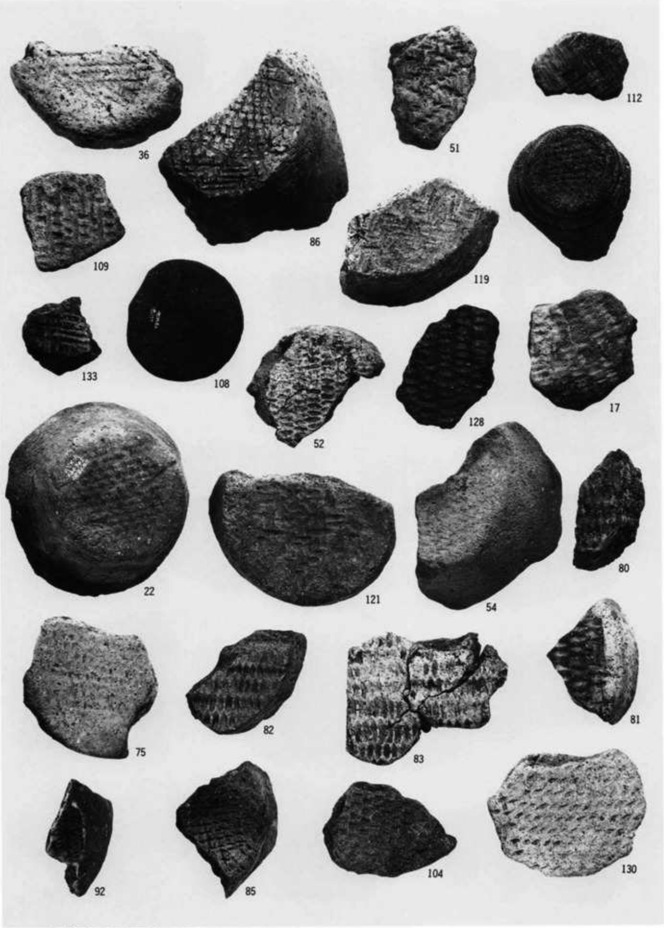
図版33　土器底部の編・織目痕　1類



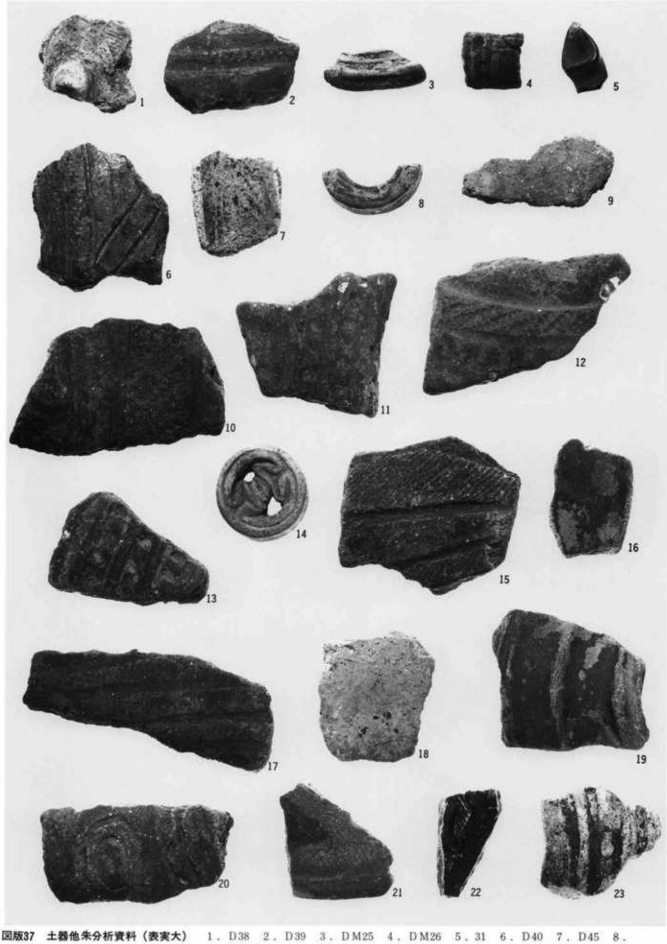
図版34　土器底面の編・織目痕　1類・2類A



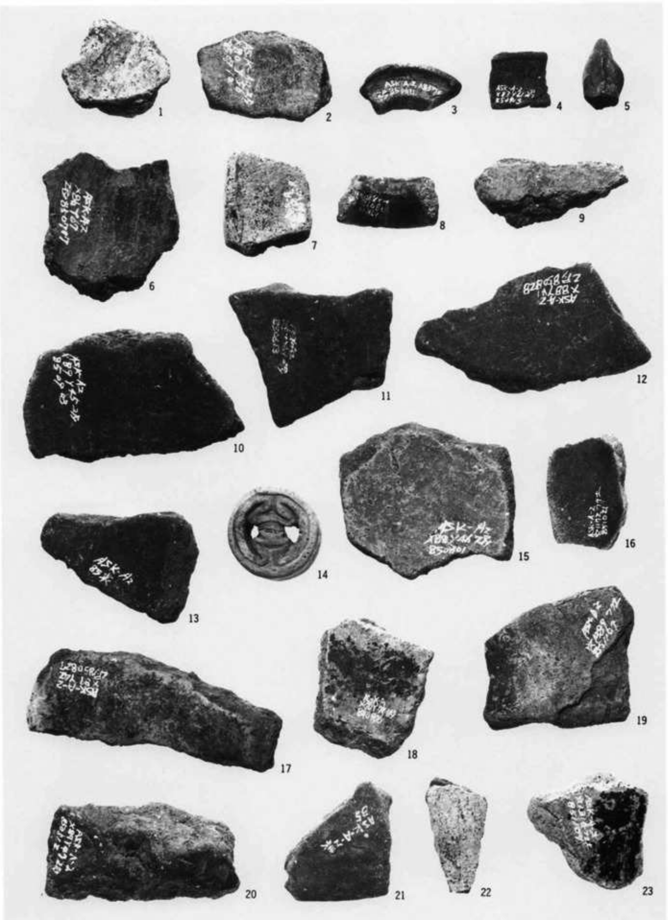
図版35　土器底面の編・織目痕　2類A



図版36　土器底面の編・織目痕　2類B・C・3類・4類

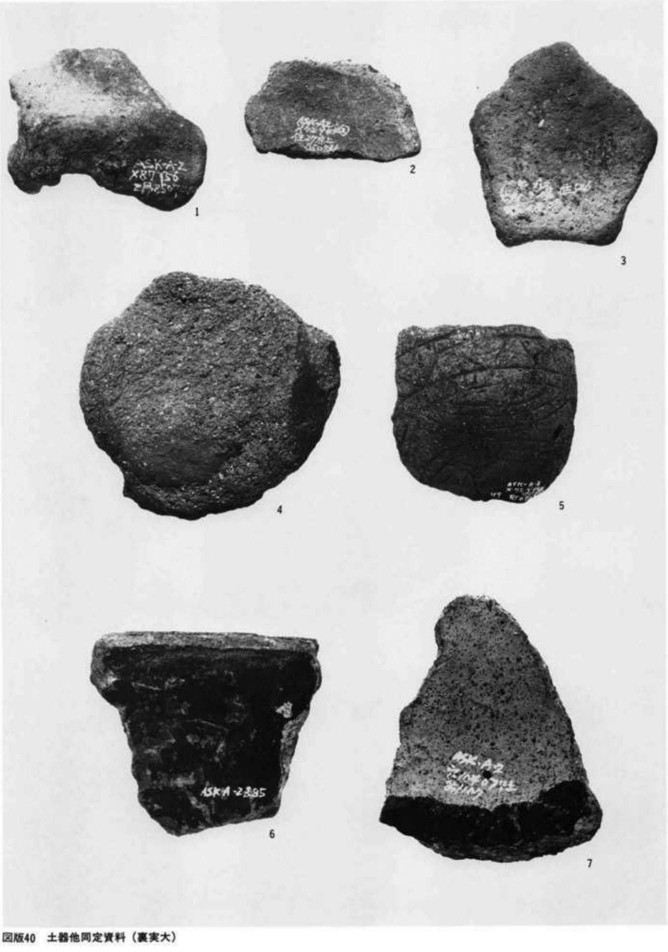


図版37　土器他朱分析資料（表実大）　1．D38　2．D39　3．DM25　4．DM26　5．31　6．D40　7．D45　8．
8．DM13　9．11・13・15・21・22表採　10．X89Y45　12．X88Y41　14．DM6
16．穴1172　17．X89Y42　18．X70Y74　19．穴1389　20．X80Y47　23．穴1316
（DM：土製耳飾　D：朱分析仮記号）



図版38　土器他朱分析資料（裏実大）

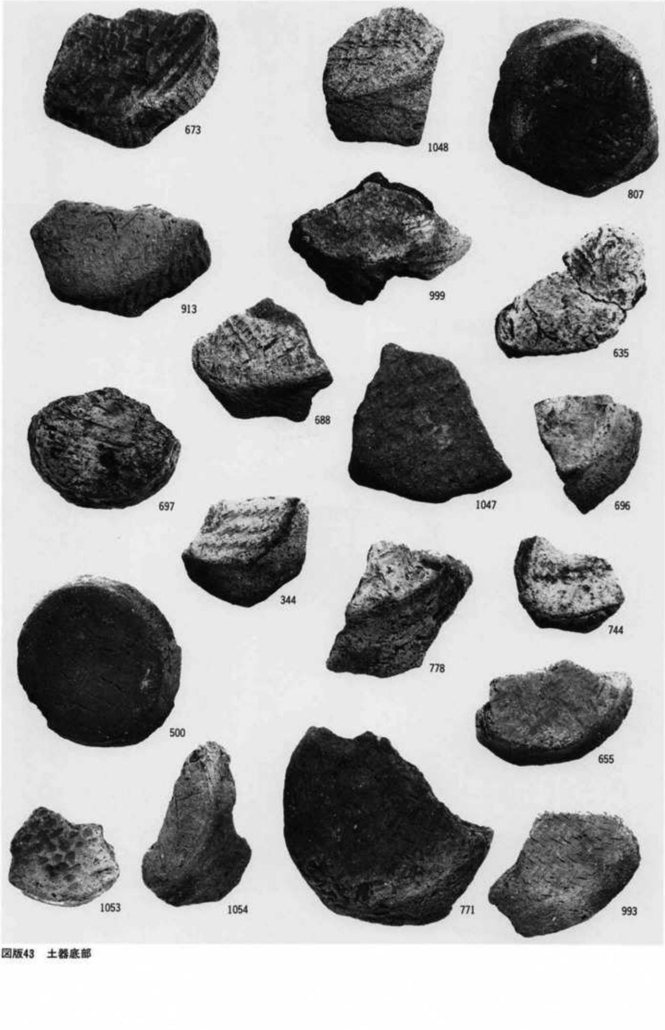
図版39　土器他同定資料（表実大）　1．X87Y56　2．住21　3．住26　4．DG43　5．DKU－80
6．表採　7．穴1040（DG：土偶、DKU：有孔球状土製品）



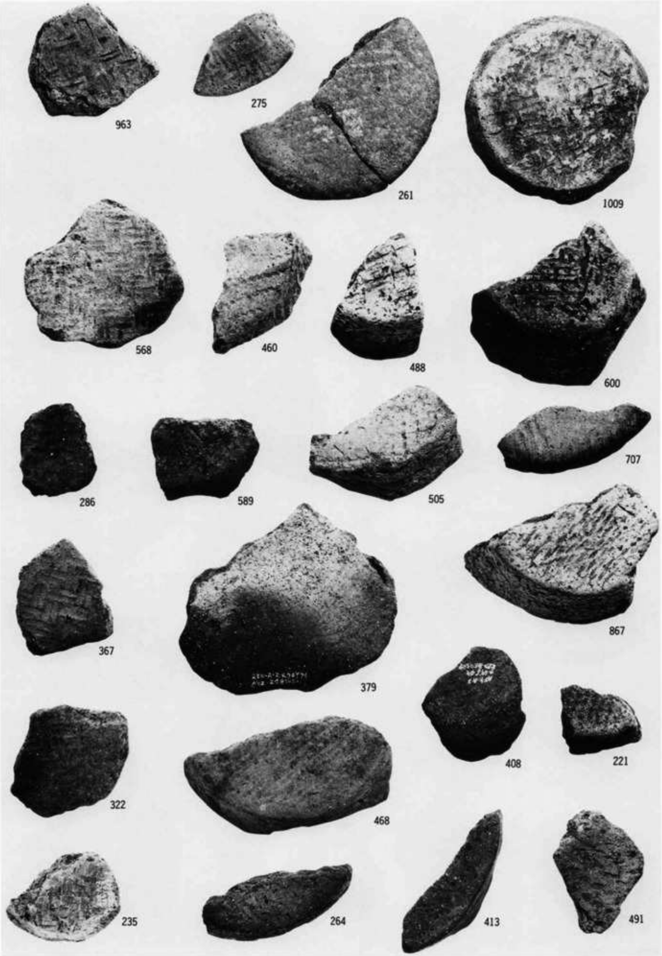
図版40　土器他同定資料（裏実大）

図版41　土器他分析資料（表実大）　1．X81Y67　2．X64Y57　3．X86Y65　4．X63Y50　5．D8
6．表採　7．DKU02　8．DG10　9．DG55

図版42　土器他分析資料（裏実大）


673
1048
807
913
999
635
688
697
1047
696
344
744
778
500
655
1053
1054
771
993

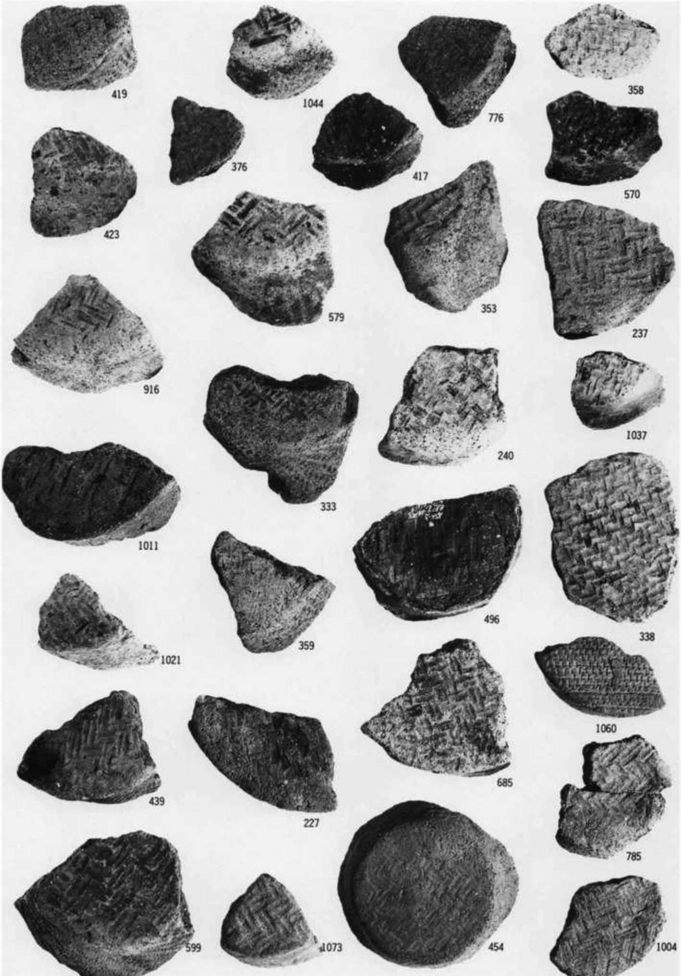
図版43　土器底部


963
275
261
1009
568
460
488
600
286
589
505
707
367
379
867
408
221
322
468
235
264
413
491

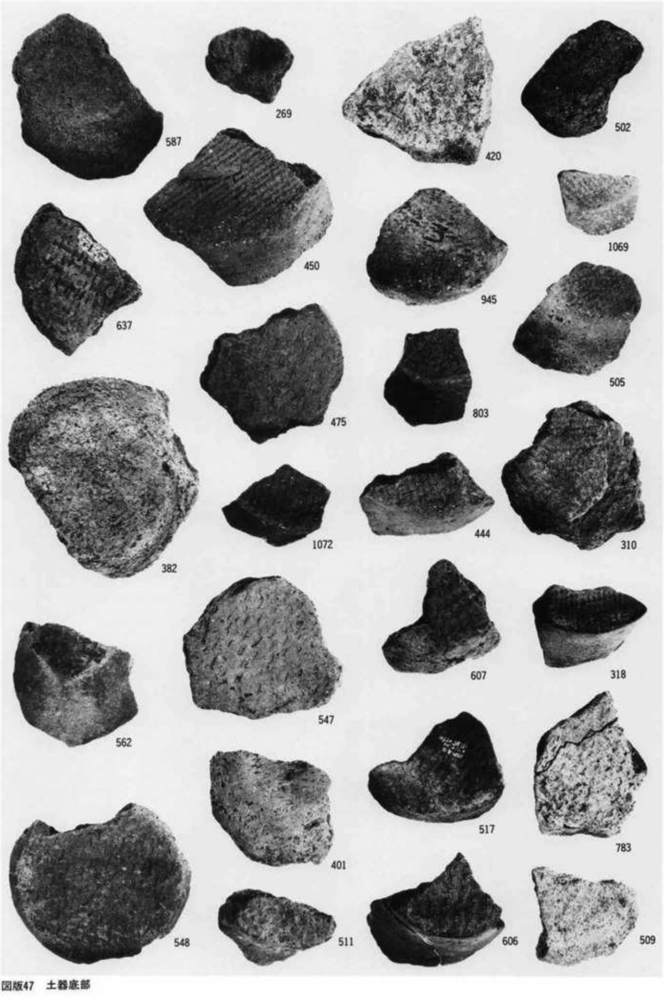
図版44　土器底部

499
1061
428
1098
498
315
717
493
451
1059
452
1046
965
972
330
525
441
368
205
967
813
387
1066
474
366
594
932
1064
244

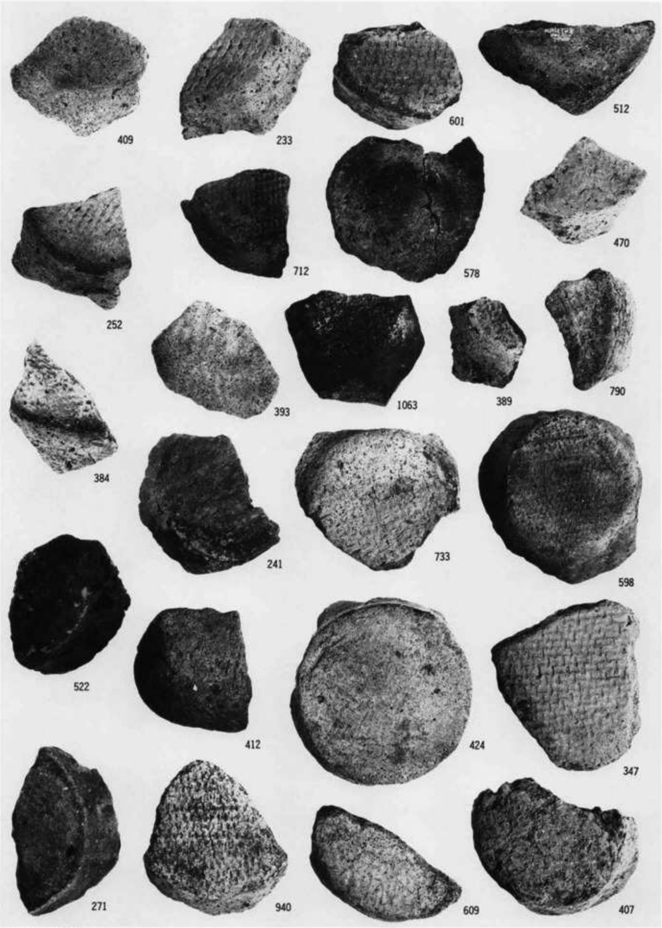
図版45　土器底部


419
1044
776
358
376
417
570
423
579
353
237
916
333
240
1037
1011
496
338
1021
359
1060
685
439
227
785
599
1073
454
1004

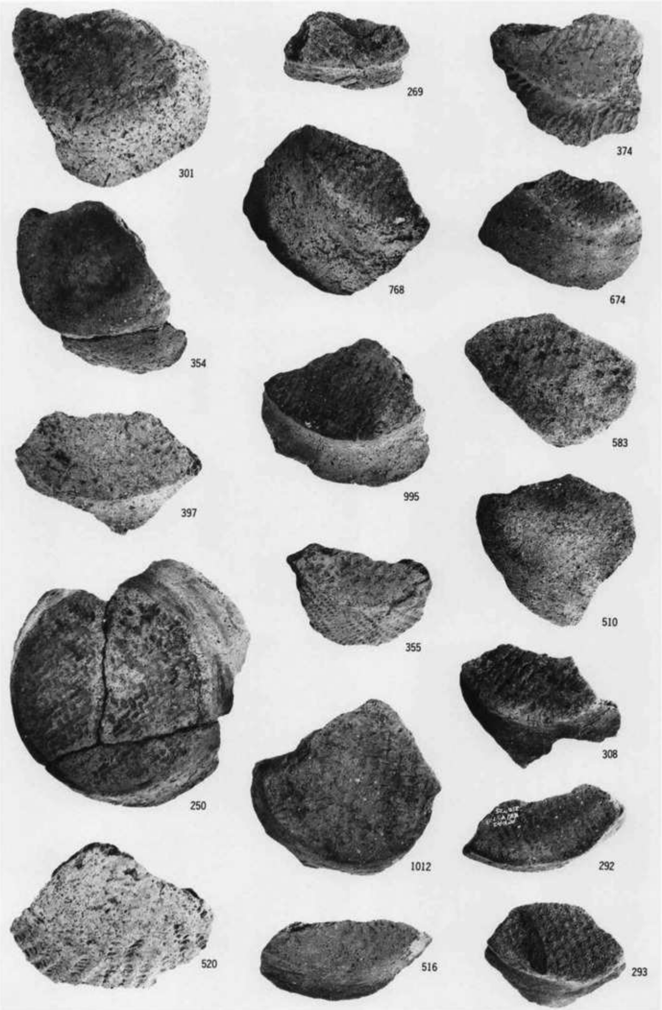
図版46　土器底部


269
587
420
502
450
1069
637
945
505
475
803
1072
444
310
382
607
318
547
562
517
783
401
548
511
606
509

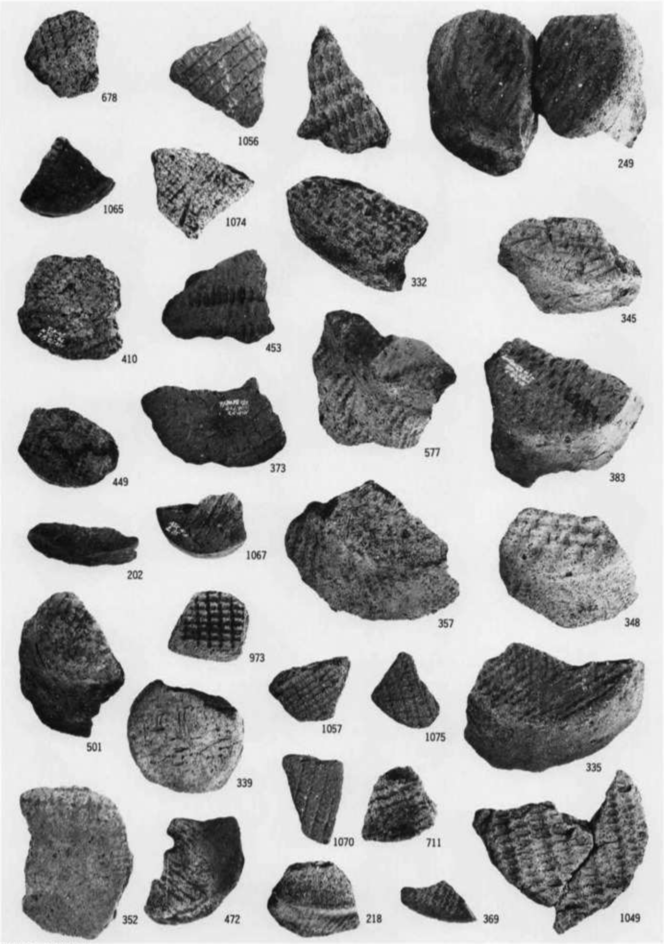
図版47　土器底部


409
233
601
512
712
578
470
252
393
1063
389
790
384
241
733
598
522
412
424
347
271
940
609
407

図版48　土器底部

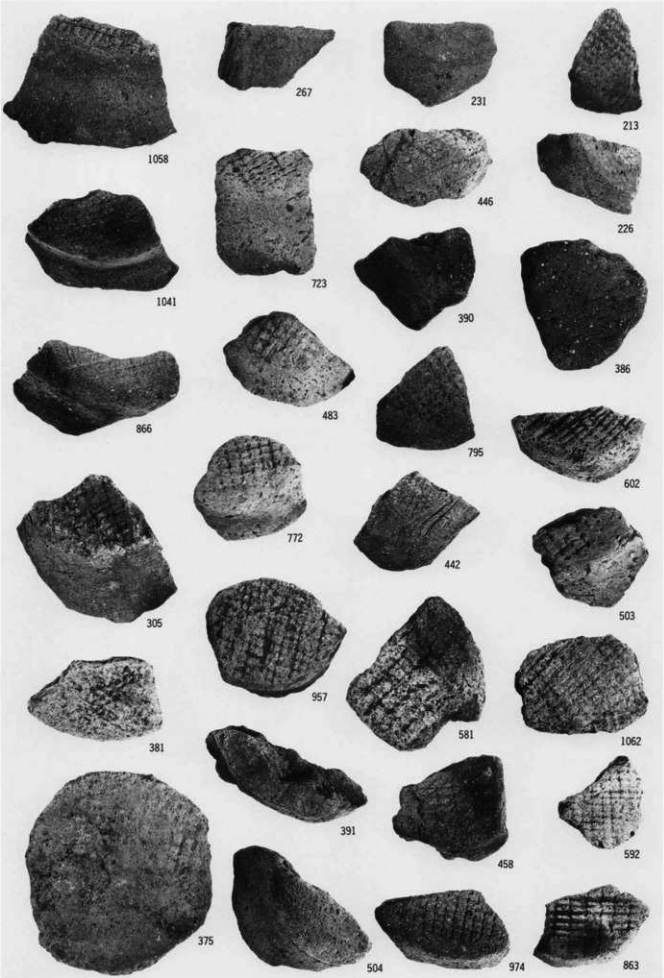

301
269
374
768
674
354
995
583
397
510
355
250
308
1012
292
520
516
293

図版49　土器底部

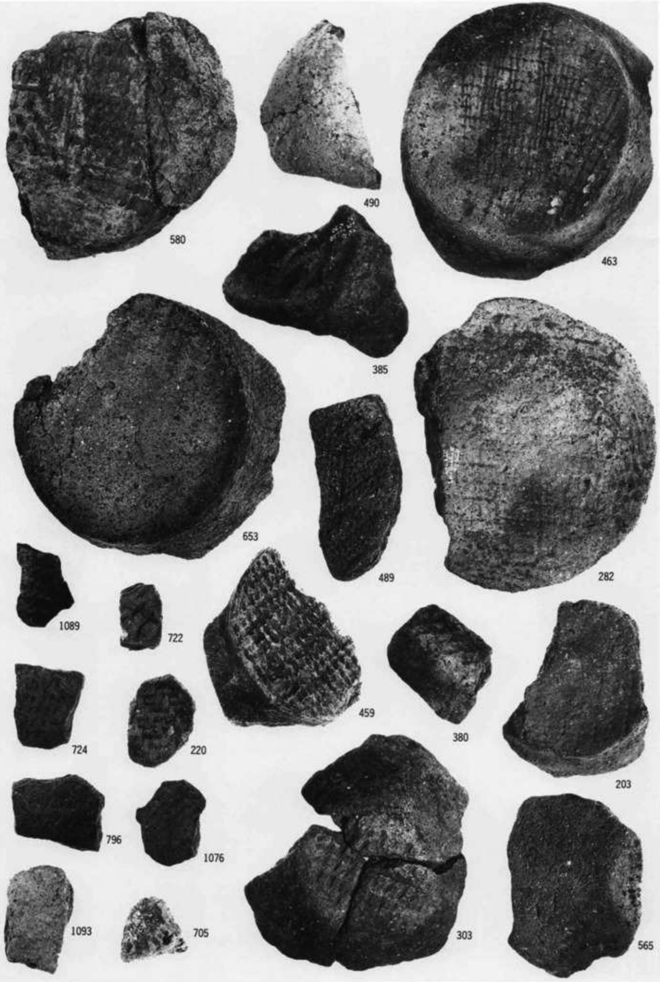


678
1056
249
1065
1074
332
345
410
453
577
383
449
373
202
1067
357
348
973
1057
1075
501
339
335
1070
711
352
472
218
369
1049

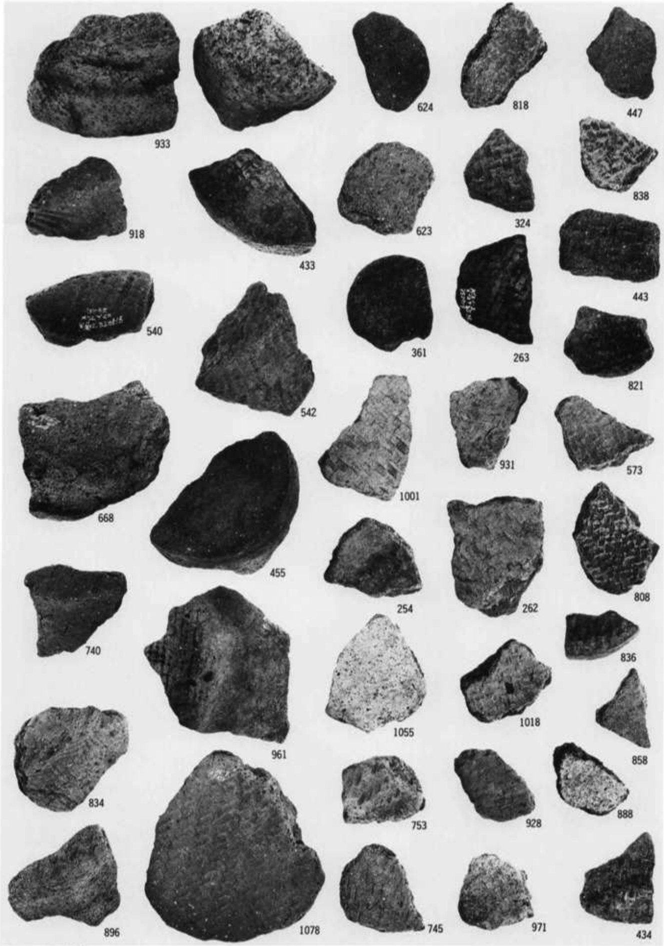
図版50　土器底部


1058
267
231
213
446
226
723
1041
390
386
866
483
795
602
772
442
503
305
957
581
1062
381
391
458
592
375
504
974
863

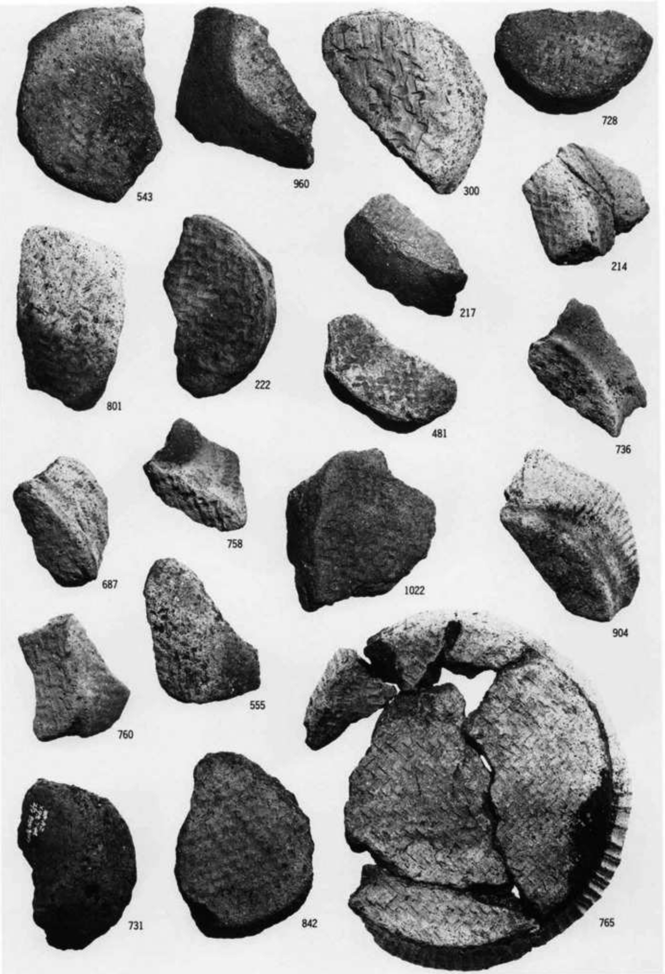
図版51　土器底部


580
490
463
385
653
489
282
1089
722
459
380
724
220
203
796
1076
1093
705
303
565

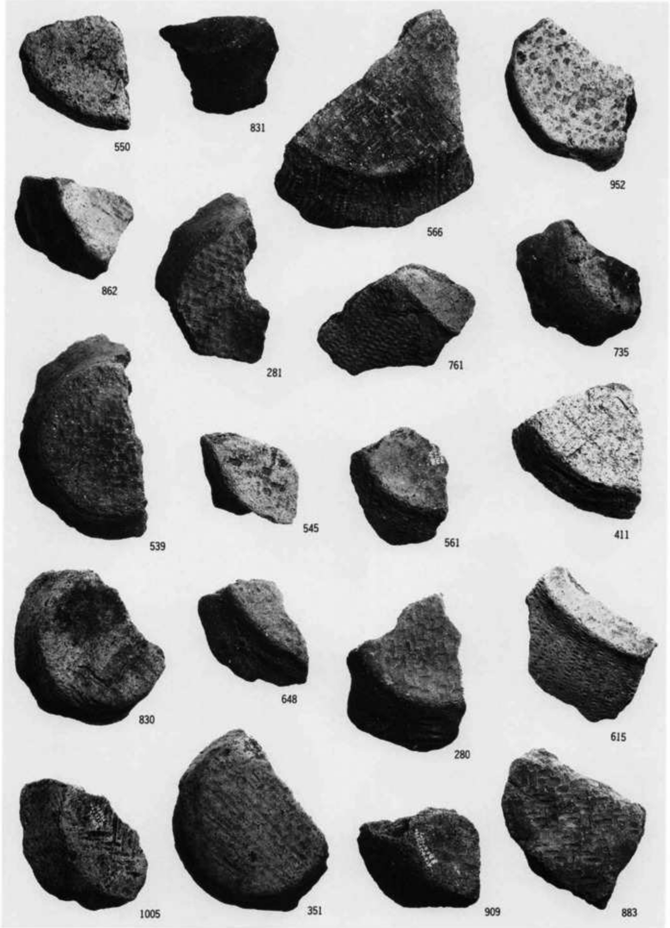
図版52　土器底部


933
624
818
447
838
918
433
623
324
443
540
361
263
821
542
931
573
668
1001
455
808
254
262
740
836
1055
1018
961
858
834
753
928
888
896
1078
745
971
434

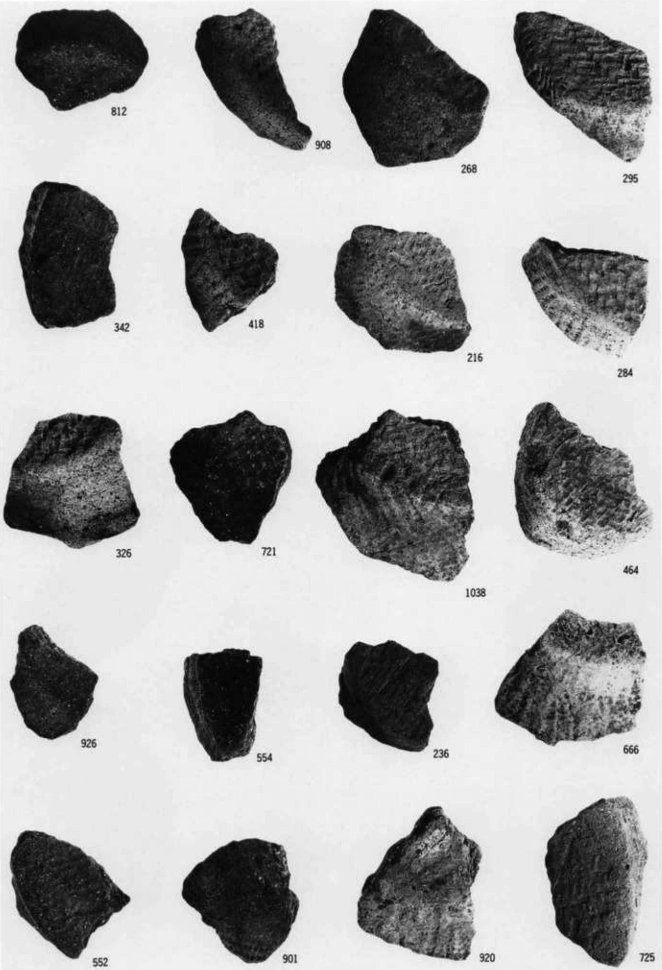
図版53　土器底部


543
960
300
728
214
217
801
222
481
736
758
687
1022
904
555
760
731
842
765

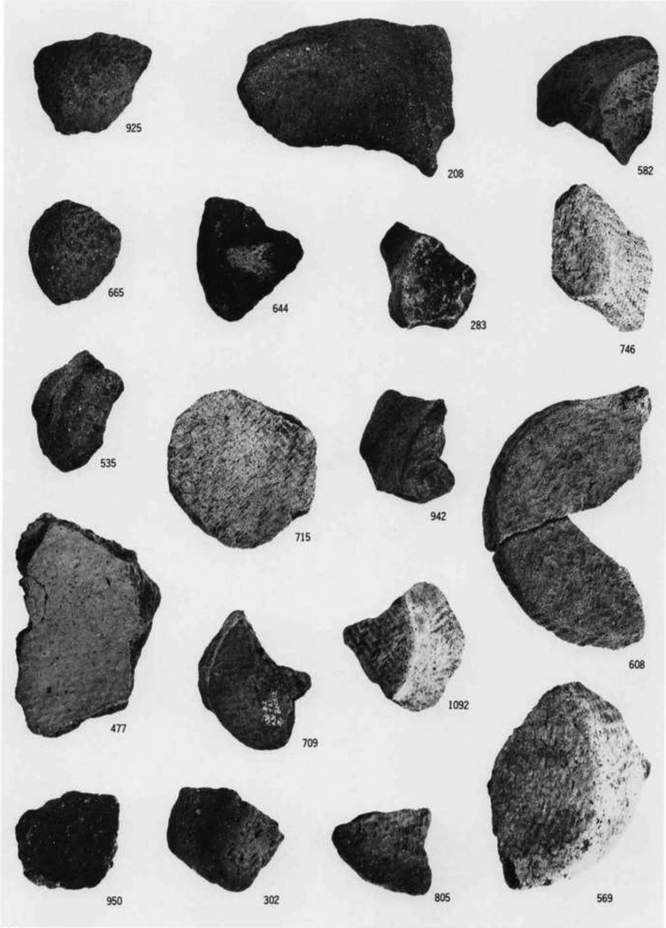
図版54　土器底部


550
831
566
952
862
281
761
735
539
545
561
411
830
648
280
615
1005
351
909
883

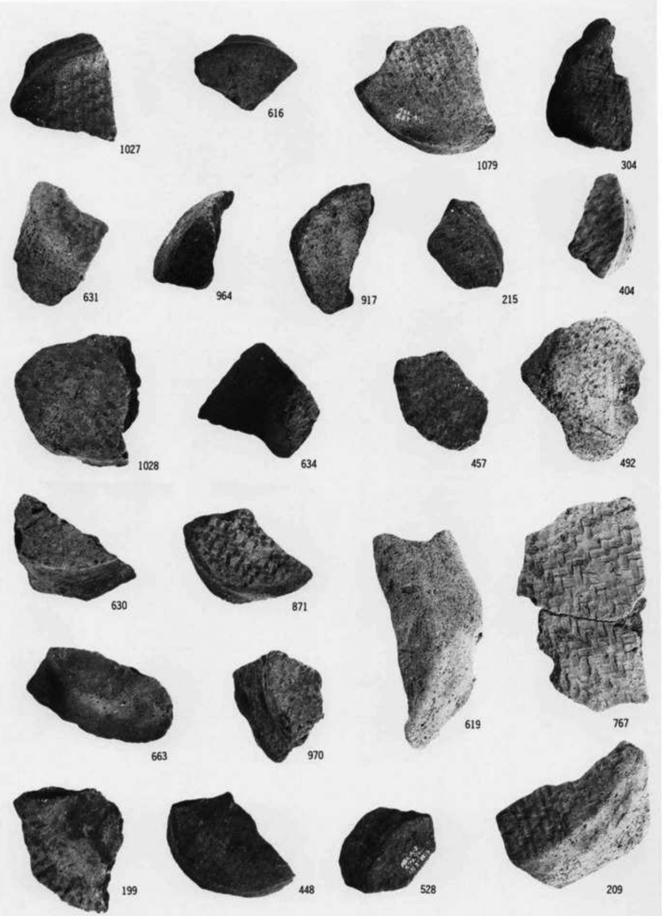
図版55　土器底部


812
908
268
295
342
418
216
284
326
721
1038
464
926
554
236
666
552
901
920
725

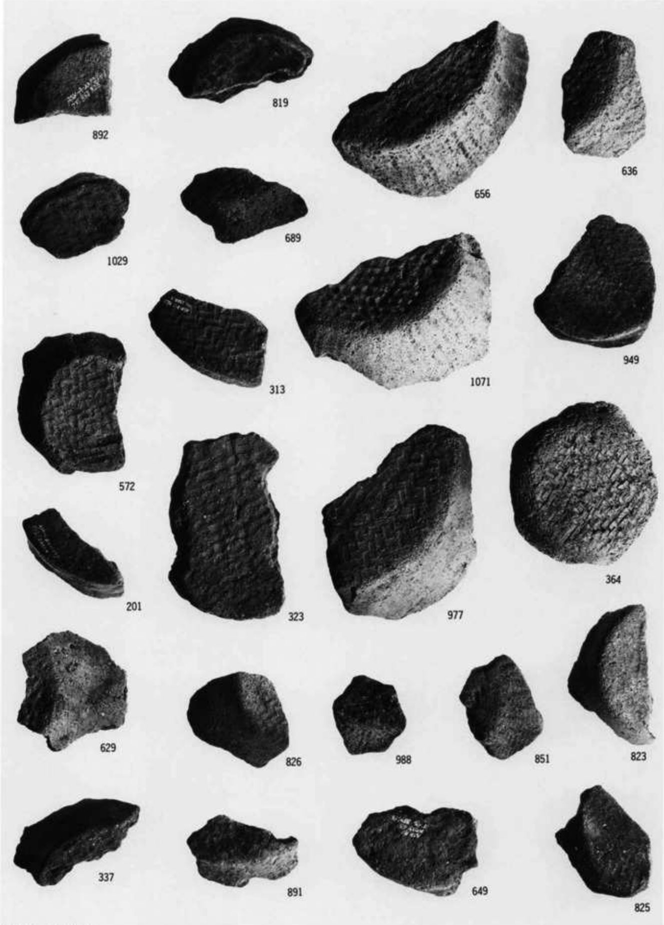
図版56　土器底部


925
208
582
665
644
283
746
535
715
942
608
477
709
1092
950
302
805
569

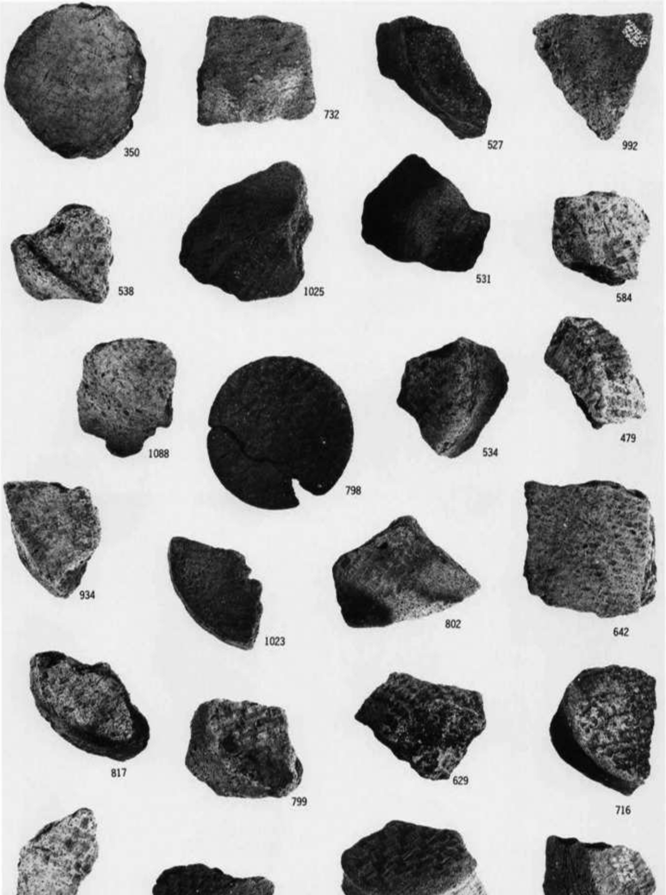
図版57　土器底部


1027
616
1079
304
631
964
917
215
404
1028
634
457
492
630
871
619
767
663
970
199
448
528
209

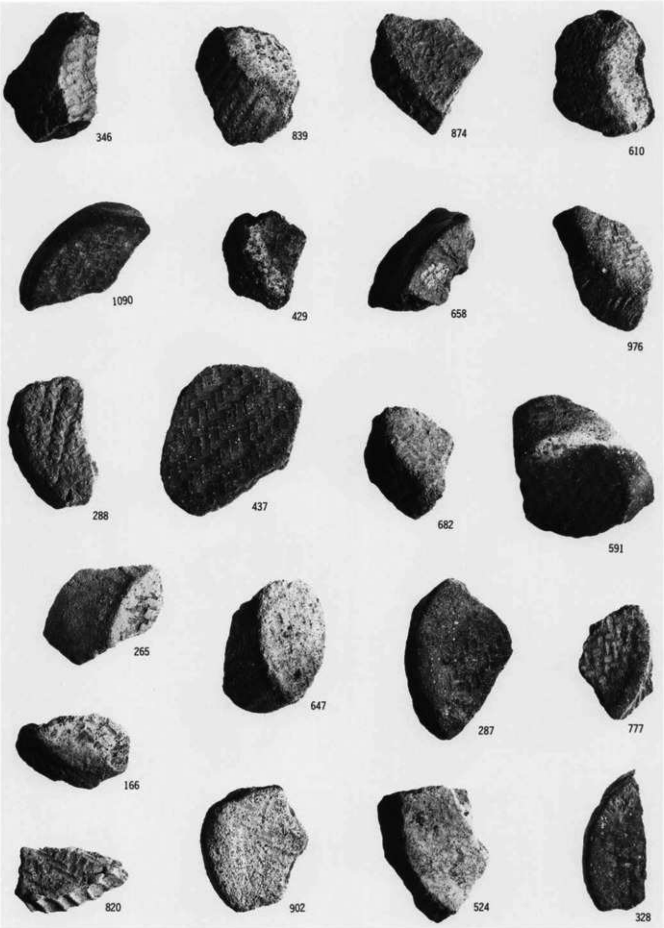
図版58　土器底部


892
819
656
636
1029
689
313
1071
949
572
201
323
977
364
629
826
988
851
823
337
891
649
825

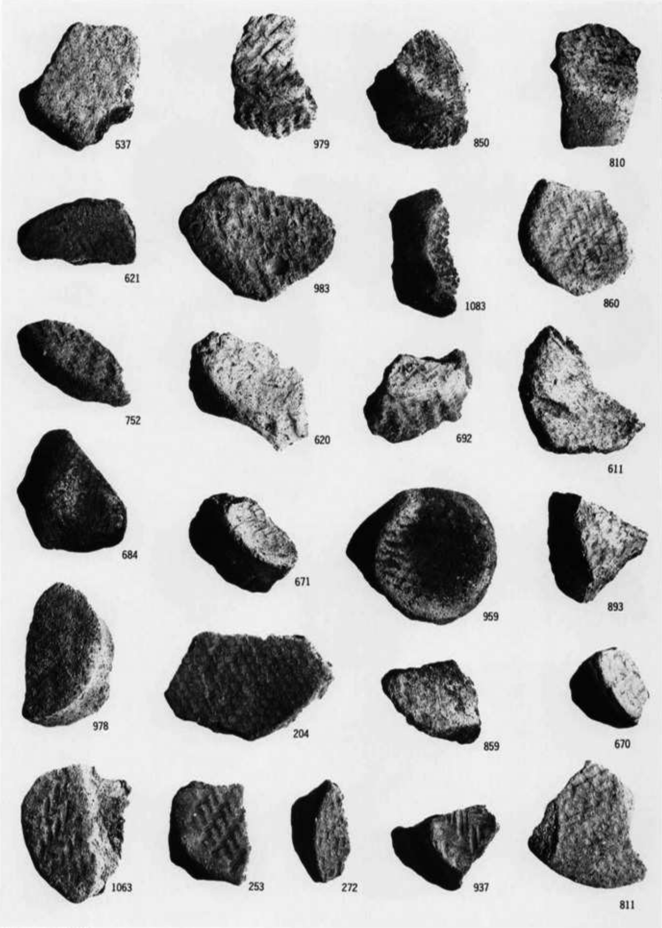
図版59　土器底部


350
732
527
992
538
1025
531
584
1088
798
534
479
934
1023
802
642
817
799
629
716
886
321
1093
515

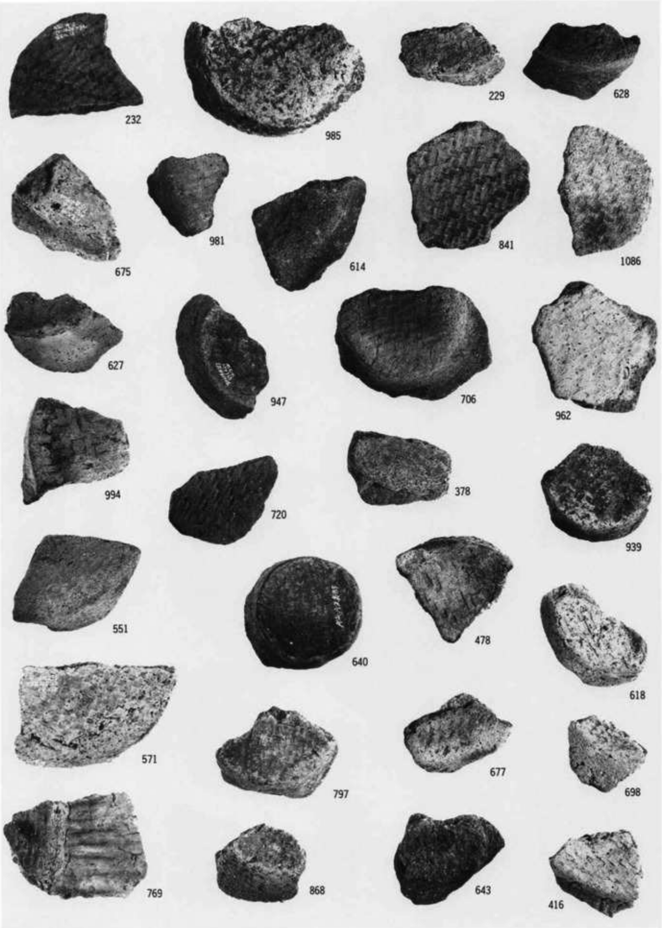
図版60　土器底部


346
839
874
610
1090
429
658
976
288
437
682
591
265
647
287
777
166
820
902
524
328

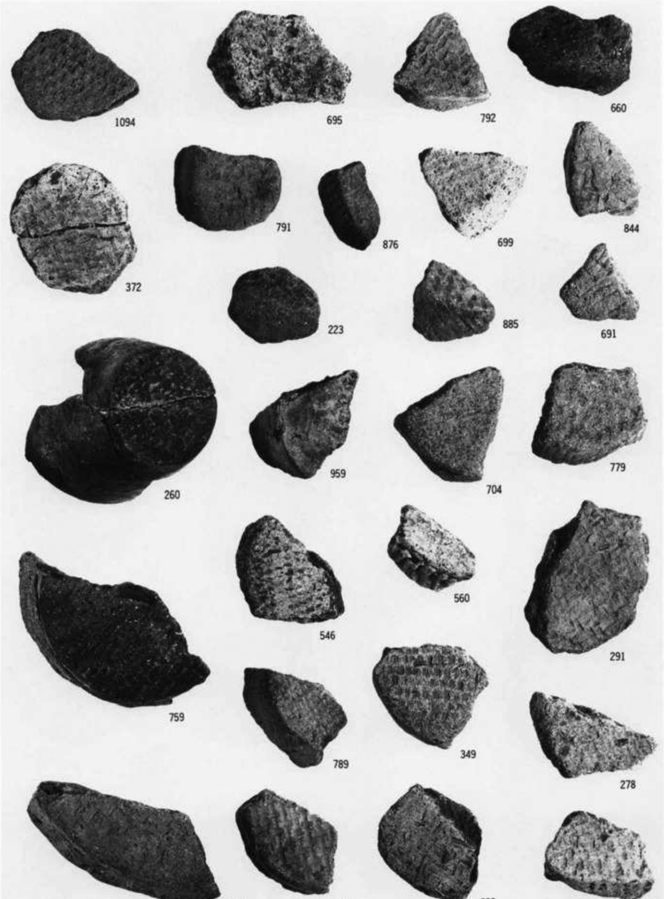
図版61　土器底部


537
979
850
810
621
983
1083
860
752
620
692
611
684
671
959
893
978
204
859
670
1063
253
272
937
811

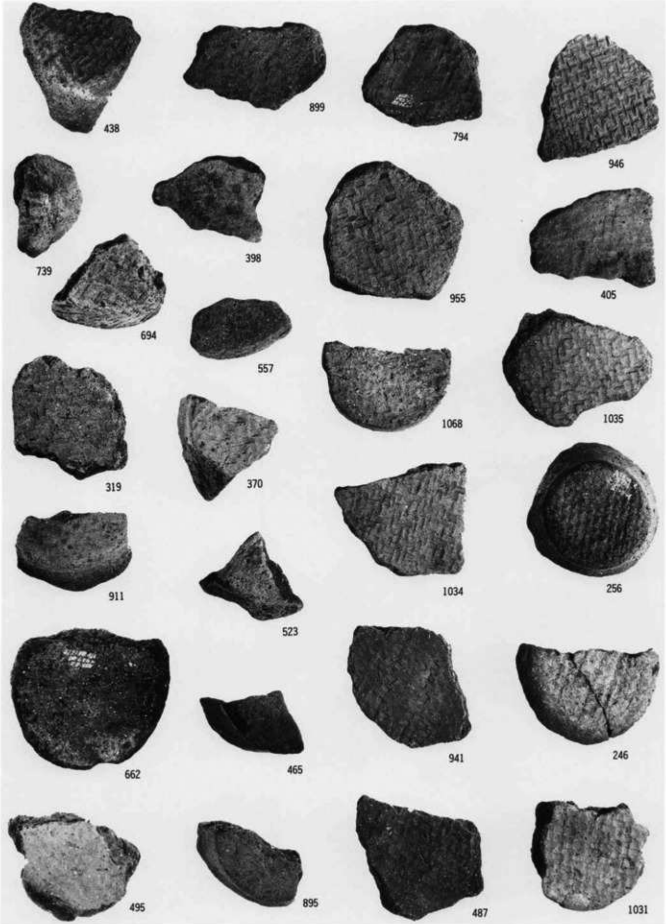
図版62　土器底部


232
985
229
628
675
981
614
841
1086
627
947
706
962
994
720
378
939
551
640
478
618
571
797
677
698
769
868
643
416

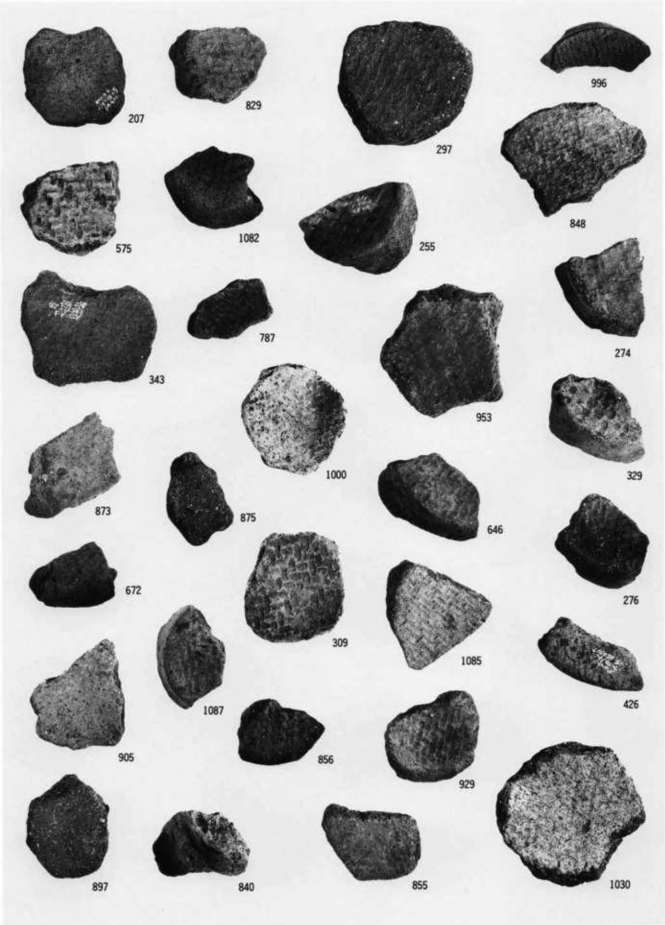
図版63　土器底部


1094
695
792
660
372
791
876
699
844
223
885
691
260
959
704
779
546
560
291
759
789
349
278
730
239
683
341

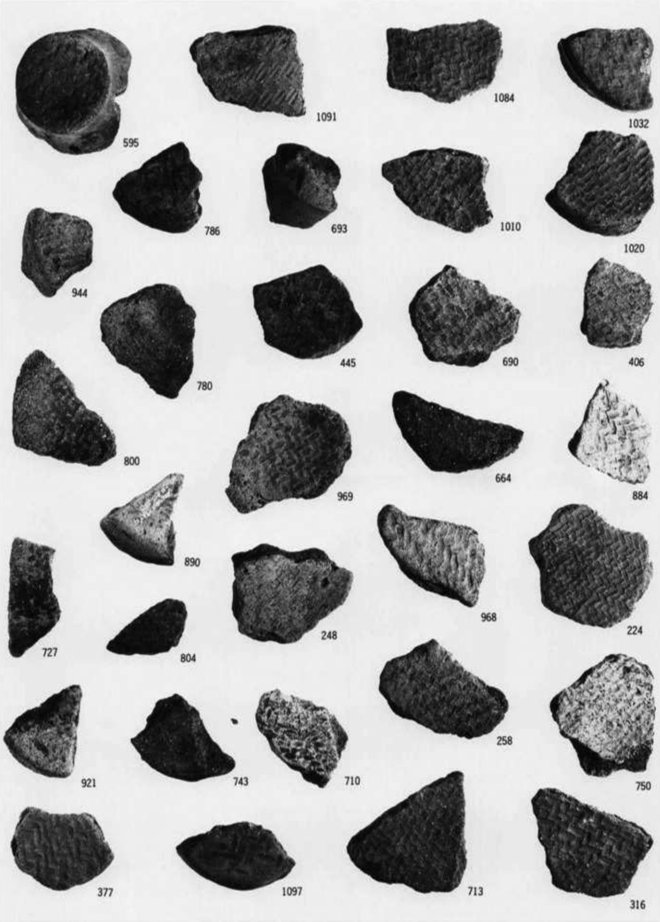
図版64　土器底部


438
899
794
946
739
398
955
405
694
557
1068
1035
319
370
1034
256
911
523
662
465
941
246
495
895
487
1031

図版65　土器底部

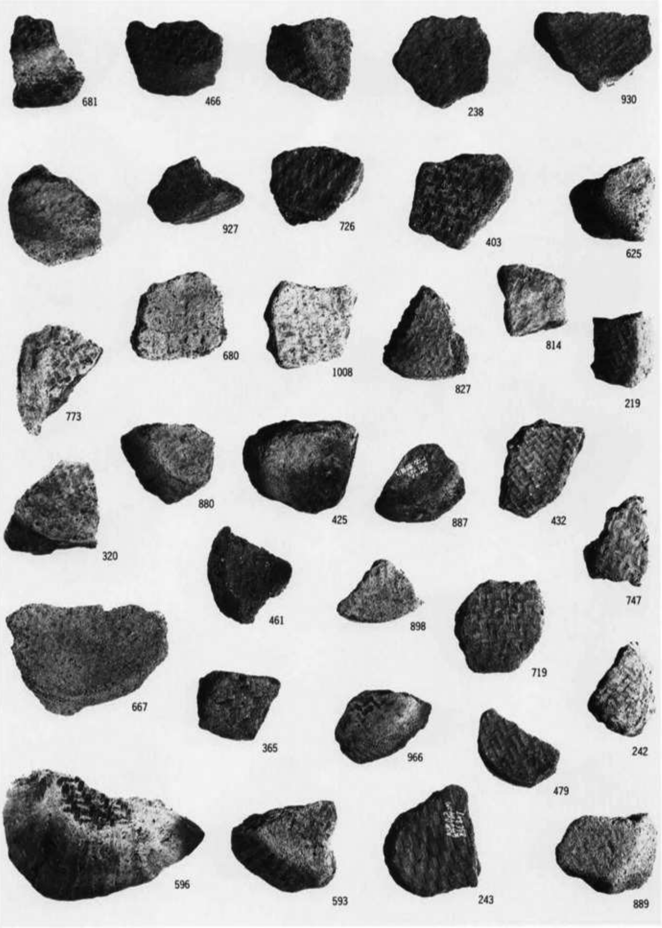

207
829
297
996
848
575
1082
255
274
343
787
953
1000
329
873
875
646
276
672
309
1085
426
1087
905
856
929
897
840
855
1030

図版66　土器底部

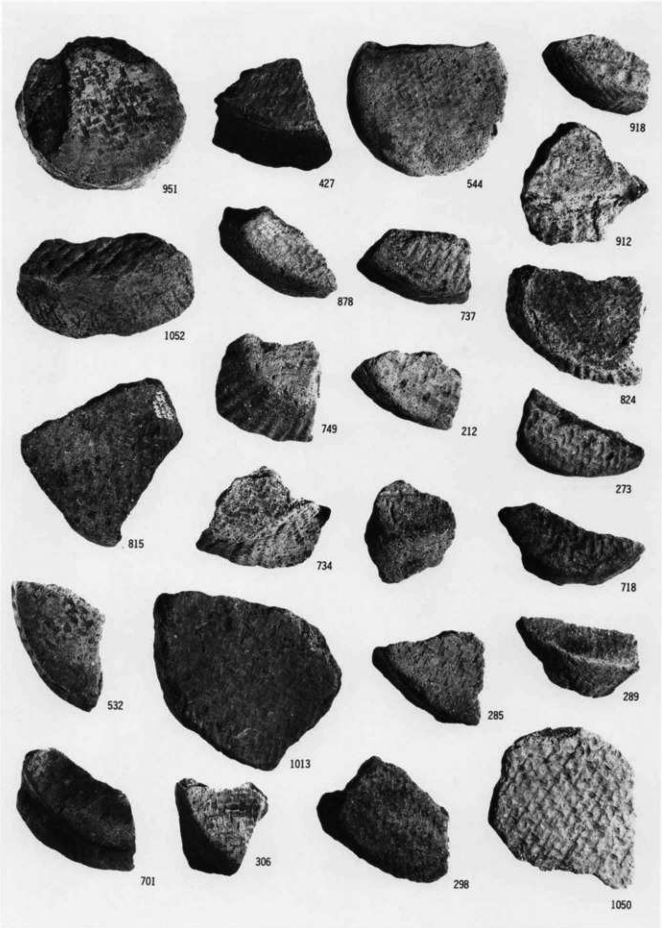


595
1091
1084
1032
786
693
1010
1020
944
445
690
406
780
800
969
664
884
890
968
224
248
727
804
921
743
710
258
750
377
1097
713
316

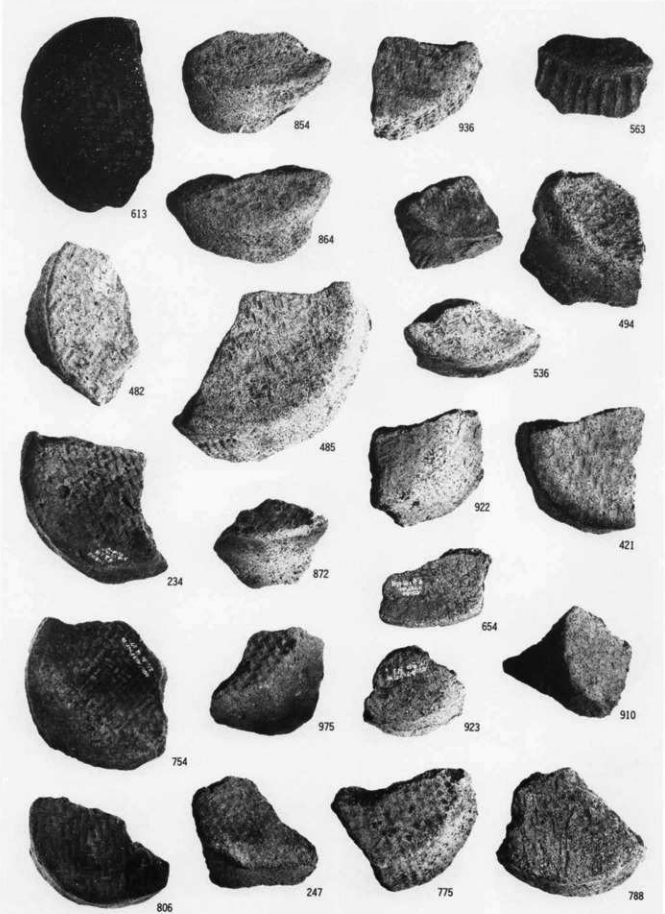
図版67　土器底部


681
466
238
930
927
726
403
625
680
1008
814
827
219
773
880
425
887
432
320
747
461
898
719
667
365
966
242
479
596
593
243
889

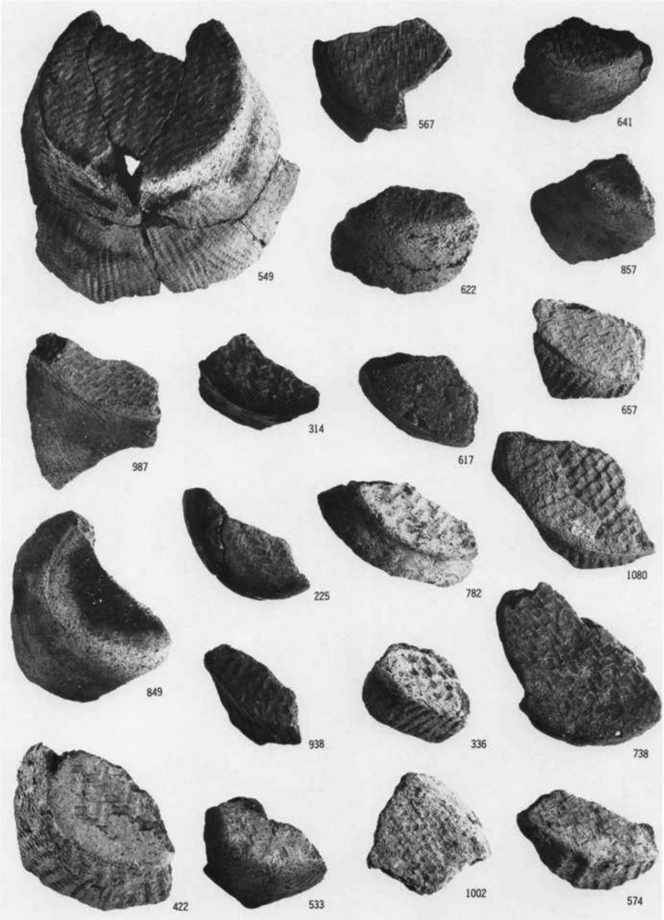
図版68　土器底部


951
427
544
918
912
878
737
1052
824
749
212
815
273
734
718
532
1013
285
289
701
306
298
1050

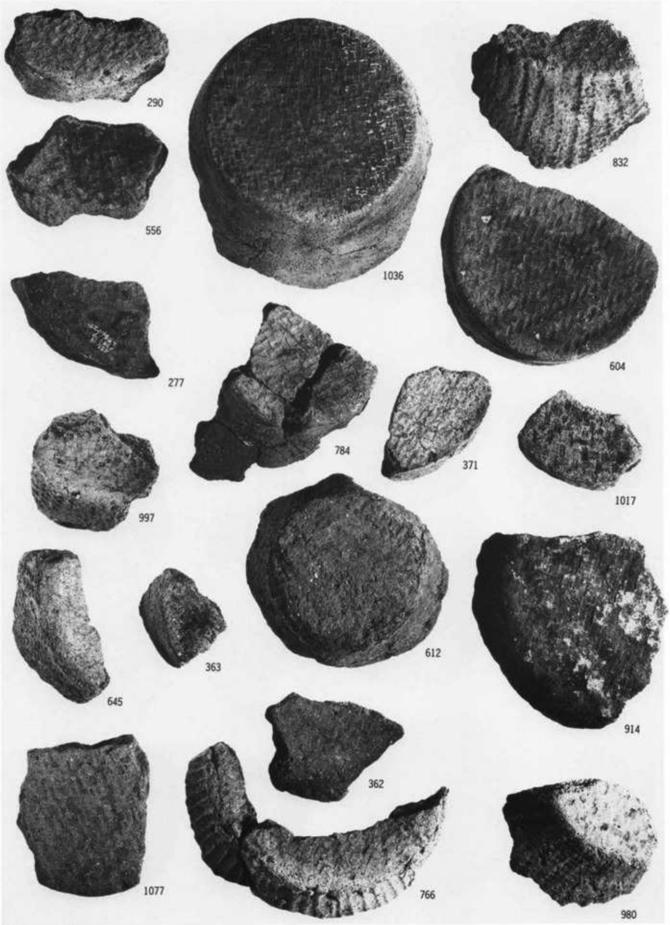
図版69　土器底部


613
854
936
563
864
494
482
536
485
922
421
234
872
654
754
975
923
910
806
247
775
788

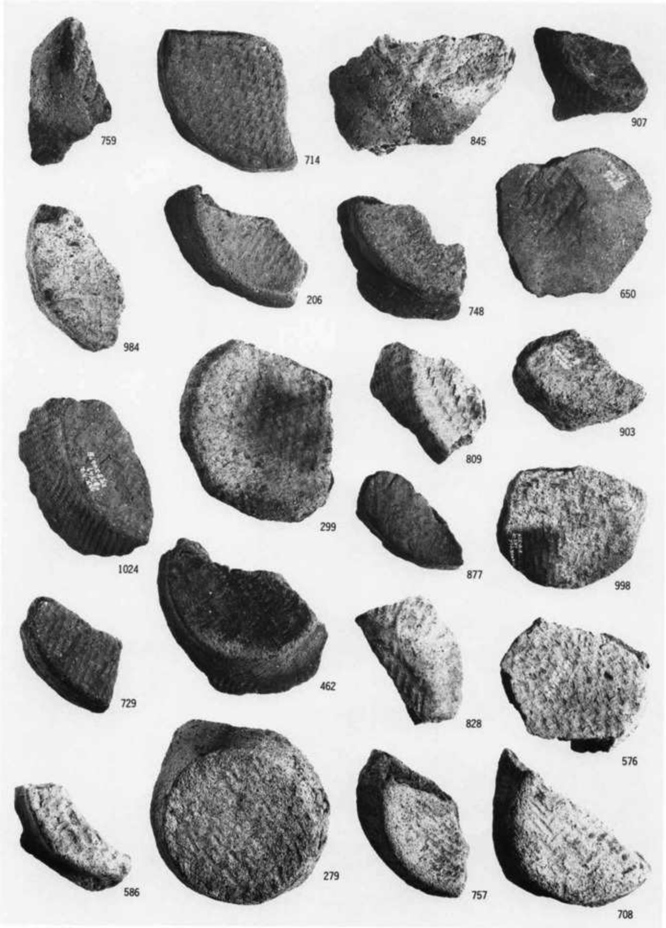
図版70　土器底部


549
567
641
622
857
987
314
617
657
225
782
1080
849
938
336
738
422
533
1002
574

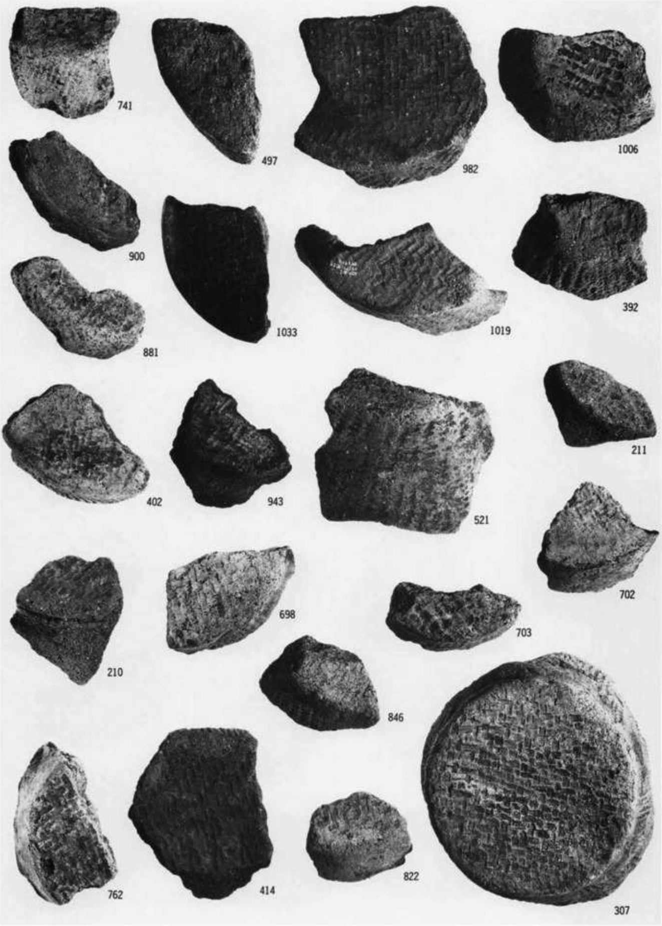
図版71　土器底部


290
1036
832
556
604
277
784
371
1017
997
612
645
363
914
362
1077
766
980

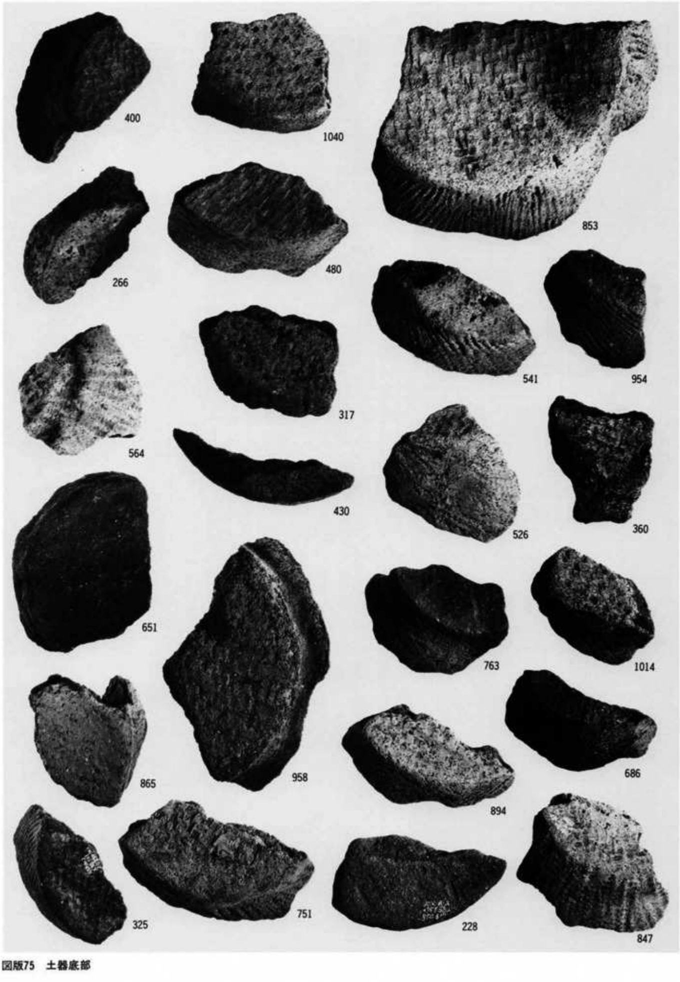
図版72　土器底部


759
714
845
907
984
206
748
650
299
809
903
1024
877
998
729
462
828
576
586
279
757
708

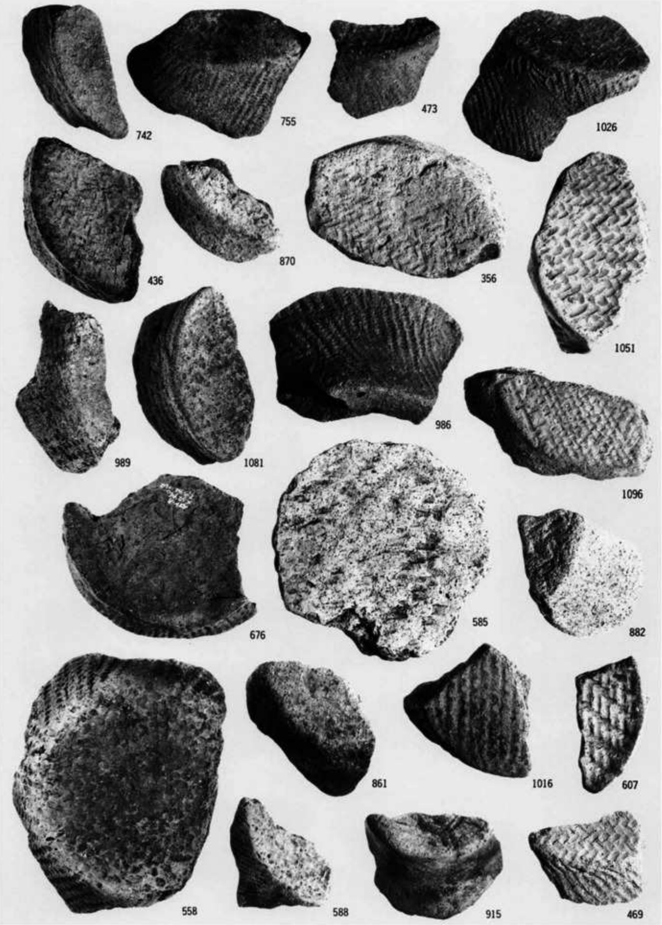
図版73　土器底部


741
497
982
1006
900
1033
1019
392
881
402
943
521
211
702
210
698
703
846
762
414
822
307

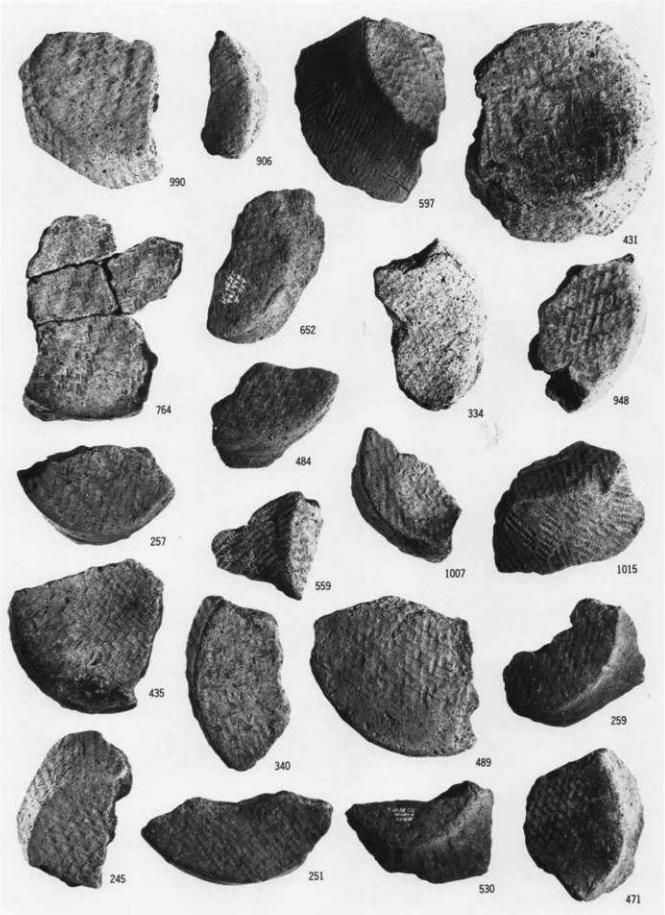
図版74　土器底部


400
1040
853
266
480
541
954
317
564
526
360
430
651
763
1014
958
865
686
894
325
751
228
847

図版75　土器底部

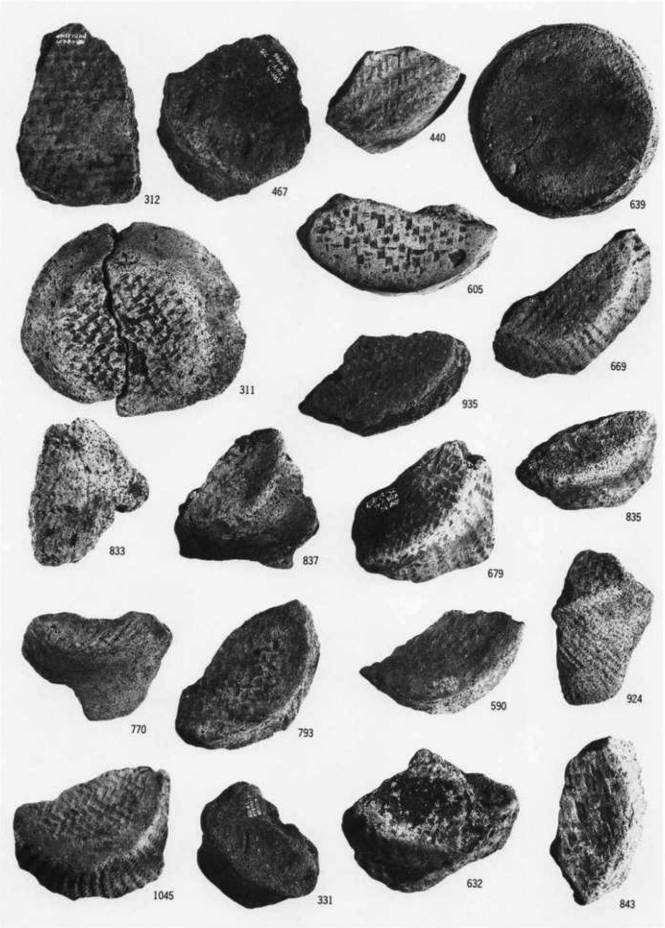

742
755
473
1026
436
870
356
1051
989
1081
986
1096
676
585
882
558
861
1016
607
588
915
469

図版76　土器底部

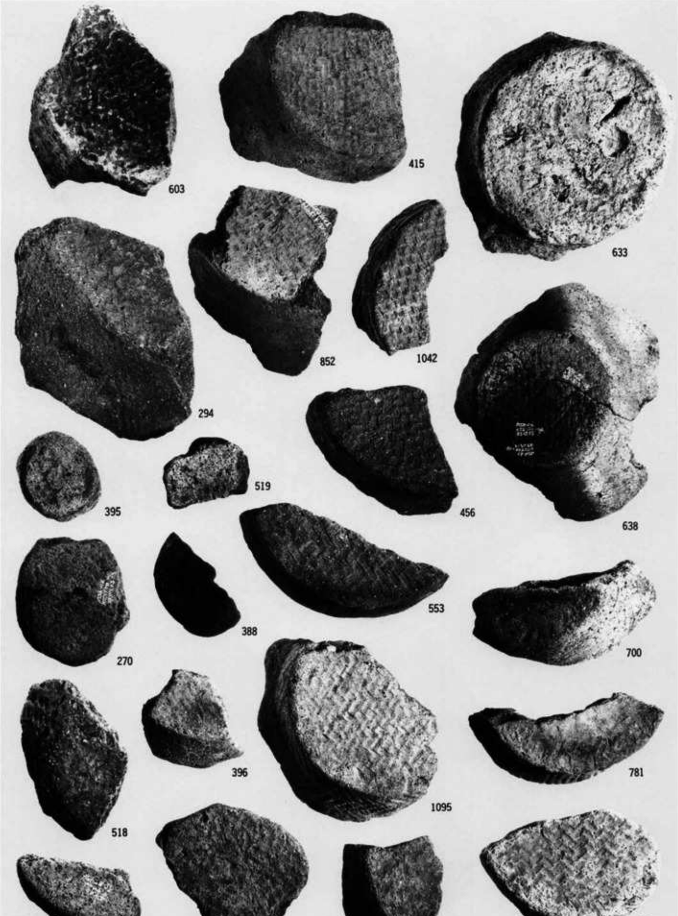


990
906
597
431
764
652
334
948
484
257
559
1007
1015
435
340
489
259
245
251
530
471

図版77　土器底部


312
467
440
639
605
311
669
935
833
837
679
835
770
793
590
924
1045
331
632
843

図版78　土器底部


603
415
633
852
1042
294
519
395
456
638
553
388
270
700
396
781
1095
518
394
508
513
327

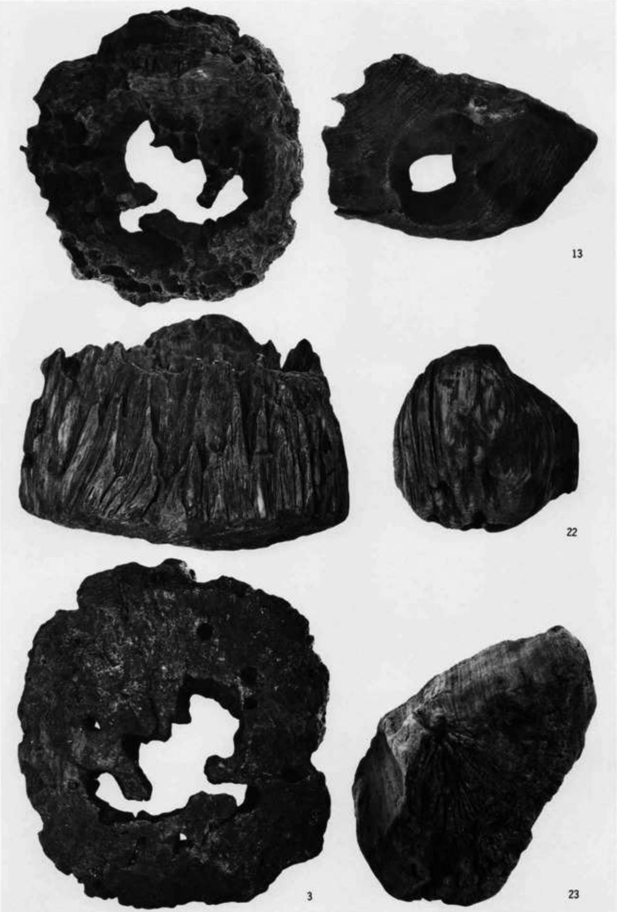
図版79　土器底部

図版80　木製品　21．穴1033

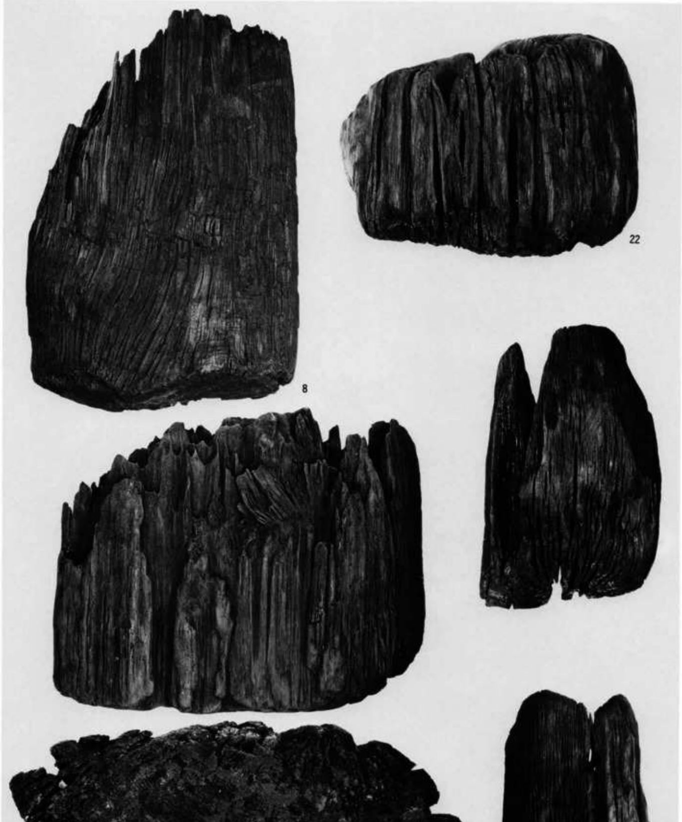
11

8

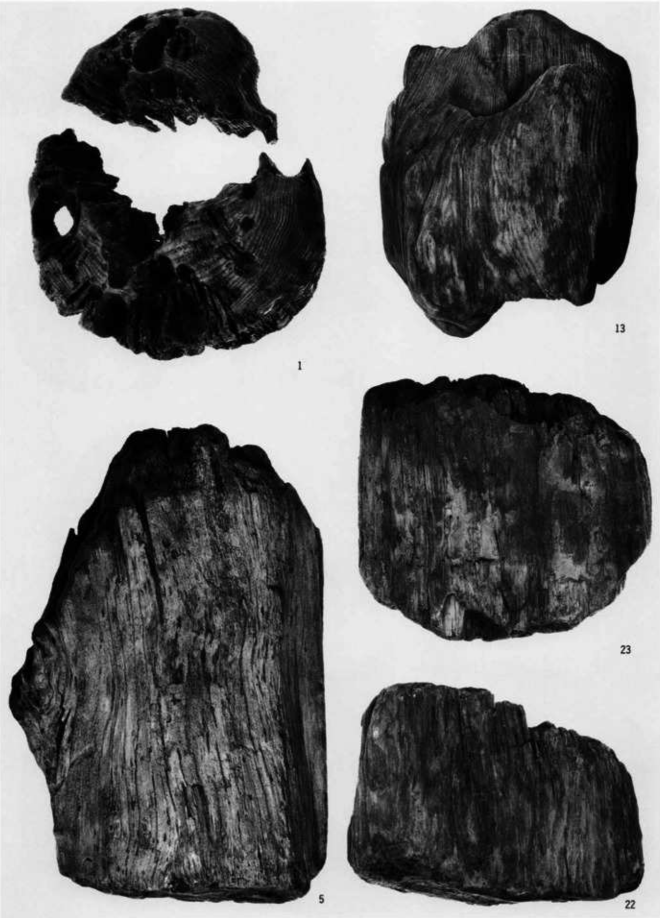
図版81　木製品　11．穴1313　8．表採



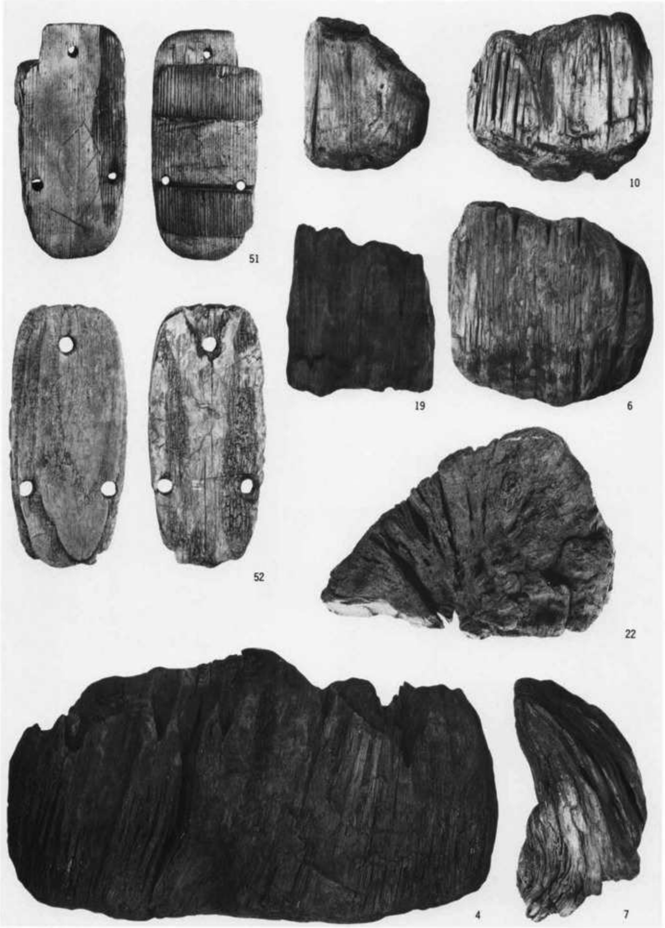
図版82　木製品　３．穴1312　13．穴1380
22．穴1546　23．穴1549



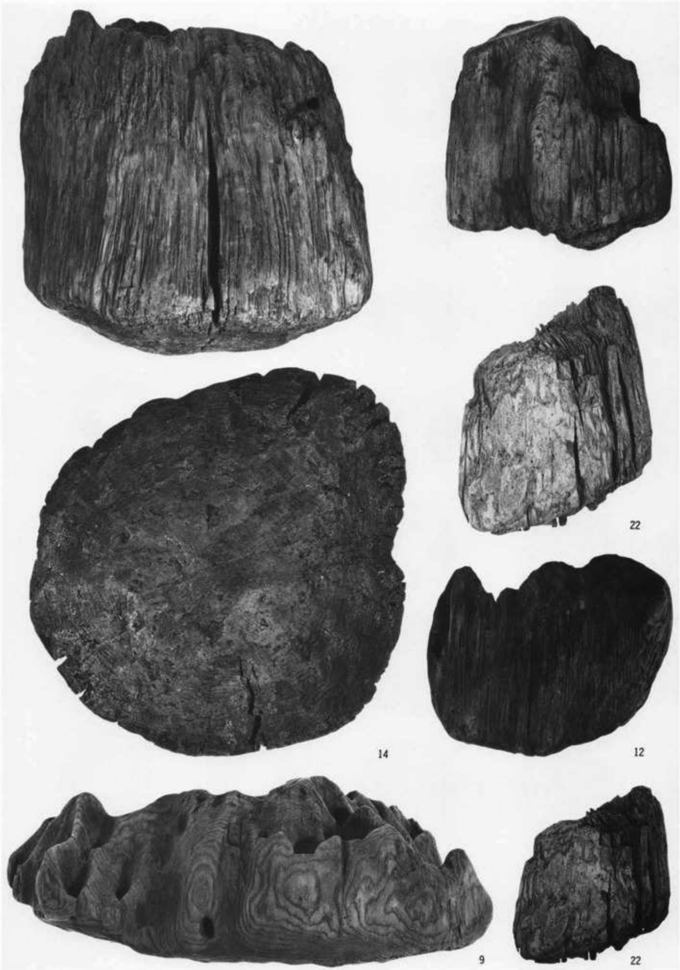
図版83　木製品　8・15. 表採　22. 穴1546
2. 穴1363



図版84　木製品　1．穴1364　5．穴242　13．穴1380
23．穴1549　22．穴1546



図版85　木製品　10．穴267　19．穴1313
6．穴370　22．穴1546
4．表採　7．穴1521
51．表採　52．X79Y63



図版86　木製品　14．穴1352　9．穴1031　22．穴1546
12．穴1033

図版87　出土古銭（右表・左裏実大）

北陸自動車道遺跡調査報告

－ 朝日町編７ －

境 A 遺 跡

総 括 編

発行日　平 成 4 年 3 月
発 行　富 山 県 教 育 委 員 会
編 集　富山県埋蔵文化財センター
印 刷　㈱ チ ュ ー エ ツ